

科目名	基礎化学
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1 単位(15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、高等学校での化学基礎に関する知識、具体的には、原子・分子の構造を出発点とし、物質の量と濃度、酸/塩基と pH、化学結合、さらに代謝等について概説する。この科目は、専門基礎科目である「生化学」「生理学」「病理学」「薬理学」「栄養学」等を理解するための基盤となる位置づけである。医学に関する専門知識や技術に比べ、軽視されがちな基礎知識ではあるが、臨床の現場で自ら判断し行動するためには、最低限度必要となる知識となると考えている。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. からだを構成する物質(原子や分子)を説明できる。 2. 物質の状態・物質の量の表し方を説明できる。 3. 化学結合を説明できる。 4. 浸透圧を説明できる。 5. 酸と塩基・pH、酸化・還元反応を説明できる。 6. 代謝について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回「もの」は何でできているのか(第1章) ▶原子構造、電子配置について学習する。</p> <p>第2回「もの」の量はどうか(第2章) ▶量の表し方について学習する。</p> <p>第3回「もの」の成り立ち(第4章) ▶化学結合、分子について学習する。</p> <p>第4回「水(第5章)」を学ぶ ▶イオン、電解質について学習する。</p> <p>第5回「からだの中の水(第6章：浸透圧)」を学ぶ。</p> <p>第6回「からだの中の水(第6章：酸と塩基、pH)」を学ぶ。</p> <p>第7回「からだは何からできている(第7章：有機化合物)」を学ぶ。</p> <p>第8回「からだは何からできている(第7章：生体高分子、脂質・糖質・タンパク質)」を学ぶ。</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して理解に努めること。</p> <p>*高校までに「化学」未履修の学生は、社会に出る前に「化学」を学ぶ最後のチャンスとなる。</p>
アクティブラーニング	<p>本授業は、反転授業、グループワーク、発表(レポート形式 or プレゼンテーション)を取り入れて実施する。</p> <p>反転授業は、次回の授業項目の簡単な事前課題(基本問題)を果たし、本番の授業を迎えるのが前提の授業である。自己学習を行い講義に臨むことを習慣化すること。</p> <p>グループワークでは、テーマに関しての学生同士によるディスカッション、簡易な実習を予定している。</p> <p>発表については、個人またはグループにより、レポート形式と指定したテーマのプレゼンテーション形式による課題を果たす。</p> <p>WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立つこと。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。</p>
授業内の ICT 活用	<p>毎回の授業で配る講義資料(紙媒体)は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立つこと。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。</p>
評価方法	<p>課題提出 10% (レポートで評価するが、ルーブリックは用いない)、定期試験 90%、計 100%</p>

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
看護系で役立つ 化学の基本 第2版	有本 淳一	化学同人	1400	9784759820645	
参考図書	講義で紹介				
事前・事後学修	<p>予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントに関する問題(事前課題)を渡すので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。</p> <p>復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。</p> <p>関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。</p>				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは、リアクションペーパーを介して受け付けています。				
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	基礎物理学 (PT・OT)
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位(15 時間) 理学選択・作業選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため、人の運動やリハビリテーションに用いる道具・器械の働きを深く理解するためには物理学に関する知識が不可欠である。本科目は、理学療法学科・作業療法学科に所属する学生を対象とし、特に運動学系分野の前提となる力学の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 津森 伸一 第 1 回： ガイダンス, 運動の表し方 第 2 回： 運動の 3 法則 第 3 回： さまざまな力 第 4 回： 問題演習 (1) 第 5 回： 力のつり合いと回転運動 第 6 回： 物体の安定性と不安定性 第 7 回： エネルギーと運動 第 8 回： 問題演習 (2), 総まとめ
アクティブラーニング	本授業では、動画閲覧を含む反転授業を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、副教材の閲覧、レポート提出、リアクションペーパーの作成や返信を行います。
評価方法	筆記試験 80%, レポート 20%, 計 100% で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対するフィードバック	レポート課題については次回の授業において総評や解説を行います。また、リアクションペーパーは WebClass により提出し、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。
指定図書	望月 久, 棚橋 信雄, 「PT・OT 臨床につながる物理学」, 羊土社
参考図書	なし
事前・事後学修	授業前に指定された動画教材を閲覧し教科書の対応ページに目を通しておくこと (40 分). 授業後に指定図書の演習問題を解いてみること (40 分).

オープンエ デュケーシ ョンの活用	NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ (https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/) を用いた反転学習を行います。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9時～12時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい。
実務経験に 関する記述	なし
マイ授業 の実施に ついて	なし

科目名	基礎物理学 (ST)
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位(15 時間) 言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	音は波の一つであり、空気等の媒質の振動が伝搬することにより起こる物理現象である。言語聴覚分野は音響や音声といった「音」を対象とする学問分野であり、深い理解のためには波に関する知識が求められる。本科目は、言語聴覚学科に所属する学生を対象とし、特に音響分野の前提となる波や音の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 津森 伸一</p> <p>第 1 回： ガイダンス, 波とは何か, 波の種類とグラフ表現</p> <p>第 2 回： 振幅・振動数・波の速さ</p> <p>第 3 回： 音の三要素, 圧力</p> <p>第 4 回： 音圧, 音の強さ/大きさ</p> <p>第 5 回： 波の重ね合わせとスペクトル</p> <p>第 6 回： 波の反射と定常波</p> <p>第 7 回： 共鳴</p> <p>第 8 回： 問題演習, 総まとめ</p>
アクティブラーニング	本授業は、グループワークによる問題演習を実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、主教材・副教材の閲覧、レポート課題の授受、及びリアクションペーパーの作成や返信を行います。
評価方法	筆記試験 80%, レポート 20%, 計 100% で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対するフィードバック	レポート課題については、次回の授業で総評や解説を行います。また、リアクションペーパーは WebClass を用いて提出を行い、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。
指定図書	なし
参考図書	坂本 真一, 蘆原 郁, 『「音響学」を学ぶ前に読む本』, コロナ社
事前・事後学修	授業前に WebClass に提示された主教材に目を通しておくこと (40 分). 授業後に再度主教材に目を通し学習内容を確認すること (40 分).

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9時～12時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取って下さい。
実務経験に 関する記述	なし
マイ授業 の実施に ついて	なし

科目名	統計学・疫学概論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位(30 時間) 理学選択・作業選択・言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>〈隆朋也 担当分〉 医療分野で必要となるデータ処理方法としての統計学の基礎的事項について、問題を科学的に解決するための論理および手法を学びます。主に 1 つの変数について分析する手法を扱います。</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉 集団における健康問題の現状を明らかにし、因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論を学習する。具体的には疫学の歴史的背景、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを身近な健康に関する事例に基づいて学習する。</p>
到達目標	<p>〈隆朋也 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 <p>〈西川浩昭 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>隆朋也、西川浩昭</p> <p>〈隆朋也 担当分〉</p> <p>第 1 回： ガイダンス、母集団と標本</p> <p>第 2 回： 分布を描く、分布の代表値</p> <p>第 3 回： 分布の散布度</p> <p>第 4 回： 正規分布</p> <p>第 5 回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第 6 回： 割合に関する分布</p> <p>第 7 回： 検定</p> <p>第 8 回： 2 グループの母平均値の差の検定</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉</p> <p>第 9 回： ガイダンス・疫学の概念と歴史、疫学の専門用語</p> <p>第 10 回： 疫学指標</p> <p>第 11 回： 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究</p> <p>第 12 回： 疫学研究法② コホート研究</p> <p>第 13 回： 疫学研究法③ 症例対照研究</p> <p>第 14 回： 疫学的因果論、関連の指標</p> <p>第 15 回： 疫学研究法④ 介入研究</p>
アクティブラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など

評価方法	<p>隆 朋也 担当分として 筆記試験 50%</p> <p>西川浩昭 担当分として 筆記試験 50% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)</p> <p>最終評価として、両者の得点を合計します。</p>				
課題に対するフィードバック	<p>内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。</p>				
指定図書	<p>はじめて学ぶやさしい疫学(改訂第4版) 日本疫学会 監修 南江堂 2024.3 刊行予定</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第2版】 ナースのための統計学	高木広文／著	医学書院	2200	9784260007726	
参考図書	<p>下記参照</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第4版】 基礎から学ぶ楽しい疫学	中村好一／著	医学書院	3200	9784260042277	
事前・事後学修	<p>〈隆朋也 担当分〉 事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと (15 分)。事後学修として、教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと (25 分)。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。授業で使用するスライドデータや関連資料を随時 WebClass に掲載します。事前・事後学修に活用してください。</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉 衛生学・公衆衛生学の最低レベルの知識が必要になります。これについては各自で学習してください。</p> <p>各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>なし</p>				
オフィスアワー	<p>時間については初回授業時に提示します。</p>				
実務経験に関する記述	<p>なし</p>				
対面授業の実施について	<p>なし</p>				

科目名	社会福祉原論				
科目責任者	川向 雅弘				
単位数他	2 単位(30 時間) 理学選択・作業選択・言語必修 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	前半は、社会福祉の基礎概念、理念、歴史等を学びます。後半は、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえ、さらに、事例をまじえて学習します。				
到達目標	1. 「社会福祉とは何か」を説明できる。 2. 社会福祉の重要な理念を説明できる。 3. 現代社会の社会福祉の課題を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>川向雅弘 第 1 回：社会福祉の基礎概念①「社会福祉」とは何か 第 2 回：社会福祉の基礎概念②「障害者」とは誰のことか 第 3 回：社会福祉の基礎概念③ 社会福祉の対象とニーズ 第 4 回：社会福祉の理念①「自己決定」を考える 第 5 回：社会福祉の理念②「自立」を考える 第 6 回：社会福祉の理念③「ノーマライゼーション」を考える 第 7 回：社会福祉の歴史と展開① 戦前の社会福祉の歴史 第 8 回：社会福祉の歴史と展開② 高度経済成長期～社会福祉基礎構造改革期 第 9 回：社会福祉の歴史と展開③ 措置から契約へ 第 10 回：社会福祉の支援と課題① 低所得者支援の課題① 第 11 回：社会福祉の支援と課題② 低所得者支援の課題② 第 12 回：社会福祉の支援と課題③ 弱い立場にある人の就労支援の課題 第 13 回：社会福祉の支援と課題④ 弱い立場にある人の就労支援の課題 第 14 回：社会福祉の支援と課題⑤ 制度のはざまの支援の課題① 第 15 回：社会福祉の支援と課題⑥ 制度のはざまの支援の課題②				
アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。自分自身の生活を周辺を見わたし社会福祉が必要な事象を意識をすること。				
授業内の ICT 活用	・ ICT を活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 ・ 毎回の授業で Webclass を活用します。				
評価方法	出席への参加（出席・リアペ提出・その他）30%、前半レポート 35%、後半レポート 35%				
課題に対するフィードバック	毎回の授業冒頭でリアクションペーパーを活用し前回の学びを振り返ります。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
よくわかる社会福祉 [第 11 版]	山縣 文治	ミネルヴァ書房	2500	9784623076765	

参考図書	授業の中で紹介する
事前・事後学修	<p>【事前学習】 次回講義内容に該当する指定図書の頁を指示するので熟読しておくこと。関連する問題を新聞記事やインターネット等であたり授業に臨むこと（30分程度）。</p> <p>【事後学修】 講義後、30分程度で授業を振り返りリアクションペーパーにまとめること。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>社会福祉学部所属の川向雅弘研究室（2705 研究室）にてオフィスアワーを設定します。詳細は初回授業時に提示します。</p> <p>(masahiro-k@seirei.ac.jp)</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は社会福祉実践経験を有する教員が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対面授業の実施について	なし

科目名	基礎演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	リハビリテーション専門職者を目指す学生として、基本的な心構えと態度（スチューデントスキル）と、大学での学びを円滑に進めるための学習の基礎技能（スタディスキル）を学修する。授業を通して4年間の学びの基盤を作ることを目的とする。
到達目標	1. リハビリテーション専門職者を目指す大学生としてのマナーや社会規範を身につけ実践できる。 2. 国際的視野に立ち、リハビリテーション専門職者に求められるコミュニケーションスキル、情報スキルの基礎を身につけ実践できる 3. 課題の発見と解決力を養う方法について知り、4年間の学びの基礎を理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>3 学科全体で実施</p> <p>第1回：オリエンテーション、建学の精神と本学での学び 新宮尚人</p> <p>第2回：大学で学ぶということ、リハ専門職者としての必要な資質 新宮尚人</p> <p>第3回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル1 飯田妙子</p> <p>第4回：情報倫理 津森伸一</p> <p>第5回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル2 飯田妙子</p> <p>第6回：リハビリテーション専門職の国際支援・援助活動 鈴木達也</p> <p>第7回：発表・授業のまとめ 新宮尚人</p> <p>学科に分かれて実施（8回から15回に相当するが、実際には学科別で全体実施と並行して進む）</p> <p>※学科により内容や順番が変更になることがあります</p> <p>第8回：オリエンテーション、大学で学ぶ意義、大学での学修方法について学ぶ（事前事後学習の必要性、主体的学習など）</p> <p>第9回：社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルールについて学ぶ（研究室の訪ね方、メールの送り方含む）</p> <p>第10回：情報倫理および個人情報保護について学ぶ</p> <p>第11回：図書館の利用方法、文献検索の仕方について学ぶ</p> <p>第12回：文章要約の方法について学ぶ（論文や書籍に書かれている内容を理解しやすくまとめる）</p> <p>第13回：レポートの書き方、考察と感想、文献・資料の使い方について学ぶ</p> <p>第14回：資料整理の仕方、授業資料・ノートの活用について学ぶ（スライドの作り方含む）</p> <p>第15回：プレゼンテーション・ディスカッションについて学ぶ</p> <p>理学療法学科：矢倉千昭 作業療法学科：飯田妙子、鈴木達也 言語聴覚学科：佐藤豊展、佐藤綾華</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、授業中に問いかけを行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために、可能な範囲で演習を取り入れます。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	3 学科全体：1-7 回の内容でレポート提出 50%、学科別：1-7 回の内容でレポート提出 50% なお、3 学科全体の内容でのレポート評価に、ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	レポートもしくは発表に対してコメントをします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
知へのステップ	学習技術研究会	くろしお出版	1800	9784874247891	
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。				
事前・事後学修	事前・事後学習は 40 分を目安としますが、事前学習は時間外でのグループの打ち合わせや準備なども含みます。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、大学生活で活用することで定着をはかるように努力してください。				
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	実施しない				

科目名	発達心理学				
科目責任者	松下 恵美子				
単位数他	2 単位(30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している				
科目概要	リハビリテーションの専門職として、乳幼児期から高齢期までの生涯発達を見通しつつ、その発達課題とその援助を心理学的に理解する授業です。より理解を促すために DVD などを利用していきます。受動的に授業を受講するだけでなく、学んだことを主体的にまとめ、関連した事柄を調べることもします。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの実践にかかわる発達心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもから高齢期の発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人やモノとの相互的にかかわりの中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性を理解してその説明できる。 				
授業計画	<p><授業計画・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・評価の説明</p> <p>第 2 回：「発達心理学」とは～その目的を学ぶ</p> <p>第 3 回：胎児期・乳児期の発達 その 1～胎児の知覚を学ぶ</p> <p>第 4 回：胎児期・乳児期の発達 その 2～乳児期の母子関係の重要性について</p> <p>第 5 回：幼児期の発達 その 1～幼児期の遊びと第一反抗期の意味について</p> <p>第 6 回：幼児期の発達 その 2～自己意識と心の理論について</p> <p>第 7 回：児童期の発達 その 1～学習の始まりに不可欠なものについて</p> <p>第 8 回：児童期の発達 その 2～対人関係の基礎について</p> <p>第 9 回：青年期の発達 その 1～思春期の始まりについて</p> <p>第 10 回：青年期の発達 その 2～アイデンティティについて</p> <p>第 11 回：成人期の発達 大人の発達課題について</p> <p>第 12 回：高齢期の発達 高齢期の認知機能について</p> <p>第 13 回：発達心理学とリハビリテーションについて</p> <p>第 14 回：発達心理学と支援について</p> <p>第 15 回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを事後学修としてまとめていきます。				
授業内の ICT 活用	特になし				
評価方法	リアクションペーパー (20%)、試験 (80%)。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを次の授業でフィードバックします。				
指定図書	下記参照 その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

よくわかる 発達心理学 完全カラー 図解	渡辺弥生／監修	ナツメ社	1600	9784816370571	
参考図書	特になし				
事前・ 事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む（10分） 事後：授業の内容をまとめる（10分）				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	メンタルクリニックの臨床心理士としてカウンセリングをしています。1.6 検診、3 歳児検診の経験。小学校、中学校、高校、大学でのスクールカウンセラーの経験があります。				
メディア授業 の実施に ついて	座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う可能性がある。その場合、1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。				

科目名	保健医療福祉倫理学		
科目責任者	藤田 さより		
単位数他	1 単位(15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 2 セメスター		
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎		
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。		
科目概要	近年医学の進歩に伴い、生命誕生や途絶に医学が介入しはじめたことにより、単に医学だけでは解決できない多くの問題が浮き彫りになっている。この講義では、そのような諸問題を解決するための学問としての生命倫理学（バイオエシックス）の基礎を学ぶとともに、実際の医療やリハビリテーションの現場で生じる倫理的な問題に焦点を当て、グループワーク形式での演習を多く取り入れていく。		
到達目標	1. 医療における倫理問題に気づくようになる。 2. 倫理的推論を行い、分析できる手法を身につける。 3. 専門家としての倫理的資質を養い、態度を身につける。 4. 共感をもって患者の視点に気づき、そして理解する。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：道徳と倫理</p> <p>第2回：生命の倫理の重要概念（倫理委員会）</p> <p>第3回：生命の倫理の重要概念（インフォームドコンセント）</p> <p>第4回：生命倫理の問題（実験研究の倫理）</p> <p>第5回：倫理学と倫理原理</p> <p>第6回：生命倫理の問題（秘密保持）</p> <p>第7回：生命倫理の問題（遺伝子診断・治療）</p> <p>第8回：生命倫理の問題（緩和ケア・ホスピス）</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>大原重洋</p> <p>泉 良太</p> <p>矢倉千昭</p> <p>伊藤信寿</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> </td> </tr> </table>	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：道徳と倫理</p> <p>第2回：生命の倫理の重要概念（倫理委員会）</p> <p>第3回：生命の倫理の重要概念（インフォームドコンセント）</p> <p>第4回：生命倫理の問題（実験研究の倫理）</p> <p>第5回：倫理学と倫理原理</p> <p>第6回：生命倫理の問題（秘密保持）</p> <p>第7回：生命倫理の問題（遺伝子診断・治療）</p> <p>第8回：生命倫理の問題（緩和ケア・ホスピス）</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>大原重洋</p> <p>泉 良太</p> <p>矢倉千昭</p> <p>伊藤信寿</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p>
<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：道徳と倫理</p> <p>第2回：生命の倫理の重要概念（倫理委員会）</p> <p>第3回：生命の倫理の重要概念（インフォームドコンセント）</p> <p>第4回：生命倫理の問題（実験研究の倫理）</p> <p>第5回：倫理学と倫理原理</p> <p>第6回：生命倫理の問題（秘密保持）</p> <p>第7回：生命倫理の問題（遺伝子診断・治療）</p> <p>第8回：生命倫理の問題（緩和ケア・ホスピス）</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>大原重洋</p> <p>泉 良太</p> <p>矢倉千昭</p> <p>伊藤信寿</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p>		
アクティブラーニング	本授業は、グループワークやプレゼンテーションを取り入れて実施します。		
授業内のICT活用	動画視聴や ICT 機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。		
評価方法	リアクションペーパー（40%） 最終レポート（ルーブリックを用いて評価する）（30%） 小テスト（30%）		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーにより、各回の授業への関心、学修習熟度、疑問点などを確認します。必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスをを行います。		
指定図書	保健・医療職のための生命倫理ワークブック ―本当によいことなのか、もう一度考えてみよう!! 吉川ひろみ著 三輪書店		
参考図書	なし		
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前に Webclass に掲示された資料を確認してください（20 分） ・ 授業後は講義内でテーマとなった生命・医療倫理の諸問題のディスカッション内容を振り返り、倫理的問題点の整理を行ってください（20 分） 		
オープンエデュケーションの活用	なし		

<p>オフィス アワー</p>	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>
<p>実務経験に 関する記述</p>	<p>本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
<p>オンライン授業 の実施に ついて</p>	<p>なし</p>

科目名	キャリアデザイン（リハビリテーション学部）
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本授業は、リハビリテーション専門職者が、キャリアデザインを考える上で必要と思われる「リハビリテーション専門職者としてのプロフェッショナルリズムとは何か」について、専門用語を含めて学習する。医療機関や介護施設など一般的なセラピストとしての活動に限らず、卒業後の人生設計を起こさない、どのように社会で活躍できるか、人生を創造していきけるのかを考える。また、就労後に生じやすいメンタルヘルスの問題は、キャリアアップの大きな障害になることから、メンタルヘルスについても学習する。
到達目標	1) リハビリテーション専門職者としてのプロフェッショナルリズムを説明できる。 2) 就労後のメンタルヘルスの問題について説明できる。 3) リハビリテーション専門職者が、一般的なセラピストとして働き方以外に、どのように就労しているのかについて説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>吉本好延、佐野哲也、佐藤綾華</p> <p>第1回：吉本好延 事前学習課題①：「あなたの考えるプロフェッショナルなセラピストとはどんなセラピストですか?」。ただし、コンピテンシー・逆向き設計・プロフェッショナルリズム・生涯学習の全てのキーワードを用いて回答してください。 事前学習課題の提出は、授業前日の21時までにwebclassに提出してください。 ・講義：20分程度（キーワード：コンピテンシー・逆向き設計・プロフェッショナルリズム） ・小テスト：小テストは写真撮影して、webclassの指定の場所にアップしてください。</p> <p>第2回：吉本好延 事前学習課題②：「あなたが臨床実習を経験した中で、アンプロフェッショナルだと感じたセラピスト（他者）の行動はどんな行動ですか?」。これは他者を見て感じたことです。webclassに掲載している例1を参考に、あなたが経験して感じた事をストーリー（物語）として作成してください。 事前学習課題の提出は、授業前日の21時までにwebclassに提出してください。 ・講義：20分程度：（キーワード：アンプロフェッショナルリズム・ロールモデル・言語化） ・グループワーク：グループで各事例の共有・代表例を選出し、授業内で課題を行う。 授業内課題：「なぜその行動がアンプロフェッショナルだと言えるのか?」 グループでまとめた内容を各自でwebclassに提出してください。</p> <p>第3回：吉本好延 事前学習課題③：「あなたがアルバイトや臨床実習などを経験した中で、アンプロフェッショナルだと感じた自身の行動はどんな行動ですか?」。これは他者を見て感じたのではなく、自身の行動です。webclassに掲載している例2を参考に、あなたが経験して感じた事をストーリー（物語）として作成してください。 ・講義：20分程度：（キーワード：省察的实践家・隠れたカリキュラム） ・グループワーク：グループで各事例の共有。 授業内課題：「どう対応すれば良かったのか?その対応は現実的に可能なのかどうかを含めて、総合的に解釈する。」</p> <p>第4回：メンタルヘルス 佐野哲也 事前学習課題④：「就労後に生じやすいメンタルの問題とはなにか?」ただし、ワークライフバランス・こころの病気・ハラスメントの全てのキーワードを用いて回答してください。 事前学習課題の提出は、授業前日の21時までにwebclassに提出してください。 ・講義：20分程度（キーワード：ワークライフバランス・こころの病気・ハラスメント） ・小テスト：小テストは写真撮影して、webclassの指定の場所にアップしてください。</p> <p>第5回：メンタルヘルス 佐野哲也</p>

	<p>「就労後も健康的な生活にはどうしたらいいのか？」ただし、性格傾向・ストレス特性・メンタルヘルスのすべてのキーワードを用いて回答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：20分程度（キーワード：性格傾向・ストレス特性・メンタルヘルス） ・小テスト：小テストは写真撮影して、webclassの指定の場所にアップしてください。 <p>第6-8回：キャリアサロン 吉本好延・佐野哲也・佐藤綾華・外部講師（3名）</p> <p>「キャリアサロン」を開催する。卒業生を含めた小グループを構成し、グループの中で卒業生による体験や感想、今後の進路や夢を報告して頂く。ラウンド方式で2か所程度をラウンドできるようにする。最後に、学生は「キャリアサロン」の感想文を400文字程度で記述し、提出する。</p> <p>受講生へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のキャリアを考えることは、自分の一生をどう生きるかということを考えることでもあります。より良い人生を生きていくためにはどうすればよいか？またリハビリテーション専門職者としてのキャリアをどのように考えればよいか？を考え、模索してください。
アクティブ ラーニング	<p>本授業は、 事前学習課題 グループワーク 小テストによる効果判定で、学生の主体性を促します。</p>
授業内の ICT活用	webclass
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト40%、 ・課題提出物：40% ・感想文20%
課題に対する フィード バック	Webclassで随時行います。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では事前学習課題を用いて、授業を受講する学生の準備状態を整えます。 ・準備ができているかどうかの判定は小テストで実施します。ただし、学生のさらなる理解を促すため、ミニ講義後に小テストを行います。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3509研究室（吉本好延）、3511研究室（佐野哲也）、3407研究室（佐藤綾華）です。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業 の実施に ついて	なし

科目名	入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（PTのA）
科目責任者	Kuramoto Christine Dianne
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を150語以上（発音も含めて）覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<担当教員名> 倉本・クリスティーン 第1回：Introduction 第2回：Becoming a Therapist 第3回：Project 1 第4回：Sports 第5回：Body Parts 第6回：The Elderly 第7回：まとめ、中間テスト 第8回：Project 2 第9回：Measurements 第10回：Joints 第11回：Activities of Daily living 第12回：グループワーク①（リハビリに関連する疾患・障害について） 第13回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について） 第14回：まとめ、最終テスト 第15回：発表会
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。ICT機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、発表20%、中間テスト20%、最終テスト30%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間／最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』 by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano（作者）(Perceptia Press 出版社)（ISBN 9784939130632）

参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修30分～1時間、事後学修30分～1時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
対外授業の実施について	

科目名	入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（OT）
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語表現を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。臨床現場で想定される患者および多職種間のやりとり、プレゼンテーションの方法等を学び、セラピストとしての実践的なコミュニケーション能力を向上させる。リハビリテーションの対象となる代表的な疾病や障害に関する文献を読み、語彙力や読解力を高める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・150 語以上のリハビリテーションに関する英語の語彙を習得する（発音も含む）。 ・リハビリテーションの基本的な指示、疾病・症例の説明を英語で理解し、実施できる能力を身につける。 ・英語でプレゼンテーションを行うことができる。 ・専門分野の英語文献を辞書を活用して正確に理解し、読解する技術を磨く。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>渥美 陽子</p> <p>第1 回：Becoming a therapist</p> <p>第2 回：The workplace</p> <p>第3 回：Sports</p> <p>第4 回：The elderly</p> <p>第5 回：Working with children</p> <p>第6 回：Computer workstations</p> <p>第7 回：Questionnaires</p> <p>第8 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第9 回：Measurements</p> <p>第10 回：Joints</p> <p>第11 回：Posture</p> <p>第12 回：グループワーク①（リハビリに関連する疾患・障害について）</p> <p>第13 回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について）</p> <p>第14 回：発表会</p> <p>第15 回：まとめ、期末テスト</p>
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半はリハビリテーションの対象となる疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 ・事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 ・Google 機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。 ・Quizlet（オンライン単語学習ツール）を活用し、授業外の学習を促進する。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業参加度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表・課題30%、期末テスト20%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）

指定図書	書名：『Therapy Care』、著者： Jim Smiley/ Michiyo Masui/ Tomoaki Asano、出版社：Perceptia Press、出版年：2017年
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音を含む）、不明な点・課題を明らかにする。音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。学修時間の目安：事前学修 30分～1時間、事後学修 30分～1時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	なし
対外授業の実施について	なし

科目名	入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（ST）
科目責任者	Kuramoto Christine Dianne
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を 150 語以上（発音も含めて）覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 倉本・クリスティーン</p> <p>第1 回：Introduction 第2 回：Becoming a therapist 第3 回：Anatomy and Physiology for Speech, Language, and Hearing 第4 回：Language Disorders from Infancy through Adolescence 第5 回：Motor Speech Disorders 第6 回：Cleft Palate and Craniofacial Anomalies 第7 回：Management of Motor Speech Disorders in children and adults 第8 回：まとめ、中間テスト 第9 回：Adult Swallowing Disorders 第10 回：Enhancing Language Skills of Deaf and Hard of Hearing Children 第11 回：Language Intervention Strategies in Aphasia and Related Neurogenic Communication Disorders 第12 回：グループワーク①（リハビリに関連する疾患・障害について） 第13 回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について） 第14 回：発表会 第15 回：まとめ、最終テスト</p>
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、発表20%、中間テスト20%、最終テスト30%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	なし

参考図書	教員が授業で配ります。
事前・ 事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
対外授業 の実施に ついて	

科目名	入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（PTのB）
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語表現を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。臨床現場で想定される患者および多職種間のやりとり、プレゼンテーションの方法等を学び、セラピストとしての実践的なコミュニケーション能力を向上させる。リハビリテーションの対象となる代表的な疾病や障害に関する文献を読み、語彙力や読解力を高める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・150語以上のリハビリテーションに関する英語の語彙を習得する（発音も含む）。 ・リハビリテーションの基本的な指示、疾病・症例の説明を英語で理解し、実施できる能力を身につける。 ・英語でプレゼンテーションを行うことができる。 ・専門分野の英語文献を辞書を活用して正確に理解し、読解する技術を磨く。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 渥美 陽子</p> <p>第1回：Becoming a therapist 第2回：The workplace 第3回：Sports 第4回：The elderly 第5回：Working with children 第6回：Computer workstations 第7回：Questionnaires 第8回：まとめ、中間テスト 第9回：Measurements 第10回：Joints 第11回：Posture 第12回：グループワーク①（リハビリに関連する疾患・障害について） 第13回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について） 第14回：発表会 第15回：まとめ、期末テスト</p>
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半はリハビリテーションの対象となる疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 ・事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 ・Google機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。 ・Quizlet（オンライン単語学習ツール）を活用し、授業外の学習を促進する。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業参加度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表・課題30%、期末テスト20%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）

指定図書	書名：『Therapy Care』、著者： Jim Smiley/ Michiyo Masui/ Tomoaki Asano、出版社：Perceptia Press、出版年：2017年
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音を含む）、不明な点・課題を明らかにする。音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。学修時間の目安：事前学修 30分～1時間、事後学修 30分～1時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	なし
対外授業の実施について	なし

科目名	解剖学				
科目責任者	顧 寿智				
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では入門解剖学として、下記の内容について要点を講義するが、授業を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べるができる。 2. 心臓血管系の構造と機能について述べるができる。 3. 内臓系の基本的な構造と機能について述べるができる。 4. 運動器系の構造上の特徴を述べるができる。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、総論（人体の構成）</p> <p>第 2 回：組織学総論（細胞、組織）、</p> <p>第 3 回：心臓血管系（血液、心臓の構造、）</p> <p>第 4 回：心臓血管系（心臓の血管、刺激伝道系、血管の構造）</p> <p>第 5 回：心臓血管系（循環路、リンパ系）</p> <p>第 6 回：呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺）</p> <p>第 7 回：まとめ、テスト</p> <p>第 8 回：消化器系（消化管の管壁、腹膜、口腔、咽頭）</p> <p>第 9 回：消化器系（食道、胃、小腸、大腸）</p> <p>第 10 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）</p> <p>第 11 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 12 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 13 回：運動器系（骨と骨格筋の構造、主な骨と骨格筋の名称、位置、作用）</p> <p>第 14 回：テスト</p> <p>第 15 回：総まとめ</p>				
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。				
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・アプリ(Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。				
評価方法	テスト（60%）、小テスト（40%）などを総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

トートラ人体解剖生理学 原書 11 版	佐伯 由香	丸善出版	6900	9784621305393	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第5版】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学 P T O T	奈良勲／シリーズ監修 鎌倉矩子／シリーズ監修 野村巖／編集 野村巖／〔ほか〕執筆	医学書院	6000	9784260039222	
ネッター解剖学アトラス [電子書籍付] (原書第7版)	相磯 貞和	南江堂	10000	9784524230082	
【改訂20版】日本人体解剖学上 解剖学総論・骨格系・筋系・神経系	金子丑之助／原著 金子勝治／監修 穂田真澄／編著	南山堂	11000	9784525101008	
【改訂20版】日本人体解剖学下 循環器系・内臓学・感覚器系	金子丑之助／原著 金子勝治／監修 穂田真澄／編著	南山堂	11000	9784525101107	
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	場合によっては2教室で実施することがあります。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【俵祐一】、【高橋大生】を配置し、質疑応答に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。				

科目名	運動器解剖学																																
科目責任者	顧 寿智																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 1 セミナー																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	医療職の中で理学療法士、作業療法士は最も運動器系の専門的な知識を要求される。組織学、解剖学用語をはじめとして、骨格、関節、靭帯、筋系などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。英語の専門用語の修得も大切である。チャレンジしてみてください。																																
到達目標	1. 運動器系の基本的なマクロ構造を述べることができる。 2. 全身骨の名称と構造を述べることができる。 3. 体肢の関節と靭帯の名称と構造を述べることができる。 4. 筋の名称と構造を述べることができる。																																
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">A グループ</th> <th style="text-align: center;">B グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、骨と筋の組織学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2 回：骨格系 (頭蓋)</td> <td>骨格系 (脊柱、胸郭)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：骨格系 (脊柱、胸郭)</td> <td>骨格系 (頭蓋)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：骨格系 (上肢の骨)</td> <td>骨格系 (下肢の骨)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：骨格系 (下肢の骨)</td> <td>骨格系 (上肢の骨)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：関節靭帯 (上肢の連結)</td> <td>関節靭帯 (下肢の連結)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：浜松医科大学での解剖学実習見学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回：関節靭帯 (下肢の連結)</td> <td>関節靭帯 (上肢の連結)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：まとめ、中間テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 10 回：筋系 (上肢の筋)</td> <td>筋系 (体幹の筋)</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：筋系 (上肢の筋)</td> <td>筋系 (下肢の筋)</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：筋系 (下肢の筋)</td> <td>筋系 (上肢の筋)</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：筋系 (体幹の筋)</td> <td>筋系 (上肢の筋)</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：まとめ、テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回：総まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>受講のための事前準備：赤青鉛筆</p>	A グループ	B グループ	第 1 回：オリエンテーション、骨と筋の組織学		第 2 回：骨格系 (頭蓋)	骨格系 (脊柱、胸郭)	第 3 回：骨格系 (脊柱、胸郭)	骨格系 (頭蓋)	第 4 回：骨格系 (上肢の骨)	骨格系 (下肢の骨)	第 5 回：骨格系 (下肢の骨)	骨格系 (上肢の骨)	第 6 回：関節靭帯 (上肢の連結)	関節靭帯 (下肢の連結)	第 7 回：浜松医科大学での解剖学実習見学		第 8 回：関節靭帯 (下肢の連結)	関節靭帯 (上肢の連結)	第 9 回：まとめ、中間テスト		第 10 回：筋系 (上肢の筋)	筋系 (体幹の筋)	第 11 回：筋系 (上肢の筋)	筋系 (下肢の筋)	第 12 回：筋系 (下肢の筋)	筋系 (上肢の筋)	第 13 回：筋系 (体幹の筋)	筋系 (上肢の筋)	第 14 回：まとめ、テスト		第 15 回：総まとめ	
A グループ	B グループ																																
第 1 回：オリエンテーション、骨と筋の組織学																																	
第 2 回：骨格系 (頭蓋)	骨格系 (脊柱、胸郭)																																
第 3 回：骨格系 (脊柱、胸郭)	骨格系 (頭蓋)																																
第 4 回：骨格系 (上肢の骨)	骨格系 (下肢の骨)																																
第 5 回：骨格系 (下肢の骨)	骨格系 (上肢の骨)																																
第 6 回：関節靭帯 (上肢の連結)	関節靭帯 (下肢の連結)																																
第 7 回：浜松医科大学での解剖学実習見学																																	
第 8 回：関節靭帯 (下肢の連結)	関節靭帯 (上肢の連結)																																
第 9 回：まとめ、中間テスト																																	
第 10 回：筋系 (上肢の筋)	筋系 (体幹の筋)																																
第 11 回：筋系 (上肢の筋)	筋系 (下肢の筋)																																
第 12 回：筋系 (下肢の筋)	筋系 (上肢の筋)																																
第 13 回：筋系 (体幹の筋)	筋系 (上肢の筋)																																
第 14 回：まとめ、テスト																																	
第 15 回：総まとめ																																	
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。																																
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・アプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。																																
評価方法	テスト (50%)、小テスト (25%)、スケッチ (25%) を総合的に評価する。																																
課題に対するフィードバック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など																																
指定図書	下記参照																																

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第5版】 標準理学療 法学・作業 療法学 専 門基礎分野 解剖学 P T O T	奈良勲／シリー ズ監修 鎌倉矩 子／シリーズ監 修 野村巖／編 集 野村巖／〔ほ か〕執筆	医学書院	6000	9784260039222	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ネッター解 剖学アトラ ス [電子書 籍付] (原書 第7版)	相磯 貞和	南江堂	10000	9784524230082	
【改訂20 版】日本人 体解剖学 上 解剖学 総論・骨格 系・筋系・神 経系	金子丑之助／原 著 金子勝治／ 監修 穂田真澄 ／編著	南山堂	11000	9784525101008	
トートラ人 体解剖生理 学 原書 11 版	佐伯 由香	丸善出版	6900	9784621305393	
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業 の実施に ついて	場合によっては2教室で実施することがあります。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【俵祐一】、【高橋大生】を配置し、質疑応答に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。				

科目名	神経解剖学				
科目責任者	顧 寿智				
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	神経解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。				
到達目標	神経系の構成と主な機能を述べることができる。 感覚器系の構造と機能を述べることができる。 内分泌器系の構造と機能を述べることができる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：神経系の概観、神経組織 第 2 回：髄膜と脳室系、神経系の発生 第 3 回：脊髄、脳幹 第 4 回：脳幹、小脳 第 5 回：大脳、伝導路 第 6 回：解剖実験 第 7 回：まとめ、テスト 第 8 回：脊髄神経 第 9 回：脊髄神経 第 10 回：脳神経 第 11 回：自律神経系 第 12 回：感覚器系（皮膚、視覚、聴覚と平衡感覚） 第 13 回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島） 第 14 回：まとめ、テスト 第 15 回：総まとめ				
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。				
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。				
評価方法	テスト (60%)、小テスト (40%) などを総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第5版】標準理学療法学・作業	奈良勲／シリーズ監修 鎌倉矩子／シリーズ監修 野村巖／編	医学書院	6000	9784260039222	

療法学 専門基礎分野 解剖学 P T O T	集 野村巖 / [ほか] 執筆				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
トートラ人体解剖生理学 原書 11 版	佐伯 由香	丸善出版	6900	9784621305393	
ネッター解剖学アトラス [電子書籍付] (原書第 7 版)	相磯 貞和	南江堂	10000	9784524230082	
【改訂 20 版】日本人 体解剖学 上 解剖学 総論・骨格 系・筋系・神 経系	金子丑之助 / 原著 金子勝治 / 監修 穂田真澄 / 編著	南山堂	11000	9784525101008	
【改訂 20 版】日本人 体解剖学 下 循環器 系・内臓学・ 感覚器系	金子丑之助 / 原著 金子勝治 / 監修 穂田真澄 / 編著	南山堂	11000	9784525101107	
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1 コマ当たり約 40 分以上)				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にある DVD 「目で見る解剖・生理」「目で見る医学の基礎」の受講を勧める。				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12 時～13 時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て					

科目名	言語聴覚解剖学				
科目責任者	顧 寿智				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーションの専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に習得している。				
科目概要	言語聴覚解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系、嚥下発声、聴覚平衡感学などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。				
到達目標	神経系の構成と主な機能を述べることができる。 嚥下発声の構造と機能を述べることができる。 聴覚と平衡感覚器の構造と機能を述べることができる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：神経系の概観、神経組織 第 2 回：神経系の発生、脊髄 第 3 回：脊髄神経、髄膜と脳室系 第 4 回：脳幹、小脳 第 5 回：間脳、大脳 第 6 回：伝導路、解剖実験 第 7 回：脳神経 第 8 回：自律神経系 第 9 回：まとめ、中間テスト 第 10 回：咽頭、喉頭 第 11 回：咽頭、喉頭 第 12 回：咽頭、喉頭 第 13 回：聴覚と平衡感覚 第 14 回：まとめ、中間テスト 第 15 回：総まとめ				
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。				
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。				
評価方法	テスト (60%)、中間テスト・小テスト (30%)、授業への取り組み (10%) などを総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント				
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

トートラ人体解剖生理学 原書 11 版	佐伯 由香	丸善出版	6900	9784621305393	
参考図書	相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ネッター解剖学アトラス [電子書籍付] (原書第7版)	相磯 貞和	南江堂	10000	9784524230082	
【改訂20版】日本人体解剖学上 解剖学総論・骨格系・筋系・神経系	金子丑之助／原著 金子勝治／監修 穂田真澄／編著	南山堂	11000	9784525101008	
【改訂20版】日本人体解剖学下 循環器系・内臓学・感覚器系	金子丑之助／原著 金子勝治／監修 穂田真澄／編著	南山堂	11000	9784525101107	
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)				
オープンエデュケーションの活用	自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について					

科目名	人体機能学(動物性機能)
科目責任者	大林 雅春
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。本科目では、「生理学」のうち『動物性機能』を担当し、特に脳、神経・筋肉、感覚と刺激の受容、運動の調節に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	1. 脳の機能について説明できる。 2. 神経・筋の機能について説明できる。 3. 感覚の受容について説明できる。 4. 運動の調節について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回 オリエンテーション、細胞の構造と機能 (教科書第1章)</p> <p>第2回 神経系の基礎-1 (教科書第12章)</p> <p>第3回 神経系の基礎-2 (教科書第12章)</p> <p>第4回 自律神経系-1 (教科書第13章)</p> <p>第5回 自律神経系-2 (教科書第13章)</p> <p>第6回 脳-1 (教科書第14章)</p> <p>第7回 脳-2 (教科書第14章)</p> <p>第8回 脳-3 (教科書第14章)</p> <p>第9回 感覚-1 (総論) (教科書第15章)</p> <p>第10回 感覚-2 (各論) (教科書第15章)</p> <p>第11回 感覚-3 (各論) (教科書第15章)</p> <p>第12回 筋収縮 (教科書第11章)</p> <p>第13回 運動の調節-1 (教科書第16章)</p> <p>第14回 運動の調節-2 (教科書第16章)</p> <p>第15回 運動の調節-3、まとめ (教科書第16章)</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	<p>本授業は、反転授業、グループワーク、発表(レポート形式 or プレゼンテーション)を取り入れて実施する。</p> <p>反転授業は、次回の授業項目の簡単な事前課題(基本問題)を果たし、本番の授業を迎えるのが前提の授業である。自己学習を行い講義に臨むことを習慣化すること。</p> <p>グループワークでは、テーマに関しての学生同士によるディスカッション、簡易な実習を予定している。</p> <p>発表については、個人またはグループにより、レポート形式と指定したテーマのプレゼンテーション形式による課題を果たす。</p> <p>WebClassに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立つこと。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。</p>
授業内のICT活用	毎回の授業で配る講義資料(紙媒体)は、GoogleDrive上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立つこと。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。授業には、PCやタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。

評価方法	課題提出 10% (レポートで評価するが、ルーブリックは用いない)、 定期試験 90%、計 100%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
やさしい生理学 (改訂第7版)	彼末 一之	南江堂	2600	9784524254170	
参考図書	①『病気がみえる vol.7 脳・神経』 ②『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』 メディックメディア出版、編集：医療情報科学研究所 上記は、リハビリテーション領域の参考書として非常に良書で、他の教科では教科書としても指定されるなど、バイブル的な本として有名である。特にPT/OT は①②を、ST は①を、4年生まで重宝するので1年のうちから購入することを推奨する。 その他は、授業中に随時紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	3900	9784896326864	
病気がみえる vol.11 運動器・整形外科	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	3800	9784896326321	
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、『事前課題』を中心に、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントに関する問題(事前課題)を渡すので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	人体機能学(植物性機能)
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。本科目では、「生理学」のうち『植物性機能』を担当し、特に血液・体液、循環、呼吸、消化吸収、腎・泌尿器、代謝・体温調節、内分泌に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の組成、血液成分とその機能が説明できる。 2. 心臓を中心とする循環器系の概要および動脈系・静脈系の特徴、循環調節が説明できる。 3. 肺の構造と機能を理解し、肺容量分画、呼吸リズムの制御メカニズムを説明できる。 4. 消化器の構造と消化と吸収機能ならびに消化管の運動と調節を説明できる。 5. 腎臓において尿の形成がどのようにして行われ、排泄されるのかを説明できる。 6. エネルギー代謝ならびに体温調節の機序が説明できる。 7. 内分泌腺とホルモンの産生・作用機序を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第 1 回 : 血液と体液-1 (教科書第 2 章) 第 2 回 : 血液と体液-2 (教科書第 2 章) 第 3 回 : 循環-1 (教科書第 3 章) 第 4 回 : 循環-2 (教科書第 3 章) 第 5 回 : 呼吸-1 (教科書第 4 章) 第 6 回 : 呼吸-2 (教科書第 4 章) 第 7 回 : 消化と吸収-1 (教科書第 5 章) 第 8 回 : 消化と吸収-2 (教科書第 5 章) 第 9 回 : 代謝と体温 (教科書第 7・8 章) 第 10 回 : 代謝と体温 (教科書第 7・8 章) 第 11 回 : 尿の生成と排泄-1 (教科書第 6 章) 第 12 回 : 尿の生成と排泄-2 (教科書第 6 章) 第 13 回 : 内分泌-1 (教科書第 9 章) 第 14 回 : 内分泌-2 (教科書第 9 章) 第 15 回 : まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	<p>本授業は、反転授業、グループワーク、発表(レポート形式 or プレゼンテーション)を取り入れて実施する。</p> <p>反転授業は、次回の授業項目の簡単な事前課題(基本問題)を果たし、本番の授業を迎えるのが前提の授業である。</p> <p>グループワークでは、テーマに関しての学生同士によるディスカッション、簡易な実習を予定している。</p> <p>発表については、個人またはグループにより、レポート形式と指定したテーマのプレゼンテーション形式による課題を果たす。</p> <p>WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立てること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。</p>
授業内の ICT 活用	<p>毎回の授業で配る講義資料(紙媒体)は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。</p>

評価方法	課題提出 10% (レポートで評価するが、ルーブリックは用いない)、 定期試験 90%、計 100%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
やさしい生理学 (改訂第7版)	彼末 一之	南江堂	2600	9784524254170	
参考図書	授業中に随時連絡				
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いので、教科書・参考図書を良く読み、予習・復習など自己学習を習慣化すること。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントに関する問題(事前課題)を渡すので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	運動学 I
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	運動学の基礎的知識を習得する。人体の運動器の構造と機能、さらに身体運動の機構について学び、病変によるその障害を分析・治療するための基礎を身につけることを目的とする。授業は、講義および演習形式により進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学に必要な構造（名称）を知っている。 2. 特徴的な構造を説明できる。 3. 各関節の運動を説明できる。 4. 筋や靭帯の作用を理解する。 5. 上記について教科書で該当箇所を読み理解する。 6. weclass や教科書等にアクセスし自ら情報を得て行動に移すことができる。 7. 自分の意見を述べるができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション，運動学総論（根地嶋） 運動学の理解に必要な用語の理解</p> <p>第 2 回：運動学の基本原理（根地嶋） 運動学の学修する共通事項の理解</p> <p>第 3 回：下肢の運動-下肢帯と股関節の運動（根地嶋） 骨盤と股関節に関する構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 4 回：下肢の運動-膝関節の運動（根地嶋） 膝関節の構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 5 回：下肢の運動-膝関節の運動 2（根地嶋） 膝関節の構造と運動の理解</p> <p>第 6 回：下肢の運動-足関節と足部の運動（根地嶋） 足関節と足部の構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 7 回：体幹の運動-頸・胸・腰椎の運動（根地嶋） 脊柱と胸郭の構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 8 回：下肢体幹のまとめ（根地嶋） これまでの理解の確認</p> <p>第 9 回：上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動（根地嶋） 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 10 回：上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 2（根地嶋） 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解</p> <p>第 11 回：運動器を構成する組織（根地嶋） 骨，関節，靭帯，腱，筋などの構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 12 回：関節運動と筋，これまでのまとめ（根地嶋） 関節と筋に関する理解，知識の確認</p> <p>第 13 回：上肢の運動-肘関節と前腕の運動（佐野） 肘関節と前腕の構造と運動の理解，小テスト</p> <p>第 14 回：上肢の運動-手関節と手の運動（佐野） 手関節と手の構造と運動の理解</p> <p>第 15 回：まとめ（根地嶋） これまでのまとめ，理解の確認</p>
アクティブラーニング	Webclass の活用（動画視聴，学修ポイント問題集による事前事後学修）

授業内のICT活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用
評価方法	小テスト (30%), 単元テスト (55%), リアクションペーパー (15%)
課題に対するフィードバック	小テストの解説, リアクションペーパーの回答
指定図書	中村隆一, 齊藤宏, 長崎浩: 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 弓岡光徳ら (訳): エッセンシャル・キネシオロジー 原書第3版 (南江堂) *以下, OT 学科のみ購入 中島雅美, 中島喜代彦 (編): PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第3版 (医歯薬出版) 中島雅美 (編): PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版 (医歯薬出版)
参考図書	なし
事前・事後学修	各回のテーマ (膝や足など) の解剖学, つまり骨や筋の構造, webclass にある問題集を事前に20分程度学修しておくこと。毎回の授業の振り返りを20分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者: 根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室: 3505 時間帯: 授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	本科目は, 基本的に1教室で実施する。

科目名	運動学演習 (OT)				
科目責任者	泉 良太				
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 3 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎				
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。				
科目概要	作業の形態的、機能的側面の分析方法について学習する。作業分析・動作分析を行うため、運動学的基礎知識を整理する。				
到達目標	1. 作業療法を実施する際に必要な解剖学的構造について、体表面から触知できる。 2. 触知した筋骨格の解剖学的・運動学的特徴について述べる事ができる。 3. 実際の動作について、運動学的に説明ができる。				
授業計画	<p>グループワークのため、他のメンバーへの配慮として、下記の場合には受講を認めません。 * 正当な理由ではない遅刻 * 触診・視診が主となりますので、体表面が触知できる、運動が観察しやすい服装ではない場合</p> <p>< 授業内容・テーマ等 > < 担当教員名 > 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第1回 : オリエンテーション</p> <p>第2回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第3回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第4回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第5回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第6回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第7回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第8回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第9回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第10回 : 身体の表面解剖 (上肢の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第11回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第12回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第13回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第14回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p> <p>第15回 : 身体の表面解剖 (下肢および体幹の筋骨格) と運動学 泉 良太、佐野哲也</p>				
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。				
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。				
評価方法	定期試験 70%、知識習得テスト 30% 知識習得テストには、事前学習 (解剖学・運動学) が含まれます。				
課題に対するフィードバック	知識習得テスト終了後にフィードバックを実施します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

【第6版】 基礎運動学	中村隆一／著 斎藤宏／著 長 崎浩／著	医歯薬出版	6800	9784263211533	
運動療法の ための機能解剖学的 触診技術 動画プラス 上肢 改訂 第2版	青木 隆明	メジカルビュー社	6000	9784758320931	
運動療法の ための機能解剖学的 触診技術 動画プラス 下肢・体幹 改訂第2版	青木 隆明	メジカルビュー社	6000	9784758320948	
【第3版】 PT・OT 基礎から学 ぶ解剖学ノ ート 理学 療法士・作 業療法士	中島雅美／編	医歯薬出版	4000	9784263216750	
理学療法 士・作業療 法士 PT・OT 基礎から学 ぶ運動学ノ ート第3版	中島 雅美	医歯薬出版	4000	9784263266762	
参考図書	Visible Body (PC、タブレット、スマートフォンで使用可能な筋骨格の3Dモデルソフトです)				
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に提示された箇所を予習し(解剖学・運動学)、知識習得テストに回答してください(各20分2~15回目)。 ・授業後は、授業の復習を実施してください(各20分1~15回目)。 ・5回目、10回目、15回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください(各10分)。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て	なし				

科目名	運動学Ⅱ	
科目責任者	根地嶋 誠	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セミナー	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	運動学Ⅰで学んだ知識を基に、運動学の基礎的知識を習得する。ヒトの姿勢や歩行の定義と評価の基礎、姿勢の神経制御、運動の学習過程、さらに姿勢と運動の分析について学修する。授業は講義と演習形式により進める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準的なヒトの姿勢・歩行を運動学および運動力学的な視点で説明できる。 2. 姿勢制御、運動学習の理論についてその概略を説明できる。 3. 姿勢、動作の観察・分析の基本的な考え方と方法を説明できる。 4. 上記について教科書で該当箇所を読み理解する。 5. webclass や教科書等にアクセスし自ら情報を得て行動に移すことができる。 6. 自分の意見を述べるができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学</p> <p>第 2 回：生体の構造と機能① 骨格筋の収縮・反射運動</p> <p>第 3 回：生体の構造と機能② 運動制御</p> <p>第 4 回：生体の構造と機能③ 運動生理</p> <p>第 5 回：バイオメカニクスの基礎 1, 単元テスト 姿勢の定義、姿勢に関する物理学 (重心・重心線)</p> <p>第 6 回：姿勢①、小テスト 姿勢の安定要因、姿勢の分類</p> <p>第 7 回：姿勢② 姿勢制御機構、バランス評価</p> <p>第 8 回：姿勢③ 姿勢観察、異常姿勢・姿勢分析の基礎</p> <p>第 9 回：バイオメカニクスの基礎 2, 単元テスト 歩行に関する物理学 (生体力学)</p> <p>第 10 回：歩行①、小テスト 歩行の定義、歩行観察、歩行周期</p> <p>第 11 回：歩行② 運動学的分析、運動力学的分析</p> <p>第 12 回：歩行③ 筋電図分析、生理学的分析</p> <p>第 13 回：歩行④、単元テスト 歩行観察、異常歩行・歩行分析の基礎</p> <p>第 14 回：運動学習① 学習と記憶、運動技能、学習の諸理論</p> <p>第 15 回：運動学習②、単元テスト 運動学習の諸理論、練習と訓練</p>	<p><担当教員名></p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢部広樹</p> <p>津森伸一, 根地嶋</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>津森伸一, 根地嶋</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>佐野哲也</p> <p>佐野哲也</p>
アクティブラーニング	WebClass を用いた動画および資料の提示、小テストを実施する。 授業はグループワークの形式を取り入れ、事前学習で学んだことを授業内で PC を用いてディスカッションまたはプレゼンテーションをする。 グループは初回授業時に提示します。	

授業内のICT活用	姿勢観察・分析および歩行観察・分析に画像や動画を使用する。 グループワークディスカッション・プレゼンテーションにPCなどを使用する。
評価方法	小テスト 30%, 単元テスト 55%, リアクションペーパー15%
課題に対するフィードバック	各回の出席・リアクションペーパーはWebClass を用いて提出するものとし、質問や意見については内容に応じて返信する。 各回の進行度や理解度に応じて小テストをWebClass で行い、解答後に正解・解説と採点結果を適宜フィードバックする。
指定図書	中村隆一, 斉藤宏, 長崎浩: 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 弓岡光徳ら (訳): エッセンシャル・キネシオロジー 原著第3版 (南江堂) *以下, OT 学科のみ購入 中島雅美, 中島喜代彦 (編): PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第3版 (医歯薬出版) 中島雅美 (編): PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版 (医歯薬出版)
参考図書	なし
事前・事後学修	原則 40 分程度を目安に学修する。 事前学修として、動画および資料の閲覧や教科書の該当ページを読み、キーワードをまとめる。 事後学修として、授業で学んだ内容の演習問題を解き、理解度を確認し、疑問点をまとめて復習する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3505 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (makoto-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	本科目は、基本的に 1 教室で実施する。

科目名	運動学演習 (PT)
科目責任者	田中 なつみ
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	ヒトの身体機能を評価・治療するためには、解剖学、生理学および物理学の知識を運動学と関連付けていくことが重要である。本科目では、運動学で得た知識である骨のランドマーク、筋の起始停止、筋の走行、関節の動きを演習を通して学習することを目的とする。形態計測や主要な骨や筋の触診ができることにより、関節可動域測定や徒手筋力検査、ストレッチなど理学療法法の基礎となる基本的な知識・技術を習得する。
到達目標	1. 形態計測ができる。 2. 骨のランドマークや骨格筋の触診ができる。 3. 筋の起始・停止や走行を理解し、関節運動や筋の機能について説明できる。
授業計画	<p><担当教員名> 田中なつみ、矢部広樹、高橋大生、高山真希</p> <p><授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 形態計測、上肢の骨格筋と運動（肩関節複合体の骨・骨格筋の触診と関節運動） 田中、高山</p> <p>第2-3回：上肢の骨格筋と運動（肩関節複合体の骨・骨格筋の触診と関節運動） （肘関節と前腕の骨・骨格筋の触診と関節運動） （手関節と手の骨・骨格筋の触診と関節運動） 田中、高山</p> <p>第4-5回：上肢の骨格筋と運動（肩関節複合体の骨・骨格筋の触診と関節運動） （肘関節と前腕の骨・骨格筋の触診と関節運動） （手関節と手の骨・骨格筋の触診と関節運動） 田中、高山</p> <p>第6-7回：骨格筋と運動のまとめ、形態計測：実技テスト 田中、矢部、高橋、高山</p> <p>第8-9回：下肢の骨格筋と運動（骨盤帯・股関節の骨・骨格筋の触診と関節運動） （膝関節の骨・骨格筋の触診と関節運動） （足関節の骨・骨格筋の触診と関節運動） 田中、高山</p> <p>第10-11回：下肢の骨格筋と運動（骨盤帯・股関節の骨・骨格筋の触診と関節運動） （膝関節の骨・骨格筋の触診と関節運動） （足関節の骨・骨格筋の触診と関節運動） 田中、高山</p> <p>第12-13回：体幹の骨格筋と運動（頸・胸・腰椎の骨・骨格筋の触診と関節運動） 田中、高山</p> <p>第14-15回：骨格筋と運動のまとめ、形態計測：実技テスト 田中、矢部、高橋、高山</p>

	※ユニフォームで参加してください
アクティブ ラーニング	グループワークおよび実技演習
授業内の ICT 活用	ipad 解剖学アプリの活用, 実技動画
評価方法	ワークシート・リアクションペーパー (40%)・実技テスト (60%)
課題に対す るフィード バック	レポート・リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	青木隆明 (監):「運動療法のための機能解剖学的触診技術」上肢(メジカルビュー社) 青木隆明 (監):「運動療法のための機能解剖学的触診技術」下肢・体幹(メジカルビュー社) 理学療法評価学テキスト:細田多穂著 南江堂
参考図書	小柳啓毅・他 (編):PT・OT のための運動学テキスト (金原出版) 工藤慎太郎 (編):機能解剖と触診 (羊土社)
事前・ 事後学修	各回のテーマに関する解剖学, 生理学および運動学の復習を事前学修として行う. 各回に実施した演習の練習や知識の整理と確認を事後学修として行う.
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部:リハビリテーション学部 研究室:3510 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (natsumi-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください.
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.
ハイ授業 の実施に ついて	

科目名	人間発達学																																
科目責任者	伊藤 信寿																																
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																
科目概要	人間発達学では、リハビリテーションの臨床実践に向けて、保健医療福祉の専門職者に求められる人の心身機能や身体構造、活動に関する人間発達の基本的な知識・理論を体系的に学習する。																																
到達目標	(1) 発達とは、発達要因（遺伝と環境）、発達の基本原則、臨界期、発達段階（ライフステージ）について説明できる (2) 生後 12 ヶ月頃までの反射／反応や定型運動発達について説明できる (3) 新生児期から老年期までの発達について説明できる (4) 認知・言語発達について説明できる (5) 発達課題について説明できる																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td> <td><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第 1 回：コースオリエンテーション シラバスから学修内容を理解する</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：反射と反応について（グループワーク）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：反射と反応について（プレゼンテーション）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：反射と反応についてまとめ 目標：運動の発達に必要な原始反射、立ち直り反応、平衡反応について理解する 事前学修：出生から 12 ヶ月までの原始反射、立ち直り反応、平衡反応についてまとめる</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：運動の発達について（グループワーク）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：運動の発達について（プレゼンテーション）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：運動の発達について（まとめ） 目標：出生から 12 ヶ月頃までの定型運動発達について理解する 事前学修：出生から 12 ヶ月までの運動発達についてまとめる</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：知覚・認知機能の発達について（グループワーク）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：知覚・認知機能の発達について（プレゼンテーション）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：知覚・認知機能の発達について（まとめ）・小テスト 目標：新生児から青年期までの知覚・認知の発達について理解する 事前学修：新生児から青年期までの知覚・認知の発達についてまとめる</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：老年期の発達 目標：発達の授業でなぜ老年期を学ぶのかを説明できる 事前課題：老年期に生じやすい疾患や症候を 1 つ選択し、病態と症状を理解する</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：言語機能の発達と障害 目標：言語獲得の発達基盤と阻害要因を理解する 事前課題：予めレジュメに目を通しておく</td> <td>大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：発達課題について（グループワーク）</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：発達課題について（プレゼンテーション） 目標：各年齢における発達課題を理解する 事前学修：発達に影響を及ぼす要因についてまとめる</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：まとめ・小テスト 目標：反射／反応、運動発達、認知の発達について再確認する 事前学修：第 14 回までの復習</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：コースオリエンテーション シラバスから学修内容を理解する	伊藤信寿	第 2 回：反射と反応について（グループワーク）	伊藤信寿	第 3 回：反射と反応について（プレゼンテーション）	伊藤信寿	第 4 回：反射と反応についてまとめ 目標：運動の発達に必要な原始反射、立ち直り反応、平衡反応について理解する 事前学修：出生から 12 ヶ月までの原始反射、立ち直り反応、平衡反応についてまとめる	伊藤信寿	第 5 回：運動の発達について（グループワーク）	伊藤信寿	第 6 回：運動の発達について（プレゼンテーション）	伊藤信寿	第 7 回：運動の発達について（まとめ） 目標：出生から 12 ヶ月頃までの定型運動発達について理解する 事前学修：出生から 12 ヶ月までの運動発達についてまとめる	伊藤信寿	第 8 回：知覚・認知機能の発達について（グループワーク）	伊藤信寿	第 9 回：知覚・認知機能の発達について（プレゼンテーション）	伊藤信寿	第 10 回：知覚・認知機能の発達について（まとめ）・小テスト 目標：新生児から青年期までの知覚・認知の発達について理解する 事前学修：新生児から青年期までの知覚・認知の発達についてまとめる	伊藤信寿	第 11 回：老年期の発達 目標：発達の授業でなぜ老年期を学ぶのかを説明できる 事前課題：老年期に生じやすい疾患や症候を 1 つ選択し、病態と症状を理解する	吉本好延	第 12 回：言語機能の発達と障害 目標：言語獲得の発達基盤と阻害要因を理解する 事前課題：予めレジュメに目を通しておく	大原重洋	第 13 回：発達課題について（グループワーク）	伊藤信寿	第 14 回：発達課題について（プレゼンテーション） 目標：各年齢における発達課題を理解する 事前学修：発達に影響を及ぼす要因についてまとめる	伊藤信寿	第 15 回：まとめ・小テスト 目標：反射／反応、運動発達、認知の発達について再確認する 事前学修：第 14 回までの復習	伊藤信寿
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：コースオリエンテーション シラバスから学修内容を理解する	伊藤信寿																																
第 2 回：反射と反応について（グループワーク）	伊藤信寿																																
第 3 回：反射と反応について（プレゼンテーション）	伊藤信寿																																
第 4 回：反射と反応についてまとめ 目標：運動の発達に必要な原始反射、立ち直り反応、平衡反応について理解する 事前学修：出生から 12 ヶ月までの原始反射、立ち直り反応、平衡反応についてまとめる	伊藤信寿																																
第 5 回：運動の発達について（グループワーク）	伊藤信寿																																
第 6 回：運動の発達について（プレゼンテーション）	伊藤信寿																																
第 7 回：運動の発達について（まとめ） 目標：出生から 12 ヶ月頃までの定型運動発達について理解する 事前学修：出生から 12 ヶ月までの運動発達についてまとめる	伊藤信寿																																
第 8 回：知覚・認知機能の発達について（グループワーク）	伊藤信寿																																
第 9 回：知覚・認知機能の発達について（プレゼンテーション）	伊藤信寿																																
第 10 回：知覚・認知機能の発達について（まとめ）・小テスト 目標：新生児から青年期までの知覚・認知の発達について理解する 事前学修：新生児から青年期までの知覚・認知の発達についてまとめる	伊藤信寿																																
第 11 回：老年期の発達 目標：発達の授業でなぜ老年期を学ぶのかを説明できる 事前課題：老年期に生じやすい疾患や症候を 1 つ選択し、病態と症状を理解する	吉本好延																																
第 12 回：言語機能の発達と障害 目標：言語獲得の発達基盤と阻害要因を理解する 事前課題：予めレジュメに目を通しておく	大原重洋																																
第 13 回：発達課題について（グループワーク）	伊藤信寿																																
第 14 回：発達課題について（プレゼンテーション） 目標：各年齢における発達課題を理解する 事前学修：発達に影響を及ぼす要因についてまとめる	伊藤信寿																																
第 15 回：まとめ・小テスト 目標：反射／反応、運動発達、認知の発達について再確認する 事前学修：第 14 回までの復習	伊藤信寿																																
アクティブラーニング	グループワークで課題についてまとめグループごとプレゼンテーションを行っていく。																																

授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。				
評価方法	筆記試験 (50%)、小テスト (30%)、グループワーク資料 (20%)				
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。授業前半に小テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
リハビリテーションのための人間発達3版	大城昌平編集	メディカルプレス	3600	9784907347901	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
イラストでわかる人間発達学	上杉雅之/監修	医歯薬出版	4200	9784263219454	
事前・事後学修	事前学修：グループワークのテーマについての資料等をまとめる (20分) 事後学修：授業の配布資料と単元テストを復習する (20分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
ガイダンス授業の実施について	なし				

科目名	病理学概論 I
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学とは、基礎医学と臨床医学にまたがる学問で、病気の仕組み（原因、成り立ち、経過、転帰）を学習する。医療に携わる者にとって基本かつ必須の学問である。病理学は実際の医療の現場では、病理診断・解剖という形で病気の診断・治療・予防に貢献している。この講義では、病理学総論（病因論、細胞の傷害と修復、先天異常・老化、循環障害、代謝障害、免疫・感染症・炎症、腫瘍）の知識を習得する。
到達目標	1. 各種疾患の病因と病態に関する基礎的知識を理解し説明できる。 2. 病気のメカニズムを組織・細胞の形態学的な変化として理解し説明できる。 3. 人体に備わる病態からの修復機構とともに生体防御機構について理解し説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第 1 回：病気と病理学、細胞の異常 — 病気の本態 テキスト総論第 1 章、第 2 章</p> <p>第 2 回：先天異常、老化 テキスト総論第 3 章、第 6 章</p> <p>第 3 回：循環障害 テキスト総論第 4 章</p> <p>第 4 回：代謝異常 テキスト総論第 5 章</p> <p>第 5 回：免疫 テキスト総論第 8 章</p> <p>第 6 回：感染症 テキスト総論第 7 章</p> <p>第 7 回：炎症 テキスト総論第 9 章</p> <p>第 8 回：腫瘍 テキスト総論第 10 章</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	<p>本授業は、反転授業、グループワーク、発表（レポート形式 or プレゼンテーション）を取り入れて実施する。</p> <p>反転授業は、次回の授業項目の簡単な事前課題（基本問題）を果たし、本番の授業を迎えるのが前提の授業である。</p> <p>グループワークでは、テーマに関しての学生同士によるディスカッション、簡易な実習を予定している。</p> <p>発表については、個人またはグループにより、レポート形式と指定したテーマのプレゼンテーション形式による課題を果たす。</p> <p>WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立てること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。</p>
授業内の ICT 活用	毎回の授業で配る講義資料(紙媒体)は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有設定するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。
評価方法	課題提出 10%（レポートで評価するが、ルーブリックは用いない）、定期試験 90%、計 100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
なるほどな っとく！病 理学 plus	小林 正伸	南山堂	2500	9784525151812	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
病理学 第 5版	奈良 勲	医学書院	4600	9784260049863	
シンプル病 理学 改訂 第8版	笹野 公伸 編集	南江堂	3000	9784524249343	
病態生理学 第7版	山内 豊明	メディカ出版	3600	9784840478335	
標準病理学 第7版	北川 昌伸	医学書院	11000	9784260050425	
はじめの一 歩の病理学 第2版	深山正久	羊土社	2900	9784758120845	
事前・ 事後学修	講義範囲が非常に広いので、教科書・参考図書を良く読み、予習・復習など自己学習を習慣化すること。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントに関する問題(事前課題)を渡すので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。				
対面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	病理学概論Ⅱ
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学概論Ⅰ「病理学総論」で学んだ基本的な病変が、臓器別（循環器、呼吸器、消化器、内分泌系、泌尿器系、造血器、生殖器、皮膚、感覚器、脳・神経系、運動器）にどのように発現するのかについて、各臓器の組織や細胞の形態学的変化の観点から学んでいく。主に炎症性・腫瘍性病変にスポットを当てて学習する。
到達目標	1. 各種臓器の循環障害を理解し説明できる。 2. 各種臓器の代謝異常を理解し説明できる。 3. 各種臓器の炎症性疾患を理解し説明できる。 4. 各種臓器の腫瘍性疾患を理解し説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第 1 回：呼吸器疾患、消化器疾患 テキスト各論第 11 章、第 13 章 第 2 回：内分泌疾患、腎・泌尿器疾患 テキスト第 14 章、第 15 章 第 3 回：血液疾患、生殖器疾患 テキスト各論第 17 章、第 19 章 第 4 回：感覚器疾患 テキスト各論第 10 章 第 5 回：脳・神経疾患 テキスト各論第 16 章 第 6 回：運動器疾患 テキスト各論第 18 章 第 7 回：循環器疾患 テキスト各論第 12 章 第 8 回：まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>
アクティブラーニング	<p>本授業は、反転授業、グループワーク、発表（レポート形式 or プレゼンテーション）を取り入れて実施する。</p> <p>反転授業は、次回の授業項目の簡単な事前課題（基本問題）を果たし、本番の授業を迎えるのが前提の授業である。</p> <p>グループワークでは、テーマに関しての学生同士によるディスカッション、簡易な実習を予定している。</p> <p>発表については、個人またはグループにより、レポート形式と指定したテーマのプレゼンテーション形式による課題を果たす。</p> <p>WebClass に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修に役立てること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。</p>
授業内の ICT 活用	毎回の授業で配る講義資料（紙媒体）は、GoogleDrive 上に全てのスライドや動画を閲覧共有するので、自己学修に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトを URL や QR コードで紹介する。授業には、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。
評価方法	課題提出 10%（レポートで評価するが、ループリックは用いない）、定期試験 90%、計 100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
なるほどな っとく！病 理学 plus	小林 正伸	南山堂	2500	9784525151812	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
病理学 第 5版	奈良 勲	医学書院	4600	9784260049863	
シンプル病 理学 改訂 第8版	笹野 公伸 編集	南江堂	3000	9784524249343	
病気がみえ る vol.11 運動器・整 形外科	医療情報科学研 究所 編集	メディックメデ ィア	3800	9784896326321	
病気がみえ る vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研 究所 編集	メディックメデ ィア	3900	9784896326864	
病気がみえ る vol.2 循環器 第 5版	医療情報科学研 究所 編集	メディックメデ ィア	3600	9784896328301	
病気がみえ る vol.4 呼吸器 第 3版	医療情報科学研 究所 編集	メディックメデ ィア	3500	9784896327304	
事前・ 事後学修	講義範囲が非常に広いので、教科書・参考図書を良く読み、予習・復習など自己学習を習慣化すること。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントに関する問題(事前課題)を渡すので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 WebClass に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として web 上の様々なサイトの活用を勧めます。 関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。				
IT授業 の実施に ついて	なし				

科目名	臨床心理学 (PT・OT)
科目責任者	高柳 弘行
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1) パーソナリティ理論 2) 各発達期における典型的な心理的問題 3) 心理アセスメント 4) 心理的問題への介入技法 などについて学ぶ。
到達目標	1) 乳児期から老年期までの心理的問題や精神病理についての理解を深める。 2) 臨床心理学的アセスメント、臨床心理学的介入技法についての理解を深める。 3) 面接スキルやストレスマネジメント(リラクゼーション)などを体験してみる。 4) クライエントの立場に立ち、クライエントにとって取り組みやすく、回復への動機づけを高める支援についての理解を深める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高柳 弘行 1) 臨床心理学の歴史と概要 2) パーソナリティ理論(類型論)(特性論) 3) エリクソンの生涯発達論、ピアジェの発達論、乳幼児期の心理的問題 4) アセスメント(面接法・観察法・検査法)、K式発達検査の事例 5) 児童期の心理的問題、応用行動分析 6) クライエント中心療法、フォーカシング、遊戯療法 7) 思春期の心理的問題、アンガーマネジメント、アサーション 8) 精神分析療法、交流分析 9) ストレスマネジメント(リラクゼーション) 10) 青年期の心理的問題、注意・記憶・実行機能 11) 統合失調症、SST、家族心理教育 12) 中年期の心理的問題、マインドフルネス、森田療法 13) 認知行動療法 14) 老年期の心理的問題、認知症、回想法 15) 家族療法、コミュニティ心理学
アクティブラーニング	心理検査、ロールプレイ、リラクゼーションなどの身体感覚技法、ストレス・コーピング(対処法)や認知・行動記録、などを授業にて実施。
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験 80% リアクションペーパー20%
課題に対するフィードバック	授業中において実施したリアクションペーパーやアクティブラーニングについて、授業においてフィードバックします。
指定図書	なし

参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・事後学修	授業内容の要点、アクティブラーニングなどを 20 分事後学修して下さい。
オープンエデュケーションの活用	パーソナリティ論の特性論の理解のため、可能ならばインターネット上にある「主要 5 因子性格検査システム (デモ版) (村上宣寛、村上千恵子)」を実施してみてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床医学・医療学概論				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	高校を卒業し、初めて医療に関する専門教育を受けることになる新入学 1 年生に、医療全般についての概要を学んでほしい。最新の知識や高度な技術を習得するだけでは良い医療者にはなれない。病人の気持ちを理解できる医療者になれるよう倫理的問題等についても広く学修する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられたテーマについて参考文献などを通じて調査する。 2. 取得した知識を 2-3 分の与えられた時間にまとめあげる。 3. 医療について概論的な知識を他人に分かり易く説明できるようにする。 4. 医療従事者としての心構えに関する自分の考えを述べられるようにする。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：この講義で何を学ぶか、健康と疾病 大原重洋</p> <p>第 2 回：医学と医療 片桐伯真</p> <p>第 3 回：保健・医療の体系(予防含む) 伊藤信寿</p> <p>第 4 回：病気の診断・治療(画像診断含む) 片桐伯真</p> <p>第 5 回：医療と社会(倫理、医療安全含む) 片桐伯真</p> <p>第 6 回：医療・介護の体系 矢倉千昭</p> <p>第 7 回：医療システム(救急医療・集中医療含む) 柴本 勇</p> <p>第 8 回：医療経済学と医療政策 大原重洋</p>				
アクティブラーニング	配布資料や授業ノート、課題を見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてください。 定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので、自己学修を心掛けましょう。 授業内で、グループディスカッションをします。積極的に発言しましょう。				
授業内の ICT 活用	weblclass を利用して、各自で授業の振り返りをします。				
評価方法	筆記試験 50%，課題提出物 50%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問について、重要な質問に対しては授業中に回答する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
健康支援と社会保障制度[1] 医療概論	康永 秀生	医学書院	2000	9784260042246	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

日野原重明 医学概論	日野原重明／著	医学書院	1600	9784260332606	
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスで次回の授業内容を確認し，教科書を読んでおくこと（20分）. 事後学修：授業内容を振り返り，出された課題を行うこと（20分）.				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て	なし				

科目名	内科系医療学
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セミスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な内科系疾患に関する代表的な病態と診断方法 (画像診断含む) や基準・治療方法 (臨床薬学含む) について基本となる知識を身につける。具体的には呼吸器系疾患、膠原病と類縁疾患、内分泌代謝疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝臓、胆道、膵臓の基礎と臨床、感染症などを学習する。
到達目標	リハビリテーションを行っている患者さんで問題になる頻度の高い各疾患の病態や診断方法、治療について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>矢部広樹, 岡俊明, 北川哲司, 志智大介, 長澤正通, 松島秀樹, 松井隆, 高橋大生</p> <p><矢部 広樹> 第1回. 内科系医療学とリハビリテーション</p> <p><矢部 広樹> 第2回. 代表的な代謝疾患 (特に糖尿病) について 第3回. 内分泌代謝系の基礎, 代表的な内分泌疾患 (特に甲状腺疾患) について</p> <p><松井 隆> 第4回. 呼吸器感染症 (上気道炎・気管および気管支炎・肺炎・胸膜炎・膿胸、抗酸菌感染症), 急性呼吸不全, 慢性呼吸不全について 第5回. 気管支喘息と COPD, 間質性肺炎、肺癌について</p> <p><志智 大介> 第6回. 感染症学と臨床 (感染症成立の病態生理について, 日常診療で遭遇しやすい代表的な感染症や病原菌について) 病院職員の知っておくべき感染制御について (病院で働く職員として知っておくべき病院感染とその対処) 第7回. 膠原病や関節リウマチとその類縁疾患, 自己免疫系疾患成立の病態生理, 膠原病や関節リウマチなど免疫疾患の各論 関節リウマチ患者へのケア</p> <p><岡 俊明> 第8回. 循環器系の解剖、生理, 循環器疾患の症状と検査 第9回. 血圧の異常、心不全の病態, 虚血性心疾患 (狭心症・急性心筋梗塞)</p> <p><北川 哲司> 第10回. 消化管疾患の症候とその病態生理, 消化管疾患の検査法 第11回. 口腔・食道・胃の疾患、小腸、大腸の疾患</p> <p><長澤 正通> 第12回. 肝臓疾患の総論、肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総論</p> <p><松島 秀樹> 第13回. 腎臓の構造と働き、腎疾患の症候や検査・診断・治療の進め方、頻度が高い腎疾患、慢性腎臓病 (CKD) の概念</p>

	<p>第14回. 腎機能障害（急性腎不全、慢性腎不全）、血液浄化療法（血液透析、腹膜透析）、長期透析の合併症</p> <p><高橋大生> 第15回. 人体の加齢現象、及びサルコペニア・フレイルの概念と病態について、サルコペニアの治療について</p> <p>※講師の事情により順番が前後する場合があります。</p>
アクティブ ラーニング	事前学修を促し、重要な部分は授業中に学生に質問しながら行う。
授業内の ICT活用	必要に応じて動画等を用います。
評価方法	定期試験 60%、Webclass の内容（リアクションペーパー） 40%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	なるほどなっとく！内科学 西南女学院大学 教授 浅野嘉延 編 南山堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業回に該当するテキストの章を読んで、授業に参加してください。 ・講義内容、配布資料、テキストなどを参考とし、事後学修してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点で踏まえて教授する科目です。
対面授業 の実施に ついて	感染拡大した場合は2教室間での遠隔授業を検討し、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	整形外科系医療学																																		
科目責任者	佐々木 寛二																																		
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター																																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																		
科目概要	整形外科臨床医の観点からリハビリテーションに必要な知識について学ぶ																																		
到達目標	1. リハビリテーションに必要な解剖を覚える リハビリテーションに必要な疾患と治療およびリハビリテーションとの関係について覚える																																		
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> それぞれの専門領域に対する整形外科臨床医による総論と各論</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 運動器リハビリテーション総論 1</td> <td>佐々木 寛二</td> </tr> <tr> <td>2. 運動器リハビリテーション総論 2</td> <td>佐々木 寛二</td> </tr> <tr> <td>3. 骨折と救急治療</td> <td>三宅 央哲</td> </tr> <tr> <td>4. 高齢者の骨折 股関節疾患 骨粗鬆症</td> <td>遠藤 浩一</td> </tr> <tr> <td>5. 肩の疾患</td> <td>阿部 真行</td> </tr> <tr> <td>6. 手肘の疾患</td> <td>吉水 隆貴</td> </tr> <tr> <td>7. 足の疾患</td> <td>滝 正徳</td> </tr> <tr> <td>8. 膝の疾患 1</td> <td>塩崎 太郎</td> </tr> <tr> <td>9. 膝の疾患 2</td> <td>塩崎 太郎</td> </tr> <tr> <td>10. 脊椎の疾患 1 (頷椎)</td> <td>野坂 潮</td> </tr> <tr> <td>11. 脊椎の疾患 2 (胸椎腰椎)</td> <td>野坂 潮</td> </tr> <tr> <td>12. 脊椎の疾患 3 (脊髄損傷)</td> <td>石井 啓介</td> </tr> <tr> <td>13. リウマチ、悪性腫瘍</td> <td>石井 啓介</td> </tr> <tr> <td>14. スポーツ障害、アスレチックリハビリテーション</td> <td>船越 雄誠</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td>泉 良太</td> </tr> </table> <p>授業は1. 2. ののち、3-15 は順序は不同である。</p>					1. 運動器リハビリテーション総論 1	佐々木 寛二	2. 運動器リハビリテーション総論 2	佐々木 寛二	3. 骨折と救急治療	三宅 央哲	4. 高齢者の骨折 股関節疾患 骨粗鬆症	遠藤 浩一	5. 肩の疾患	阿部 真行	6. 手肘の疾患	吉水 隆貴	7. 足の疾患	滝 正徳	8. 膝の疾患 1	塩崎 太郎	9. 膝の疾患 2	塩崎 太郎	10. 脊椎の疾患 1 (頷椎)	野坂 潮	11. 脊椎の疾患 2 (胸椎腰椎)	野坂 潮	12. 脊椎の疾患 3 (脊髄損傷)	石井 啓介	13. リウマチ、悪性腫瘍	石井 啓介	14. スポーツ障害、アスレチックリハビリテーション	船越 雄誠	15. まとめ	泉 良太
1. 運動器リハビリテーション総論 1	佐々木 寛二																																		
2. 運動器リハビリテーション総論 2	佐々木 寛二																																		
3. 骨折と救急治療	三宅 央哲																																		
4. 高齢者の骨折 股関節疾患 骨粗鬆症	遠藤 浩一																																		
5. 肩の疾患	阿部 真行																																		
6. 手肘の疾患	吉水 隆貴																																		
7. 足の疾患	滝 正徳																																		
8. 膝の疾患 1	塩崎 太郎																																		
9. 膝の疾患 2	塩崎 太郎																																		
10. 脊椎の疾患 1 (頷椎)	野坂 潮																																		
11. 脊椎の疾患 2 (胸椎腰椎)	野坂 潮																																		
12. 脊椎の疾患 3 (脊髄損傷)	石井 啓介																																		
13. リウマチ、悪性腫瘍	石井 啓介																																		
14. スポーツ障害、アスレチックリハビリテーション	船越 雄誠																																		
15. まとめ	泉 良太																																		
アクティブラーニング	講義のみ																																		
授業内の ICT 活用	一部、スライドやプリントの配布を用意																																		
評価方法	定期試験 70% リアクションペーパーの内容 30%																																		
課題に対するフィードバック	試験の解答を配布する																																		
指定図書	下記参照																																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																														

標準整形外科学 第15版	井樋 栄二	医学書院	9500	9784260049368	
参考図書	なし				
事前・事後学修	事前学習は必要としないが、事後の知識整理は必要である。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
IT授業の実施について	なし				

科目名	神経内科系医療学																																				
科目責任者	内山 剛																																				
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター																																				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																				
科目概要	リハビリテーションの実践に必要な身体障害に関する基本的な医学的理解を深めるために、身体障害の原因となる神経系の疾患について病態生理、診断や治療の知識を身に付ける。																																				
到達目標	1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる 2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する 3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する 4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</td> <td style="text-align: center;">＜担当教員名＞</td> </tr> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>2. 頭痛</td> <td>本間</td> </tr> <tr> <td>3. めまい</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>4. 脳血管障害① しびれ</td> <td>本間</td> </tr> <tr> <td>5. 脳血管障害②</td> <td>本間</td> </tr> <tr> <td>6. 末梢神経障害、電気生理</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>7. 運動神経疾患</td> <td>近土</td> </tr> <tr> <td>8. 感染症</td> <td>近土</td> </tr> <tr> <td>9. パーキンソン症候群</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>10. 脊髄小脳変性症、自律神経障害</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>11. 脱髄疾患</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>12. 認知症</td> <td>近土</td> </tr> <tr> <td>13. てんかん</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>14. 筋疾患、内科との関連疾患</td> <td>近土</td> </tr> <tr> <td>15. 画像</td> <td>佐藤</td> </tr> </table>					＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	1. ガイダンス	内山	2. 頭痛	本間	3. めまい	佐藤	4. 脳血管障害① しびれ	本間	5. 脳血管障害②	本間	6. 末梢神経障害、電気生理	佐藤	7. 運動神経疾患	近土	8. 感染症	近土	9. パーキンソン症候群	内山	10. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山	11. 脱髄疾患	佐藤	12. 認知症	近土	13. てんかん	佐藤	14. 筋疾患、内科との関連疾患	近土	15. 画像	佐藤
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																				
1. ガイダンス	内山																																				
2. 頭痛	本間																																				
3. めまい	佐藤																																				
4. 脳血管障害① しびれ	本間																																				
5. 脳血管障害②	本間																																				
6. 末梢神経障害、電気生理	佐藤																																				
7. 運動神経疾患	近土																																				
8. 感染症	近土																																				
9. パーキンソン症候群	内山																																				
10. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山																																				
11. 脱髄疾患	佐藤																																				
12. 認知症	近土																																				
13. てんかん	佐藤																																				
14. 筋疾患、内科との関連疾患	近土																																				
15. 画像	佐藤																																				
アクティブラーニング	なし																																				
授業内の ICT 活用	なし																																				
評価方法	每講義ごとの小論文記述 60 点 定期試験 40 点																																				
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。																																				
指定図書	なし																																				
参考図書	下記参照																																				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																

<p>【第5版】 標準理学療 法学・作業 療法学 専 門基礎分野 神経内科学 PT OT</p>	<p>奈良勲／シリー ズ監修 鎌倉矩 子／シリーズ監 修 川平和美／ 編集 川平和美 ／〔ほか〕執筆</p>	<p>医学書院</p>	<p>5600</p>	<p>9784260038171</p>	
<p>事前・ 事後学修</p>	<p>学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと</p>				
<p>オープンエ デュケーシ ョンの活用</p>	<p>なし</p>				
<p>オフィス アワー</p>	<p>授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます</p>				
<p>実務経験に 関する記述</p>	<p>本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				
<p>対面授業 の実施に ついて</p>	<p>なし</p>				

科目名	精神医学系医療学 I				
科目責任者	新宮 尚人				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	精神機能障害の基礎的な知識を学び、リハビリテーションとの関係について理解を深める。特にリハビリテーション場面において遭遇する可能性の高い精神疾患のメカニズムや治療方法に重点を置く。				
到達目標	1. 精神機能障害とリハビリテーションとの関係について説明できる 2. 代表的な精神疾患の特性と治療について説明できる 3. 精神障害に対するリハビリテーションの目的と役割について説明できる				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：老年精神医学 三浦一也</p> <p>第2回：精神障害の治療Ⅰ・薬物療法などの身体的治療 三浦一也</p> <p>第3回：精神障害の治療Ⅱ・精神療法とリハビリテーション 三浦一也</p> <p>第4回：オリエンテーション、リハビリテーションと精神医学 新宮尚人</p> <p>第5回：導入・精神医学とは 山岡功一</p> <p>第6回：統合失調症 藤田さより</p> <p>第7回：通院・訪問医療など ゲストスピーカー 鴨藤祐輔</p> <p>第8回：グループワーク、発表、授業のまとめ 新宮尚人</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性はある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>				
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、授業中に問いかけを行います。				
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。				
評価方法	知識習得テスト 60%、レポート 40% レポート評価に、ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	レポートもしくは発表に対してコメントをします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第4版増補版】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学 PT OT	奈良勲／シリーズ監修 鎌倉矩子／シリーズ監修 上野武治／編集 上野武治／〔ほか〕執筆	医学書院	4400	9784260044769	

参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「医師、作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う可能性がある。その場合、1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。

科目名	精神医学系医療学Ⅱ				
科目責任者	飯田 妙子				
単位数他	1 単位(15 時間) 作業必修 4 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	精神機能障害の概念と症状の特徴、経過、治療法を学び、またそれらの障害に対する地域生活支援（通院、訪問、デイケア、就労等）の基本的な考え方や最新の支援法について知識を深める。精神障害の地域生活支援に関連する法制度について学ぶ。				
到達目標	①各精神障害の概念、症状、経過およびその治療法についてのポイントを述べることができる。 ②精神障害者に対する地域生活支援について、概要や最新の支援法のポイントを述べるができる。 ③精神障害者の地域生活支援に関連する法制度について概要を述べるができる。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、地域での支援について 飯田 妙子</p> <p>第2回：物質関連症および嗜癖症群 新宮 尚人</p> <p>第3回：パーソナリティ症群 新宮 尚人</p> <p>第4回：抑うつ症群、双極症および関連症群 藤田さより</p> <p>第5回：神経症（不安症群、強迫症など） 藤田さより</p> <p>第6回：神経発達症、ライフサイクルにおける精神障害 飯田 妙子</p> <p>第7回：食行動症および摂食症群 飯田 妙子</p> <p>第8回：最新の精神医療について 藤田さより</p> <p>※テーマや内容は、進度により変更の可能性がある。 詳細はオリエンテーションで説明する。</p>				
アクティブラーニング	内容を深めるために、適宜グループ学修、ディスカッションを行います。				
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題の提出およびフィードバックを実施します。また、グループ学修時の情報収集において、PC を使用します。				
評価方法	知識修得テスト 70% 定期試験（筆記試験） 30%				
課題に対するフィードバック	知識修得テストは、WebClass にて実施します。知識修得テストのフィードバックについては、授業時に解説します。希望者には時間を調整して、フィードバックを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第4版増補版】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学	奈良勲／シリーズ監修 鎌倉矩子／シリーズ監修 上野武治／編集 上野武治／〔ほか〕執筆	医学書院	4400	9784260044769	

PT OT					
参考図書	授業時に適宜、紹介します。				
事前・事後学修	事前：各テーマに該当する教科書の箇所やWebClassに掲載される資料に目を通しておくこと 事後：授業後にWebClass内の知識修得テストに回答すること（第1回～7回；計7回×20分） 初回授業時に配布する精神医学に関する過去問題集にて予習・復習をしておくこと				
オープンエデュケーションの活用	・自主学修として、以下のURLを紹介します。 こころの情報サイト https://kokoro.ncnp.go.jp/ 精神障害当事者の地域生活にかかわる研究成果紹介サイト「こころとくらし」 https://cocokura.ncnp.go.jp/				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（ taeko-i@seirei.ac.jp ）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	小児科系医療学 I				
科目責任者	白井 憲司				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。 小児の特徴である発育・発達の概念、予防医学や common disease について学ぶ。				
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 一般的な小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>		
	第1回 小児科総論		白井		
	第2回 先天異常と遺伝病		松下		
	第3回 新生児・未熟児医療		白井		
	第4回 小児神経疾患①「脳性麻痺、てんかんなど」		吉村		
	第5回 小児神経疾患②「神経筋疾患など」		吉村		
	第6回 重症心身障害児医療について		今市		
	第7回 小児の集中治療など		南野		
	第8回 発達障害		白井		
アクティブラーニング	なし				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	定期試験 80%、授業態度(リアクションペーパー等も利用し評価) 20%				
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。				
指定図書	下記参照およびプリント配布				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第5版】 標準理学療 法学・作業 療法学 専 門基礎分野 小児科学 PT OT	奈良勲/シリー ズ監修 鎌倉矩 子/シリーズ監 修 富田豊/編 集 富田豊/[ほ か] 執筆	医学書院	4200	9784260034340	
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

事前・ 事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常に意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	小児科系医療学Ⅱ				
科目責任者	白井 憲司				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。 小児の特徴である発育・発達の概念、予防医学や common disease について学ぶ。				
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 一般的な小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 小児期の感染症と予防接種 第2回 発達栄養学 第3回 小児の循環器疾患 第4回 小児の呼吸器疾患 第5回 小児の内分泌疾患 第6回 小児の消化器・泌尿器疾患 第7回 小児のアレルギー・免疫疾患 第8回 まとめ		<担当教員名> 白井 松下 村上 南野 板野 白井 荻田 白井		
アクティブラーニング	なし				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	定期試験 80%、授業態度(リアクションペーパー等も利用し評価) 20%				
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。				
指定図書	下記参照およびプリント配布				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第5版】 標準理学療 法学・作業 療法学 専 門基礎分野 小児科学 PT OT	奈良勲/シリー ズ監修 鎌倉矩 子/シリーズ監 修 富田豊/編 集 富田豊/[ほ か] 執筆	医学書院	4200	9784260034340	
参考図書	なし				

事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常に意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	リハビリテーション栄養学				
科目責任者	柴本 勇				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	リハビリテーションの効果を最大限発揮するためには、栄養状態が良好なことが望まれる。近年では、サルコペニア・フレイルなどリハビリテーションに影響する病態が注目されている。今後、保健・医療・福祉分野で活躍するリハビリテーション職者に必要な栄養学的知識を得る。栄養アセスメント方法や Nutrition Support Team (NST) など栄養管理方法も学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養評価・栄養ケアマネジメントの概要を説明できる 2. 栄養アセスメントができる 3. リハビリテーション職種として栄養介入が模擬的にできる 4. NST の概要を説明できる 				
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>		
	第 1 回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは		柴本 勇		
	第 2 回：栄養補給とエネルギー代謝・必要栄養素と栄養量		柴本 勇		
	第 3 回：リハビリテーションと栄養療法・栄養サポートチーム		柴本 勇		
	第 4 回：栄養アセスメントとその実際 (実技)		柴本 勇		
	第 5 回：病態別栄養療法		ゲストスピーカー		
	第 6 回：病態別栄養療法の実際①		ゲストスピーカー		
	第 7 回：疾患別栄養療法の実際②		ゲストスピーカー		
	第 8 回：疾患別栄養療法の実際 ③		ゲストスピーカー		
アクティブラーニング	Webclass を用いて行います				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験：80%、小テスト 20%				
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。毎回講義終了時に、毎回ディスカッションを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎第 3 版	栢下 淳	医歯薬出版	3800	9784263266670	
参考図書	なし				

事前・事後学修	事前・事後学修はWebclass を用いて行います。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回講義時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士, 言語聴覚士, 管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
IT授業の実施について	なし

科目名	公衆衛生学				
科目責任者	西川 浩昭				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	公衆衛生学は健康を保持、増進、予防するための実践的科学的学問である。社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための公衆衛生学の現状を理解する。具体的には、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。 				
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 西川浩昭</p> <p>第1回 公衆衛生の概念・健康の定義</p> <p>第2回 疾病予防（健康増進、予防医学、対象別アプローチ）</p> <p>第3回 人口統計①（人口動態統計、国勢調査、人口3区分、平均余命、人口ピラミッド）</p> <p>第4回 人口統計②（人口動態統計、死亡統計）</p> <p>第5回 保健統計（健康指標、疾病統計）</p> <p>第6回 生活習慣病の予防①（総論、健康増進、健康づくり）</p> <p>第7回 生活習慣病の予防②（食生活、栄養、運動、その他）</p> <p>第8回 感染症とその対策（感染症予防法、予防接種、その他）</p>				
アクティブラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。				
授業内のICT活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など				
評価方法	原則として、定期試験(筆記) 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。) 再試験は実施しません				
課題に対するフィードバック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。				
指定図書	シンプル衛生公衆衛生学 2024 小山洋・辻一郎 監修 南江堂 2024.2 刊行予定 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会 2024.9 刊行予定				
参考図書	公衆衛生がみえる 2024-2025 医療情報科学研究所 編集 メディックメディア 2024.2 刊行予定				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学	丸井 英二	弘文堂	2000	9784335760242	

事前・事後学修	<p>前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望めます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>西川浩昭 (1620 研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp</p> <p>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p>
実務経験に関する記述	なし
ハイブリッド授業の実施について	なし

科目名	摂食嚥下障害学概論																														
科目責任者	佐藤 豊展																														
単位数他	2単位(30時間) 理学選択・作業選択 3セメスター 言語必修 5セメスター																														
DP 番号と科目領域	理学・作業：DP2 専門基礎 言語：DP2 専門																														
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																														
科目概要	食べ物を認知し、口に取り込んでから胃へと運ばれるまでの摂食・嚥下のメカニズムを理解する。神経疾患、器質的原因、発達障害、加齢変化で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、ライフステージでの摂食嚥下の変化や対処法について学ぶ。STが行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。嚥下障害の訓練に関わる栄養管理、経管栄養法、吸引の理論を学ぶ。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下のメカニズムを説明できる（嚥下のモデル、神経制御、気道防御、発達）。 2. 摂食嚥下障害の原因疾患と病態、症状を説明できる。 3. 摂食嚥下障害の合併症を説明できる。 4. 摂食嚥下障害の評価について基本的技法を説明できる（情報収集や理学的所見、簡易検査、精密検査）。 5. 嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査について評価用紙への記録方法を理解することができる。 6. 摂食嚥下障害の評価から、問題点の抽出や訓練プログラムの立案方法を理解できる。 7. 症例報告書の書き方が理解できる。 8. 栄養管理 																														
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、佐久間佐織、ゲストスピーカー（金谷節子） <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 摂食嚥下障害の歴史、解剖</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 生理学的基盤</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 神経制御・嚥下関連筋群</td> <td>★レポート 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 摂食嚥下障害の病態と症状・合併症</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態①神経疾患・筋疾患・器質的疾患</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態②自己免疫疾患・医原性・栄養障害</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査★小テスト（第1-7回）</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： // ②スクリーニング 演習</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： // ③摂食場面の評価 演習</td> <td>★レポート 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： // ④嚥下内視鏡検査</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回： // ⑤嚥下造影検査</td> <td>★レポート 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回： 経管栄養法、吸引</td> <td>佐久間 佐織・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第14回： 摂食嚥下障害と栄養管理</td> <td>金谷 節子</td> </tr> <tr> <td>第15回： 問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> </table>	第1回： 摂食嚥下障害の歴史、解剖	佐藤 豊展	第2回： 生理学的基盤	佐藤 豊展	第3回： 神経制御・嚥下関連筋群	★レポート 佐藤 豊展	第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化	佐藤 豊展	第5回： 摂食嚥下障害の病態と症状・合併症	佐藤 豊展	第6回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態①神経疾患・筋疾患・器質的疾患	佐藤 豊展	第7回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態②自己免疫疾患・医原性・栄養障害	佐藤 豊展	第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査★小テスト（第1-7回）	佐藤 豊展	第9回： // ②スクリーニング 演習	佐藤 豊展	第10回： // ③摂食場面の評価 演習	★レポート 佐藤 豊展	第11回： // ④嚥下内視鏡検査	佐藤 豊展	第12回： // ⑤嚥下造影検査	★レポート 佐藤 豊展	第13回： 経管栄養法、吸引	佐久間 佐織・佐藤豊展	第14回： 摂食嚥下障害と栄養管理	金谷 節子	第15回： 問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方	佐藤 豊展
第1回： 摂食嚥下障害の歴史、解剖	佐藤 豊展																														
第2回： 生理学的基盤	佐藤 豊展																														
第3回： 神経制御・嚥下関連筋群	★レポート 佐藤 豊展																														
第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化	佐藤 豊展																														
第5回： 摂食嚥下障害の病態と症状・合併症	佐藤 豊展																														
第6回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態①神経疾患・筋疾患・器質的疾患	佐藤 豊展																														
第7回： 摂食嚥下障害の原因疾患と病態②自己免疫疾患・医原性・栄養障害	佐藤 豊展																														
第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査★小テスト（第1-7回）	佐藤 豊展																														
第9回： // ②スクリーニング 演習	佐藤 豊展																														
第10回： // ③摂食場面の評価 演習	★レポート 佐藤 豊展																														
第11回： // ④嚥下内視鏡検査	佐藤 豊展																														
第12回： // ⑤嚥下造影検査	★レポート 佐藤 豊展																														
第13回： 経管栄養法、吸引	佐久間 佐織・佐藤豊展																														
第14回： 摂食嚥下障害と栄養管理	金谷 節子																														
第15回： 問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方	佐藤 豊展																														
アクティブラーニング	グループ学修形式を取り入れて行います。																														
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。																														
評価方法	小テスト 20%、レポート 20%、定期試験 60% レポートは、ルーブリックを用いない。																														

課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学第2版 (医学書院) 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 (医歯薬出版)
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 (医歯薬出版) 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 (医歯薬出版) 若林秀隆・藤本篤士編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害 (医歯薬出版) 倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 (医歯薬出版)
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclassで提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411研究室、月曜9:00～12:00 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、看護師、管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	梅村 和夫
単位数他	2 単位(30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4 セミナー
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本講義の目的は、医療現場の治療に用いられている薬物を知り、その作用メカニズムや副作用を理解することにある。そのために、薬物の生体内での動態や作用点での反応を理解することが必要である。また、どのような疾患でどのような薬物が使用されているか、使用時の注意点を理解し、医療現場での薬物治療を理解する。
到達目標	1. 薬物の生体内での動態を説明できる 2. 薬物の作用点での反応を説明できる 3. 疾患別の薬物の作用メカニズム、副作用を説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：薬理学・臨床薬理学とは リハビリテーションになぜ薬理学・臨床薬理学が必要か 薬のリスクと薬害、薬の法律・規則 (梅村和夫)</p> <p>第 2 回：薬が作用点に到達するまで (梅村和夫)</p> <p>第 3 回：薬の作用点での働き (梅村和夫)</p> <p>第 4 回：心臓と血管、循環器に作用する薬（高血圧治療薬、不整脈治療薬） (梅村和夫)</p> <p>第 5 回：循環器に作用する薬（虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）治療薬、心不全治療薬） (梅村和夫)</p> <p>第 6 回：神経の働き、神経系に作用する薬（自律神経系に作用する薬、筋弛緩薬・抗痙縮薬） (外村和也)</p> <p>第 7 回：感染症とは、感染症治療薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬など） (外村和也)</p> <p>第 8 回：悪性腫瘍とは、抗がん薬（増殖細胞を標的とする抗がん薬、分子標的薬、がんによる痛みの治療薬） (外村和也)</p> <p>第 9 回：抗アレルギー薬、関節リウマチの薬、呼吸器の薬 (外村和也)</p> <p>第 10 回：消化器のはたらき、消化器に作用する薬（消化性潰瘍・胃炎治療薬、制吐薬、便秘と下痢の治療薬、炎症性腸疾患治療薬） (外村和也)</p> <p>第 11 回：痛みと炎症とは、痛みと炎症に作用する薬（解熱鎮痛薬、ステロイド、麻薬性鎮痛薬（オピオイド）、神経障害性疼痛緩和薬） (外村和也)</p> <p>第 12 回：代謝性疾患の治療薬（糖尿病治療薬、痛風の治療薬） (外村和也)</p> <p>第 13 回：血液系の疾患に対する治療薬、脂質異常症に対する治療薬 (外村和也)</p> <p>第 14 回：精神に対する治療薬（統合失調症治療薬、抗うつ薬、抗不安薬・睡眠薬） (外村和也)</p> <p>第 15 回：脳に対する治療薬（抗てんかん薬、認知症治療薬）、脳循環代謝に作用する治療薬 (外村和也)</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に質問を交え、理解度を確認して授業を進めていく。 ・授業中に小テストを行いながら、知識の定着を行う。 				
授業内の ICT活用	授業後 Kahoot というアプリケーションを用い授業に関する小テストを行い、形成的に評価を行う。 スマホ・タブレットより小テストの回答をするため、インターネット機能を備えたスマホ・タブレットを忘れないこと。				
評価方法	小テスト（20%）と筆記試験（80%）の総合点で評価する				
課題に対する フィード バック	小テストの解説と評価のフィードバック、筆記試験の解答例の提示				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
シンプル薬 理学 改訂 第6版	野村 隆英 編集	南江堂	2900	9784524246588	
参考図書	なし				
事前・ 事後学修	授業前には、指定図書の内容を読み、理解しているところと出来ない所を把握する（30分） 授業には、授業の内容で理解できていないものを整理し、指定図書で復習する（30分）				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業終了後の時間に質問を受ける e-mail: umemura@hama-med.ac.jp で質問等を受け付ける。それに対する回答を返答する。				
実務経験に 関する記述	本科目は医師が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
ハイ授業 の実施に ついて	なし				

科目名	ケアマネジメント
科目責任者	落合 克能
単位数他	2 単位(30 時間) 作業選択・言語選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	私たちは、様々な社会資源に支えられて(社会資源を活用して)生活を送っているが、病気や障害、社会的不利により、生活上の困難が生じたり、それまで自ら活用してきた様々な社会資源の活用が困難な状況になってしまう場合もある。そのような場合に、それまで自らが活用してきた様々な社会資源に加え、新たに必要となる(活用すべき)社会資源をも含めて、複雑なサービス(サポート)のコーディネーション(マネジメント)を計画的かつ継続的に行うことにより、我々の生活を支えてくれる方法・過程がケアマネジメントである。
到達目標	① ケアマネジメントの基本的理解ができる。ソーシャルワークとの関係性についても学ぶ。 ② 介護保険制度の概要と、介護支援専門員(ケアマネージャー)の役割が分かる。 ③ 対人援助の基本原則が理解できる。ケアマネジメントと福祉・医療・介護等の関係性に興味を持つ事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 落合 克能</p> <p>第 1 回: オリエンテーション・ケアマネジメント・社会保障制度の概略</p> <p>第 2 回: 社会保障制度の概要① (財源、費用、年金保険制度)</p> <p>第 3 回: 社会保障制度の概要② (医療保険制度)</p> <p>第 4 回: 介護保険制度概要</p> <p>第 5 回: 高齢者のケアマネジメントと介護保険制度</p> <p>第 6 回: ケアマネジメントの機能と基本的理解</p> <p>第 7 回: インテークの実際</p> <p>第 8 回: アセスメントの実際① 情報収集の実際</p> <p>第 9 回: アセスメントの実際② アセスメントの視点と方法</p> <p>第 10 回: アセスメントの実際③ ニーズの把握とプランニングに向けた目標設定</p> <p>第 11 回: プランニングの実際① 計画書作成の方法</p> <p>第 12 回: プランニングの実際② サービス計画案の説明と同意</p> <p>第 13 回: モニタリング、エバリュエーション、再アセスメント、プラン修正の実際</p> <p>第 14 回: ケアマネジメントにおける多職種連携</p> <p>第 15 回: まとめ</p>
アクティブラーニング	グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を実施します。
授業内の ICT 活用	授業で使用する資料の提供や課題提出などは、WEBCLASS を活用します。 また、グループワークにおいては、Google ドライブや OneDrive、履修者各自のパソコンを使用して頂きます。また、グループワークの成果を発表する際には、プロジェクターを使用します。
評価方法	授業への取組姿勢 30%、中間レポート 20%、期末試験 50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事前事後学習課題等については授業時にフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし

参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
社会福祉士 国家試験の ためのレビ ューブック 2023	医療情報科学研 究所/編集	メディックメデ ィア	4800	9784896328714	
ケアマネジ メント論	白澤 政和	ミネルヴァ書房	2800	9784623084180	
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】病気後遺症や障がいにより生活上の困難が発生した場合に、どのような対応や課題ができるかについて、また、どのような制度やサービスが利用できるかについて、毎回の講義前に自己学修を20分程度行う。</p> <p>【事後学習】毎回の講義後、講義内容を整理し、自分の言葉で表現できるよう20分程度の事後学修を行う。WEBCLASSに入力。</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。(katsutaka-o@seirei.ac.jp)				
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉士としてのソーシャルワーク実践、実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	カウンセリング
科目責任者	高柳 弘行
単位数他	1 単位(30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	認知行動療法 (CBT) のツールを介して、自分の思考・感情・行動を振り返り、自己コントロールを図ります。また、自己開示できる記録を介し受講者同士で面接スキルの練習をします。
到達目標	認知行動療法 (CBT) の手法を学び、自分の実生活に当てはめ、自分に合うツールを活用できるようにします。また、面接スキルの基本を身につけます。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高柳弘行</p> <p>第 1 回：認知行動療法の概要 自分を大切にする (自分の強みを認めて、自分自身を大切にする)</p> <p>第 2 回：自分に優しくする (ありのままの自分自身を受け入れる)</p> <p>第 3 回：マインドフルになる (好奇心を持ち、判断を加えないで観察する)</p> <p>第 4 回：変わる準備を整える (どう変わりたいのかを考える) 思考・感情・行動 (認知行動療法モデルを理解する)</p> <p>第 5 回：考え方 (役に立つ思考と役に立たない思考を見きわめる) 思考の罠 (よくある認知バイアスを理解する)</p> <p>第 6 回：考え方を考える (これまでよりバランスが取れている有用な考え方を検証して、身につける) 中核的思い込み (強固な考え方を見つける)</p> <p>第 7 回：どのような気持ちになるかを理解する (様々な感情を認識する) 感情をコントロールする (感情を管理する方法を学ぶ)</p> <p>第 8 回：問題を解決する (問題に取り組む方法、それを克服する方法を学ぶ)</p> <p>第 9 回：よく調べる (実験を行なって自分の思考を検証する)</p> <p>第 10 回：恐怖に立ち向かう (難題を小さなステップに分ける)</p> <p>第 11 回：忙しく暮らす (活動を増やして気分を改善する)</p> <p>第 12 回：良い状態を保つ (自分に最も役立った考えを覚えておく)</p> <p>第 13 回：ストレスマネジメント、セルフモニタリング、CBT の基本原則</p> <p>第 14 回：CBT の事例 (抑うつ障害)</p> <p>第 15 回：CBT の事例 (パニック障害)</p>
アクティブラーニング	認知行動療法 (CBT) のツールを自分に当てはめ、紙に書き出し、外側に出すことにより、自己の思考・感情・行動が認識できるようにします。リラクセーション、ペアでの面接スキルの練習なども実施します。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	リアクションペーパー50%、定期試験レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業中に受講者および講義担当者として話し合います。

指定図書	なし				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
若者のための認知行動療法ワークブック	ポール・スタラード 著	金剛出版	2800	9784772417600	
認知療法・認知行動療法カウンセリング初級ワークショップ CBTカウンセリング	伊藤絵美／著	星和書店	2400	9784791105892	
事前・事後学修	自宅で記入・記録するリアクションペーパー（練習課題）があれば、それを実行して下さい。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	講義担当者は「公認心理師」「臨床心理士」として心理アセスメントや心理面談などの臨床心理業務を実践している者です。				
オンライン授業の実施について	なし				

科目名	音楽療法
科目責任者	山田 美代子
単位数他	1 単位(30 時間) 作業選択・言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	様々な領域における音楽療法の理論や技法を学ぶ。ビデオなど視聴覚教材を通じて、また実践現場を見学し、体験的に理解を深める。関心領域での音楽セッションを計画し、発表をする。模擬的であってもその過程（計画～発表）で学んだことをディスカッションし、音楽療法を総括する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法の基本的な理論や技法を知る。 2. 対象者のニーズに合わせた具体的な音楽療法またその技術の実際を体験的に習得する。 3. 歌うという音楽活動を科学的な側面から理解する。 4. 医療福祉音楽療法からコミュニティ音楽療法までその実際を体験的に理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 山田美代子</p> <p>第 1 回：音楽療法とは 歴史・定義</p> <p>第 2 回：音楽療法の実践 セッションの実際</p> <p>第 3 回：コミュニティ音楽療法</p> <p>第 4 回：リハビリテーション領域における音楽療法</p> <p>第 5 回：精神科領域の音楽療法</p> <p>第 6 回：高齢者の音楽療法</p> <p>第 7 回：実践現場「The 合唱団」を体験①</p> <p>第 8 回：実践現場「The 合唱団」を体験②</p> <p>第 9 回：発達障害児の音楽療法</p> <p>第 10 回：生活の中での音・音楽療法</p> <p>第 11 回：音楽認知における脳機能画像（光トポグラフィ装置）に関する研究</p> <p>第 12 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング①</p> <p>第 13 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング②</p> <p>第 14 回：発表①と振り返り</p> <p>第 15 回：発表②と振り返り まとめ</p>
アクティブラーニング	<p>第 7・8 回は、学外実習。</p> <p>第 12・13 回は、関心領域におけるセッションの計画から実践までをプランニングし、第 14・15 回は、発表をする。</p>
授業内の ICT 活用	特になし
評価方法	授業態度 30%、課題提出物 10%、レポート 10%、定期試験（模擬セッション発表など） 50%
課題に対するフィードバック	第 7・8 回終了後、レポートを作成し提出する。通常授業リアクションペーパーへの回答は次の授業の最初に回答する。内容によっては個別にコメントし返却する。
指定図書	特になし

参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	対象領域や対象者によって用いる音楽は様々である為、事前学習として関連する領域の音楽を調べ、終了後には実践できるように歌ったり聞いたりして自身の音楽の幅を広げる努力をする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	質問のある場合には、授業開始前や終了後に申し出てほしい。その他は、教務事務センターを介して受け付けをする。
実務経験に関する記述	本科目講師は、音楽療法士（日本音楽療法学会認定）として「音楽療法」の実務経験を有し、実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションには、社会構造の変化や価値観の変遷と共にその時代に応じた考え方がある。この科目では、リハビリテーションの理念と歴史、保健医療福祉の専門職者に求められる基本的な知識や考え方について学修する。特に自身の専門領域に留まらず、関係領域の専門性についても知ることで、自身の職種の特性と役割を深く理解する。
到達目標	1. リハビリテーションの理念と歴史について説明できる 2. リハビリテーション・モデルとその適用例について説明できる。 3. 自身の専門領域の核となる特性と役割を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：リハビリテーションとチーム医療（作業療法の役割と連携について） 伊藤信寿</p> <p>第2回：リハビリテーションとチーム医療（言語聴覚療法の役割と連携について） 谷 哲夫</p> <p>第3回：オリエンテーション、リハビリテーションとは（理念と歴史） 新宮尚人</p> <p>第4回：リハビリテーションモデルと障害の理解 新宮尚人</p> <p>第5回：リハビリテーションとチーム医療（理学療法の役割と連携について） 有菌信一</p> <p>第6回：リハビリテーションとチーム医療（看護師の役割と連携について） 木村暢男</p> <p>第7回：リハビリテーションとチーム医療（(社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割と連携について) 大場 義貴</p> <p>第8回：発表・授業のまとめ 新宮尚人</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、授業中に問いかけを行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために、可能な範囲で演習を取り入れます。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	授業中に獲得した知識を活用した、以下のテーマのレポートを提出する（100%） テーマ：チーム医療における（PT・OT・ST ※いずれかを記入）の役割 レポート評価に、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	希望者には、レポート内容のフィードバックを行います。
指定図書	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。

事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安としますが、事前学習では授業テーマの内容や各職種の概要について下調べをしておいてください。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、今後の学修に活用することで定着をはかるように努力してください。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「看護師」「臨床心理士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	実施しない

科目名	リハビリテーション医療・医学 I				
科目責任者	片桐 伯真				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セミスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活期と広いステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。 臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハ専従医が講義に当たることで、臨床実習・国試に向けた知識整理の場となろう。				
到達目標	1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>		
	回	内容	担当者名		
	第1回	リハビリテーション総論・概論	藤島一郎		
	第2回	脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真		
	第3回	脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	昆博之		
	第4回	脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達		
	第5回	神経疾患のリハビリテーション	高橋博達		
	第6回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	重松孝		
	第7回	脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	片桐伯真		
	第8回	地域リハ・社会的・職業的リハ・講義のまとめ	片桐伯真		
アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	基本的には定期試験 100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
リハビリテーション医学	上月正博／編集 高橋仁美／編集	メジカルビュー社	5200	9784758320610	

参考図書	なし
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業の実施について	なし

科目名	リハビリテーション医療・医学Ⅱ				
科目責任者	片桐 伯真				
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活期と広いステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。 臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書からの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハ専従医が講義に当たることで、臨床実習・国試に向けた知識整理の場となろう。				
到達目標	1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>		
	回	内容	担当者名		
	第1回	小児疾患のリハビリテーション	片桐伯真		
	第2回	運動器疾患のリハビリテーション (骨折)	井上善也		
	第3回	脊髄損傷のリハビリテーション	有賀隆裕		
	第4回	関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	井上善也		
	第5回	がんのリハビリテーション	有賀隆裕		
	第6回	内部障害のリハビリテーション	小川美歌		
	第7回	リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎		
	第8回	切断・障害者スポーツ・講義のまとめ	片桐伯真		
アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	基本的には定期試験 100% で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
リハビリテーション医学	上月正博／編集 高橋仁美／編集	メジカルビュー社	5200	9784758320610	

参考図書	なし
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業の実施について	なし

科目名	リハビリテーション職種間連携の基礎
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	この科目では、目指す職種について理解を深めるとともに、他職種の職種と役割を学び、学科の枠を超えたグループワークをしながら、リハビリテーションに関わる専門職種間の連携の「意義・あり方」を学ぶ。
到達目標	①リハビリテーションに関わる職種を挙げ、それぞれの職種の役割を説明できる。 ②保健・医療・福祉における専門職の連携の必要性を説明できる。 ③グループワークを通して協働連携による成果を学び、成果を発表することができる。
授業計画	<p>担当教員 矢倉千昭 伊藤信寿 大原重洋 高橋大生 栗田洋平 佐藤綾華</p> <p>リハビリテーション職種間連携の基礎では、2 つのテーマについて、グループワークを行います。授業の最後に発表会を行い、グループでまとめた成果を発表・共有し、リハビリテーションにおける職種間連携の理解を深めます。</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>【テーマ1】 自分の目指す専門職種とリハビリテーションに関わる専門職種を学ぶ 第1・2回 オリエンテーション・グループワーク (GW) 矢倉 伊藤 大原 高橋 栗田 佐藤綾</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人課題：自分が目指す専門職種とリハビリテーションに関わる専門職種の役割をまとめる。 GW 課題：リハビリテーションにチーム医療が必要である理由を具体例をあげて説明する。 <p>【テーマ2】 リハビリテーション職種間連携と専門職種に必要なスキルを学ぶ 第3・4回 GW 矢倉 伊藤 大原 高橋 栗田 佐藤綾</p> <ul style="list-style-type: none"> GW 課題：授業で提示する症例に対し、必要なチーム・スタッフをあげ、チーム・アプローチの目的と個々の専門職種の役割とアプローチの目的をお互いに共有する内容のロールプレイ(寸劇動画)を作成するためのシナリオと絵コンテを作る。寸劇動画を通じてリハビリテーション職種間連携が有効に機能するために必要なスキルについてまとめる。 <p>第5・6回 GW 矢倉 伊藤 大原 高橋 栗田 佐藤綾</p> <ul style="list-style-type: none"> GW 課題：第3・4回授業で作ったシナリオと絵コンテをもとに寸劇動画を撮影・編集し、発表資料を提出する。 <p>第7・8回 GW 発表 矢倉 伊藤 大原 高橋 栗田 佐藤綾</p> <ul style="list-style-type: none"> GW 発表：寸劇動画を流し、リハビリテーション専門職種間連携の必要性・重要性について発表する。
アクティブラーニング	授業で提示する課題に対してグループワークを行います。
授業内のICT活用	課題提出先はWebClass とし、グループワーク発表でパソコンを使用します。
評価方法	レポート評価：50% 発表：50% 計100%

課題に対するフィードバック	課題レポートの返却、プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。
指定図書	*所属する学科の概論（理学療法概論、作業療法概論、言語聴覚障害学概論）の指定図書を使用します。他学科の図書を購入する必要はありません。
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修（20分）：リハビリテーション専門職種間連携に関する文献を調べること。 事後学習（20分）：課題提出・発表に向けた準備をすること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	国際リハビリテーション援助論
科目責任者	高橋 大生
単位数他	1 単位(30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	DP(7) 地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目では、リハビリテーション領域の国際援助について学習し国際的に実践する基盤を身につける。 本科目は、リハビリテーション分野の国際活動、他国のリハビリテーション事情などについて語学・専門知識・専門技能・実践力を課題解決講義や他の受講者とのディスカッションを通じて学習する。本学大学院に留学中の他国リハビリテーション専門職による講義も展開する予定である。
到達目標	1. リハビリテーションの国際情勢について説明できる。 2. 国際活動におけるリハビリテーション専門職者の活動を説明できる。 3. 国際活動を行う上で、基礎的なスキルを説明し実践できる。 4. リハビリテーション専門職として国際援助を模範的に実践できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p style="text-align: right;">高橋大生・柴本勇・根地嶋誠</p> <p>第1回：オリエンテーション 高橋大生</p> <p>第2回：グローバルヘルスにおける国際リハビリテーションの意義 高橋大生</p> <p>第3回：各国での医療制度やリハビリテーション事情 高橋大生</p> <p>第4回：国際支援機関での活動 高橋大生</p> <p>第5回：国際支援プロジェクト立案 高橋大生</p> <p>第6回：国際活動における理学療法士の専門性と役割 根地嶋誠</p> <p>第7回：国際活動における言語聴覚士の専門性と役割 柴本勇</p> <p>第8回：言語聴覚士と国際的支援 柴本勇</p> <p>第9回：国際プロジェクト発表 高橋大生</p> <p>第10回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習①） 高橋大生</p> <p>第11回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習②） 高橋大生</p> <p>第12回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習③） 高橋大生</p> <p>第13回：CBR と災害時のリハビリテーション援助 高橋大生</p> <p>第14回：海外活動の実際 柴本勇</p> <p>第15回：英語で大学を紹介しよう 高橋大生</p> <p>※グローバル教育推進センターの活動を積極的に活用することによって、国際活動を深く理解することができる。</p>
アクティブラーニング	グループディスカッション、国際支援活動等を実践しながら、到達目標を得る学習を行う。
授業内のICT活用	・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。
評価方法	課題提出物（レポート）50%、グループディスカッション30%、学内での国際活動参加20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに記された質問・課題を毎回の講義でフィードバック、指導、ディスカッションする。

指定図書	なし
参考図書	国際リハビリテーション学 (河野 真編 羊土社)
事前・事後学修	ディスカッションや演習内容を事前に提示するので、知識を得ると同時に・手技等の確認をおこなう。事前学習は、演習の振り返りを各自で行い担当教員にフィードバックする。事後学修時間の目安は1回の講義あたり原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512 研究室（高橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール（daiki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	国際リハビリテーション研修 (PT・OT)
科目責任者	高橋 大生
単位数他	1 単位(30 時間) 理学選択・作業選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際リハビリテーション研修は、異なる文化・地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目指す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で通用する柔軟な倫理観を習得する。お互いの学生にとって可能性を拡大するために、学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修方法を用い、グローバルマインドを育む。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の尊厳や幸福を尊重するためのリハビリテーション医療の重要性を国際的視点で理解する。 ・研修地のリハビリテーション医療を通して、人を支援する経験をする。 ・研修地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 ・研修地の学生と交流を図りコミュニケーション能力を養う。 ・異なる文化圏の生活を経験し、研修地の歴史・伝統・文化を学ぶ。
授業計画	<p>担当教員名：高橋大生、鈴木達也、根地嶋誠すべての工程を担当教員が担当する <授業内容・テーマ等></p> <p>事前研修 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する</p> <p>事前研修内容 1 回目：オリエンテーション 2-3 回目：医療現場で使用する医療英語を学ぶ 4-5 回目：英語で（自分の言葉で）日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明する 6-7 回目：日本と研修先の文化・医療について学ぶ 8 回目：学内 work 英語による OSCE 9 回目：学内 work 英語での学内アテンド 10 回目：英語によるプレゼンテーション</p> <p>2. 研修書類の作成 自己紹介、学習目標を作成する</p> <p>3. 海外研修 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation Field Work</p> <p>4. 研修報告会 研修後に報告書を提出し、報告会を行う</p> <p>※グローバル教育推進センターに相談、指導を仰ぐことによって、研修を深く理解・遂行することができる。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 ・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 ・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。 ・各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 ・学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。 ・アクティブラーニングとグループワークを通して実践的に活動する。

授業内のICT活用	ICT 機器を用いて英語のビデオ教材を視聴し、グループワークの内容をプロジェクターで発表する。
評価方法	事前研修 30%、研修時態度 40% 課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する。 事前研修1コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 理学療法学科 研究室：3512 研究室 連絡先：高橋大生 (daiki-t@seirei.ac.jp) 時間等：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	国際リハビリテーション研修 (ST)
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語選択 2・4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国際リハビリテーション研修は、異なる文化・地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、現地の専門研修を受け、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目指す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で活動できる柔軟な倫理観や価値観を習得する。学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修手法を取り入れ、国際リハビリテーションを経験し理解する
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の尊厳を尊重したリハビリテーション医療について説明できる 2. リハビリテーション医療を通じた人への支援を経験する 3. 見学や聴講などを通して、わが国や研修地のリハビリテーション事情を説明できる 4. 研修地の学生と交流しコミュニケーションを図ることができる 5. 異なる文化圏の生活を経験し、違いや共通点を分析できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 担当教員：柴本 勇</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前研修 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する リスクアセスメントとリスクマネジメントを理解する 2. 研修書類の作成 自己紹介、学習目標を作成する 3. 海外研修 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation 4. 研修報告会 研修後に報告会を行う。報告書を作成する
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 ・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 ・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。 ・各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 ・学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。
授業内のICT活用	<p>オンライン・ビデオ・チャット・ツールを使い、海外のリハビリテーション専門職とディスカッションをする。</p> <p>WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。</p>
評価方法	事前研修 30%、研修時態度 40% 課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	<p>事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。</p> <p>課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。</p> <p>研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。</p>
指定図書	なし

参考図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室：3号館 4階 3408 研究室 オフィスアワー：初回講義時に提示します。 ※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp ※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	耳鼻咽喉科学																																								
科目責任者	香取 幸夫																																								
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 3 セミナー																																								
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																								
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																								
科目概要	超高齢社会の現代では、音声言語、聴覚、嚥下の機能に障害のある患者さんに対する治療の需要は増しており、言語聴覚士が専門職種として社会に貢献することが求められている。本授業の目的はこれらの障害に関係する耳鼻咽喉科疾患の病態と検査法を理解し、さらにこの領域のリハビリテーションの必要性と基礎知識を学ぶことにある。																																								
到達目標	1. 頭頸部領域の解剖と生理を理解する。 2. 難聴、嚥下障害ならびに音声障害の病態を理解する。 3. 耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患について、その病態を理解する。																																								
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月11日(土) 1～4限</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1回：鼻・副鼻腔の解剖と生理、嗅覚障害</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第2回：アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第3回：喉頭・気管の解剖と生理、音声生成のしくみ</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第4回：喉頭の疾患とその治療、音声改善の治療</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>5月25日(土) 1～4限</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回：嚥下に関わる解剖と生理、嚥下障害の検査</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第6回：摂食嚥下障害の治療、高齢者と耳鼻咽喉科</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第7回：頭頸部がん</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>第8回：演習問題の実施(1)</td> <td>香取幸夫</td> </tr> <tr> <td>6月8日(土) 1～4限</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回：耳の解剖と生理</td> <td>安達美佳</td> </tr> <tr> <td>第10回：難聴</td> <td>安達美佳</td> </tr> <tr> <td>第11回：めまい</td> <td>安達美佳</td> </tr> <tr> <td>第12回：顔面神経麻痺、唾液腺の解剖と整理、疾患</td> <td>安達美佳</td> </tr> <tr> <td>6月28日(金) 4～6限</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回：口腔・咽頭の解剖と生理、疾患</td> <td>安達美佳</td> </tr> <tr> <td>第14回：睡眠時無呼吸症候群、小児と耳鼻咽喉科</td> <td>安達美佳</td> </tr> <tr> <td>第15回：演習問題の実施(2)</td> <td>安達美佳</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	5月11日(土) 1～4限		第1回：鼻・副鼻腔の解剖と生理、嗅覚障害	香取幸夫	第2回：アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎	香取幸夫	第3回：喉頭・気管の解剖と生理、音声生成のしくみ	香取幸夫	第4回：喉頭の疾患とその治療、音声改善の治療	香取幸夫	5月25日(土) 1～4限		第5回：嚥下に関わる解剖と生理、嚥下障害の検査	香取幸夫	第6回：摂食嚥下障害の治療、高齢者と耳鼻咽喉科	香取幸夫	第7回：頭頸部がん	香取幸夫	第8回：演習問題の実施(1)	香取幸夫	6月8日(土) 1～4限		第9回：耳の解剖と生理	安達美佳	第10回：難聴	安達美佳	第11回：めまい	安達美佳	第12回：顔面神経麻痺、唾液腺の解剖と整理、疾患	安達美佳	6月28日(金) 4～6限		第13回：口腔・咽頭の解剖と生理、疾患	安達美佳	第14回：睡眠時無呼吸症候群、小児と耳鼻咽喉科	安達美佳	第15回：演習問題の実施(2)	安達美佳
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																								
5月11日(土) 1～4限																																									
第1回：鼻・副鼻腔の解剖と生理、嗅覚障害	香取幸夫																																								
第2回：アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎	香取幸夫																																								
第3回：喉頭・気管の解剖と生理、音声生成のしくみ	香取幸夫																																								
第4回：喉頭の疾患とその治療、音声改善の治療	香取幸夫																																								
5月25日(土) 1～4限																																									
第5回：嚥下に関わる解剖と生理、嚥下障害の検査	香取幸夫																																								
第6回：摂食嚥下障害の治療、高齢者と耳鼻咽喉科	香取幸夫																																								
第7回：頭頸部がん	香取幸夫																																								
第8回：演習問題の実施(1)	香取幸夫																																								
6月8日(土) 1～4限																																									
第9回：耳の解剖と生理	安達美佳																																								
第10回：難聴	安達美佳																																								
第11回：めまい	安達美佳																																								
第12回：顔面神経麻痺、唾液腺の解剖と整理、疾患	安達美佳																																								
6月28日(金) 4～6限																																									
第13回：口腔・咽頭の解剖と生理、疾患	安達美佳																																								
第14回：睡眠時無呼吸症候群、小児と耳鼻咽喉科	安達美佳																																								
第15回：演習問題の実施(2)	安達美佳																																								
アクティブラーニング	試験課題に対する発表と評価を行います。																																								
授業内のICT活用																																									
評価方法	定期試験 100%																																								
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いてフィードバックします。必要に応じて講義の中で適宜フィードバックします。																																								

指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第3版	田山 二郎	医学書院	4000	9784260050463	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
あたらしい耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	香取幸夫／編集 日高浩史／編集	中山書店	9000	9784521747873	
事前・事後学修	事前学修：次回の講義内容のキーワードを学習してください。 事後学修：配布資料を再度見直して、重要事項をマイノートに記載してください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について					

科目名	臨床神経学				
科目責任者	内山 剛				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 3 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	リハビリテーションを实践するうえで、身体障害の原因となる神経系疾患について病態生理、診断や治療の知識を身につける。本講義では神経系の解剖、生理、機能については別講義に譲り主に疾患について学ぶ。				
到達目標	1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる 2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する 3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する 4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる				
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>		
	1. 脳血管障害		本間		
	2. 末梢神経障害、電気生理		佐藤		
	3. 運動神経疾患		近土		
	4. パーキンソン症候群		内山		
	5. 脱髄疾患		佐藤		
	6. 認知症		近土		
	7. てんかん		佐藤		
	8. 筋疾患、内科との関連疾患		近土		
アクティブラーニング	なし				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	每講義ごとの小論文記述 60 点 定期試験 40 点				
課題に対するフィードバック	授業のなかで質問に対し回答する。				
指定図書	なし				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第5版】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野	奈良勲／シリーズ監修 鎌倉矩子／シリーズ監修 川平和美／編集 川平和美／〔ほか〕執筆	医学書院	5600	9784260038171	

神経内科学 PT OT					
事前・ 事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます				
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て					

科目名	形成外科学				
科目責任者	瀧口 徹也				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 3 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	形成外科とは「組織欠損や変形の修復・再建を担当する外科」で、動き（機能性）および見た目（整容性）の両方の改善を目指します。体表の再建のみならず、骨や腸など深部組織の再建も行います。手術後のリハビリテーションは非常に重要で、密接なかかわりがあります。				
到達目標	以下の項目等を学び、リハビリテーションと形成外科との関わりについて理解する。 1. 形成外科学について 2. 創傷治癒と瘢痕やケロイドについて 3. 外傷・熱傷・皮膚潰瘍について 4. 頭蓋顎顔面の先天異常について 5. 皮弁や皮膚移植など組織移植について				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (1) 第 2 回： 頭蓋顎顔面の先天異常 (2) 第 3 回： 外傷・熱傷 第 4 回： 皮膚潰瘍 第 5 回： 形成外科学総論 第 6 回： 創傷治癒・瘢痕ケロイド 第 7 回： 組織移植 (1) 第 8 回： 組織移植 (2)		<担当教員名> 加持秀明 加持秀明 酒井梨穂 酒井梨穂 瀧口徹也 瀧口徹也 中川雅裕 瀧澤義徳		
アクティブラーニング	毎回リアクションペーパーを用いて、講義の中での疑問や感想を、学生自身が考えるようにしている。学生へ質問するなど、双方向の授業展開をしている。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	リアクションペーパー50%、定期試験 50%				
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーによる質問等には、口頭で回答している。				
指定図書	なし				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

器質性構音障害	斉藤裕恵	建帛社	2600	9784767945088	
標準形成外科学 第7版	平林 慎一 監修	医学書院	5800	9784260036733	
【改訂3版】TEXT形成外科学	波利井清紀／監修 中塚貴志／編集 亀井譲／編集	南山堂	6000	9784525318338	
事前・事後学修	参考図書などを利用し、授業のテーマに沿って予習復習を行いましょう。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学		
科目責任者	梅田 慈子		
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 4 セミナー		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎		
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。		
科目概要	口から食べて健康を維持増進することが、この時代における人々の望みであり、かつ歯科医療の大きな役割である。皆さんは一般的な歯科医療に関わる訳ではない。しかし顎・顔面・口腔の構造、機能、疾病の治療の概要はもとより、摂食嚥下障害に関連した歯科学や口腔ケアに関する知識は将来必ず役に立つであろう。食生活は健康を支える大きな柱である。食物の入り口としての口腔の機能について理解することが大切である。		
到達目標	1. 顎口腔領域の発生・構造・疾患について理解する。 2. 言語障害に関係ある歯科疾患について理解する。 3. 言語障害への歯科的対応について理解する。 4. 口腔ケアについて理解する。 5. 加齢による口腔機能の低下について理解する。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンスと口腔の基本構造 第 2 回：口腔の発生と発育障害 第 3 回：口腔の機能としての咀嚼、構音 第 4 回：口腔の疾患と機能障害 第 5 回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患 第 6 回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法 第 7 回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損 第 8 回：歯科疾患について 第 9 回：高齢者と歯科、口腔ケアについて 第 10 回：摂食嚥下障害と歯科 第 11 回：中枢神経系による口腔機能障害 第 12 回：リハビリテーションと歯科 第 13 回：実習 第 14 回：実習 第 15 回：実習 </td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;"> <担当教員名> 大野友久 竹下育男 野本亜希子 大野友久 竹内啓人 隅田由香 隅田由香 福永暁子 福永暁子 嶋田勇司 嶋田勇司 梅田慈子 梅田慈子 梅田慈子 梅田慈子 </td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンスと口腔の基本構造 第 2 回：口腔の発生と発育障害 第 3 回：口腔の機能としての咀嚼、構音 第 4 回：口腔の疾患と機能障害 第 5 回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患 第 6 回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法 第 7 回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損 第 8 回：歯科疾患について 第 9 回：高齢者と歯科、口腔ケアについて 第 10 回：摂食嚥下障害と歯科 第 11 回：中枢神経系による口腔機能障害 第 12 回：リハビリテーションと歯科 第 13 回：実習 第 14 回：実習 第 15 回：実習	<担当教員名> 大野友久 竹下育男 野本亜希子 大野友久 竹内啓人 隅田由香 隅田由香 福永暁子 福永暁子 嶋田勇司 嶋田勇司 梅田慈子 梅田慈子 梅田慈子 梅田慈子
<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンスと口腔の基本構造 第 2 回：口腔の発生と発育障害 第 3 回：口腔の機能としての咀嚼、構音 第 4 回：口腔の疾患と機能障害 第 5 回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患 第 6 回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法 第 7 回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損 第 8 回：歯科疾患について 第 9 回：高齢者と歯科、口腔ケアについて 第 10 回：摂食嚥下障害と歯科 第 11 回：中枢神経系による口腔機能障害 第 12 回：リハビリテーションと歯科 第 13 回：実習 第 14 回：実習 第 15 回：実習	<担当教員名> 大野友久 竹下育男 野本亜希子 大野友久 竹内啓人 隅田由香 隅田由香 福永暁子 福永暁子 嶋田勇司 嶋田勇司 梅田慈子 梅田慈子 梅田慈子 梅田慈子		
アクティブラーニング	口蓋床を用いたパラトグラムの実習／口腔ケア実習		
授業内の ICT 活用	なし		
評価方法	定期試験 100%		
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示		
指定図書	『言語聴覚士に必要な歯科の知識』植松宏 監修、インテルナ出版		

参考図書	授業中に紹介する。
事前・事後学修	講義内容については各講師の初回授業時に紹介し、課題や事前学習についてはその都度提示する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「歯科医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
デジタル授業の実施について	なし

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 2 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	呼吸・発声・発語に関わる器官の解剖と生理を学習し、正常な発話メカニズムを理解する。呼吸は音声を発する原動力となり、喉頭は発声機能をつかさどり、その上部の声道(咽頭・口腔・鼻腔)の形態が言語音の共鳴の変化をもたらす。こうした正常な機能を理解することは、2 年次から学ぶ音声障害、構音障害、嚥下障害などの病態を把握し、適切な治療計画を考慮する基盤となる。
到達目標	1. 呼吸器系の解剖生理および病態について説明できる。(30%) 2. 喉頭の解剖生理および病態について説明できる。(35%) 3. 構音器官の解剖生理および病態について説明できる。(35%)
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動 柴本 勇</p> <p>第 2 回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態 柴本 勇</p> <p>第 3 回：喉頭の基本構造 金沢英哲</p> <p>第 4 回：喉頭の病態、喉頭機能検査(内視鏡、ストロボスコーピーなど) 演習 金沢英哲</p> <p>第 5 回：喉頭の機能(発声時の喉頭調節)、音声機能の評価演習 柴本 勇</p> <p>第 6 回：構音器官の基本構造 佐藤豊展</p> <p>第 7 回：構音器官の検査・病態 佐藤豊展</p> <p>第 8 回：構音障害の臨床 佐藤豊展</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、演習、ディスカッションを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を利用して授業内で臨床映像や音声等を閲覧しながら行う演習を取り入れて行います。
評価方法	定期試験 70%(試験 100 点満点とし、70%換算にします) 小テスト 10% レポート 20% ※達成度はルーブリックに基づいて確認します ※定期試験は、到達目標の割合で出題します。
課題に対するフィードバック	小テストについては、次の授業で解説します。
指定図書	言語聴覚療法学テキスト 発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学 監修：益田慎、編集：福岡達之、メジカルビュー社 2022. ISBN：9784758320696
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖・生理は、専門科目の基礎になります。毎時限の知識を確実にしていくため、予習・復習を行いましょう。 ・小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。復習する習慣をつけましよう。 ・毎回の授業では Webclass を活用して事前学修と事後学修を行います。

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>研究室：3号館 4階 3408 研究室</p> <p>オフィスアワー：初回講義時に提示します。</p> <p>※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp</p> <p>※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士、医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対 外授業 の実施に ついて	なし

科目名	聴覚系の構造・機能・病態
科目責任者	佐藤 綾華
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間が音を聞く仕組みについて、聴器の構造と機能に基づいて理解し、そこに障害（難聴）が生じた場合、どのように聞こえに影響が及ぼされるのか学修する。
到達目標	聴器の解剖学的構造と各器官の機能の理解に基づいて、以下の項目について説明できる。 ①人間が音を聞いて知覚するまでの経路と仕組み。 ②伝音性、内耳性、後迷路性の難聴の種類・特性と障害部位の関連。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤綾華、大原重洋 1 回 シラバス説明・聴力と聞こえの仕組みの概要、難聴の種類と障害部位 2 回 聴器の構造と機能：外耳、両耳聴と方向感 3 回 聴覚検査 4 回 中耳 5 回 内耳 6 回 内耳 7 回 中枢聴覚路 8 回 前庭機能
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や聴器の模型製作を行い、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期テスト 70%、小テスト 20%、ウェブクラスでの課題 10%
課題に対するフィードバック	メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	「耳鼻咽喉科学 第3版」医学書院
参考図書	「病気がみえる 耳鼻咽喉科」医療情報科学研究所
事前・事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オープンエデュケーションの活用	なし

オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 水曜日：8 時 50 分～9 時 15 分 上記以外でもメール (ayaka-sa@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	

アクティブ ラーニング	
授業内の ICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験（70％） 確認テスト（20％） 発表（10％）
課題に対する フィード バック	確認テストについては、各自で採点してもらいます。 発表時に解説し、リアクションペーパーにまとめと質問を書いて提出してもらいます。
指定図書	病気がみえる Vol 7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA
参考図書	なし
事前・ 事後学修	[事前学修] テキストを参考に予習すること。 [事後学修] 授業の内容を復習し、小テストを各自で実施すること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：毎週火曜 11：15～12：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
IT授業 の実施に ついて	なし

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 2 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	1. 言語聴覚士に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでにどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。
授業計画	第 1 回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」 第 2 回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成） 第 3 回： 乳児期の発達（基本的信頼感） 第 4 回： 幼児期前半の発達 1（第 1 次反抗期、言語能力の発達） 第 5 回： 幼児期前半の発達 2（自律性、トイレトレーニング） 第 6 回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達） 第 7 回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ） 第 8 回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係） 第 9 回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成） 第 10 回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達） 第 11 回： 中年期の発達 1（中年期危機） 第 12 回： 中年期の発達 2（アイデンティティの再体制化） 第 13 回： 高齢期の発達（エイジング） 第 14 回： 発達障害の理解と支援 1（学習障害、注意欠如多動症） 第 15 回： 発達障害の理解と支援 2（自閉スペクトラム症）
アクティブラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。
授業内の ICT 活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 70%，授業への取り組み状況 30%（リアクションペーパー等）
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・ 事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。 メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	認知心理学				
科目責任者	岩渕 俊樹				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 3 ヲメター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	私たちは常に環境からの情報を受け取ったり、環境に対して働きかけたりしながら生きています。認知心理学とは、このような時に私たちの脳と心がどのように働いているかを研究する学問です。この講義では、知覚、注意、言語、思考など、環境との相互作用の中で生じる心の働き、すなわち認知のしくみについて学びます。ヒトの認知について知ることは、脳機能に関する多様な障害、およびそれらのリハビリテーションを理解する上での基礎となります。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚士に必要な認知心理学の理論や知見を説明できる。 2. 多様な臨床症状について、認知心理学の理論や知見に基づく考察を行える。 				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>岩渕 俊樹 第1回：認知心理学とは 第2回：感覚と知覚 (1) 第3回：感覚と知覚 (2) 第4回：感覚と知覚 (3) 第5回：概念と言語 第6回：知識と思考 (1)：知識の表象 第7回：知識と思考 (2)：問題解決と意思決定 第8回：自己と他者				
アクティブラーニング	認知のしくみを体験するデモを行い、それについて考えてもらう時間を設けます。				
授業内のICT活用	WebClass を用いて授業資料の提供、演習問題やリアクションペーパーの実施などを行います。				
評価方法	定期試験 70%、リアクションペーパー＋課題 30%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問や課題等へのフィードバックは、次回授業時の解説や WebClass を介した返信などにより随時行います。				
指定図書	なし				
参考図書	『最新認知心理学への招待 改訂版』(サイエンス社/箱田裕司ら 著)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
言語聴覚士のための心理学 第2版	山田 弘幸 編集	医歯薬出版	4000	9784263266328	

グラフィック認知心理学	森 敏昭	サイエンス社	2400	9784781907765	
事前・事後学修	授業前に WebClass にアップされた資料に目を通してください。授業後は各回のキーワードをまとめ、知識を整理してください。				
オープンエデュケーションの活用	授業資料の中で、内容に関連する Web 上の資料や動画等の URL 情報を提示します。				
オフィスアワー	質問は授業時か授業後に直接行うか、もしくは WebClass やメールを使って連絡してしてください。				
実務経験に関する記述	なし				
対面授業の実施について					

科目名	学習心理学				
科目責任者	岩渕 俊樹				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 3 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	学習とは「経験によって生じる比較的永続的な行動の変化」と定義されます。ヒトを含むさまざまな動物は環境に適応するため、学習によってさまざまな行動パターンを後天的に獲得していきます。学習心理学は、どのように学習が生じるかという基礎的なメカニズムについて多くの知見を提供してきました。これらの知見は教育や医療の分野でもさまざまに応用されています。本講義では、ヒトや動物でどのように学習が起こるのかについて学び、それらの知識がどのようにリハビリテーションに活用されるかを考えていきます。				
到達目標	1. 学習、条件付け、動機付けなどに関する基礎的な知見や理論について説明できる。 2. 学習心理学の医療現場への応用例を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>岩渕俊樹 第1回：学習とは何か 第2回：学習と記憶 第3回：古典的条件付け (1) 第4回：古典的条件付け (2) 第5回：オペラント条件付け (1) 第6回：オペラント条件付け (2) 第7回：さまざまな学習と動機付け 第8回：まとめと演習				
アクティブラーニング	学習や記憶のしくみを体験するデモを行い、それについて考えてもらう時間を設けます。				
授業内のICT活用	WebClass を用いて授業資料の提供、演習問題やリアクションペーパーの実施などを行います。				
評価方法	定期試験 70%、リアクションペーパー+課題 30%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問や課題等へのフィードバックは、次回授業時の解説や WebClass を介した返信などにより随時行います。				
指定図書	なし				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

言語聴覚士 のための心 理学 第2 版	山田 弘幸 編集	医歯薬出版	4000	9784263266328	
【改訂版】 学習心理学 への招待 学習・記憶 のしくみを 探る	篠原彰一／著	サイエンス社	2400	9784781912042	
グラフィッ ク学習心理 学	山内光哉	サイエンス社	2550	9784781909776	
事前・ 事後学修	授業前にWebClassにアップされた資料に目を通してください。授業後は各回のキーワードをまとめ、知識を整理してください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	授業資料の中で、内容に関連するWeb上の資料や動画等のURL情報を提示します。				
オフィス アワー	質問は授業時か授業後に直接行うか、もしくはWebClassやメールを使って連絡してしてください。				
実務経験に 関する記述	なし				
が ^て い ^て 授業 の実施に ついて					

科目名	心理測定法
科目責任者	高橋 晃
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語聴覚士国家資格試験に出題される「心理測定法」分野について講義・演習・実験などを通じて学習する。 必要に応じて他の心理学分野の知識(感覚知覚心理・臨床心理・実験心理など)についても触れる。
到達目標	1. 目に見えない「心」の測定の原理を理解できるようになる 2. さまざまな心理測定技法の特性を理解し、実践できるようになる 3. 言語聴覚士国家試験問題に適切に解答できるようになる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高橋 晃</p> <p>第 1 回: 「心理測定法」分野の概要 / 感覚・知覚概要 本分野の概要と国家試験の性質について概説する また感覚・知覚心理学分野の必須用語を解説する</p> <p>第 2 回: 精神物理学的測定法(1) 精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験(調整法)を行なう</p> <p>第 3 回: 精神物理学的測定法(2) 精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験(極限法・恒常法)を行なう</p> <p>第 4 回: 精神物理学的測定法(3) 精神物理学的測定法として「マグニチュード推定法」の簡易実験を行なう</p> <p>第 5 回: 態度の測定 態度測定技法としての「リッカート法」「サーストン法」の説明と実習を行なう</p> <p>第 6 回: テスト法 各種のテスト法における信頼性と妥当性・各種の測定技法についての解説を行なう</p> <p>第 7 回: 数値尺度と統計処理 数値尺度の理解と、各々の尺度に適用できる統計処理技法について解説を行なう</p> <p>第 8 回: 相関係数と因子分析 因子分析について、その前提となる相関係数の概念を含めて解説を行なう</p> <p>第 9 回: 信号検出理論・実験計画・誤差 ノイズ下での測定理論である「信号検出理論」、測定のための「実験計画」、測定に附随する「誤差」の解説を行う</p> <p>第 10 回: 心理テスト 代表的な“心理測定手法”である「知能検査」「性格検査」の解説を行う なお、各テーマの終わりには対応する国家試験問題の抜粋を解く</p>
アクティブラーニング	グループ学修を取り入れて体験実習等を行なう
授業内の ICT 活用	Google form を利用して講義内での理解度確認を行う「双方向課題」を行う
評価方法	言語聴覚士国家資格の「心理測定法」分野に相当する定期試験 100%。

課題に対するフィードバック	講義中に実施する国家試験の過去問課題 ならびに定期試験について解答解説を行なう				
指定図書	なし				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
心理測定法への招待	市川伸一	サイエンス社	2700	9784781906102	
事前・事後学修	各回の最後に国家試験問題と同等の問題を出題するため、それに相当する「言語聴覚士試験」の過去問題に対して 40 分程度の予習・復習が必須である				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	質問等はメール(akirtaka@inf.shizuoka.ac.jp)での連絡とする				
実務経験に関する記述	なし				
ガイ授業の実施について	なし				

科目名	臨床心理学 (ST)
科目責任者	高柳 弘行
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1) パーソナリティ理論 2) 各発達期における典型的な心理的問題 3) 心理アセスメント 4) 心理的問題への介入技法 などについて学ぶ。
到達目標	1) 乳児期から老年期までの心理的問題や精神病理についての理解を深める。 2) 臨床心理学的アセスメント、臨床心理学的介入技法についての理解を深める。 3) 面接スキルやストレスマネジメント(リラクゼーション)などを体験してみる。 4) クライエントの立場に立ち、クライエントにとって取り組みやすく、回復への動機づけを高める支援についての理解を深める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高柳 弘行 1) 臨床心理学の歴史と概要 2) パーソナリティ理論(類型論)(特性論) 3) エリクソンの生涯発達論、ピアジェの発達論、乳幼児期の心理的問題 4) アセスメント(面接法・観察法・検査法)、K 式発達検査の事例 5) 児童期の心理的問題、応用行動分析 6) クライエント中心療法、フォーカシング、遊戯療法 7) 思春期の心理的問題、アンガーマネジメント、アサーション 8) 精神分析療法、交流分析 9) ストレスマネジメント(リラクゼーション) 10) 青年期の心理的問題、注意・記憶・実行機能 11) 統合失調症、SST、家族心理教育 12) 中年期の心理的問題、マインドフルネス、森田療法 13) 認知行動療法 14) 老年期の心理的問題、認知症、回想法 15) 家族療法、コミュニティ心理学
アクティブラーニング	心理検査、ロールプレイ、リラクゼーションなどの身体感覚技法、ストレス・コーピング(対処法)や認知・行動記録、などを授業にて実施。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 80% リアクションペーパー20%
課題に対するフィードバック	授業中において実施したリアクションペーパーやアクティブラーニングについて、授業においてフィードバックします。
指定図書	なし

参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・事後学修	授業内容の要点、アクティブラーニングなどを 20 分事後学修して下さい。
オープンエデュケーションの活用	パーソナリティ論の特性論の理解のため、可能ならばインターネット上にある「主要 5 因子性格検査システム（デモ版）（村上宣寛、村上千恵子）」を実施してみてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ハイ授業の実施について	なし

科目名	言語学				
科目責任者	柏原 綾香				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 3 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。				
科目概要	ことばに関する現象を分析し、その背景にある考え方を概観する。特に、日本語については体系的な法則や理論（形態論・統語論・意味論等）に基づいて検討する。				
到達目標	1. 言語学の考え方と専門用語を理解する。 2. 日本語の分析方法を身に付ける。 3. 国試の問題に解答できる応用力を身に付ける。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：言語学とは（言語の特徴・基本的な性質）</p> <p>第2回：言語学のはじまり（研究史）</p> <p>第3回：音韻論1（音素・アクセント・形態音韻論）</p> <p>第4回：音韻論2（日本語の音を考える）</p> <p>第5回：形態論1（語・語種・形態素・異形態）</p> <p>第6回：形態論2（日本語の語構成・活用）</p> <p>第7回：意味論1（意義素・意味関係）</p> <p>第8回：意味論2（語用論：談話における文の意味）</p> <p>第9回：統語論1（句構造・述語文の種類・生成文法）</p> <p>第10回：統語論2（日本語の文法1、格関係と項・ヴォイス・テンス）</p> <p>第11回：統語論3（日本語の文法2、アスペクト・モダリティ・複文）</p> <p>第12回：社会言語学（言語のバリエーション）</p> <p>第13回：認知言語学（認知作用と言語・比喻表現）</p> <p>第14回：日本語の文字を考える</p> <p>第15回：ことばの特徴・日本語の特徴・これまでのまとめ</p>				
アクティブラーニング	新しい考え方や概念は他者という自己を脱した存在との相互作用により創造され構築されていく。本授業では、受講生間の対話的な検討・意見交換を軸にした分析による活動を実践する。				
授業内のICT活用	無し				
評価方法	小テスト 30%、課題 40%、期末試験 30%				
課題に対するフィードバック	課題回答の次時限の冒頭 10 分を活用して、フィードバックを行う。				
指定図書	なし（資料を配布します）				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学	今泉 敏	医学書院	3800	9784260006323	
入門言語学	ジーン	金星堂	2600	9784764736801	
事前・事後学修	事前学修は参考図書等の一読。事後学修として習ったことの復習の課題を行うこと(60分)。				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として参考図書を読むことをお勧めします。				
オフィスアワー	講義時間の合間に教員に質問すること。				
実務経験に関する記述	無し				
ガイ授業の実施について	なし				

科目名	音声学・音韻論				
科目責任者	宇都宮 裕章				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	母音や子音の特徴や分類を理解し、それぞれの音の聴覚的な印象と音声学的な表記方法を学ぶ。特に現代日本語音について、実際に聴取し国際音声記号で表記する演習を行う。また、分節素・音韻素性のシステム、およびリズム、アクセント、イントネーションといった現象とその理論を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声生成のメカニズムを説明することができる。 2. 言語音の特徴や分類を理解し、自らの発声発語器官の運動を内省しながら産生できる。 3. 国際音声記号 (IPA) を用いて、聴取した音を表記できる。 4. 構音実行過程と頭の中の音声プランニングの過程を区別し、それらを連続的に構成するシステムと理論を理解できる。 				
授業計画	第 1 回：音声と音声学：音声学とは・音声器官の名称 第 2 回：音声生成のプロセス：呼吸・発声・調音法・調音点 第 3 回：音声の基本概念：有声・無声・有気・無気・有標・無標 第 4 回：子音と聴覚的印象：破裂音・鼻音 第 5 回：子音と聴覚的印象：ふるえ音とはじき音 第 6 回：子音と聴覚的印象：摩擦音と接近音 第 7 回：母音とその特徴：舌の位置・唇の丸め 第 8 回：母音とその特徴：長母音・二重母音・半母音・無声化 第 9 回：国際音声記号 (IPA) 第 10 回：音声学と音韻論：単音の音韻論的特徴 第 11 回：音韻単位：音節とモーラ 第 12 回：音韻素性：音素 第 13 回：アクセント：ピッチとストレス・表記法 第 14 回：アクセント：日本語の特徴・方言 第 15 回：音声のまとめ：イントネーション・リズム・ポーズ・物理的性質				
アクティブラーニング	実際に音声記号の音読や表記の演習を交えながら進め、受講生間の対話的な検討・意見交換を軸にした分析による活動を行う。				
授業内の ICT 活用	必要に応じて、公開されている音声素材等を活用する				
評価方法	授業への取り組み（毎回の課題提出を含む）75%、期末レポート 25%				
課題に対するフィードバック	授業中の時間を活用して個々の理解度を確認し、活動を通して学習を促す。課題回答の次时限の冒頭の時間でフィードバックを行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

【改訂版】 日本語音声 学入門	斎藤純男／著	三省堂	2000	9784385345888	
参考図書	特に指定しない（音声学に関する基本的書籍等を参照）				
事前・ 事後学修	自らの発声発語器官の運動を内省しながら、声を出して練習すること。事前学修として参考図書等の一読をする。事後学修として習ったことの復習（特に提出課題の再検討）をする。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	IPA の実際の音声は以下の URL にて確認することができる。 http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.htm				
オフィス アワー	事前にアポイントを取る、講義時間の合間に教員に質問する等で実施。				
実務経験に 関する記述	なし				
対イ授業 の実施に ついて	なし				

科目名	音声学・音響学演習
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	音響学演習では、音声に関わる各種物理量（音の強さ、周波数等）と基礎となる属性（大きさ、高さ、音色）等について、実際にパーソナルコンピューター上の音響分析ソフト等を用いて音響学的分析の演習を行う。 音声学演習では、現代共通日本語の単音、および連続発話における特徴的な撥音・促音・長音の特徴や、同化・転換・調音結合などについて理解する。また、超分節的要素の種類や役割について学ぶ。
到達目標	1. 音の物理的性質・音声の音響的特徴を理解できる。 2. 日本語音の特徴を理解し、正しく IPA 表記できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 〔音響学演習〕 担当者：中井孝芳 第1回 音の強さのレベル、音圧レベルと音の大きさのレベル(演習) 第2回 周期と高調波、フーリエ変換 (演習) 第3回 音声生成の音響理論 (演習) 第4回 母音と子音の音響特徴、超分節的要素の音響特徴と知覚(演習) 第5回 サウンドスペクトログラムを読む① 第6回 サウンドスペクトログラムを読む② 〔音声学演習〕 担当者：小坂美鶴 第7回 音声学復習 第8回 日本語の単音とその特徴：清音・拗音・濁音・半濁音 第9回 日本語の単音とその特徴：母音（長母音・二重母音・無声音化） 第10回 日本語の単音とその特徴：撥音・促音・調音 第11回 日本語の単音とその特徴：子音 第12回 連続発話と音環境による影響：同化、転換、調音結合音節とモーラ 第13回 音声の超分節的要素と評価 第14回 演習：日本語の IPA 表記 第15回 日本語における音声学のまとめ
アクティブラーニング	演習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	音響学演習：小テスト50% 音声学演習：小テスト20%、定期テスト30%
課題に対するフィードバック	それぞれの授業での課題は次の開始時にフィードバックします

指定図書	なし
参考図書	日本語音声学入門改訂版 斎藤純男 三省堂
事前・事後学修	〔音響学演習〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習をすること。 〔音声学演習〕 Webclass に前もって授業内容を掲載するので、事前学習をしておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	〔音響学演習〕 講義の前後の時間 〔音声学演習〕 リハビリテーション学部、3402 研究室、火曜 15 : 00 ~ 17 : 00
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	音響学				
科目責任者	中井 孝芳				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 4セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	音や音声の物理的な特性とその表現方法について理解し、聴覚や音声の学習に必要な知識を得る。数学と物理に関する基本的な学習から始め、音や音声の物理的特性を学ぶ。授業では、音声波形や音響分析に関わる視覚的資料を多用することで、分かりやすく解説する。				
到達目標	1. 音の物理的性質を説明できる。 2. 音声の音響的特徴を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数） 第 2 回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル） 第 3 回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル） 第 4 回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴） 第 5 回：音声生成の音響理論①（声帯振動を含む） 第 6 回：音声生成の音響理論② 第 7 回：音響分析の基礎 第 8 回：サウンドスペクトログラム① 第 9 回：サウンドスペクトログラム② 第 10 回：母音の音響特徴と知覚 第 11 回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚 第 12 回：子音・半母音の音響特徴と知覚 第 13 回：サウンドスペクトログラム③ 第 14 回：サウンドスペクトログラム④ 第 15 回：調音結合、超分節的特徴、声の個体差、自然性		<担当教員名> 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳 中井孝芳		
アクティブラーニング	例題の提示とその解説				
授業内の ICT 活用	wavesufer(KTH(スウェーデン、王立工科大学)の開発した音声のスペクトログラム、ピッチ軌跡などの表示ができるソフトウェア)による音声データ(中井が録音したもの)の試聴と表示				
評価方法	期末試験(筆記、100%)による。				
課題に対するフィードバック	例題の解説				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

言語聴覚士 テキスト 第3版	大森 孝一 編	医歯薬出版	4200	9784263265604	
参考図書	授業中に紹介する。				
事前・ 事後学修	事前に指定図書の該当箇所を読んでおく(20分)こと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習(60分)をすること。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	wavesufer、このソフトウェアの使用法(日本語)のwebサイトの紹介 声帯振動の様子を観測したwebサイトの紹介				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	なし				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	聴覚心理学				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している				
科目概要	聴覚や音声について学習する上で必要な音に関する基本的な知識を学びます。本講義では最低限必要な数学と物理に関する学習から始め、音の物理的な特性とその表現方法、音声の物理的な特性について学習を進めます。さらに、自身の聴覚を通して、音の物理的な特性と聴覚との関連を体験することで「聴こえ」についての知識を深めます。これらの知識や経験が臨床とどのように関わるのか解説しながら授業を進めていきます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音の物理的性質・心理的知覚を説明できる。 2. 音の知覚について説明できる。 3. 聴覚心理学の基本的な用語について説明できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋 佐藤綾香</p> <p>第 1 回 聴覚心理学とは何か/音の物理的性質と心理的知覚 (サウンドスペクトログラムで音を見る)</p> <p>第 2 回 音の大きさの知覚 (聴覚閾値、可聴範囲、等ラウドネス曲線)</p> <p>第 3 回 音の大きさ (ラウドネス: loudness) / SPL と HL、ゾーン尺度、聴覚リクルートメント</p> <p>第 4 回 音の高さ (ピッチ: pitch) / 純音の周波数弁別、メル尺度</p> <p>第 5 回 マスキングの基礎 (マスキングの音響的特徴)</p> <p>第 6 回 マスキング (臨界帯域、同時マスキング、非同時マスキング)</p> <p>第 7 回 両耳聴と音源定位 (加算、融合、方向知覚)</p> <p>第 8 回 騒音と聴覚 (音による環境理解、環境騒音)</p>				
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や演習を行い、その内容について討議する。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 90%、平常点(授業態度、リアクションペーパー) 10%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。				
指定図書	大森 孝一、永井 知代子 深浦 順一、渡邊 修 (編集) 「言語聴覚士テキスト 第 3 版」医歯薬出版, 2018				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
言語聴覚士テキスト 第 3 版	大森 孝一 編	医歯薬出版	4200	9784263265604	
参考図書	なし				

事前・ 事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：9時30分～10時30分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	言語発達学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳児期の段階から、会話や文字を獲得する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に関連するコミュニケーション、社会性、認知発達等についても学び、それぞれの領域についての苦手さを持つ子どもについての特徴についても触れていく。
到達目標	1. 乳幼児期、児童期までのことばの定型発達について理解できる 2. ことばの発達に関連する領域の発達について、ことばの発達と関連付けて理解できる 4. 言語発達理論を理解する。 3. 定型発達を基礎にして言語発達障害を理解する視点を持つことができる
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞小坂美鶴</p> <p>第1回 言語発達の理論的基礎</p> <p>第2回 前言語期のコミュニケーションの発達</p> <p>第3回 幼児期から就学までの言語発達（1）語彙</p> <p>第4回 幼児期から就学までの言語発達（2）統語</p> <p>第5回 幼児期から就学までの言語発達（3）談話</p> <p>第6回 幼児期から就学までの言語発達（4）音韻意識</p> <p>第7回 学童期の言語発達（1）学習言語</p> <p>第8回 学童期の言語発達（2）高次の認知的基盤</p>
アクティブラーニング	指定図書・参考書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20%
課題に対するフィードバック	小テストはフィードバックを行い、返却します。
指定図書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版 医学書院
参考図書	言語聴覚士のための言語発達障害学第2版 医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	授業内容にあたる部分を事前に指定図書・参考図書を読んでおきましょう。 小テストを実施しますので、しっかりと予習・復習しておきましょう。

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3402 教室 火曜日 15 : 00～17 : 00
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ガイ 教授 の実施に ついて	

科目名	理学療法概論
科目責任者	高山 真希
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法概論では、リハビリテーションにおける理学療法の役割、治療技術、疾病と対象の理解、理学療法のプロセス（検査・評価、治療）と臨床思考、理学療法士の使命と倫理、さらに理学療法士の養成教育と生涯学習について学修する。
到達目標	1. 医療人として、理学療法士としての使命感、倫理観を持ち、基本的な臨床態度を理解できる。 2. リハビリテーションにおける理学療法に関する基本的な知識を身につけ、説明できる。 3. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた理学療法士に求められる対人スキルを理解し、説明できる。
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブ・ラーニングによる授業を展開する</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員></p> <p>第1回：コースオリエンテーション 高山 真希 目標：これからの理学療法学科での学びを理解する ・プロコン（Pros & Cons）について理解し、学修準備を進める ・理学療法の基礎知識（解剖学・生理学・運動学）の学習方法について理解する</p> <p>第2・3回：理学療法士に求められる責任感とは？ 高橋 大生・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う</p> <p>第4・5回：理学療法士に求められる倫理観とは？ 俵 祐一・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う</p> <p>第6・7回：理学療法士に求められるモラルとは？ 根地嶋 誠・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う ・基礎知識確認試験</p> <p>第8・9回：理学療法士に求められるマナーとは？ 矢部 広樹・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う</p> <p>第10・11回：理学療法士に求められる接遇とは？ 吉本 好延・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う</p> <p>第12・13回：理学療法士に求められる使命とは？ 金原 一宏・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う</p> <p>第14・15回：医療専門職者としての理学療法士とは？ 有菌 信一・高山 真希 ・課題（テーマ）についてグループでプロコンを行う ・基礎知識確認試験 ・PT・OT 基礎から学ぶ解剖学・生理学・運動学ノートを使った学習記録を提出する</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題についてプロコンを行うための情報収集をする グループでプロコンを行う際にはプロとコンの両者を経験し、自分の考えを発言する 問題提起などによる意見交換を行い、思考力を高め、理解を深める
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> WebClass を活用し、補足説明などの情報共有を行う WebClass にグループでプロコンの内容まとめたパワーポイントをアップする WebClass のリアクションペーパーに回答する WebClass にレポートを提出する WebClass で定期的に基礎知識確認試験を実施し、学修の到達度を確認する
評価方法	<p>レポート（授業内で課題を提示）60%</p> <p>リアクションペーパー20%</p> <p>基礎知識確認試験10%</p> <p>解剖学・生理学・運動学ノートの自己学習記録10%</p>

課題に対するフィードバック	必要に応じてプロコンの途中で補足，終了後に総括を行う				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
理学療法概論テキスト (改訂第4版)	細田多穂	南江堂	4000	9784524230525	
参考図書	授業中に随時紹介				
事前・事後学修	<p>事前学修として，各回の課題に関連する情報収集や資料収集，教員から課題提示などを行い，資料（WordやPowerPointを用いて）を作成する．資料を持ってプロコンに参加する．また，基礎知識についてPT・OT基礎から学ぶ解剖学・生理学・運動学ノートを活用し自己学習をする（60分程度）</p> <p>事後学修として，各課題の振り返り（基礎知識の補足，思考の整理など）を行い，リアクションペーパーに回答する（20分程度）</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>公益社団法人日本理学療法士協会のホームページにある理学療法を知るツールを活用する 【URL】 https://www.japanpt.or.jp/about_pt/therapy/tools/</p> <p>公益社団法人日本理学療法士協会公式YouTubeチャンネルにアップされている動画を活用する 【URL】 https://www.youtube.com/user/JPTAchannel/videos</p>				
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については，初回授業時に提示します． 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
対面授業の実施について	なし				

科目名	基礎理学療法学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 3 メモ
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法の対象である、様々な疾患によって発現する症状・徴候、構造と機能の障害、運動や動作の障害について、解剖・生理・運動学の基礎知識を統合して、その発生および治療課程を理解し、説明することを目的とする。そのうえで、エビデンスに基づいた理学療法の評価や治療を選択することができることを目標とする。
到達目標	1. 理学療法の対象である病態ならびに障害について、発生および治療課程を理解・説明できる 2. 理学療法の対象である病態ならびに障害について、基本的な評価と治療を選択・実施できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ・担当教員></p> <p>第 1 回：オリエンテーション，運動療法学総論（俵）</p> <p>第 2 回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-1（俵・田中） －病態ならびに障害の発生および治療課程を理解する</p> <p>第 3 回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-2（俵・田中） －病態ならびに障害の理学療法評価と治療の選択</p> <p>第 4 回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-3（俵・田中） －筋萎縮・筋力低下に対する理学療法評価の実施</p> <p>第 5 回：神経生理学的原理を用いた理学療法（俵・田中） －神経生理学的原理の理論を理解する</p> <p>第 6 回：関節運動障害と理学療法-1（俵・田中） －病態ならびに障害の理学療法評価とストレッチの理論を理解する</p> <p>第 7 回：関節運動障害と理学療法-2（俵・田中） －関節運動障害に対するストレッチの実際</p> <p>第 8 回：関節運動障害と理学療法-3（金原・田中） －関節運動学の理論を理解する</p> <p>第 9 回：関節運動障害と理学療法-4（金原・田中） －関節運動学に基づいた理学療法評価と治療の選択</p> <p>第 10 回：関節運動障害と理学療法-5（金原・田中） －関節運動学に基づいた理学療法評価の実施</p> <p>第 11 回：異常動作の評価と理学療法-1（高橋・田中） －病態ならびに障害の発生を理解する</p> <p>第 12 回：異常動作の評価と理学療法-2（高橋・田中） －病態ならびに障害の理学療法評価の選択</p> <p>第 13 回：異常動作の評価と理学療法-3（高橋・田中） －異常動作に対する理学療法評価の実施</p> <p>第 14 回：理学療法の対象である病態ならびに障害に対する理学療法の実際（秋山・俵） －臨床場面での理学療法評価および治療と臨床推論</p> <p>第 15 回：確認テスト，振り返り，まとめ</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークでまとめ、プレゼンテーションを行う ・授業時間中に適宜、学生間でディスカッションする時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技的なものに関しては演習を通して解説する
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	プレゼンテーション内容 10%，小テスト 30%，課題提出物 10%，確認テスト 50%

課題に対するフィードバック	プレゼンテーションや小テストのフィードバック、演習での指導、等				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第4版】 標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 P T	奈良勲/シリーズ監修 吉尾雅春/編集 横田一彦/編集 森田正治/〔ほか〕執筆	医学書院	4700	9784260027861	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第4版】 標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論 P T	奈良勲/シリーズ監修 吉尾雅春/編集 横田一彦/編集 高山正伸/〔ほか〕執筆	医学書院	5800	9784260027915	
系統別・治療手技の展開 改訂第3版 - 感覚器系-外皮/リンパ系/結合組織(非収縮組織)と筋系/関節系/神経系/その他の治療手技-	竹井 仁 編集	協同医書出版社	6500	9784763910752	
PNFハンドブック [第4版]	柳澤 健	丸善出版	5900	9784621303375	
事前・事後学修	事前学修では各回の授業テーマに関連する解剖・生理・運動学の基礎知識を整理してください(50分)。 事後学修では基礎知識を統合し、グループでまとめたものや演習で行った内容を復習・練習してください(50分)。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(yuichi-t@seirei.ac.jp)でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	理学療法研究の理論
科目責任者	金原 一宏
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 6 メモター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	臨床疑問や課題に対して、客観的な視点から探求することを目的に、理学療法に必要な理学療法研究に関する方法論を学習する。研究の方法論では、問題点の抽出から文献検索、仮説の立案、データ測定、結果の解釈、考察といった研究の流れに沿ってそれぞれに必要な知識の習得と理学療法に必要な倫理事項の確認を行い、リハビリテーション専門職を志す者としての冷静な態度、深い洞察力、高い倫理観を裏付ける広い教養を身につける。
到達目標	1. 理学療法における研究活動の意義を理解する 2. 研究疑問を具現化し、その解明の手順(研究計画書の作成)を理解する 3. 理学療法研究を実践するにあたっての倫理感を養う
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 担当教員名:金原一宏 有蘭信一 矢倉千昭 吉本好延 俵 祐一 根地嶋誠 矢部広樹 高橋大生 高山真希 田中なつみ</p> <p>第1回: コースオリエンテーション 研究法総論 (1) 金原一宏</p> <p>第2回: 研究法総論 (2) 金原一宏</p> <p>第3回: 研究疑問の見つけ方 (1) 金原一宏</p> <p>第4回: 研究疑問の見つけ方 (2) 金原一宏</p> <p>第5回: 文献レビューの仕方 (1) 金原一宏</p> <p>第6回: 文献レビューの仕方 (2) 金原一宏</p> <p>第7回: 文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 金原一宏</p> <p>第8回: 文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 金原一宏</p> <p>第9回: 研究計画の作成 (1) 金原一宏</p> <p>第10回: 研究計画の作成 (2) 金原一宏</p> <p>第11回: 研究計画の作成 (3) 金原一宏</p> <p>第12回: 理学療法研究に必要な統計学 俵 祐一</p> <p>第13回: 理学療法研究に必要な倫理学 俵 祐一</p> <p>第14回: 世界の理学療法研究 有蘭信一</p> <p>第15回: 大学院教育への発展 有蘭信一</p> <p>全ての内容を全員で対応する</p>
アクティブラーニング	グループワーク等を予定しています
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションの際、パソコンを使用して行います。
評価方法	課題提出物: 30%、研究計画書の作成: 70%
課題に対するフィードバック	研究計画書の作成指導を通して進めていきます
指定図書	山田実 編著 PT・OT のための臨床研究はじめての一步 (羊土社)

参考図書	千住秀明 著 「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」 (神稜文庫) 対馬栄輝 著 「医療系データのとり方・まとめ方」 (東京図書) 対馬栄輝 著 SPSS で学ぶ医療系データ解析 (東京図書)
事前・事後学修	学修の成果はグループ指導教員との卒業研究テーマ、研究計画の作成に反映されます
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	なし

科目名	理学療法研究の実践
科目責任者	有菌 信一
単位数他	4 単位(120 時間) 理学必修 8 セミナー
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法研究の意義と、科学的・論理的な研究方法を修得する。具体的には、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集・解析、考察を行い、その研究結果を卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させることを目標とする。
到達目標	1. 理学療法研究の意義を理解する。 2. 一連の研究の流れ学び、各自の研究テーマに沿って研究を実施する。 3. 研究結果を考察し、口述発表する。 4. 卒業論文にまとめて報告する。
授業計画	<p>＜担当教員＞ 有菌信一 金原一宏 矢倉千昭 吉本好延 俵 祐一 根地嶋誠 矢部広樹 高橋大生 高山真希 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞ 本科目は、担当指導教員によるゼミ形式で行うが、必要に応じて全体でも開講する。 研究内容、および研究方法は、指導教員の指導を受けて決定すること。</p> <p>卒業研究の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法研究の意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> ・研究疑問の発見 ・文献レビュー ・研究テーマの明確化 ・研究計画の作成 (倫理的考察も含む) ・研究方法 (対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など) ・データ収集 ・データ解析と処理 ・考察 ・発表 ・論文執筆 <p>*卒業研究発表会を11月上旬頃に行う *卒業論文の提出は11月末頃とする</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション, 資料作成
評価方法	抄録: 30% 論文内容: 35% 口頭発表: 35%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。

指定図書	無し
参考図書	メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法 山田実編集 羊土社 PT・OTのための臨床研究のはじめの一步 山田実編著 羊土社
事前・事後学修	文献検討を十分に行って、研究に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	理学療法教育マネジメント論																										
科目責任者	田中 なつみ																										
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 8 セミナー																										
DP 番号と科目領域	DP7 専門																										
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。																										
科目概要	保健医療福祉領域において、自らの専門性を自覚し、その責務を果たすことが求められます。理学療法士は、理学療法学生や若手理学療法士の教育を担い、また新しい評価方法や治療法の開発などによって理学療法の発展に寄与しなければなりません。そのためには、理学療法の教育指導の理念と方法を身につけることが大切です。本授業では、臨床実習を踏まえた理学療法士の教育方法、臨床研究教育の考え方などを通して学生指導についての基礎を学び、リハビリテーションの専門職業人として将来を展望した理学療法教育への関心を深めます。																										
到達目標	1. 医学教育の動向、課題と方略を概説することができる 2. 理学療法の教育方法を概説することができる 3. 理学療法士の学生指導についての基礎理論と基本技能を修得する																										
授業計画	<p><担当教員名>田中なつみ 有菌信一 大城昌平 金原一宏 矢倉千昭 吉本好延 俵 祐一 根地嶋誠 矢部広樹 高橋大生 高山真希</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>各担当教員が携わってきた臨床・教育業務や研究を通して、理学療法士のキャリア形成や教育マネジメントについて学ぶ。</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <table border="0"> <tr> <td>理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える①</td> <td>田中なつみ</td> </tr> <tr> <td>第2回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える②</td> <td>高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第3回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える③</td> <td>高山真希</td> </tr> <tr> <td>第4回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える④</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第5回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑤</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第6回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑥</td> <td>根地嶋誠</td> </tr> <tr> <td>第7回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑦</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第8回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑧</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第9回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑨</td> <td>金原一宏</td> </tr> <tr> <td>第10回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑩</td> <td>有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第11回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑪</td> <td>大城昌平</td> </tr> <tr> <td>第12・13回：理学療法キャリアのあり方を討論する</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第14・15回：臨床現場での理学療法教育のあり方を討論する</td> <td>全教員</td> </tr> </table>	理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える①	田中なつみ	第2回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える②	高橋大生	第3回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える③	高山真希	第4回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える④	矢部広樹	第5回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑤	俵 祐一	第6回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑥	根地嶋誠	第7回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑦	矢倉千昭	第8回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑧	吉本好延	第9回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑨	金原一宏	第10回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑩	有菌信一	第11回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑪	大城昌平	第12・13回：理学療法キャリアのあり方を討論する	全教員	第14・15回：臨床現場での理学療法教育のあり方を討論する	全教員
理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える①	田中なつみ																										
第2回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える②	高橋大生																										
第3回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える③	高山真希																										
第4回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える④	矢部広樹																										
第5回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑤	俵 祐一																										
第6回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑥	根地嶋誠																										
第7回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑦	矢倉千昭																										
第8回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑧	吉本好延																										
第9回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑨	金原一宏																										
第10回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑩	有菌信一																										
第11回：理学療法士のキャリア形成と教育マネジメントを考える⑪	大城昌平																										
第12・13回：理学療法キャリアのあり方を討論する	全教員																										
第14・15回：臨床現場での理学療法教育のあり方を討論する	全教員																										
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで検討・まとめる 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す 																										
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション、資料作成																										
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの内容と課題提出：50% レポート課題：50% 																										
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 討論の途中で教員が随時補足していく 他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う 																										

指定図書	なし（講義時に適宜資料を配布する）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前に関係論文や資料を配布するので、事前に読んで授業に出席すること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（natsumi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
対面授業の実施について	なし

科目名	理学療法診断学概論
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 2 メモター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法において、理学療法診断（評価）は対象者の障害像を整理し、問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。授業では、理学療法診断に必要な基本的な態度、知識、技能について学修する。
到達目標	1. 理学療法を展開するうえでの診断（評価）の意義を理解する。 2. 理学療法評価の目的を理解し、障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 3. 対象者とコミュニケーション、医療面接、基本的な検査・測定の実施を想起できる。
授業計画	※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：コースオリエンテーション、学修の準備、理学療法評価総論 俵 祐一 ・目標： ①理学療法評価の目的と意義についてまとめ、説明する。 ②検査法と尺度、検査法の信頼性、妥当性、感度、特異度についてまとめ、説明する。 ・グループワーク（GW）課題の取り組み方、課題資料のまとめ方、GW 発表方法の確認。 ・理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学・生理学・運動学ノートを使った学修方法、試験について説明する。 第2・3回：障害モデルと理学療法評価の関連性 高山 真希 ・目標：理学療法評価に関連する障害モデルについてまとめ、説明する。 第4・5回：理学療法の専門領域（中枢神経系） 吉本 好延 ・目標：中枢神経疾患の病態、症状、必要な評価についての概要を理解する。 第6・7回：理学療法の専門領域（運動器系） 根地嶋 誠 ・目標：運動器疾患の病態、症状、必要な評価についての概要を理解する。 第8・9回：理学療法の専門領域（内部障害系） 俵 祐一 ・目標：内部障害疾患の病態、症状、必要な評価についての概要を理解する。 第10・11回：理学療法の応用（生活期の関わり方） 矢部 広樹 ・目標：生活期の患者の問題点、対応方法、必要な評価の概要を理解する。 第12・13回：理学療法の応用（義肢・装具への対応について） 高橋 大生 ・目標：義肢・装具使用患者の問題点、対応方法、必要な評価の概要を理解する。 第14回：臨床推論の基礎 俵 祐一 ・目標：これまでに提示した症例の情報を障害モデルと関連図で整理し、必要な検査・測定法、評価法をあげ、簡単な臨床推論ができる。 第15回：理学療法診断（評価）の意義を考える。 俵 祐一 ・これまでの授業内容に関連した確認テストを実施する。 ・授業の振り返りおよびまとめを行う。
アクティブラーニング	・各セッションの課題をグループワークでまとめ、プレゼンテーションを行う ・授業時間中に適宜、学生間でディスカッションする時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技的なものに関しては演習を通して解説する
授業内のICT活用	・WebClass にプレゼンテーション用のパワーポイントをアップし、グループで発表を行う。 ・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。 ・教員との質疑応答や教員からの文献紹介はWebClass の掲示板で知らせる。 ・定期的にWebClass で小テストを実施し、学修の到達度を確認する。

評価方法	課題提出物 30%、グループワーク資料・発表（質問および参加状況）20%、小テストおよび確認テスト 50%				
課題に対するフィードバック	・必要に応じてプレゼンテーションおよびディスカッションの途中で補足、終了後に総括を行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
理学療法評価学テキスト 改訂第2版	細田 多穂 監修	南江堂	5500	9784524266579	
【第3版】PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート 理学療法士・作業療法士	中島雅美/編	医歯薬出版	4000	9784263216750	
PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート 3版	中島 雅美 著	医歯薬出版	4000	9784263265512	
理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート第3版	中島 雅美	医歯薬出版	4000	9784263266762	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
理学療法評価法 第3版	千住 秀明 監修 中島 喜代彦 他編	神陵文庫	4500	9784915814310	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修として、グループワーク資料作成と発表練習を行う（50分）。 ・事後学修として、授業の振り返りとまとめを行う（50分）。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（yuichi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	理学療法診断技術学
科目責任者	田中 なつみ
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 3 メモ
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法において、理学療法診断(評価)は対象者の問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。本科目では、理学療法士として基本的な評価を実施できるようにするために、基本的な理学療法評価(筋力測定やバランス検査など)の種類や原理、実施方法などについて、基礎知識・技術・態度を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な理学療法対象疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 2. 基本的な理学療法評価の方法と原理を説明できる 3. 基本的な理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる
授業計画	<p><担当教員> 田中なつみ, 有蘭信一, 金原一宏, 矢倉千昭, 吉本好延, 俵 祐一, 根地嶋誠, 矢部広樹, 高山真希, 高橋大生 ※1~8 回、10~14 回: 田中, 矢部, 高山の 3 名で担当 9 回、15 回の総合演習は全員で対応します</p> <p><授業内容・テーマ等> 第 1 回: オリエンテーション 担当教員: 田中, 矢部, 高山</p> <p>第 2 回: 上肢(肩関節・肘関節・手関節)の関節可動域・アライメント評価 担当教員: 田中, 矢部, 高山 目標(第 2~4 回): 各回を通して、上肢の機能(関節可動域・アライメント・筋力・動作・腱反射・感覚(痛みを含む))を評価することができ、その評価結果を基に上肢機能に関わる要因について、複合的に統合と解釈ができる</p> <p>第 3 回: 上肢(肩関節・肘関節・手関節)の筋力・動作の評価 担当教員: 田中, 矢部, 高山</p> <p>第 4 回: 上肢(肩関節・肘関節・手関節)の腱反射・感覚検査 担当教員: 田中, 矢部, 高山</p> <p>第 5 回: 下肢の関節可動域・アライメント評価 担当教員: 田中, 矢部, 高山 目標(第 5~7 回): 各回を通して、下肢の機能(関節可動域・アライメント・筋力・動作・腱反射・感覚(痛みを含む))やバランスを評価することができ、その評価結果を基に複合的に統合と解釈ができる</p> <p>第 6 回: 下肢の筋力・動作の評価 担当教員: 田中, 矢部, 高山</p> <p>第 7 回: 下肢の腱反射・感覚検査・バランス検査 担当教員: 田中, 矢部, 高山</p> <p>第 8 回: 姿勢(座位・立位)・動作/歩行分析 担当教員: 田中, 矢部, 高山 目標:</p>

	<p>各姿勢や動作・歩行を観察することができ、その要因について身体の機能と結び付けて分析できる</p> <p>第9回：理学療法診断技術学総合演習① 担当教員：全員</p> <p>第10回：頰椎・肩甲帯の評価 担当教員：田中、矢部、高山 目標： 頰椎の関節可動域・アライメント・筋力・動作・感覚（痛みを含む）を評価することができ、その評価結果から、頰椎・肩甲帯の動きに関わる要因について複合的に統合と解釈ができる</p> <p>第11回：脊椎の評価 担当教員：田中、矢部、高山 目標： 脊椎の関節可動域・アライメント・筋力・動作・感覚（痛みを含む）を評価することができ、その評価結果から、脊椎の動きに関わる要因について複合的に統合と解釈ができる</p> <p>第12回：バイタルサイン 担当教員：田中、矢部、高山 目標： バイタルサインについて、各項目の方法と原理を理解し、評価できる</p> <p>第13回：画像診断，血液検査，医学的検査 担当教員：田中、矢部、高山 目標： 画像診断，血液検査，医学的検査について，方法と原理を理解し，評価できる</p> <p>第14回：フィジカルアセスメント 担当教員：田中、矢部、高山 目標： フィジカルアセスメントの意義，方法を理解し，評価できる</p> <p>第15回：理学療法診断技術学総合演習② 担当教員：全員</p> <p>※ユニフォームで参加してください。 ※レポート課題 第4回，第7回，第12回の終了時に模擬症例を提示します。 提示した症例において必要な評価項目を列挙し，考えられうる機能障害について記載してください。</p>
アクティブ ラーニング	本授業はグループワークを適宜採用したり，モデルケースを想定しての実際の技術演習を積極的に行ないます。
授業内の ICT 活用	動画資料などによる実技解説をプロジェクターを適宜利用して行います。
評価方法	筆記試験 40%，小テスト 40%，レポート 20% レポートはルーブリックを用いない。

課題に対するフィードバック	授業の実技にて、評価手技習得の達成度をフィードバックします。
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著 南江堂
参考図書	理学療法評価法：千住秀明監修，中島喜代彦編集（九州神陵文庫）
事前・事後学修	痛み，関節可動域測定，筋力検査，反射，感覚検査，アライメント，バランス検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習，事後学習を行ってください。 特に上肢，下肢，体幹の解剖学，運動学の知識については事前学習に沿って各回の前に確認しておくこと（30分） 事後学修では実技の練習を中心に行ってください（30分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（natsumi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	神経系理学療法評価学
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目では、中枢神経疾患に伴う身体・精神機能障害、能力障害の把握に必要な症状発現のメカニズムと評価法について学習する。具体的には、中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う運動障害、感覚障害などの機能障害を理解する。中枢神経疾患における基本的な評価方法を理解する。
到達目標	1. 脳卒中患者の症状のメカニズムを説明できる。 2. 脳卒中患者の症状と評価との関連を説明できる。 3. 神経難病患者の病態と障害を理解する。
授業計画	<p>第1 回：10/6 吉本好延 コースオリエンテーション</p> <p>第一部：脳卒中 第2 回：吉本好延</p> <p>・事前課題①：あなたは、臨床実習に参加している学生です。右被殻出血の診断を受けた75歳のAさんの理学療法を担当します。Aさんは、「左手と左足が動かなくなったよ、歩けないんだ…」と担当PTに話しています。担当PTからは、左下肢のBRSステージがIIIという説明を受けました。Aさんは、なぜ左手足が動かなくなったのでしょうか？ただし、下記のキーワードを全て用いて回答してください。「血腫」「一次運動野」「内包」「外側皮質脊髓路」「脳内出血」「被殻」「前皮質脊髓路」「放線冠」「片麻痺」「前頭葉」→授業前日の21時までにwebclassに提出</p> <p>授業の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：15分間：事前課題の内容の理解度を確認 ・小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclassにアップ ・講義：15分間： ・学生の理解度に合わせて応用課題の提示を検討 ・授業資料の提出→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclassにアップ→理解度の確認(出席確認) <p>第3 回：吉本好延</p> <p>・事前課題②：あなたは、臨床実習に参加している学生です。左視床出血の診断を受けた75歳のAさんの理学療法を担当します。Aさんは、「右手と右足を触っている感じがわかりにくいんだ…」と担当PTに話しています。Aさんは、なぜ右手足を触っている感じがわかりにくいのでしょうか？ただし、下記のキーワードを全て用いて回答してください。「視床皮質路」「一次体性感覚野」「表在感覚」「後外側腹側核」「視床」「頭頂葉」→授業前日の21時までにwebclassに提出</p> <p>授業の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：15分間：事前課題の内容の理解度を確認 ・小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclassにアップ ・講義：15分間： ・学生の理解度に合わせて応用課題の提示を検討 ・授業資料の提出→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclassにアップ→理解度の確認(出席確認) <p>第4 回：吉本好延</p> <p>・事前課題③：あなたは、臨床実習に参加している学生です。右被殻出血の診断を受けた75歳のAさんの理学療法を担当します。Aさんは、「左手足が動かしにくいけど、変な感じ。立ち上</p>

がって歩こうとしたり、力を入れようとしたりすると勝手に手足が動いてしまう。左手は曲がってくるし、左足は伸びてしまう。なんだろうね…。思うように動かないから、すごく歩きにくいし、力が入って痛い時もあるんだ…」と担当 PT に話しています。A さんは、なぜ意図せず、過剰に力が入ってしまうのでしょうか？ ただし、下記のキーワードを全て用いて回答してください。「延髄網様体脊髄路」「前頭前野」「補足運動野」「橋網様体脊髄路」「痙縮」「前頭葉」「脳内出血」「被殻」

→ 授業前日 の 21 時まで w ebclass に提出

授業の手順

- ・小テスト：15 分間：事前課題の内容の理解度を確認
- ・小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ
- ・講義：15 分間：
- ・グループワーク
- ・授業資料の提出→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ→理解度の確認（出席確認）

第 5 回：吉本好延

講義（80 分座学）：口頭試問に向けた医学的知識の整理

ラクナ梗塞・アテローム血栓性脳梗塞・心原性脳塞栓症・BAD の基礎知識の復習：神経系医療学「脳梗塞によって運動麻痺が生じるのはなぜか？」

第 6 回：吉本好延

事前課題④：あなたは、臨床実習に参加している学生です。右小脳出血の診断を受けた 70 歳の A さんの理学療法を担当します。A さんは、「右手足が思うように動かない、力はそこそこ入るんだけど、物を掴もうとするとふるえが強くなって上手く握れないんだ…」と担当 PT に話しています。A さんは、なぜ動こうとすると過剰にふるえてしまうのでしょうか？ ただし、下記のキーワードを全て用いて回答してください。「誤差学習」「感覚フィードバック」「大脳小脳連関」「視床」「運動失調」「脳内出血」「小脳」→授業前日 の 21 時まで w ebclass に提出

授業の手順

- ・小テスト：15 分間：事前課題の内容の理解度を確認
- ・小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ
- ・講義：15 分間：
- ・グループワーク
- ・授業資料の提出→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ→理解度の確認（出席確認）

第 7 回：吉本好延・有菌信一・矢倉千昭・根地嶋誠・金原一宏・俵 祐一・高山真希・矢部広樹・高橋大生・田中なつみ

口頭試問→試験後、質問を受けた内容・回答した内容・教員からコメントを受けた内容をワードに記載して、まとめておく。当日中に webclass に提出（忘れてしまうので早めにお願ひします）

第 8 回：吉本好延

小テスト：第 2 回～第 10 回の授業

小テスト終了後→携帯のカメラで回答用紙を写真撮影し、webclass にアップ

第 9 回：矢倉千昭

脊髄損傷の病態と症状

第 10 回：脳卒中の高次脳機能障害：矢倉千昭

- ・高次脳機能障害の責任病巣と症状、特にリハビリテーションの効果をきたす代表的な高次脳機能障害と検査法を上げることができる。
- ・事前課題：頭頂葉の主な病巣とする高次脳機能障害の症状と頭頂葉の障害部位、症状出現側（右側・左側）についてまとめなさい。

・学修内容：事前にグループワークを行い、脳卒中片麻痺患者の代表的な高次脳機能障害である半側空間無視、Pusher 症候群、失語症と評価についてまとめる。授業では、グループワーク発表と解説を行い、高次脳機能障害と評価について理解を深める。

第11回：脳卒中の画像診：矢倉千昭

- ・学修目標：CT・MRI 画像から MRI 画像から、予測される障害（運動麻痺、感覚障害、高次脳機能障害）をあげることができる。
- ・事前課題：脳の出血（被殻・視床）・梗塞（前大脳動脈、中大脳動脈、後大脳動脈、小脳・椎骨動脈）によって出現が予測される障害（運動麻痺、感覚障害、高次脳機能障害など）についてまとめなさい。
- ・学修内容：事前にグループワークを行い、脳出血と脳梗塞の画像の読み方についてまとめる。授業では、グループワーク発表と解説を行い、脳出血と脳梗塞の CT・MRI 画像の読解、出現が予測される障害について理解を深める。
- ・小テスト：脳卒中の高次脳機能障害と画像診断について解答する。

第3部：神経難病患者の病態・症状発現のメカニズムの理解・主な理学療法評価

第12回：矢倉千昭

パーキンソン病の評価を学ぶ。

- ・学修目標：大脳基底核と錐体外路の構造と機能を理解し、パーキンソン病の病態と症状が出現する理由を述べることができる。パーキンソン病の症状を踏まえた評価項目をあげることができる。
- ・事前課題：パーキンソン病の病態と症状の特徴についてまとめなさい。
- ・学修内容：事前にグループワークを行い、パーキンソン病の症状を踏まえた評価項目をまとめる。授業では、グループワーク発表と解説を行い、大脳基底核と錐体外路の構造と機能、パーキンソン病の病態、症状、評価について理解を深める。

第13回：：矢倉千昭

多系統萎縮症の評価を学ぶ

- ・学修目標：多系統萎縮症の要因、病態、症状を理解し、多系統萎縮症の症状を踏まえた評価項目をあげることができる。
- ・事前課題：多系統萎縮症の病態と症状の特徴についてまとめなさい。
- ・学修内容：事前にグループワークを行い、多系統萎縮症の症状を踏まえた評価項目をまとめる。授業では、グループワーク発表と解説を行い、多系統萎縮症の要因、病態、症状、評価について理解を深める。
- ・小テスト：パーキンソン病と多系統萎縮症の評価について解答する。

第14回：：矢倉千昭

多発性硬化症の評価を学ぶ。

- ・学修目標：多発性硬化症の要因、病態、症状を理解し、多発性硬化症の症状を踏まえた評価項目をあげることができる。
- ・事前課題：多発性硬化症の病態と症状の特徴についてまとめなさい。
- ・学修内容：事前にグループワークを行い、多発性硬化症の症状を踏まえた評価項目をまとめる。授業では、グループワーク発表と解説を行い、多発性硬化症の要因、病態、症状、評価について理解を深める。

第15回：：矢倉千昭

筋萎縮性側索硬化症の評価を学ぶ。

- ・学修目標：筋萎縮性側索硬化症の要因、病態、症状について説明する。
- ・事前課題：筋萎縮性側索硬化症の病態と症状の特徴についてまとめなさい。
- ・学修内容：事前にグループワークを行い、筋萎縮性側索硬化症の症状を踏まえた評価項目をまとめる。授業では、グループワーク発表と解説を行い、筋萎縮性側索硬化症の病態、症状、進行状況を踏まえた評価について理解を深める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価について解答する。
アクティブ ラーニング	<p>授業前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題がある場合は事前学修を個人で行い、事前学習シートを weclass に提出してください。 ・事前学習シートには必ず参考文献を記載するようにしてください。 ・提出日は授業開始 1 日前の 21 時とします (事前学修)。 <p>授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ weclass で最初の出席確認を行います。 ・席の移動・学生同士の会話は自由に行ってください。 ・授業時に課題を示されます。個人で成果物を作成し、授業時の課題提出場所に提出してください。 ・課題が提出されると、学生自己評価が入力できるようになるので、入力を持って出席確認とします。
授業内の ICT 活用	<p>Weclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・COVID19 の感染助教によっては ZOOM 活用</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問は必ず合格をもらってください。合格できていない場合は単位認定を認めません。 ・口頭試問以外の試験・成果物 (小テスト・課題提出) は、小テスト：80%・課題提出：20%で計算する。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の途中で教員が随時補足していきます。
指定図書	<p>『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを实践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア</p>
参考図書	<p>ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著 『PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一</p>
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う (各授業 2 時間程度)。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する (各授業 2 時間程度)。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時~18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対々授業 の実施に ついて	なし

科目名	内部障害系理学療法評価学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 4 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価するために必要である基礎的な知識と技能を備え、客観的かつ科学的観点から物事を洞察できる能力を習得する事を目的に、内部障害疾患（特に呼吸・循環・代謝系疾患）の病態生理ならびに疾患に対する理学療法評価を整理する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉え、説明することができる。 2. 循環器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉え、説明することができる。 3. 代謝系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉え、説明することができる。
授業計画	<p>担当教員：俵祐一・有菌信一・矢部広樹・四十宮公平、金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、高橋大生、高山真希、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回 コースオリエンテーション 内部障害系理学療法学総論（俵） －内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第2回 呼吸器系理学療法評価学（1）COPD，間質性肺炎（俵） －呼吸器疾患に対する理学療法評価の方法と実際</p> <p>第3回 呼吸器系理学療法評価学（2）（俵）</p> <p>第4回 呼吸器系理学療法評価学（3）（俵）</p> <p>第5回 呼吸器系理学療法評価学（4）（俵）</p> <p>第6回 循環器系理学療法評価学（1）狭心症，急性心筋梗塞，心不全（有菌）</p> <p>第7回 循環器系理学療法評価学（2）（有菌）</p> <p>第8回 循環器系理学療法評価学（3）（有菌）</p> <p>第9回 循環器系理学療法評価学（4）（有菌）</p> <p>第10回 呼吸器系循環器系理学療法評価学（1）（俵）</p> <p>第11回 呼吸器系循環器系理学療法評価学（2）（俵）</p> <p>第12回 腎臓および代謝系理学療法評価学（1）（矢部）</p> <p>第13回 腎臓および代謝系理学療法評価学（2）（矢部）</p> <p>第14回 急性期理学療法評価（ゲスト杉谷・俵）</p> <p>第15回 確認テスト、振り返り、まとめ（全教員）</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークでまとめ、プレゼンテーションを行う ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間でディスカッションする時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技的なものに関しては演習を通して解説する
授業内のICT活用	PCで資料作成し、プロジェクターを用いてプレゼンテーションを行う
評価方法	小テスト 30%，課題提出物 20%，講義およびグループワークへの参加状況 20%，確認テスト（口頭試問） 30%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
内部障害理学療法学テキスト (改訂第4版)	細田多穂	南江堂	5200	9784524231171	
呼吸器リハビリテーション入門 第4版	千住 秀明 著	神陵文庫	3500	9784915814167	
参考図書	なし				
事前・事後学修	循環器疾患, 代謝疾患, 呼吸器疾患などをキーワードに事前学習を行ってください (50分)。症例報告などを中心に評価の実際について, 事後学習してください (50分)。				
オープンエデュケーションの活用	呼吸器疾患の自主学修として、以下の URL のオンライン教材での学修を勧めます。 独立行政法人 環境再生保全機構： https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/copd/index.html				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yuichi-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	運動器系理学療法評価学																															
科目責任者	根地嶋 誠																															
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 4 セメスター																															
DP 番号と科目領域	DP2 専門																															
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																															
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し(画像所見含む)、それらに対する理学療法評価について学習する。特に整形外科的検査について、方法や原理、目的などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を概説できること、代表的な運動器疾患における評価方法の種類を挙げることができること、評価の方法を説明し実践できること、評価方法の原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 3. 理学療法評価の方法と原理を説明できる 4. 理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる 																															
授業計画	<p><担当教員> 金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、俵佑一、根地嶋誠、矢部広樹、高橋大生、高山真希、田中なつみ、杉浦武</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))</td> <td><担当教員名> (根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：運動器系理学療法学総論 2 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：股関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性股関節症，THA の病態と理学療法評価)</td> <td>(高山)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：股関節の疾患と理学療法評価 2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)</td> <td>(高山)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：膝関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性膝関節症，TKA の病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：膝関節の疾患と理学療法評価 2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 2 (腰痛の病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 3 (脊髄損傷の病態と理学療法評価)</td> <td>(根地嶋、高山)</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：総合演習 (病態と理学療法評価の理解)</td> <td>(金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、俵佑一、根地嶋誠、矢部広樹、高橋大生、高山真希、田中なつみ)</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：関節リウマチの理学療法評価 1 (関節リウマチの病態と理学療法評価)</td> <td>(高山)</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：関節リウマチの理学療法評価 2 (関節リウマチの病態と理学療法評価)</td> <td>(高山)</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：理学療法評価の実際 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)</td> <td>(杉浦武)</td> </tr> </table>		第 1 回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	<担当教員名> (根地嶋)	第 2 回：運動器系理学療法学総論 2 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	(根地嶋)	第 3 回：股関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性股関節症，THA の病態と理学療法評価)	(高山)	第 4 回：股関節の疾患と理学療法評価 2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)	(高山)	第 5 回：膝関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性膝関節症，TKA の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第 6 回：膝関節の疾患と理学療法評価 2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第 7 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第 8 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 2 (腰痛の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第 9 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第 10 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)	(根地嶋)	第 11 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 3 (脊髄損傷の病態と理学療法評価)	(根地嶋、高山)	第 12 回：総合演習 (病態と理学療法評価の理解)	(金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、俵佑一、根地嶋誠、矢部広樹、高橋大生、高山真希、田中なつみ)	第 13 回：関節リウマチの理学療法評価 1 (関節リウマチの病態と理学療法評価)	(高山)	第 14 回：関節リウマチの理学療法評価 2 (関節リウマチの病態と理学療法評価)	(高山)	第 15 回：理学療法評価の実際 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)	(杉浦武)
第 1 回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	<担当教員名> (根地嶋)																															
第 2 回：運動器系理学療法学総論 2 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価(画像所見含む))	(根地嶋)																															
第 3 回：股関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性股関節症，THA の病態と理学療法評価)	(高山)																															
第 4 回：股関節の疾患と理学療法評価 2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)	(高山)																															
第 5 回：膝関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性膝関節症，TKA の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																															
第 6 回：膝関節の疾患と理学療法評価 2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																															
第 7 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)	(根地嶋)																															
第 8 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 2 (腰痛の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																															
第 9 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																															
第 10 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)	(根地嶋)																															
第 11 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 3 (脊髄損傷の病態と理学療法評価)	(根地嶋、高山)																															
第 12 回：総合演習 (病態と理学療法評価の理解)	(金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、俵佑一、根地嶋誠、矢部広樹、高橋大生、高山真希、田中なつみ)																															
第 13 回：関節リウマチの理学療法評価 1 (関節リウマチの病態と理学療法評価)	(高山)																															
第 14 回：関節リウマチの理学療法評価 2 (関節リウマチの病態と理学療法評価)	(高山)																															
第 15 回：理学療法評価の実際 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)	(杉浦武)																															

アクティブ ラーニング	グループワーク（グループ発表，ディスカッション）
授業内の ICT活用	webless を用いた相互評価，資料の提示
評価方法	小テスト 15%，総合演習課題 30%，単元テスト 40%，リアクションペーパー15%
課題に対す るフィード バック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	PT 入門 イラストでわかる運動器障害理学療法 第1版（医歯薬出版株式会社）
参考図書	標準整形外科学 第15版（医学書院）
事前・ 事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について 40 分程度学んでおくこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	なし

科目名	理学療法検査測定演習
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 3 メモター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は、理学療法診断技術学で学んだ知識と技術を整理、習得する。代表的な病態に対し、基本的な理学療法評価から必要なものを選択し、健常者を対象として基本的な検査測定を実施できることを目標とする。授業では、対象者への配慮と医療者としての接遇を身に付け、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、バイタルサイン、精神機能検査、感覚・反射検査、疼痛評価等を実施する
到達目標	1. 健常者を対象に、基本的な理学療法評価を適切な技術と相手を尊重した態度で実施できる 2. 報告会や実技演習で経験したことを報告できる
授業計画	<p><担当教員> 矢部広樹、有蘭信一、金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、俵 祐一、根地嶋誠、高橋大生、高山真希、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員> 授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：整形外科疾患を想定した上肢の評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 3 回：中枢神経疾患を想定した上肢の評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 4 回：臨床場面を想定した上肢の評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 5 回：整形外科疾患を想定した下肢の評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 6 回：中枢神経疾患を想定した下肢の評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 7 回：臨床場面を想定した下肢の評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 8 回：医療面接、評価の導入 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 9 回：理学療法診断技術学総合演習① 全員</p> <p>第 10 回：座位で行う評価、離床時に行う評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 11 回：立位で行う評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 12 回：歩行時に行う評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 13 回：カルテ情報から行う評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 14 回：特別な測定機器を用いずに行う評価 矢部広樹・田中なつみ・高山真希</p> <p>第 15 回：理学療法診断技術学総合演習② 全員</p> <p>者へのメッセージ：ケーシーで参加してください。</p>
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れてアクティブラーニングを実施します

授業内のICT活用	Webclass を用いてポートフォリオを作成します
評価方法	実技総合演習の遂行状況 70% 課題提出物(リアクションペーパー)30% 実技総合演習はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。(提示方法: WebClass に掲載および配布)
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、授業内では口頭で、授業後はWebClass を用いて個別にフィードバックする。グループ発表と演習のフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	新・徒手筋力検査法: 津山直一・他訳 (協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭・他著 (南山堂) 理学療法評価学テキスト: 細田多穂著 南江堂 金原出版、PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版、才藤栄一監修
参考図書	なし
事前・事後学習	毎回の授業前に、授業に該当する事前課題を提示します。 上肢、下肢、頸部、体幹、それぞれの解剖学、運動学の知識および評価方法について、事前課題に沿って各回の前に確認しておくこと (30分)。関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、バランス検査、運動負荷試験、医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習、事後学習を行ってください (30分)。 第9回、15回の総合演習では、振り返りの事後課題を設定します (30分)。
オープンエデュケーションの活用	「なし」
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3516 研究室 時間等: 毎週水曜日 12時~13時 上記以外でもメール (hiorki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	理学療法評価演習
科目責任者	高橋 大生
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	高度な知識と技術を修得するために、疾患や障害に対する理学療法の知識・技術を学ぶ。実技演習により、理学療法現場に必要な臨床能力(知識・態度・技能)の修得を目指し、知識演習により、理学療法現場に対応した知識・思考力(臨床推論能力)を修得を目指す。施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	これまで学習した基礎的な知識と専門的な知識を統合し、理解できる。具体的には、臨床理学療法評価実習Ⅱに必要な以下の3項目を修得する。 1. 知識：標準的な国家試験問題で6割程度解答できる 特に基礎編の知識を応用できる 2. 技術：基本的な理学療法評価を实践でき、各種疾患や障害についての知識と結びつけることができる 3. 態度：医療従事者と同等のレベルの言葉使いや行動をとることができる
授業計画	<p><担当教員> 高橋大生、有藪信一、矢倉千昭、吉本好延、金原一宏、根地嶋誠、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、田中なつみ、演習協力者 (すべての内容を教員全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回コースオリエンテーション：科目全体の流れを把握する。 高橋</p> <p>第2回理学療法知識演習Ⅰ(運動器理学療法) 教員全員</p> <p>第3回理学療法知識演習Ⅱ(運動器理学療法) 教員全員</p> <p>第4回理学療法知識演習Ⅲ(神経理学療法) 教員全員</p> <p>第5回理学療法知識演習Ⅳ(神経理学療法) 教員全員</p> <p>第6回理学療法知識演習Ⅴ(内部障害理学療法) 教員全員</p> <p>第7回理学療法知識演習Ⅵ(内部障害理学療法) 教員全員</p> <p>第8回実技演習Ⅰ(臨床技能確認演習) (教員全員+演習協力者)</p> <p>第9回実技演習Ⅱ(臨床技能確認演習) (教員全員+演習協力者)</p> <p>第10回実技演習Ⅲ(臨床技能確認演習) (教員全員+演習協力者)</p> <p>第11回実技演習Ⅳ(臨床技能確認演習) (教員全員+演習協力者)</p> <p>第12回実技演習Ⅴ(臨床技能確認演習) (教員全員+演習協力者)</p> <p>第13回実技演習Ⅵ(臨床技能確認演習) (教員全員+演習協力者)</p> <p>第14回理学療法回知識演習Ⅶ(Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験) 高橋</p> <p>第15回理学療法回知識演習Ⅷ(Computer-Based-Testing：CBTによる知識確認試験) 高橋</p> <p>第2回～7回までに行った学習を第8回～13回の実技演習で整理し、各領域の理学療法現場に対応した知識・思考力(臨床推論能力)を確認する</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で患者役、医療従事者役を設定し、口頭で説明をする・評価をする(実技)ことで臨床現場を想定してグループ学修を進める。 ・iPadを活用し、実際に実技場面などをビデオに撮影し、その動画を確認しながら学生同士がお互いにフィードバックを行うことで、知識や実技向上に努め、学生自身の問題解決能力を養う。
授業内のICT活用	WebClassを用いて資料の共有や提出物の確認等を行います。 ZOOMを利用した予習・復習を行います。
評価方法	<p>知識演習・技能演習：100%</p> <p>*知識演習と技能演習の結果から総合的に評価します。</p> <p>*口頭試問・臨床技能確認演習はルーブリックを使用して到達度を判定します。</p>

<p>課題に対するフィードバック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識演習 1回目：運動器理学療法、2回目：神経理学療法、3回目：内部障害理学療法について試験官である教員の質問に口頭で回答します。質問内容は、事前配布したキーワードリストから出題されます。キーワードの意味や繋がりについて専門用語を用いて説明します。 ・臨床技能確認演習 疾患情報を基に理学療法評価を実施します。 <p>※試験官が演習後にフィードバックを行います。 ※演習時間は一人15分程度、服装は実習着、身だしなみや態度も評価に含みます。</p>
<p>指定図書</p>	<p>なし</p>
<p>参考図書</p>	<p>なし</p>
<p>事前・事後学修</p>	<p>計画的かつ自主的に学修を進めてください。これまで学んだ知識の整理、口頭説明、評価・治療の実施について、学修します。本科目は臨床理学療法評価実習Ⅰと並行して学修する科目です。臨床理学療法評価実習Ⅱのための前提科目です。事前・事後学修は原則60分程度行ってください。</p>
<p>オープンエデュケーションの活用</p>	<p>なし</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間等：授業の際に提示します</p>
<p>実務経験に関する記述</p>	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
<p>対面授業の実施について</p>	<p>実施しない</p>

科目名	基礎理学療法治療学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	各種疾患・障害に共通して実施される基礎的な理学療法を実践するために、必要な基礎的な知識・技術を習得する。本科目では、痛みや運動障害に対する理学療法の基礎となるマッサージ、モビライゼーション(関節, 神経)、固有受容性神経筋促通法(PNF)、ハンドリングならびに筋力トレーニングの基礎・技術を習得する。
到達目標	1. 痛みに対する運動療法の基本的知識・理論や技能を習得する。 2. 運動障害に対する運動療法の基本的知識・理論や技能を習得する。
授業計画	<p><担当教員>有菌信一 金原一宏 高山真希 高橋大生 田中なつみ <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：上肢 マッサージ, モビライゼーション(関節, 神経) 1 金原一宏 第2回：上肢 マッサージ, モビライゼーション(関節, 神経) 2 金原一宏 第3回：体幹 マッサージ, モビライゼーション(関節, 神経) 1 金原一宏 第4回：体幹 マッサージ, モビライゼーション(関節, 神経) 2 金原一宏 第5回：下肢 マッサージ, モビライゼーション(関節, 神経) 1 金原一宏 第6回：下肢 マッサージ, モビライゼーション(関節, 神経) 2 金原一宏 第7回：固有受容性神経筋促通法(PNF)の実践1 有菌信一 第8回：固有受容性神経筋促通法(PNF)の実践2 有菌信一 第9回：固有受容性神経筋促通法(PNF)の実践3 有菌信一 第10回：ハンドリングの実践1 有菌信一 第11回：ハンドリングの実践2 有菌信一 第12回：ハンドリングの実践3 有菌信一 第13回：筋力トレーニングの実践 高橋大生 第14回：各理学療法手技についての理解および実践の確認1 高山真希・田中なつみ 第15回：各理学療法手技についての理解および実践の確認2 高山真希・田中なつみ</p>
アクティブラーニング	グループワークおよび実技, 演習を予定しています
授業内のICT活用	実技指導のための動画やプレゼンテーション資料はプロジェクターを利用して行います。
評価方法	実技テスト80%、質疑応答20%
課題に対するフィードバック	グループワークでの実技, 演習での指導、等
指定図書	竹井仁, 他編, 「系統別・治療手技の展開 改定第3版」 協同医書出版 佐藤和紀 パリス・アプローチ 文光堂

参考図書	柳澤健, 他訳, 「PNF ハンドブック 第4版」 丸善出版
事前・ 事後学修	マッサージ、モビライゼーション（関節、神経）、固有受容性神経筋促通法（PNF）、ハンドリング、筋力トレーニングなどをキーワードに事前学習を行ってください。 運動療法による治療の実際について、症例報告などを中心に事後学習してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施に ついて	なし

科目名	小児理学療法学
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 4 ヲメスカー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	子どもの正常発達とその原理、および小児疾患（脳性麻痺、二分脊椎、ペルテス病、筋ジストロフィー症、ダウン症など）の基礎（病態や障害像）を理解し、理学療法の評価と治療についての基礎理論と技術を学習することで、小児理学療法分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。
到達目標	1. 子どもの理学療法に対する関心を高めることができる。 2. 子どもの正常発達過程とその原理、正常発達と異常発達の相違を説明することができる。 3. 子どもの理学療法に対する基本的な評価と治療の考え方を理解することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、人間発達の振り返り 矢部広樹・田中なつみ ・シラバスから学修内容を理解する ・子どもの正常発達に対する基本的な知識を確認する</p> <p>第2・3回：発達・運動発達の評価、脳性麻痺総論 矢部広樹・田中なつみ 目標：出生から生後12ヵ月までの姿勢反射と運動発達を整理し、姿勢反射の異常によって生じる運動発達障害について理解する ①脳性麻痺の定義、疫学、原因と病理、分類（病型）について ②脳性麻痺の症状と二次障害について ③脳性麻痺に対する理学療法の評価から治療までの概要 授業内容：脳性麻痺の運動発達の遅れの特徴について解説し、脳性麻痺に対する理学療法評価の着目点を理解する。</p> <p>第4・5回：脳性麻痺に対する理学療法の評価と治療 矢部広樹・田中なつみ 目標：脳性麻痺に対する理学療法の評価と治療の基本的な考え方を理解する 脳性麻痺の痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺、痙直型片麻痺、アテトーゼ型の障害の特徴について理解する ①痙直型四肢麻痺に対する理学療法の評価と治療の考え方を述べる ②痙直型両麻痺に対する理学療法の評価と治療の考え方を述べる ③アテトーゼに対する理学療法の評価と治療の考え方を述べる 授業内容：脳性麻痺の理学療法について解説し、脳性麻痺に対する理学療法の着目点を理解する。</p> <p>第6回：正常発達過程と脳性麻痺児の運動発達支援（ハンドリング）[講義] 大城昌平 ・目標：ヒトの正常発達の過程を踏まえ、脳性麻痺児の運動発達を促す姿勢と動作に対するハンドリングを理解する。</p> <p>第7・8回：二分脊椎とペルテス病に対する理学療法の評価と治療 矢部広樹・田中なつみ 目標：二分脊椎とペルテス病に対する理学療法の評価と治療の基本的な考え方を理解する L1～S1 までの髄節レベルと支配筋、残存レベルを確認するキーマッスルについて理解する ①二分脊椎の概念、障害像、理学療法の評価から治療までの概要 ②二分脊椎に対する理学療法の評価と治療の考え方 ③ペルテス病に対する理学療法の評価と治療の考え方 授業内容：小児の整形外科疾患に対する理学療法について解説する</p> <p>第9・10回：遺伝性疾患、知的障害に対する理学療法の評価と治療 矢部広樹・田中なつみ 目標：遺伝性疾患、知的障害に対する理学療法の評価と治療の基本的な考え方を理解する ：遺伝性疾患や染色体異常により知的障害を示す疾患について理解する ①軽度知的障害に対する評価と治療の考え方 ②重度知的障害に対する評価と治療の考え方 ③強度行動障害に対する評価と治療の考え方</p>

	<p>小児理学療法の実際</p> <p>第11回：小児の呼吸障害</p> <p>第12回：小児の呼吸障害</p> <p>第13回：小児リハビリテーションの実際</p> <p>第14回：小児リハビリテーションの実際</p> <p>第15回：まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の知識確認試験 ・小児理学療法学での学びを振り返る 	<p>ゲストスピーカー</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>伊藤信寿</p> <p>伊藤信寿</p> <p>矢部広樹・田中なつみ</p>
アクティブ ラーニング	<p>○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の事前課題で学修するための基礎知識を身につける。 ・グループワーク課題の作成とグループ発表を通じ、基本的な小児理学療法学を理解する。 ・グループ発表資料をWebClassにアップし、PC等を活用して授業に参加する。 ・グループ発表後、質疑応答を行い、教員が補足説明、文献等を提示し、知識の定着と理解を深める。 	
授業内の ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・教員との質疑応答や教員からの文献紹介はWebClassの掲示板で知らせる。 ・定期的にWebClassのテストを実施し、学修の到達度を確認する。 	
評価方法	知識確認試験 80%，参加・態度 20%	
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて発表の途中で補足、終了後に総括を行う。 ・WebClassのアンケートの質問を確認し、WebClassの掲示板または次回の授業で回答する。 	
指定図書	細田多穂（監）：小児理学療法学テキスト 第3版（南江堂）	
参考図書	田原弘幸（編）理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法 第2版」（神陵文庫）	
事前・ 事後学修	<p>事前学修として、個人課題、グループワーク資料作成を行う（各回=30分）。</p> <p>事後学修として、授業の振り返りとまとめを行う（各回=10分）。</p>	
オープンエ デュケーシ ョンの活用	Webでアップされている子どもの運動発達、脳性麻痺、二分脊椎などに関する動画を紹介する。	
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3516研究室（矢部研究室）</p> <p>上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>	
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。	
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	なし	

科目名	神経系理学療法治療学
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2 単位 (60 時間) 理学必修 5 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害を理解し、これらに対する理学療法の理論 (原理・原則) を学ぶ。総合学習は、評価結果を踏まえて、治療プログラムが立案できることを目標に、授業を行う。
到達目標	1. 脳卒中の病態と障害を理解し、基本的な理学療法の原理・原則を説明することができる。 2. 神経疾患、脊髄損傷の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。
授業計画	<p>第一部：脳卒中患者の理学療法評価の振り返り</p> <p>■第 1・2 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題①：「脳卒中患者 A さんの理学療法評価を立案してください」 ・事前課題②：「理学療法評価が必要と考えた根拠を説明してください。」 <p>→2 年生の振り返り</p> <p>第二部：回復期・慢性期脳卒中患者の理学療法</p> <p>■第 3 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題③：「脳卒中患者の損傷された皮質脊髄路は運動によって改善するのか?」。 <p>ニューロン・アンマスキング・発芽形成・Hebb の法則・神経学的代償・シナプス伝達効率・可塑性・豊かな環境・ニューロリハビリテーションの全てのキーワードを用いて説明してください。</p> <p>■第 4 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題④：症例提示：「麻痺側遊脚期の足クリアランスを改善し、つまずきを防止するための介入は何か?」(webclass に詳細)。短下肢装具・足関節背屈・股関節屈曲・FES・立脚時間の短縮・立脚後期の全てのキーワードを用いて説明してください。 <p>■第 5 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題③-④の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ <p>■第 6 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題⑤：症例提示：「麻痺側立脚期の膝折れを改善し、下肢への体重負荷を促すための介入は何か?」(webclass に詳細)。長下肢装具・立位・歩行・杖・膝関節伸展筋・股関節伸展筋・部分免荷トレッドミル (懸垂装置) の全てのキーワードを用いて説明してください。 <p>■第 7 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題⑥：症例提示：「麻痺側上肢の機能改善を促す介入は何か?」(webclass に詳細) 課題指向型アプローチ・トランスファーパッケージ・行動契約・モニタリング・問題解決技法・CI 療法の全てのキーワードを用いて説明してください。 <p>■第 8 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題③-⑥の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ <p>■第 9 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題⑦：「運動する場所はリハ室が良いか? 病棟が良いか? 在宅が良いか?」。課題指向型アプローチ・病棟リハビリ・訪問リハビリ・通所リハビリ・タスクシフティング (シェアリング) の全てのキーワードを考慮に入れて、説明してください。 <p>■第 10 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題③-⑦の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ <p>■第 11 回：吉本好延</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題⑧：「脳卒中患者の理学療法はいつまで行えばよいのか?」 予後予測・合併症・介護負担・セルフモニタリング・目標設定・フィードバック・ソーシャルネットワーク・認知行動療法・多職種連携の全てのキーワードを考慮して、説明してください。 <p>■第 12 回：吉本好延</p>

慢性脳卒中患者の理学療法の実践 ゲストスピーカー

第三部：急性期脳卒中患者の理学療法

■第13回：吉本好延

・事前課題⑨：「脳内出血患者の離床開始（リハ中止）基準となる血圧の値は、脳梗塞患者より低めに設定されるのはなぜか？」開頭血腫除去術・頭蓋内圧・脳ヘルニア・ペナンプラ・虚血・血栓融解療法・出血性梗塞・脳浮腫の全てのキーワードを用いて説明してください。

■第14回：吉本好延

・事前課題⑩：「血圧の変動が激しい脳梗塞患者の離床をすすめる際に、起立性低血圧に注意する必要があるのはなぜか？」ペナンプラ・虚血・血栓融解療法・遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（recombinant tissue-type plasminogen activator: rt-PA）・血行力学性梗塞の全てのキーワードを用いて説明してください。

■第15回：吉本好延

・事前課題③-⑩の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ

■第16回：吉本好延

・事前課題⑪：「発症後24時間以内の早期リハビリテーションは全ての患者に有効なのか？」。早期離床・ガイドライン・重症度・頭部挙上・虚血性ペナンプラ・脳出血の全てのキーワードを用いて説明してください。

■第17回：俵祐一・吉本好延

・事前課題⑫：症例提示：「嚥下障害患者の誤嚥性肺炎を予防するためのベッドサイドの介入は何か？」（webclass に詳細）：誤嚥性肺炎・不顕性誤嚥・嚥下反射・食事・口腔内清拭・ポジショニング

■第18回：吉本好延

・事前課題③-⑪の小テスト→携帯のカメラで写真を撮影し、webclass にアップ

■第19回：ゲストスピーカー（芦澤）

・急性期病院の理学療法
・脳脊髄液・クリッピング術・再出血・脳血管攣縮・水頭症・ドレナージ・廃用症候群

■第20回：ゲストスピーカー（芦澤）

・最新トピック-身体活動を高めることはできるのか？

第四部：神経難病の理学療法

第21, 22回：パーキンソン病の理学療法治療：矢倉千昭

・事前課題：パーキンソン病に対する運動療法を3つあげ、治療目的、期待される効果についてまとめなさい。

・学修目標：パーキンソン病に対する理学療法プログラムをあげることができ、期待される効果、エビデンスレベルを述べることができる。

・学修内容：パーキンソン病に対する薬物療法、外科的治療法、トピックスとして再生医療などの最新情報を説明する。グループワーク：パーキンソン病の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。

第23, 24回：神経変性疾患と脳血管性によるパーキンソン症候群の理学療法評価と治療：矢倉千昭

・事前学修：パーキンソニズムを呈する神経変性疾患を1つあげ、各疾患の病態と症状についてまとめなさい。

・学修目標：パーキンソニズムを呈する疾患、その病態と症状を説明し、理学療法プログラムをあげることができる。

・学修内容：パーキンソニズムを呈する神経変性疾患、脳血管疾患の要因、病態、症状、診断、治療法について説明する。グループワーク：パーキンソン症候群の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。

・小テスト：第11回、第12回のテスト

第25, 26回：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症の理学療法治療：矢倉千昭

・事前学修：YouTubeのALS患者の動画をみて、理学療法士の視点で、重要と考えられる問題点を3つあげ、その理由についてまとめなさい。

・学修目標：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症の進行状況を踏まえた理学療法プログラムをあげることができる。

・学修内容：筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症に対する治療法を説明する。グループワーク：

	<p>筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。</p> <p>第27回：パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症の理学療法の実際：ゲストスピーカー・</p> <p>第28回：小テスト (PD) 吉本</p> <p>第29, 30回：脊髄損傷の理学療法治療：矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：残存レベルがC5、C6、C7、C8、Th1レベルの頸髄損傷患者が行うことができる上肢運動についてまとめなさい。 ・学修目標：ミオトームとデルマトームを理解し、脊髄損傷に対する評価、残存機能を踏まえた理学療法プログラムをあげることができる。 ・学修内容：脊髄損傷の要因、病態と症状、残存レベルと遂行可能な動作、脊髄損傷の評価について説明する。グループワーク：脊髄損傷の症例を紹介し、症状を踏まえた理学療法プログラムをまとめる。 ・小テスト：第13回、第15回の小テスト
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、webclass に提出してください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします(事前学修)。 ・授業資料は開始前までにアップします。 ・授業日はPBL形式でグループでの課題解決に努めてください。 ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生が理解を促できるようにしてください。 ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclass に提出してください。授業開始1日前の21時とします(事後学修)。
授業内のICT活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・COVID19の対応により ZOOM
評価方法	小テスト：90% 課題提出物：10%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・webclass のタイムラインで随時行います。
指定図書	<p>地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他</p> <p>『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂</p> <p>『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア</p> <p>『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一</p>
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う(各授業2時間程度)。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する(各授業2時間程度)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16時~18時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	内部障害系理学療法治療学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	2 単位 (60 時間) 理学必修 5 メモ
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価し、情報の統合と的確な判断を行なうために必要な専門知識を習得する。本科目では、内部障害系疾患(特に呼吸・循環器系・代謝系疾患, がん)の病態構造を把握しながら、理学療法プログラムの立案・効果の検証までを解説する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 2. 循環器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 3. 代謝系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 4. がん患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>有菌信一・俵祐一・矢部広樹・町口輝</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション 内部障害系理学療法治療学総論 (有菌・俵) －内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第 2 回：呼吸器系理学療法治療学 (1) (有菌・俵) －病態ならびに障害像の把握と理学療法評価の実践 (COPD)</p> <p>第 3 回：呼吸器系理学療法治療学 (2) (有菌・俵) －呼吸器疾患に対する理学療法の実践 (間質性肺炎)</p> <p>第 4 回：がん患者の理学療法治療学と呼吸器系理学療法治療学 (有菌・俵) －周術期における理学療法の評価と実践 (周術期)</p> <p>第 5 回：集中治療領域の呼吸器系理学療法治療学 (有菌・俵) －人工呼吸器に対する理学療法の実践 (人工呼吸器)</p> <p>第 6 回：がん患者の理学療法治療学 (有菌・俵) －化学療法、緩和ケアにおける理学療法の評価と実践 (Best support care)</p> <p>第 7 回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵) －循環器疾患に対する理学療法の実践 (心筋梗塞)</p> <p>第 8 回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵) －循環器疾患に対する理学療法の実践 (心不全)</p> <p>第 9 回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵) －循環器疾患に対する理学療法の実践 (心臓外科手術) －心電図の実際</p> <p>第 10 回：身体所見の取り方, 呼吸介助法 (俵・有菌)</p> <p>第 11 回：吸引 (俵・有菌)</p> <p>第 12 回：人工呼吸器 (NPPV) と酸素療法の実際 (俵・有菌)</p> <p>第 13 回：代謝系理学療法治療学 (1) (矢部) －病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第 14 回：代謝系理学療法治療学 (2) (矢部) －代謝疾患に対する理学療法の実践：運動処方理論と実際</p> <p>第 15 回：急性期病院における理学療法治療学 (ゲスト町口・有菌) *1 回を 2 コマとする</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内の ICT 活用	PC でプレゼンテーション, 資料作成

評価方法	テスト(60%), レポート(40%)にて評価する
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	内部障害理学療法学第2版 標準理学療法学 奈良勲監修 医学書院 呼吸・心臓リハビリテーション 居村茂幸監 羊土社
参考図書	無し
事前・事後学修	循環器疾患, 代謝疾患, 呼吸器疾患, がんなどをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に運動療法の実際について, 事後学習してください
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3513 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください. 講義と実習を組み合わせながら進めていきます. ユニフォームを着用して下さい。1回は2コマです。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	運動器系理学療法治療学	
科目責任者	根地嶋 誠	
単位数他	2 単位(60 時間) 理学必修 5 セミナー	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。	
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法プログラムを学習する。理学療法プログラムの種類や方法、原理などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を説明できること、代表的な運動器疾患に対するプログラムの種類を挙げることができ、具体的な方法を説明し実践できること、プログラムの原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法プログラムの項目を列挙できる 3. 理学療法プログラムの方法と原理を説明できる 4. 理学療法プログラムを適切な技術と態度で実施できる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1・2 回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)</p> <p>第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)</p> <p>第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニア(末梢神経障害含め)の理学療法アプローチ)</p> <p>第 15・16 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 3 (脊髄損傷の理学療法アプローチ)</p> <p>第 17・18 回：技術総合演習 (病態からの推論、治療アプローチ)</p> <p>第 19・20 回：下肢障害の理学療法の実際 (スポーツ傷害含む)</p> <p>第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷，肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)</p> <p>第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (上肢疾患の理学療法の実際、スポーツ傷害含む)</p> <p>第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)</p> <p>第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)</p> <p>第 29・30 回：成長期の運動器傷害・スポーツ外傷に対する理学療法 (検査測定およびアプローチの実際)</p>	<p><担当教員名></p> <p>根地嶋</p> <p>高山</p> <p>高山</p> <p>根地嶋</p> <p>根地嶋</p> <p>根地嶋</p> <p>根地嶋</p> <p>根地嶋，高山</p> <p>根地嶋，高山</p> <p>根地嶋</p> <p>根地嶋</p> <p>根地嶋</p> <p>松本武士</p> <p>高山</p> <p>高山</p> <p>根地嶋</p>
アクティブラーニング	グループディスカッションおよび発表	

授業内のICT活用	weblclassによる相互評価, 資料の提示
評価方法	小テスト20%, 技能総合演習20%, 単元テスト45%, 参加姿勢・リアクションペーパー15%
課題に対するフィードバック	小テストの解説, リアクションペーパーのコメント
指定図書	ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社
参考図書	標準整形外科学 第15版 医学書院
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	物理療法学の理論
科目責任者	金原 一宏
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 3 メモター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	物理療法の定義、原理、種類、歴史、実施方法について調べ、収集する。
到達目標	1. 各種の物理的刺激が生体に及ぼす影響を、科学的根拠に基づいた説明ができるようになる。 2. 炎症や痛み等に対する物理療法が、治療技術として対象者に適応される際の目的、効果、副作用、禁忌、注意事項等を把握し、適切に物理療法手技の選択を行えることを目標とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>金原一宏 田中なつみ</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション 物理療法学総論 金原一宏 田中なつみ</p> <p>第 2 回：温熱物理刺激（伝導熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する・ホットパックとパラフィンの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 3 回：炎症・痛み・拘縮・痙性に対する物理療法における生体反応について調べ知識を収集する 金原一宏 田中なつみ</p> <p>第 4 回：疼痛疾患患者、脊髄損傷患者、脳血管障害患者等に対する物理療法について調べ知識を収集する 金原一宏 田中なつみ</p> <p>第 5 回：温熱物理刺激（エネルギー変換熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 6 回：極超短波と超音波の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 7 回：寒冷物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 8 回：寒冷療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 9 回：電気物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する。 金原一宏</p> <p>第 10 回：経皮的電気刺激療法、神経筋電気刺激療法、クロナキシーの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 11 回：電磁波と光線物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 12 回：赤外線、紫外線、レーザー療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 13 回：水治の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 14 回：牽引療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 15 回：知識確認演習 金原一宏 田中なつみ</p> <p>受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>
アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションは、パソコン、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	知識確認テスト 60%、レポート 10%、課題提出物 30%により総合的に評価する

課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	イラストでわかる物理療法 監修者：上杉雅之 編集者：杉本雅治、菅原仁 医歯薬出版株式会社
参考図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学） 総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店 Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 編集：吉田英樹 メジカルビュー社
事前・事後学修	炎症・痛み・拘縮・痙性について、知識が必要であるため、事前に確認しておくこと。 事後学修は、各物理的的刺激が、どのように生体へ（炎症・痛み・拘縮・痙性など）、作用を及ぼすか確認しておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	なし

科目名	物理療法学の実践
科目責任者	金原 一宏
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	物理療法学の理論で学んだ講義内容を学内実習にて体験する。また、各種物理的刺激が生体へ及ぼす影響について実際のデータを収集し、それぞれの科学的根拠について考察し発表する。
到達目標	上記の作業を通して、障害像にあった物理療法を選択し、さらに実践できるよう技術習得することを目的とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 金原一宏 根地嶋誠 高橋大生 高山真希 田中なつみ 安孫子幸子 第 1 回：金原、田中 コースオリエンテーション 実習前オリエンテーション 間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する。さらに間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 第 2 回：金原、田中 バイオフィードバック療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 近年の物理療法について、特性と生体へ及ぼす影響、実施方法、適応、禁忌の知識を収集する 第 3 回：金原、田中 実習 1：温熱・寒冷療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 2：電気療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 第 4 回：金原、田中 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 1・2） 第 5 回：金原、田中 実習 3：牽引療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 4：マッサージを施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 第 6 回：金原、田中 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 3・4） 第 7 回：金原、田中 実習 5：電磁波・光線療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 6：水治療法（全身浴・部分浴）を施行し、生体への影響を確認する共に実施方法の習得をする 第 8 回：金原、田中 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 5・6）</p> <p>第 9、10 回：金原、根地嶋、高山、高橋、田中 実技総合演習① 第 11、12 回：ゲスト 安孫子、金原、田中 世界の物理療法機器の最前線について（特別講義） 第 13、14、15 回：金原、根地嶋、高山、高橋、田中 実技総合演習② 受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>
アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。 実技総合演習では、ルーブリックを活用し、実技ビデオをグループで作成する。 学生同士で実技ビデオを参考に自身の実技をパソコンで分析し、実技スキル向上を図る。

授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーション際、パソコンを使用して行います。
評価方法	実技試験（50%）、小テスト（30%）、課題提出：レポート・（20%）により総合的に評価する。実技試験は、ルーブリックを活用し実施する。
課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	イラストでわかる物理療法 監修者：上杉雅之 編集者：杉本雅治、菅原仁 医歯薬出版株式会社
参考図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学）総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店 Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 編集：吉田英樹 メジカルビュー社 PT・OTのための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入 編 監修 才藤 栄一 金原出版
事前・事後学修	実習前に、各治療法を復習しておくこと。 撮影した実技ビデオを確認して実技総合演習に臨むこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	日常生活活動学の理論
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	日常生活活動(ADL)の概念を国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連、評価方法、支援機器など総合的に学ぶ。また、寝返りや起き上がりなどの基本動作、移乗・移動動作、更衣・排泄などの身の回りの動作について分析し、指導および介助方法の基礎を学び、具体的な症例で目標となる日常生活活動とその援助方法の知識と技術を習得する。
到達目標	1. 日常生活活動の概念、評価方法、支援機器を説明できる 2. 日常生活活動の各動作を理解し、説明できる 3. 症例に応じた日常生活活動を分析し、指導および介助方法を説明できる
授業計画	<p><担当教員> 矢倉千昭、有藺信一、金原一宏、根地嶋誠、吉本好延、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、高橋大生、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1・2 回：コースオリエンテーション 日常生活活動総論 1 ・日常生活活動の概念、理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する ・国際生活機能分類(ICF)を学習する</p> <p>第 3・4 回：日常生活活動総論 2 ・Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する</p> <p>第 5・6 回：起居移動動作(臥位～座位、座位～立位、移乗動作) ・寝返り動作、起き上がり動作について理解し、説明することができる ・立ち上がり動作、車椅子への移乗動作を理解し、説明することができる</p> <p>第 7・8 回：疾患を想定した日常生活活動の介助法 ・大腿骨頸部骨折患者に対する起居移乗動作の介助方法 ・脳卒中片麻痺患者に対する起居移乗動作の介助方法</p> <p>第 9・10 回：疾患を想定した日常生活活動の介助法 ・臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法 ・臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法の応用を学習する ・杖・歩行器の使用について説明することができる</p> <p>第 11・12 回：客観的能力開発演習</p> <p>第 13・14 回：神経系疾患・運動器系疾患の日常生活活動 ・神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる ・運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>※授業は講義と演習形式のため、動きやすい服装で出席してください。</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBL(課題解決型学習)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習を取り入れてアクティブラーニングを実施する
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する 動画を用いた教材を使用し、障害像の把握や理学療法評価の理解を促す
評価方法	レポート 40% OSCE 60% 演習・OSCE はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。(提示方法：WebClass に掲載および配布)

課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、次回の授業の冒頭にてフィードバックする グループ発表と実技のフィードバックは、授業内に口頭で行う				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
日常生活活動学テキスト 改訂第3版	細田 多穂 監修	南江堂	4200	9784524245789	
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版	監修 才藤 栄一	金原出版	5500		
参考図書	なし				
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Web class で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください（各30分）。 ・1～10回の授業では、毎回事後学習課題に対するレポートを提出すること（各60分）。 				
オープンエデュケーションの活用	「なし」				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	日常生活活動学の実践	
科目責任者	高山 真希	
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 5 セミナー	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	疾患ごとの機能障害、活動制限の特徴を理解し、具体的な日常生活活動の評価方法と介入方法を学修する。特に本科目では、臨床場面での日常生活活動の評価と指導を想定し、グループワークと演習を通して障害に対する日常生活活動の分析、指導および介助法について実践する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活活動の評価、指導方法を習得する。 2. 疾患および障害に対する日常生活活動の観察と動作分析に基づいた介助、指導法を習得する。 3. 日常生活活動に関する介助、指導を適切な接遇にて実施できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと実践するアクティブ・ラーニングについて理解する</p> <p>第 2 回：シーティング -車椅子の採型、症例に合せたシーティングを理解する</p> <p>第 3 回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する（学外実習）</p> <p>第 4 回：運動器障害に対する ADL 指導 -関節リウマチに対する ADL 指導を学ぶ</p> <p>第 5 回：運動器障害に対する ADL 指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第 6 回：中枢神経障害に対する ADL 指導 -脊髄損傷に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第 7 回：中枢神経障害に対する ADL 指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第 8 回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第 9 回：患者の障害像と ADL 障害の理解 -患者の障害像と ADL 障害発生の関連を学修する</p> <p>第 10 回：患者の障害像と ADL 障害の評価 1 -患者の障害像と ADL 障害の評価方法を学修する</p> <p>第 11 回：患者の障害像と ADL 障害の評価 2 -実際の生活場面を想定した ADL 障害の評価方法を学修する</p> <p>第 12 回：ADL 障害への介入方法 -実際の生活場面を想定した ADL 障害の介入方法を学修する</p> <p>第 13 回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p> <p>第 14 回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する</p> <p>第 15 回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について発表する</p>	<p><担当教員名></p> <p>高山真希</p> <p>矢部広樹</p> <p>高山真希・矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p> <p>高山真希</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習を取り入れて実施する	
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する	

評価方法	グループ発表 50%, 自己学習記録・レポート 50% グループ発表, レポート共にルーブリックを用いて評価します (ルーブリックの内容は授業中に提示し, WebClass に掲載および授業内で配布する)				
課題に対するフィードバック	各回の授業, および事前事後学習は, 次回の授業の冒頭にてフィードバックする グループ発表と実技のフィードバックは, 授業内に口頭で行う				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
日常生活活動学テキスト 改訂第3版	細田 多穂 監修	南江堂	4200	9784524245789	
参考図書	授業中に随時紹介				
事前・事後学修	事前学習として, 各回のテーマに関連する運動学・解剖学・生理学の知識から動作分析学, 日常生活活動学, 基礎理学療法学, 神経系理学療法学, 運動器系理学療法学, 内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床理学療法生活支援実習で学んだ内容を事前学修として復習してください. 事後学習として, 各回の課題について学んだ内容を振り返り, 自己学習記録を作成して WebClass へ提出してください.				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3510 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
対面授業の実施について	なし				

科目名	機能代償機器学の理論
科目責任者	高橋 大生
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	義肢装具を含めた環境や機器などの代償手段により、障害前とは異なる新たな代償機能を創造していく学問である。障害を受けた多様な身体機能について、機能代償機器（義肢・装具）を用いてどのように代償していくのかを、その構造・製作過程・使用方法を学びつつ、理学療法士の役割として求められる適合判定を中心に講義を展開していく。
到達目標	1. 障害の機能代償として使用する義肢・装具の種類、構造を理解し、説明できる。 2. 機能代償機器の適合判定（チェックアウト）について理解・説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、装具総論 第1章 高橋大生</p> <p>第2回：装具理解のための生態力学、装具歩行の運動学 第2章 高橋大生</p> <p>第3回：①短下肢装具の種類、②歩行における働き 第3章 高橋大生</p> <p>第4回：①長下肢装具の種類、②歩行における働き 第4章 小テスト 高橋大生</p> <p>第5回：①靴型装具の種類、②靴の補正 第5章 矢倉千昭</p> <p>第6回：下肢装具のチェックアウト 第6章 矢倉千昭</p> <p>①短下肢装具のチェックアウト、②長下肢装具のチェックアウト</p> <p>第7回：①上肢装具の種類と適応、②チェックアウト 第7, 8章 矢倉千昭</p> <p>第8回：①頸部体幹装具の種類と特徴、②チェックアウト第9, 10章 矢倉千昭</p> <p>第9回：脊髄損傷患者に対する装具療法（評価と治療） 高橋大生</p> <p>第10回：末梢神経障害、切断者の評価、断端管理 第19-21章 高橋大生</p> <p>第11回：切断者の評価総論 高橋</p> <p>第12回：義手、義足概論 ゲスト 氷見 純・高橋</p> <p>第13回：下腿義足、大腿義足概論 ゲスト 氷見 純・高橋</p> <p>第14回：義手、義足の体験 ゲスト 氷見 純・高橋</p> <p>第15回：装具・切断のまとめと振り返り 確認テスト 高橋大生</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成・発表する。 ・グループワークの資料は教員が WebClass にアップし、学生は PC で資料を見ながら授業に参加する。 ・アクティブラーニングを通して模擬症例に対する理学療法を深く考える。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。 ・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行います。
評価方法	小テスト 30%、課題提出物 40%、確認テスト 30%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・理解度確認のための小テストを行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」（南江堂） 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修；「義肢装具のチェックポイント」（医学書院）

参考図書	高田治実 監修：「義肢・装具学」(羊土社) 川村次郎 編集：「義肢装具学」(医学書院) 清水順市、青木主税 監修；「リハビリテーション義肢装具学」(メジカルビュー社)
事前・事後学修	・事前学修としてグループワークで実施する課題の準備を行う。授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として振り返る。1コマあたりの事後学修時間は原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512 研究室（高橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール (daiki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	実施しない

科目名	機能代償機器学の実践	
科目責任者	高橋 大生	
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 6 メモター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	機能代償機器の使用目的や種類、適応となる疾患の障害構造を的確に把握し、チェックアウト・アライメントチェック、作用メカニズムなどを学修する。演習や実習を通して考察し、実践につながるような講義をすすめる。	
到達目標	1. 義肢・装具の適応となる主要な疾患ごとに、機能代償機器の使用法を理解し、実際に扱える。 2. 義肢・装具の適応となる主要な疾患ごとに、適合判定（チェックアウト）を行うことができるようになる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：コースオリエンテーション</p> <p>第2回：整形外科疾患に対する装具 演習</p> <p>第3回：整形外科疾患に対する装具 演習</p> <p>第4回：脳卒中片麻痺に対する装具①</p> <p>第5回：脳卒中片麻痺に対する装具②</p> <p>第6回：関節リウマチに対する装具・自助具①</p> <p>第7回：関節リウマチに対する装具・自助具①</p> <p>第8回：下腿・大腿義足のチェックアウトのポイント (各アライメントの調整、異常歩行)</p> <p>第9回：大腿義足チェックアウト：グループワークと発表</p> <p>課題解決型学修：画像評価を用いたスタティックアライメントの異常抽出 動画評価を用いた異常歩行の様子・原因・対策 小テスト</p> <p>第10回：下腿義足チェックアウト：グループワークと発表</p> <p>課題解決型学修：画像評価を用いたスタティックアライメントの異常抽出 動画評価を用いた異常歩行の様子・原因・対策 小テスト</p> <p>第11回：異常歩行 総論</p> <p>第12回：下腿義足・大腿義足チェックアウト</p> <p>第13回：模擬義足装着体験実習</p> <p>第14回：義足に対する理学療法</p> <p>第15回：義足のチェックアウトと異常歩行 一義足異常歩行のまとめと振り返り 確認テスト</p>	<p><担当教員名></p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードや課題を抽出し、グループディスカッションを行う。プレゼンテーションを通して知識や思考過程の共有を行う。 ・グループワークの課題資料は教員が WebClass にアップし、学生は PC で資料を見ながら授業に参加する。 	
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。理学療法評価として画像や動画を用いた学修を実施する。	
評価方法	小テスト 40%、グループ発表 30%、確認テスト 30%	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。 	

指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」(南江堂) 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修：「義肢装具のチェックポイント」(医学書院)
参考図書	高田治実 監修：「義肢・装具学」(羊土社) 川村次郎 編集：「義肢装具学」(医学書院) 清水順市、青木主税 監修；「リハビリテーション義肢装具学」(メジカルビュー社)
事前・事後学修	・事前学修としてグループワークで実施する課題の準備を行う。授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として振り返る。1コマあたりの学修時間は原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512 研究室 (高橋研究室) 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール (daiki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	実施しない

科目名	理学療法治療演習
科目責任者	高山 真希
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱの実習で担当した症例に関する知識の確認、および各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な評価・治療技術の確認を行い、それらを活用できるようにする。統合と解釈の演習では、症例の理解を通じて、理学療法士として基本的な評価・治療に関する総合的な能力を養い、理解していることを他者に的確に伝える技術を身につける。また、実技総合演習では、臨床現場に必要な能力(論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力)を高め、実践可能なレベルを目指す。
到達目標	臨床理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱにおいて学修した専門的な知識・技術・態度を統合し、実践できる 1 知識：標準的な理学療法対象症例の病態・障害像を統合・解釈し、説明できる 2 技術：基本的な理学療法評価・治療項目を挙げ、実施できる 3 態度：相手を尊重した言動・配慮ができる
授業計画	<p><担当教員> 高山真希, 有藪信一, 金原一宏, 矢倉千昭, 吉本好延, 俵祐一, 根地嶋誠, 矢部広樹, 高橋大生, 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する), 演習協力者</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 オリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する 第 2 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-1 第 3 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-2 第 4 回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-3 臨床理学療法総合実習Ⅰで学んだことを症例報告・口頭試問で適切に表現できる 第 5 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-1 第 6 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-2 第 7 回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-3 臨床理学療法総合実習Ⅱで学んだことを症例報告・口頭試問で適切に表現できる 第 8 回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第 9 回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第 10 回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第 11 回 実技総合演習(中枢神経系・運動器系・内部障害系) 第 12 回 実技総合演習(OSCE) 第 13 回 実技総合演習(OSCE) 第 14 回 実技総合演習(OSCE) 第 15 回 実技総合演習(まとめと振り返り) 中枢神経系・内部障害系・運動器系の理学療法に必要な臨床能力を高め実践できる 症例報告・口頭試問, 実技総合演習時は実習着で出席してください</p>
アクティブラーニング	演習科目
授業内のICT活用	ICT を活用して演習の様子を動画撮影し、確認しながらフィードバックし合う。
評価方法	実習後の知識・技術確認のため症例についての報告, 口頭試問, OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)にて6割以上の成績であることが合格条件 知識確認のための症例報告・口頭試問50%, OSCE50% 計100% ルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。

課題に対するフィードバック	症例報告会・口頭試問では、担当教員が報告内容に対して質問およびフィードバックする。 OSCE (Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)では、終了後に教員からフィードバックを行う。 その他、試験課題の実施状況を動画撮影し、全体終了後にフィードバックする。
指定図書	中枢神経系・運動器系・内部障害系理学療法学など理学療法専門科目の指定図書
参考図書	中枢神経系・運動器系・内部障害系理学療法学など理学療法専門科目の参考図書
事前・事後学修	原則 40 分を目安に学修する。 事前学修として、総合実習で経験した評価・治療技術について実技演習で他者へ解説・実施などができるようにまとめる。 事後学修として、知識・技術を高めるため、フィードバックを受けた内容を含めて自身で振り返り、その内容を整理してまとめる。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外にもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
対面授業の実施について	なし

科目名	理学療法学総合演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 8 メモター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	理学療法士国家試験レベルの演習を通して、理学療法士に必要な知識を統合するとともに、臨床的な視点による問題解決能力を身につけることで、これまで学習してきた理学療法学を包括的にまとめる。
到達目標	1. 理学療法士国家試験レベルの理学療法学の知識を修得することができる。 2. 理学療法士に必要な知識を統合することができる。
授業計画	<p><担当教員名> (すべての内容を全員で担当する) 吉本好延、有菌信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、高山真希、矢部広樹、高橋大生、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 吉本 第2回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 田中 第3回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 有菌 第4回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 矢倉 第5回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 根地嶋 第6回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 金原 第7回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 高山 第8回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 矢倉 第9回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 吉本 第10回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 矢部 第11回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 俵 第12回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 高橋 第13回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 根地嶋 第14回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原 第15回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 田中</p> <p>1. 知識確認試験の目標点数 (1-3 回) (6 割 : 60 点/100 点) 10 月 2. 知識確認試験の目標点数 (4-6 回) (6 割 : 60 点/100 点) 11 月 2. 知識確認試験の目標点数 (7-9 回) (6 割 : 60 点/100 点) 12 月 3. 知識確認試験の目標点数 (10-15 回) (6 割 : 120 点/200 点) 1 月</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・累積合計点数が 300 点以上で合格とする。 ・累積合計点数とする理由は、試験後の点数を踏まえて、今後の学修プラン (目標点数とスケジュールなど) を自身 (他のゼミ生・担当教員) で再計画することを目的とするためである。 ・10 月からの学習に限らず、10 月より前の時期 (実習時期や 8 月・9 月の夏季休暇時期) の学習も重要である。
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・知識到達度確認試験は最終的な目標点数が示されており、目標点数を到達できるように学生は自身の学修プランを教員と共同で計画する ・グループワーク・ピア学習の手法を用いて、学生間で相互に教えあい、学びあえるような学習環境を構築する
授業内の ICT 活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・リハドリル

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミグループ活動の取り組み状況：5% ・知識到達度確認試験：95%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・各時期の獲得点数から現在の学修状況と今後の学修プランを確認し、プランの妥当性やプランの実行可能性についてフィードバックを行う。
指定図書	『国試の達人 運動解剖生理学編』 IPEC、 『国試の達人 臨床医学編』 IPEC 『国試の達人 理学療法編』 IPEC
参考図書	クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 2024共通問題 クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 2024専門問題
事前・事後学修	計画的にグループ学習を進めてください。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の知識を、確認しながら深めていきます。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	スポーツ理学療法学
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	1 単位(15 時間) 理学選択 8 ヶメジャー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	DP2 リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、スポーツを実践している対象者に、スポーツ復帰から予防を含めた適切な理学療法が提供できるようになるために、スポーツ領域における理学療法士の役割や、必要な知識および技術について理解することを目的とする。スポーツ現場および選手に対する理学療法士の姿勢、スポーツによる外傷の特徴、スポーツ外傷予防のための方法、スポーツ外傷の特性を踏まえたエクササイズなどの介入方法について学ぶことで、キャリアデザインに活かす。
到達目標	1. スポーツで生じる傷害の概要を説明できる 2. スポーツ現場で行われるメディカルチェックを説明できる 3. スポーツ現場で行われるトレーニングを説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション (根地嶋) スポーツ理学療法概論</p> <p>第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック1 (根地嶋) 上肢、体幹のメディカルチェック</p> <p>第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック2 (根地嶋) 下肢のメディカルチェック</p> <p>第4回：競技復帰に向けたリハビリテーション1 (根地嶋) 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)</p> <p>第5回：競技復帰に向けたリハビリテーション2 (根地嶋) 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)</p> <p>第6回：競技復帰に向けたリハビリテーション3 (根地嶋) 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)</p> <p>第7回：競技復帰に向けたリハビリテーション4 (齊藤和快) 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)</p> <p>第8回：スポーツ傷害の病態 (根地嶋) スポーツで生じる傷害の知識の整理</p>
アクティブラーニング	プレゼンテーション (グループ学習)
授業内のICT活用	webclass を活用し、プレゼンテーションおよびレポートを共有する。
評価方法	小テスト 40%、レポート 30%、課題学習 (プレゼンテーション) 30% ※レポートと課題学修はルーブリックにより評価する
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションおよび小テストのフィードバック
指定図書	なし

参考図書	なし
事前・事後学修	上肢、体幹、下肢それぞれの解剖学、運動学の知識が必要であるため、各回の前に40分程度学修しておく。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	なし

科目名	発展的理学療法学
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	1 単位(15 時間) 理学選択 8 ヲメス
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	この授業では、将来、理学療法学の発展に寄与したいと考えている学生、大学院に進学したいと考えている学生を対象に、各理学療法分野の臨床および研究のトレンド、トピックスを学び、高度専門職者としての理学療法士になるために求められる知識、技術、思考力の基礎を学ぶ。
到達目標	1. 理学療法をさらに発展させるための高度専門職者とは何かを考え、述べることができる 大学院、専門技術を学ぶために必要な基本的な知識、技術、思考力を身につける 理学療法士として、将来を展望した生涯学習への関心を深め自己研鑽することができる
授業計画	※本授業の担当者は、大学院を兼務する教員とする。 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：コースオリエンテーション、発展的理学療法学とは 矢部広樹 第2回：運動器系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 久保祐介 第3回：神経系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 飯尾晋太郎 第4回：内部障害系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 杉谷竜司 第5回：生活期療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 筒井真理子 第6回：公衆衛生分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 前嶋康路 第7回：がんリハビリ分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 小椋涼治 第8回：世界へ発信する理学療法士の研究活動について 矢部広樹
アクティブラーニング	・教員研究活動について概要を説明し、授業前に調べる。 ・受講した内容をリアクションペーパーに記載、提出する。
授業内のICT活用	Webclass にてポートフォリオを作成する
評価方法	授業態度 40%、レポート 60%
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパーに記載された質問にはメールやWebclass などで回答する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業テーマについて、調べ考えて授業に出席する (30 分). 授業の振り返りのレポートを作成する (30 分)

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：水曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3516 研究室 上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業 の実施に ついて	該当なし

科目名	地域理学療法学の理論
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	2 単位(30 時間) 理学必修 5 メモター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	地域で生活する対象者（障害者・高齢者）に対する理学療法に関わる項目（関連制度・法規、対象疾患、生活環境、予防、地域包括ケア）について学修する。地域リハビリテーション・地域理学療法概念、歴史、現状、課題を理解するとともに、理学療法士の役割や関連職種との連携・協働について学び、地域社会に求められる理学療法について考える。
到達目標	1. 地域リハビリテーション・地域理学療法に関連する項目について理解し、説明できる 2. 地域理学療法の実現場や対象者の特徴を理解し、現状や課題について説明できる 3. 地域社会に求められる理学療法・理学療法士を自身の将来像と重ね合わせて説明できる
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション[学修準備] 矢倉千昭 ・シラバスから学修内容を理解する</p> <p>第2回：地域リハビリテーション、地域理学療法を考える[講義] 矢倉千昭 ・地域リハビリテーション、地域理学療法の捉え方、理学療法士の地域社会に対する貢献について解説する。</p> <p>※第3回～第14回までの授業は、GW 発表資料は授業前に作成しておき、授業でGW 発表を行う。授業中にもGW を検討、発表することがある。</p> <p>第3回：地域リハビリテーションの対象と理学療法士の役割[GW 事前課題発表・授業中のGW] 矢倉千昭</p> <p>第4回：地域リハビリテーションの対象と理学療法士の役割[授業中のGW 発表・解説・質疑] 矢倉千昭</p> <p>目標：理学療法士が働く職場、対象者と家族、周りの活用できる社会資源について説明できるようになる。対象者のエンパワーメントと関連要因を考えることができるようになる。</p> <p>・GW 事前課題：1 課題3 グループ</p> <p>①対象者と家族・介護者、社会資源について説明する。 ②地域理学療法を実践する職場と業務内容について説明する。 ③CBR マトリックスとエンパワーメントについて説明する。</p> <p>・授業中のGW</p> <p>①課題を提示。事例をCBR マトリックスで整理し、事例のエンパワーメントを考える。</p> <p>第5回：地域リハビリテーションにおける制度[GW 発表] 矢倉千昭</p> <p>第6回：地域リハビリテーションにおける制度[解説・質疑・知識確認試験] 矢倉千昭</p> <p>目標：地域リハビリテーションの保険、支援制度について説明できるようになる。</p> <p>・GW 事前課題：1 課題3 グループ</p> <p>①医療保険と介護保険について説明する。 ②障害者総合支援法について説明する。 ③地域包括ケアシステムについて説明する。</p> <p>・知識確認試験</p> <p>第7回：地域リハビリテーションにおける職種間連携[GW 発表] 矢倉千昭</p> <p>第8回：浜松市における地域包括ケアシステムの事業 [解説] 鈴木 博</p> <p>目標：地域リハビリテーションに関わる職種と役割について説明できるようになる。</p> <p>・GW 事前課題：1 課題3 グループ</p> <p>①地域リハビリテーション活動支援事業について説明する。 ②地域における多職種連携について説明する。 ③地域ケア会議について説明する。</p> <p>第9回：福祉用具と住環境整備による生活環境改善を学ぶ 矢倉千昭</p>

	<p>第10回：福祉用具と住環境整備による生活環境改善を学ぶ 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GW 事前課題 ①移動支援（ベッドと周辺器具、屋内外移動の補助具）について説明する。 ②住環境整備（居室、廊下、ドア、トイレ、浴室の住環境）について説明する。 ③外出支援（バリアフリー法によるまちづくり計画の実践）について説明する。 ・授業中のGW ①課題を提示。事例の福祉用具と住環境整備を検討し、生活環境改善の考え方を理解する。 <p>第11回：生活環境改善と地域理学療法の実際を学ぶ[GW 発表] 矢倉千昭</p> <p>第12回：生活環境改善と地域理学療法の実際を学ぶ[解説・質疑・知識確認試験] 金原智恵</p> <p>目標：地域における理学療法アプローチについて説明できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GW 事前課題：1 課題3 グループ ①小児期の生活環境改善と地域理学療法のアプローチの考え方を述べる[症例検討] ②成人期の生活環境改善と地域理学療法のアプローチの考え方を述べる[症例検討] ③高齢期の生活環境改善と地域理学療法のアプローチの考え方を述べる[症例検討] <p>第13回：地域社会に貢献する理学療法士（予防・産業理学療法） 根地嶋誠</p> <p>第14回：地域社会に貢献する理学療法士（予防・産業理学療法） 根地嶋誠</p> <p>目標：地域社会で生活する子どもや労働者などの健康増進、障害予防、安全衛生に関わる理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>第15回：まとめ 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識確認試験（選択問題、記述問題） ・これまでの学びを秋セメの地域理学療法学の実践につなげる 				
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション ・グループワーク課題の作成とグループ発表を通じ、地域リハビリテーションを理解する。 ・グループ発表資料をWebClass にアップし、PC で資料を見ながら授業に参加する。 ・グループ発表後、質疑応答を行い、教員が補足説明、文献等を提示し、知識の定着と理解を深める。 				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClass にプレゼンテーション用のパワーポイントをアップし、グループで発表を行う。 ・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。 ・教員との質疑応答や教員からの文献紹介はWebClass の掲示板で知らせる。 ・定期的にWebClass のテストを実施し、学修の到達度を確認する。 				
評価方法	知識確認試験 40%，グループワーク資料・発表（質問）40%，参加・態度 20%				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて発表の途中で補足、終了後に総括を行う。 ・WebClass のアンケートの質問を確認し、WebClass の掲示板または次回の授業で回答する。 				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
地域リハビリ テーション学 テキスト（改訂第 4版）	細田多穂	南江堂	4500	9784524232161	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

地域リハビリテーション学 第2版	重森健太	羊土社	4500	9784758102384	
事前・事後学修	事前学修として、個人課題、グループワーク資料作成を行う（各回=60分）。 事後学修として、授業の振り返りとまとめを行う（各回=20分）。				
オープンエデュケーションの活用	Web でアップされている地域リハビリテーションに関する動画を紹介する。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	地域理学療法学の実践
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	地域で生活する高齢者、障害者、子ども、労働者に対し、社会参加、介護予防、疾病・障害予防に関する実際の地域支援活動を体験する。また、地域包括支援センターの地域課題について検討することで、地域包括ケアシステムの実践を学ぶ。この科目を学ぶことで、地域マネジメントのノウハウを経験するとともに、理学療法士の知識と技術を用いた地域における社会貢献の実践力を高める。
到達目標	1. 地域包括ケアシステムの活動と地域包括支援センターの役割を理解することができる。 2. 介護予防事業、学校保健安全法や労働安全衛生法に基づく予防法を立案することができる。 3. 課題に対して主体的に行動し、的確な評価分析、解決策を立案、提言することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員></p> <p>第1回：オリエンテーション 矢倉千昭・根地嶋誠・高山真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士による地域社会の貢献について説明する ・地域課題、介護予防、運動器検診、産学安全衛生の課題を提示する ・グループワークの実施方法の説明する ・地域課題の解決策、介護予防、運動器検診、産学安全衛生の報告の方法を説明する <p><地域包括ケアシステムの実践を学ぶ></p> <p>第2・3回：地域包括支援センターの地域課題の検討 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク：地域包括支援センターより依頼された地域課題の解決策をまとめる <p>第4・5回：地域包括支援センターの地域課題の検討・報告準備 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク：地域包括支援センターより依頼された地域課題の解決策をまとめ、地域包括支援センターに対する報告準備を行う。 <p>第6回：地域包括支援センターの課題検討を地域包括支援センターに報告 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターに地域課題の解決策を報告し、ディスカッションを行う <p><予防理学療法と産業理学療法の実践を学ぶ></p> <p>第7回：介護予防、運動器検診、産学安全衛生の説明、グループ分け 矢倉・根地嶋・高山</p> <p>第8・9回：介護予防、運動器検診、産学安全衛生の活動準備 矢倉・根地嶋・高山</p> <p>第10・11回：介護予防、運動器検診、産学安全衛生の活動実践 矢倉・根地嶋・高山</p> <p><全体報告会></p> <p>第12・13回：地域包括支援センターの地域課題の全体報告会 矢倉・根地嶋・高山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での情報共有：地域包括支援センターの地域課題に対して提案した内容を報告し、実践的な地域包括ケアシステムについて情報共有する <p>第14・15回：介護予防、運動器検診、産学安全衛生の全体報告会 矢倉・根地嶋・高山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に貢献する理学療法士の活動について理解を深め、社会に求められる理学療法士に必要なスキルについて情報共有する。 <p>2つの大きな学びでグループ分けを行い、学内と地域施設(学外)で学修する。 フィールドワークで活動するときには、動きやすい服装(ポロシャツなど)で出席する。</p>
アクティブラーニング	○課題解決型学習、○グループワーク、○ディスカッション、○プレゼンテーション 地域理学療法学の理論で学んだことを活かし、授業で検討した課題と解決策、予防理学療法、産業理学療法の実践を主体的に学修する。 地域課題の報告、対象となる施設に対する活動、報告を行うため、プレゼンテーション資料の作成を行う。
授業内のICT活用	WebClass を用いて地域包括支援センターの地域課題の解決策、介護予防、運動器検診、産学連携事業の活動報告をまとめ、地域理学療法学の実践方法を共有する。 事後学修として、個々の活動内容およびフィードバックを受けた内容をまとめ、eポートフォリオに提出する。

評価方法	グループワークで作成・報告した資料40%、プレゼンテーション・ディスカッション40% 参加・態度20% 計100%				
課題に対するフィードバック	立案した内容を学生および担当教員間で検討し、フィードバックし合う。 対象者(施設利用者)や施設職員に実施または提案したあと、フィードバックを受ける。 報告会にて学生間のディスカッション、教員による総括においてフィードバックする。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
地域リハビリテーション学テキスト(改訂第4版)	細田多穂	南江堂	4500	9784524232161	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
地域リハビリテーション学 第2版	重森健太	羊土社	4500	9784758102384	
事前・事後学修	事前学修として、グループワーク資料作成、報告準備、実践準備などを行う(各回=60分)。 事後学修として、個々の活動内容およびフィードバックを受けた内容をまとめる(各回=20分)。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目(11時55分～13時15分) 場所：3504研究室(矢倉研究室) 上記以外でもメール(chiaki-y@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	臨床理学療法見学実習
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	1 単位(45 時間) 理学必修 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目では、臨床現場の見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割について学ぶ。また、見学から社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病や対象の症状を理解し、多職種連携を体験する。
到達目標	見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割を理解する。また、社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病を罹患する対象の症状を理解して、今後の講義へ意欲を高める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習は初めての病院や施設での学びとなります。2 年生からの臨床実習にもつながります。 ・臨床実習指導者をはじめとするリハビリテーションスタッフ、医師、看護師などのスタッフが勤務している病院や姿勢の実習に必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ準備学修を行います。 ・見学実習に向けた準備学修は、春semesterに行います。 ・事前学修はグループワークを行い、見学実習マナー・コミュニケーションマニュアルを作成し、身だしなみ、態度、言葉遣いを確認します。 ・定期試験後の見学実習前オリエンテーションで身だしなみのチェックを再度行います。 ・実習期間は7月の第3週、4週に実施予定で、1施設ずつ見学します。 ・実習配置は、後日連絡します。 ・見学実習では、複数の学生に対して実習指導者が説明を行います。 <p><見学実習スケジュール></p> <p>第1回：見学実習の内容と見学実習マナー・コミュニケーションマニュアル、感染予防マニュアルの作成の説明、グループワークの準備</p> <p>第2、3回：グループワーク（マニュアル作成）</p> <p>第4、5回：グループワーク（マニュアル完成）</p> <p>第6、7回：身だしなみチェック、グループワーク（寸劇による発表）</p> <p>第8～11回：見学実習（1施設目）：1グループ1施設</p> <p>第12、13回：グループワーク（寸劇による発表）</p> <p>第14～17回：見学実習（2施設目）：1グループ1施設</p> <p>第18～20回：見学実習のまとめ</p> <p>第21～23回：報告会</p>
アクティブラーニング	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝え、学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションの際、パソコンを使用して行います。
評価方法	実習準備の参加・実習中の姿勢・態度 50%、デイリーノートの作成・提出 30%、報告会の準備・発表・質疑 20%
課題に対するフィードバック	各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う

指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>実習前オリエンテーションの中で、課題を伝えます。課題について、グループで話し合ってください。</p> <p>事前学修として、グループワーク資料作成、発表準備、実習準備を行う（各回＝40分）。</p> <p>事後隔週として、授業の振り返り、実習の振り返りを行う（各回＝40分）。</p> <p>欠席することの無いように体調管理をしてください。また、臨床の現場では、迅速に行動し、時間厳守を徹底してください。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対 外授業 の実施に ついて	なし

科目名	臨床理学療法検査測定実習
科目責任者	田中 なつみ
単位数他	1 単位(45 時間) 理学必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	理学療法診断技術学、理学療法検査測定演習にて学んだ理学療法評価の基本技術を、実際に病院・施設に行き、対象者に対し実践する。臨床現場において検査測定を体験することで、学内授業との統合を図り、臨床技能の向上を目指します。 この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1 単位分実施されます
到達目標	基本的な検査測定（ROMT, MMT, 感覚検査, 深部腱反射検査, 病的反射など）を指導、監視のもと実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 田中 なつみ, 有菌 信一, 金原 一宏, 矢倉 千昭, 吉本 好延, 俵 祐一, 根地嶋 誠, 矢部 広樹, 高橋 大生, 高山 真希 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下の内容をふまえ実習を実施する。</p> <p>情意（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 礼儀正しい挨拶をする 2) 丁寧な言葉遣い、適切な敬語を使う 3) 対象者に合わせた目線、姿勢をとる 4) 対象者へ自ら話しかけ会話をする <p>認知（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施内容の説明と同意の方法を理解する 2) 検査測定のアオリエンテーションを理解する 3) 検査測定の方法を理解する <p>運動技能（技術）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施内容を説明し同意を得る 2) 検査測定のアオリエンテーションを行う 3) 検査測定を正確に実施し、信頼性の向上につとめる <p><学内課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告会 ・ 口頭試問
アクティブラーニング	クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 2:1 実習による学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	WebClass による学修成果物の管理・評価
評価方法	課題提出物（デイリーノート、空間概念図、動画資料）50%、報告会 30%、口頭試問 20%

課題に対するフィードバック	課題提出物と、口頭試問のフィードバックは、口頭試問実施後に担当教員から行います。
指定図書	臨床実習の手引き（実習前に必ず確認をして下さい）
参考図書	なし
事前・事後学修	原則1日あたり1時間を目安に事前・事後学修を行う。 事前学修として、代表的な疾患の理学療法評価を整理して下さい。 事後学修として、実習指導者、担当教員からの指導をまとめ、ファイル等に一元管理して下さい。必ず振り返りを行って下さい。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床理学療法生活支援実習
科目責任者	高山 真希
単位数他	1 単位(45 時間) 理学必修 4 セミナー
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床場面において理学療法の対象者に行う日常生活動作(寝返り, 起き上がり, 立ち座りおよび移乗, 歩行, その他 ADL 動作全般)の介助技術を実習指導者の指導監視のもと, 模倣することである。 動作分析学, 日常生活活動学, 基礎理学療法学, 神経系理学療法学, 運動器系理学療法学, 内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床現場で学んだ内容との統合を図る。
到達目標	理学療法の対象者に対して, 日常生活動作(寝返り, 起き上がり, 立ち座りおよび移乗, 歩行, その他 ADL 動作全般)の介助を実習指導者の指導監視のもと模倣できる。
授業計画	<p><担当教員> 高山真希, 有藪信一, 金原一宏, 矢倉千昭, 吉本好延, 俵祐一, 根地嶋誠, 矢部広樹, 高橋大生, 田中なつみ (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> 5 日間の臨床実習で下記の内容を実施する ①情報収集および起居移乗動作の介助技術の習得 必要となる情報収集と適切な起居移乗動作を選択できる。 また, 起居移乗動作の介助を実施するにあたって, その方法の利点や欠点を理解し, 介助技術の向上に努める。 ②リスク管理 起居移乗動作の介助を実施するにあたって, 対象者のリスクを把握し, 適切なリスク管理を行うことができる。 また, 動作を観察・分析し, 介助が必要となる要因を挙げられる。 ③対象者への説明 実施する起居移乗動作に関して, 対象者へ適切に説明できる。 この科目では, 実習施設の配置によって, 通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます。 通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は, 全ての臨床実習を通して1 単位分実施されます。</p>
アクティブラーニング	実習科目 クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態
授業内の ICT 活用	Webclass を使用し, デイリーノートなどの e ポートフォリオを作成する。 自身の学修の理解および今後の学びに役立つよう積極的に活用する。
評価方法	課題提出物(デイリーノート, 実施記録, 実習報告書)60%, 口頭試問 40% 口頭試問は, ルーブリックを用いて評価する
課題に対するフィードバック	実習は診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)および2:1の形態を基本とし, 実習指導者からその場でフィードバックを受ける。 また, 学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで, 理解を深める。 口頭試問では, 担当教員が実施後にフィードバックする。

指定図書	日常生活活動学の理論の指定図書
参考図書	実習指導者から紹介された図書
事前・事後学修	原則1日あたり1時間を目安に学修する。 事前学修として、臨床理学療法実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。 事後学修として、実習指導者や担当教員から指導を受けたことをデイリーノートにまとめ、次の実習までに復習しておいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、事前説明時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床理学療法評価実習 I
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2 単位(90 時間) 理学必修 5 メモター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	本科目では、学外実習において、対象患者に理学療法に必要な情報収集、検査・測定を計画し、学外実習で得た情報を統合して問題点の抽出を行うことで、患者の障害の状態を的確に把握する。
到達目標	理学療法の対象に対する理学療法評価において、一部の検査測定および臨床推論を指導者監視の下、見学・模倣できる。
授業計画	<p><担当教員名> 吉本好延、有藺信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、高橋大生、田中なつみ（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①情報収集および検査・測定技術の習得 必要となる情報収集と適切な検査・測定項目を選択できる。また検査・測定の実施にあたってその意義と方法を理解し、客観的で信頼性のある検査・測定技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理 実習の遂行にあたって、患者（施設利用者）のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。また、二次性障害（廃用症候群）の可能性と要因を挙げられる。</p> <p>③患者（施設利用者）への説明 実施する検査・測定に関して、患者（施設利用者）に対して適切に説明できる。</p> <p>④問題点の抽出 2001 年に WHO により提唱された国際生活機能分類（ICF；心身機能・身体構造、活動、参加）に基づき、問題点の抽出を行う。さらに、問題点相互の関連性を説明できる。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図の作成 空間概念図を作成し、その発表ができる。</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われます。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して 1 単位分実施されます。</p> <p>学内実習（COVID19 のため学外実習が困難な場合の措置） 方法：原則的には遠隔授業形式で実施する。 事前学修・事後学修課題：webclass（ポートフォリオ）に提出する。 教員フィードバック：随時 模擬患者：実際に教員が診療していた患者を症例として情報提供・再現することで、学外実習を意識した学内実習を行う。</p> <p>第 1 回：臨床実習の概要 到達目標・行動目標の確認、クリニカル・クラークシップの理論と実践を説明し、本実習科目でどのような能力の獲得が必要なのかを理解する。</p> <p>第一部：模擬患者①</p> <p>第 2 回：模擬患者を用いた臨床推論の実践① 診療録・担当理学療法士からの初期情報をもとに、対象患者に必要なと推察される理学療法評価を網羅的に立案し、なぜ選択した理学療法評価が必要なのか意義・方法を説明する。</p> <p>第 3 回：模擬患者を用いた臨床推論の実践① 担当理学療法士や他部署から得られた追加情報をもとに、対象患者が最優先に改善すべき問題点は何かを根拠を含めて説明する。また、事前学修およびグループワークで選択した理学療法評価を実施する前に、担当理学療法士に口頭で確認を行い、どのような理学療法評価を行なうのかを、担当理学療法士と共同で選択する。初期情報・追加情報から考えられるリスク管理についても、担当理学療法士と情報共有を行う。</p>

第4回：模擬患者に理学療法評価を実施①

前回立案した理学療法評価を、模擬患者に実施する。模擬患者と担当理学療法士は大学教員が実施する。問診・検査測定のアオリエンテーションは学生が行い、選択した理学療法評価は担当理学療法士が中心に行う。学生は観察者として、患者はもちろんのこと、担当理学療法士の評価およびリスク管理の方法についても注意を払う。理学療法評価結果をもとに問題点を明らかにする。

第5回：空間概念図の作成①

模擬患者の空間概念図を作成し、各自担当した模擬患者の障害像を整理する。空間概念図の説明を、担当理学療法士に口頭で行う。

第二部：模擬患者②

第6回：模擬患者を用いた臨床推論の実践②

診療録・担当理学療法士からの初期情報をもとに、対象患者に必要と推察される理学療法評価を網羅的に立案し、なぜ選択した理学療法評価が必要なのか意義・方法を説明する。

第7回：模擬患者を用いた臨床推論の実践②

担当理学療法士や他部署から得られた追加情報をもとに、対象患者が最優先に改善すべき問題点は何かを根拠を含めて説明する。また、事前学修およびグループワークで選択した理学療法評価を実施する前に、担当理学療法士に口頭で確認を行い、どのような理学療法評価を行なうのかを、担当理学療法士と共同で選択する。初期情報・追加情報から考えられるリスク管理についても、担当理学療法士と情報共有を行う。

第8回：模擬患者に理学療法評価を実施②

前回立案した理学療法評価を、模擬患者に実施する。模擬患者と担当理学療法士は大学教員が実施する。問診・検査測定のアオリエンテーションは学生が行い、選択した理学療法評価は担当理学療法士が中心に行う。学生は観察者として、患者はもちろんのこと、担当理学療法士の評価およびリスク管理の方法についても注意を払う。理学療法評価結果をもとに問題点を明らかにする。

第9回：空間概念図の作成②

模擬患者の空間概念図を作成し、各自担当した模擬患者の障害像を整理する。空間概念図の説明を、担当理学療法士に口頭で行う。

第三部：模擬患者③

第10回：模擬患者を用いた臨床推論の実践③

診療録・担当理学療法士からの初期情報をもとに、対象患者に必要と推察される理学療法評価を網羅的に立案し、なぜ選択した理学療法評価が必要なのか意義・方法を説明する。

第11回：模擬患者を用いた臨床推論の実践③

担当理学療法士や他部署から得られた追加情報をもとに、対象患者が最優先に改善すべき問題点は何かを根拠を含めて説明する。また、事前学修およびグループワークで選択した理学療法評価を実施する前に、担当理学療法士に口頭で確認を行い、どのような理学療法評価を行なうのかを、担当理学療法士と共同で選択する。初期情報・追加情報から考えられるリスク管理についても、担当理学療法士と情報共有を行う。

第12回：模擬患者に理学療法評価を実施③

前回立案した理学療法評価を、模擬患者に実施する。模擬患者と担当理学療法士は大学教員が実施する。問診・検査測定のアオリエンテーションは学生が行い、選択した理学療法評価は担当理学療法士が中心に行う。学生は観察者として、患者はもちろんのこと、担当理学療法士の評価およびリスク管理の方法についても注意を払う。理学療法評価結果をもとに問題点を明らかにする。

第13回：空間概念図の作成③

模擬患者の空間概念図を作成し、各自担当した模擬患者の障害像を整理する。空間概念図の説明を、担当理学療法士に口頭で行う。

第四部：報告会

第14回：報告会（学生発表）

模擬患者①～③より患者を選択し、報告会で発表を行い、口頭試問を受ける。

第15回：報告会（教員発表）

模擬患者①～③より患者を選択し、報告会で発表を行い、口頭試問を受ける。

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカル・クラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2:1 実習による学生間で課題解決を図る
授業内の ICT 活用	Webclass を用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用・COVID19 の対応のため ZOOM 併用
評価方法	課題提出物：20% 口頭試問：40% 報告会：40%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前後にタイムラインを用いて教員が随時補足していく
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	3509 教室、毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業 の実施に ついて	なし

科目名	臨床理学療法評価実習Ⅱ
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	4 単位(180 時間) 理学必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法評価全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者(利用者)を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価(検査測定結果から統合と解釈を行い、適切な問題点の抽出およびゴール設定)を実習指導者の指導監視のもと協同参加・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 根地嶋誠、有藺信一、矢倉千昭、吉本好延、金原一宏、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、高橋大生、田中なつみ(すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①診療の一部として指導監視のもと、理学療法評価を行い、統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を実施する。</p> <p>②技術習得過程は、見学にて説明および実際の方法を指導され、一部の検査測定を協同参加・実施する、見学～協同参加・実施レベルとする。</p> <p>③デイリーノート(体験したこと、技術的な覚え書きなど)を作成する。</p> <p>④チェックリスト(何をどれだけおこなったか)を作成する。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図を作成し、指導者とディスカッションができる。</p> <p>この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習を実施する。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1単位分実施する。</p> <p>【 学内実習について 】</p> <p>状況により遠隔授業を実施する場合は、学内実習を下記の内容で実施する。</p> <p>方法：原則的には遠隔授業形式で実施する。</p> <p>状況を踏まえ、一部学内での評価技術の実習を検討する。</p> <p>事前学修・事後学修課題：症例報告に関するポートフォリオ・実習資料集の作成、デイリーノート、各課題、症例報告の空間概念図をWebclassに提出する。</p> <p>教員フィードバック：講義内、Webclass、学内実技</p> <p>模擬患者：実際に教員が診療していた患者や臨床での症例を提示し、情報提供・再現することで、学外実習を意識した学内実習を行う。</p> <p>第1回：臨床理学療法総合実習の概要 到達目標・行動目標の確認、クリニカルクラークシップの理論と実践を説明し、本実習科目でどのような能力の獲得が必要なのかを理解する。</p> <p>第2回以降：模擬患者を用いた臨床推論の実践 4週間の評価実習のため、8:30より出席確認および朝礼を行う。 午前(8:30～12:00)は、模擬患者の評価に必要な知識習得を図る。 午後(13:00～17:30)は、模擬患者の症例報告に関する空間概念図作成のためのグループワークや指導者の講義による患者評価および結果の統合と解釈、問題点の抽出、ゴール設定などを行い、知識と技術の習得を図る。 17:30以降は、1日の実習を振り返り、デイリーノートを作成する。内容は、1日の実施した内容の報告、本日の学びのまとめ、自身で学んだ学習内容を記載する。 上記の詳細については、学内実習の際、随時連絡をする。</p> <p>課題提出物 1) 出席表(Webclassにて実施。朝礼8:30、終礼17:30に出席確認を行う。) 2) デイリーノート(Webclassにて実施)</p>

	<p>3) チェックリスト (各自記載する)</p> <p>4) 臨床理学療法評価実習Ⅱ報告書 (空間概念図 各自作成し提出)</p> <p>5) 体調管理 (Webclass にて実施)</p> <p>学内課題</p> <p>1) 報告会</p> <p>2) 口頭試問</p> <p>3) OSCE (学内実習の場合)</p> <p>評価</p> <p>症例に対する理学療法評価内容 (検査測定結果からの統合と解釈、適切な問題点の抽出およびゴール設定) の評価は、実習後報告会と口頭試問で実施する。</p> <p>実践的な評価技術 (検査・測定技術) および臨床推論 (思考過程) の評価は、OSCE で実施する。</p>
アクティブ ラーニング	<p>実習科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラクシップによる診療参加型の実習形態 ・2:1 実習による学生間で課題解決を図る
授業内の ICT 活用	Webclass や Mahara などを用いた e ポートフォリオを活用する。
評価方法	課題提出物(デイリーノート、実習報告書など)50%、報告会 25%、口頭試問 25% 計 100% 報告会・口頭試問はルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対する フィード バック	臨床現場では、クリニカルクラクシップによる診療参加型および2:1の実習形態を基本とし、実習指導者からその場でフィードバックを受ける。 また、学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで、理解を深める。 担当教員との症例報告会・口頭試問では、報告内容に対して質疑応答を行い、その内容を踏まえてフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。</p> <p>原則 40 分を目安に学修する。</p> <p>事前学修として、症例の病態などの知識や評価・治療技術について調べ、考察をまとめる。</p> <p>事後学修として、フィードバックを受けた内容について確認し、整理をしてまとめる。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3505 研究室</p> <p>時間については、初回授業時に提示します。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	臨床理学療法総合実習技能評価
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位(45 時間) 理学必修 6 メモター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	対象者の状態をリハビリテーションの評価により理解し、根拠に基づく基本的なリハビリテーション技術を適切に選択ができるようにする。理学療法における臨床推論を実践的に学習し、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得する。
到達目標	1. 担当患者の問題点をあげ、問題点と考えられる理由を、根拠をもって示すことができる。 2. 考えられる問題点を改善させるために有効な理学療法治療を、根拠をもって示すことができる。
授業計画	<p><担当教員>吉本好延、有菌信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵 祐一、高山真希、矢部広樹、高橋大生、田中なつみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>■第1回 吉本好延： コースオリエンテーション：シラバスの説明 事前学習課題①：あなたは10月の臨床理学療法評価実習IIに参加した学生です。臨床実習終了時に、「あなたは、臨床推論が十分できていないです」と、指導者からコメントを受けました。臨床推論が十分できていないとは、どういう意味でしょうか？本課題では色々な回答ができると思いますが、10月の臨床実習での自身の経験を例に、あなたの考えを記載してください。ただし、「仮説」、「症候分析」、「分析的思考」、「因果関係」、「エビデンス」、「指導者との共有」の全てのキーワードを用いて回答してください。</p> <p>本授業では、指定図書「地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる、メジカルビュー社」の P270-281 の内容をもとに授業を行います。事前学習はwebclassの指定の場所に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・小テスト <p>■第2回：吉本好延： 授業課題①：動作・姿勢または機能障害の問題を一つ選択する</p> <p>■第3回：吉本好延： 授業課題②：一動作に関連する機能障害の仮説を2-3個選択する</p> <p>■第4・5回：吉本好延： 授業課題③：ポートフォリオ以外の資料を用いて、自身の仮説の根拠を明らかにする</p> <p>■第6回：吉本好延： 事前学習課題②：あなたは10月の臨床理学療法評価実習IIに参加した学生A君です。担当患者である脳卒中患者の空間概念図を記載している時に思いました。「運動麻痺って理学療法で改善するのだろうか？、改善が難しいのであれば運動麻痺を問題点に上げることは妥当なのか？」。上記はA君のケースですが、臨床実習でこのように考えた学生も多いのではないのでしょうか？10月の臨床実習で担当したケースを例に、あなたの考えを記載してください。ただし、「エビデンスピラミッド」、「介入研究」、「無作為化」、「対照群」、「クリニカルエクシジョン」、「メカニズム」、「病気が見える」、「症例報告」の全てのキーワードを用いて回答してください。事前学習はwebclassの指定の場所に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・小テスト <p>■第7・8・9・10回：吉本好延： 授業課題④：PubMedで研究論文を検索し、概要をまとめる</p> <p>■第11・12回：吉本好延： 事前学習課題③：OSCEの事前患者情報が学生に掲示されました。事前患者情報は、臨床実習での診療録や担当PT・他部署からの事前情報が含まれています。優れた医療従事者ほど、担当患</p>

	<p>者さんにお会いする前に、頭の中で抽象的な患者像をイメージしているため、効率的な診療が可能になります。OSCEでも「だいたいこんな感じの模擬患者さんが、いらっしゃるのではないか…」というイメージを持つことで、事前の実技練習は的を絞った練習ができます。</p> <p>今回の脳卒中患者の事前患者情報から、どんな問題点が推論されますか？ただし、「問題点の仮説」、「診断名」、「既往歴」、「患者の訴え」、「Hope」、「リスク」、「治療経過」、「脳画像」、「担当PTからの情報」、「他部署からの情報」の全てのキーワードを含んで回答してください。</p> <p>本授業では、指定図書「地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーションーエビデンスを实践につなげる、メジカルビュー社」の P270-281 の内容をもとに授業を行います。</p> <p>事前学習はwebclassの指定の場所に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・グループ学習 ・必要に応じて講義 <p>■第13・14・15・16回：吉本好延：</p> <p>授業課題⑤：想定した模擬患者の問題点を解決するために、どのような理学療法が有効かをガイドライン・文献検索サイト（pubmedなど）・雑誌・書籍などで明らかにする</p> <p>■第17・18・19・20回：吉本好延：</p> <p>授業課題⑥：想定した模擬患者の理学療法を、模擬患者に実施する</p> <p>■第21・22・23・24・25回：吉本好延：</p> <p>OSCE(外部審査)</p> <p>■第26・27回：吉本好延：</p> <p>事前学習課題⑤：あなたは10月の臨床理学療法評価実習IIに参加した学生です。理学療法の目標設定やアプローチは、患者さんの意向を踏まえて実施するという事を授業で学びました。しかし、多くの患者さんには「先生にお任せします…」といった感じで、お任せ医療になっている場合が多いと感じました。本課題では色々な回答ができると思いますが、10月の臨床実習での自身の経験を例に、あなたの考えを記載してください。ただし、「パートナーリズム」、「インフォームドコンセント」、「shared decision making」、「エビデンス」、「意思決定支援」、「リハビリテーション」、「患者の役割」の全てのキーワードを用いて回答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・小テスト <p>■第28・29・30回：吉本好延：</p> <p>まとめ：濃縮ポートフォリオの作成</p>
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、webclassに提出してください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします（事前学修）。 ・授業資料は開始前までにアップします。 ・グループワークはPBL形式で課題解決に努めてください。 ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclassに提出してください。授業開始1日前の21時とします（事後学修）。
授業内の ICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCEは整形・中枢の両方の合格を必須とする。 ・小テスト40%、事前学習課題などの課題提出物30%、ポートフォリオ30%で計算する。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・随時

指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを实践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社 監修 才藤栄一
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題について事前学習を行う。 授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床理学療法総合実習 I
科目責任者	金原 一宏
単位数他	6 単位(270 時間) 理学必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者(利用者)を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラムを立案し、実践的な治療技能を実習指導者の指導監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 金原一宏、有蘭信一、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、高山真希、矢部広樹、高橋大生、田中なつみ(すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。 ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。(解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する) ③デイリーノート(体験したこと、技術的な覚え書きなど)を作成する。 ④チェックリスト(何をどれだけおこなったか)を作成する。 ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p> <p>この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習を実施する。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1単位分実施する。</p>
アクティブラーニング	学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	Webclass を使用し e ポートフォリオ等の作成をします。自身の学修の理解および今後の学びに役立つよう積極的に活用します。
評価方法	1) 実習状況 50% 2) 実習後プレゼンテーション(臨床理学療法実習 V 報告書(空間概念図)) 30% 3) 口頭試問 20%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床理学療法総合実習Ⅱ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	6 単位(270 時間) 理学必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者(利用者)を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 根地嶋誠、有藺信一、矢倉千昭、吉本好延、金原一宏、俵 祐一、矢部広樹、高山真希、高橋大生、田中なつみ(すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> ①診療の一部として指導監視のもと、理学療法評価を行い、統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を実施する。 ②技術習得過程は、見学にて説明および実際の方法を指導され、一部の検査測定を協同参加・実施する、見学～協同参加・実施レベルとする。 ③デイリーノート(体験したこと、技術的な覚え書きなど)を作成する。 ④チェックリスト(何をどれだけおこなったか)を作成する。 ⑤担当症例の空間概念図を作成し、指導者とディスカッションができる。</p> <p>この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習を実施する。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、全ての臨床実習を通して1単位分実施する。</p> <p>課題提出物 1) 出席表・到達度チェック表 2) デイリーノート 3) チェックリスト 4) 臨床理学療法評価実習Ⅱ報告書 5) 事故報告書(事故が起こった場合)</p> <p>学内課題 1) 報告会 2) 口頭試問</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・1:1 実習による学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	Webclass や Mahara での e ポートフォリオ(デイリーノート等)を活用する。

評価方法	1) 実習遂行状況 20% 2) 実習後プレゼンテーション（臨床理学療法総合実習Ⅱ報告書（空間概念図））および口頭試問 80%
課題に対するフィードバック	各担当教員より実習の進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを適宜行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。臨床理学療法実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（yuichi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	作業療法概論																																		
科目責任者	伊藤 信寿																																		
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 1 セミナー																																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																		
科目概要	作業療法の基本的事項（作業療法の理論背景の概要、作業療法の対象と実践背景の概要など）を学習する。作業療法について主体的に学習する習慣と方法を身につける。																																		
到達目標	(1) 作業療法の歴史、作業活動と健康、作業療法の対象など、作業療法の概要について説明できる。 (2) 作業療法の背景と内容の概要について説明できる。																																		
授業計画	<p><担当教員名>伊藤信寿、泉 良太、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、藤田さより、栗田洋平 <授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、主体的な学び</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第2回：作業とは何か</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第3回：作業療法の歴史</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第4回：作業療法に関連する予備知識</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第5回：作業療法で用いる理論・モデル①</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第6回：作業の分析と治療への応用</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第7回：作業療法で用いる理論・モデル②</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第8回：身体領域における作業療法の実際</td> <td>泉、佐野</td> </tr> <tr> <td>第9回：精神領域における作業療法の実際</td> <td>藤田、飯田</td> </tr> <tr> <td>第10回：高齢期における作業療法の実際</td> <td>鈴木、栗田</td> </tr> <tr> <td>第11回：発達領域における作業療法の実際</td> <td>伊藤</td> </tr> <tr> <td>第12回：地域における作業療法の実際</td> <td>藤田、伊藤</td> </tr> <tr> <td>第13回：社会保障制度の理解</td> <td>泉、藤田、伊藤</td> </tr> <tr> <td>第14回：作業療法とは（発表）</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第15回：授業のまとめ</td> <td>伊藤</td> </tr> </table> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性はある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>					第1回：オリエンテーション、主体的な学び	伊藤	第2回：作業とは何か	伊藤	第3回：作業療法の歴史	伊藤	第4回：作業療法に関連する予備知識	伊藤	第5回：作業療法で用いる理論・モデル①	鈴木	第6回：作業の分析と治療への応用	伊藤	第7回：作業療法で用いる理論・モデル②	鈴木	第8回：身体領域における作業療法の実際	泉、佐野	第9回：精神領域における作業療法の実際	藤田、飯田	第10回：高齢期における作業療法の実際	鈴木、栗田	第11回：発達領域における作業療法の実際	伊藤	第12回：地域における作業療法の実際	藤田、伊藤	第13回：社会保障制度の理解	泉、藤田、伊藤	第14回：作業療法とは（発表）	全員	第15回：授業のまとめ	伊藤
第1回：オリエンテーション、主体的な学び	伊藤																																		
第2回：作業とは何か	伊藤																																		
第3回：作業療法の歴史	伊藤																																		
第4回：作業療法に関連する予備知識	伊藤																																		
第5回：作業療法で用いる理論・モデル①	鈴木																																		
第6回：作業の分析と治療への応用	伊藤																																		
第7回：作業療法で用いる理論・モデル②	鈴木																																		
第8回：身体領域における作業療法の実際	泉、佐野																																		
第9回：精神領域における作業療法の実際	藤田、飯田																																		
第10回：高齢期における作業療法の実際	鈴木、栗田																																		
第11回：発達領域における作業療法の実際	伊藤																																		
第12回：地域における作業療法の実際	藤田、伊藤																																		
第13回：社会保障制度の理解	泉、藤田、伊藤																																		
第14回：作業療法とは（発表）	全員																																		
第15回：授業のまとめ	伊藤																																		
アクティブラーニング	Think-Pair-Share やグループワークを行っていきます。																																		
授業内のICT活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います。																																		
評価方法	定期試験（50%）、レポート・課題（30%）、ポートフォリオ（20%） レポート、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。																																		
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーへコメントする。																																		
指定図書	下記参照																																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																														

作業療法学 概論テキスト [電子版 付]	東登志夫	南江堂	4300	9784524232710	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業療法学 概論 第4 版	矢谷 令子	医学書院	4000	9784260047852	
事前・ 事後学修	事前学修：各回のテーマについて教科書を熟読しておくこと、授業計画で示した内容 事後学習：授業で示された内容等を確認				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	作業科学と作業療法																																																				
科目責任者	鈴木 達也																																																				
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 2 セミナー																																																				
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																																				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																																				
科目概要	作業療法は作業を通して人々の健康を促進します。本科目では、その作業療法の基礎学問である作業科学を理解し、作業療法士としてどのように人々の健康を促進するかを学びます。さらに、作業療法場面の治療、援助の指針になる作業療法の理論を学びます。																																																				
到達目標	作業的存在としての人間の理解を深める 作業の視点を通じた人間の健康を理解する 作業療法の理論と実践を知り専門性を理解する																																																				
授業計画	<p><科目担当教員>鈴木達也・泉良太・栗田洋平 <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>作業科学と作業療法</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>作業と遂行文脈、形態機能意味</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>作業の主観的意味</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>作業と健康</td> <td>栗田・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>作業的公正、作業的存在</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>作業と哲学、作業療法と作業科学の歴史</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>作業と文化</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>作業の枠組み OTPF</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>作業療法の理論・モデル① (PEO, CMOP-E)</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>作業療法の理論・モデル② (MOHO・CMCE)</td> <td>栗田・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>国際支援活動と作業療法</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>作業療法の理論・モデル③ (OTIPM)</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>作業科学と作業療法の研究・実践</td> <td>外部講師</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>生活行為向上マネジメント MTDLP</td> <td>泉・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>作業療法と作業科学の歴史・発表</td> <td>鈴木</td> </tr> </tbody> </table>					回数	内容	担当教員	第1回	作業科学と作業療法	鈴木	第2回	作業と遂行文脈、形態機能意味	鈴木	第3回	作業の主観的意味	鈴木	第4回	作業と健康	栗田・鈴木	第5回	作業的公正、作業的存在	鈴木	第6回	作業と哲学、作業療法と作業科学の歴史	鈴木・栗田	第7回	作業と文化	鈴木	第8回	作業の枠組み OTPF	鈴木	第9回	作業療法の理論・モデル① (PEO, CMOP-E)	鈴木	第10回	作業療法の理論・モデル② (MOHO・CMCE)	栗田・鈴木	第11回	国際支援活動と作業療法	鈴木	第12回	作業療法の理論・モデル③ (OTIPM)	鈴木	第13回	作業科学と作業療法の研究・実践	外部講師	第14回	生活行為向上マネジメント MTDLP	泉・鈴木	第15回	作業療法と作業科学の歴史・発表	鈴木
回数	内容	担当教員																																																			
第1回	作業科学と作業療法	鈴木																																																			
第2回	作業と遂行文脈、形態機能意味	鈴木																																																			
第3回	作業の主観的意味	鈴木																																																			
第4回	作業と健康	栗田・鈴木																																																			
第5回	作業的公正、作業的存在	鈴木																																																			
第6回	作業と哲学、作業療法と作業科学の歴史	鈴木・栗田																																																			
第7回	作業と文化	鈴木																																																			
第8回	作業の枠組み OTPF	鈴木																																																			
第9回	作業療法の理論・モデル① (PEO, CMOP-E)	鈴木																																																			
第10回	作業療法の理論・モデル② (MOHO・CMCE)	栗田・鈴木																																																			
第11回	国際支援活動と作業療法	鈴木																																																			
第12回	作業療法の理論・モデル③ (OTIPM)	鈴木																																																			
第13回	作業科学と作業療法の研究・実践	外部講師																																																			
第14回	生活行為向上マネジメント MTDLP	泉・鈴木																																																			
第15回	作業療法と作業科学の歴史・発表	鈴木																																																			
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション、PBL、プレゼンテーションを行います																																																				
授業内のICT活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います																																																				
評価方法	小テスト 30%、グループプレゼンテーション 10%、レポート 20%、ポートフォリオ 20%、定期試験 20%計 100% 小テストは講義開始時に行いますので、事前動画を確認してから授業に参加して下さい。 ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する																																																				
課題に対するフィードバック	レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメントと返却																																																				
指定図書	下記参照																																																				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																																

【第2版】 「作業」って何だろう 作業科学入門	吉川ひろみ／著	医歯薬出版	2800	9784263216675	
作業で語る 事例報告 第2版	齋藤 佑樹	医学書院	3800	9784260050258	
参考図書	作業療法学概論 第4版、監修：矢谷 令子、医学書院, 2021				
事前・ 事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 講義中に事前課題および事後課題について提示する。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	研究法入門
科目責任者	泉 良太
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 5 メモ
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	作業療法が医療専門職として存在し続けるには、他の療法との違いがどこにあり、社会の中でどのように機能し、どのような効果があるのかを明確に示さなければならない。その手段の1つが研究である。この科目では、早期に研究の基礎となる枠組みに触れ、研究の意義と面白さを実感し、4年間の学びの中に研究的視点を包含できることを目指す。
到達目標	1. 研究の定義と研究の意義について説明できる 2. 研究の分類(量的・質的など)と具体的進め方について説明できる 3. 研究に伴う倫理的配慮とデータの管理の重要性について説明できる 4. 自分の興味に基づくテーマを研究疑問の形で表現できる
授業計画	<p><担当教員名> 泉 良太、新宮尚人、伊藤信寿、藤田さより</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 研究法概論 ―プロセス・文献検索について</p> <p>第2回：文献検索の実際 図書館司書・泉 良太</p> <p>第3回：研究法概論 ―研究疑問・デザインについて 新宮尚人</p> <p>第4回：研究法概論 ―研究倫理・研究計画書について 泉 良太</p> <p>第5回：EBP・EBOT ―学術誌作業療法について 新宮尚人</p> <p>第6回：量的研究について 泉 良太</p> <p>第7回：統計について 泉 良太</p> <p>第8回：質的研究について 藤田さより</p> <p>第9～11回：研究テーマの検討(PBL) 第1～8回までの講義内容を踏まえ、グループで研究計画書を作成する。 第12～13回：研究テーマの発表(グループずつ) 泉 良太</p> <p>第14～15回：作業療法研究の動向、研究の実際①、研究の実際② 伊藤信寿、藤田さより、泉 良太</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	本授業は、研究テーマをPBLで検討していきます。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	知識習得テスト(60%) テーマ発表(25%) ポートフォリオ内容(15%) *ポートフォリオ内容は、ルーブリックを用いて評価します。

課題に対するフィードバック	研究テーマに関する PBL では、研究目的、方法、倫理的配慮等に関するフィードバックを随時行いながら進めていきます。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	友利幸之介／執筆 京極真／執筆 竹林崇／執筆	医学書院	4000	9784260036627	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業療法研究法 [第2版]	山田 孝 編集	医学書院	3800	9784260014830	
作業療法研究法	竹田徳則／編著 大浦智子／編著 木村大介／著 廣江貴則／第3部「統計解析」監修 藤本修平／	医歯薬出版	3200	9784263216767	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に WebClass に掲示された資料を確認してください (第1～15回：各20分) ・授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください (第1～15回：各20分) ・第4回、6回、8回、10回の授業開始時、WebClass 内の知識習得テストに回答してください (各10分) 				
オープンエデュケーションの活用	厚生労働省：研究に関する指針について https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	作業療法評価学総論
科目責任者	栗田 洋平
単位数他	1 単位(15 時間) 作業必修 2 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、評価の理念について学習する。これは、以後の学習を進める上での基礎になる部分である。そして、医療・保健・福祉分野における包括的評価である ICF (国際障害分類: International Classification of Functioning, Disability and Health) について、障害の捉え方、使用法、適用について学ぶ。
到達目標	「作業療法における評価の基礎を学ぶ」ことをテーマに 1. 作業療法評価の基本概念について理解を深める。 2. 包括的評価である ICF について、障害の捉え方、使用法、適用について知識を得ることを目標とする。 3. 作業療法実践の基礎である、面接と ICF における活動と参加の評価法について理解を深める。
授業計画	<担当教員名> 栗田 洋平 <授業内容・テーマ等> 第 1 回: 評価とは何か 評価とは何かについて説明する。 第 2 回: 作業療法プロセスにおける評価の位置づけ 作業療法の実践プロセスのなかで評価はどこに位置づくかについて説明する。 第 3 回: ICF 概念に基づいた包括的評価① 第 4 回: ICF 概念に基づいた包括的評価② ICF とは何か、ICIDH の問題点と ICF の利点、ICF の障害の捉え方について説明する。 第 5 回: ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法①) 第 6 回: ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法②) ICF を用いてどのように包括的評価を行うかについて説明し、実践する。 第 7 回: 面接法 作業療法を進める上での面接の目的、種類を説明する。 第 8 回: ICF における活動と参加の評価法, まとめ 興味や関心と QOL (quality of life: 生活の質) の評価の目的、種類を説明する。 第 1~7 回までの復習と知識習得テストを実施する。
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題の提出およびフィードバックを実施します。 また、グループ発表のプレゼンテーション時はプロジェクターを利用して行います。
評価方法	小テスト 20%, 知識習得テスト 40%, レポート 40% レポート課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	小テスト、知識習得テスト、レポート提出によって、一人ひとりの学習状況を確認し、必要な学修について、適宜、アドバイスを行っていきます。

指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか	上田敏／著	萌文社	667	9784894910966	
【第3版】 標準作業療 法学 専門 分野 作業 療法評価学 OT	矢谷令子／シリ ーズ監修 能登 真一／編集 山 口昇／編集 玉 垣努／編集 新 宮尚人／編集 加藤寿	医学書院	5800	9784260030038	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業で語る 事例報告 第2版	齋藤 佑樹	医学書院	3800	9784260050258	
事前・ 事後学修	① 授業前に該当部分の教科書、参考書を事前に読んでおくこと（各20分×8回） ② 第1回～第7回まで、授業開始時に事前予習した部分の小テストに回答すること（各10分×5問×7回） →間違えた箇所については、きちんと復習しておくこと ③ 第8回に知識習得テストに回答すること（30分×20問） ④ レポート「ICFを用いた作業療法評価について」を作成すること（80分×1000文字程度）				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（yohei-k@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	作業療法評価学演習
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	2 単位(60 時間) 作業必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	作業療法の基礎となる、「観察評価」、「記録」について演習から学び、それらの基礎力を身につける。また作業療法で用いる主要な評価法について理解し、実践する。さらに作業療法の評価から実施までの流れを理解する。
到達目標	①対象者の行動や表情、動きなどの「観察のポイント」を述べることができる。 ②対象者の行動や表情、動きなどを観察し、レポートに書くことができる。 ③AMPS、ADOC、COPM、OTIPM、ESI、MTDLP について理解し、ポイントを述べられる。 ④作業療法にて用いる主要な評価の概要や流れを理解し、述べられる。 ⑤作業療法のリーズニングを理解し、評価から作業療法実施までの臨床思考過程を述べられる。 ⑥当事者のニーズを探し、作業療法の評価～実施の流れに沿って、問題解決方法を実践する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 科目担当 鈴木達也 藤田さより 泉良太 <担当教員名></p> <p>第1回 オリエンテーション・評価をするうえで重要な視点 鈴木達也</p> <p>第2回 観察と記録の基本、主観と客観、SOAP、個人情報保護 鈴木達也</p> <p>第3回 COPM・ADOC について 鈴木達也</p> <p>第4回 COPM・ADOC の実践と記録 鈴木達也</p> <p>第5回 COPM・ADOC の実践と記録 鈴木達也</p> <p>第6回 OTIPM (作業療法介入プロセスモデル) について 鈴木達也</p> <p>第7回 AMPS (運動と遂行技能の評価) について 鈴木達也</p> <p>第8回 AMPS その2 鈴木達也</p> <p>第9回 OTIPM その2 鈴木達也</p> <p>第10回 演習：AMPS 実践 と記録 鈴木達也</p> <p>第11回 ひとと集団・場の作用と活用1 藤田さより・鈴木達也</p> <p>第12回 演習：AMPS 実践 と記録 鈴木達也</p> <p>第13回 作業療法リーズニング 鈴木達也</p> <p>第14回 作業療法リーズニング 鈴木達也</p> <p>第15回 ESI (社会交流技能評価) 1 鈴木達也</p> <p>第16回 ESI (社会交流技能評価) 1 鈴木達也</p> <p>第17回 ライブケース演習 鈴木達也</p> <p>第18回 ライブケース演習 鈴木達也</p> <p>第19回 演習：ESI 実践と記録 鈴木達也</p> <p>第20回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第21回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第22回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第23回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第24回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第25回 MTDLP (生活行為向上マネジメント) について 泉良太・鈴木達也</p> <p>第26回 MTDLP (生活行為向上マネジメント) について 泉良太・鈴木達也</p> <p>第27回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第28回 PBL：作業療法の面接～介入～実践 鈴木達也</p> <p>第29回 まとめ・プレゼンテーション 鈴木達也</p> <p>第30回 まとめ・プレゼンテーション 鈴木達也</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>
アクティブラーニング	PBL、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。演習・実習科目です。当事者の課題をみつけ、問題解決のための実践をグループワーク・プレゼンテーションにて行います。

授業内のICT活用	PCによる演習、プレゼンテーション、webclassの事前事後学習での活用				
評価方法	小テスト30% ポートフォリオ30% レポート30%、プレゼンテーション10% レポート・ポートフォリオには、ルーブリック評価を用いる。				
課題に対するフィードバック	小テストは返却致します。レポートに関してはコメントを記入し返却致します。 フィードバックペーパーの内容に基づき次回授業時にコメントおよび講義等行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第2版】 「作業」って何だろう 作業科学入門	吉川ひろみ/著	医歯薬出版	2800	9784263216675	
作業療法がわかるCO PM・AM PSスター ティングガ イド FO R OCC UPATI ONAL THERA PISTS	吉川ひろみ/著	医学書院	3800	9784260007481	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ひとと集 団・場 新 版 治療や 援助、支援 における場 と集団のも ちい方	山根 寛	三輪書店	3500	9784895906159	
事前・ 事後学修	「観察力」には、解剖・運動学の知識が必要不可欠です。その為に前半に運動学・解剖学の復習を行ってください。 COPM、AMPSの評価方法・評価項目について教科書を熟読し、演習に備えてください。 また作業療法の各種理論についても資料を熟読してください(毎回40分)。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(tatsuya-s@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て					

科目名	身体領域作業療法評価学	
科目責任者	泉 良太	
単位数他	2 単位(60 時間) 作業必修 4セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	講義、演習を通じて身体機能の評価方法を知り、身体機能の検査測定技術（関節可動域、筋力、筋緊張、感覚、脳神経、反射、姿勢反射、協調性、随意性、上肢機能検査等）および面接・観察技術を修得する。演習では実際の対象者に対して評価を行い、協力者からの指導を得る。演習後には評価結果から統合と解釈を実施し、対象者の生活との関連について理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害領域における作業療法評価の目的、適応、禁忌事項について説明できる。 2. 作業療法の評価計画を立案することができる。 3. 学修した評価を正しく実施できる。 4. 評価結果を統合解釈し、病態を的確に分析することができる。 5. 評価結果から生活にどのような影響を及ぼすのかを説明する事ができる。 	
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、佐野哲也、伊藤信寿、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : オリエンテーション、意識の評価</p> <p>第2回 : バイタルサインの測定</p> <p>第3回 : 形態計測</p> <p>第4回 : 関節可動域測定</p> <p>第5回 : 関節可動域測定</p> <p>第6回 : 関節可動域測定 カー)、佐野哲也、泉 良太</p> <p>第7回 : 関節可動域測定</p> <p>第8回 : 関節可動域測定</p> <p>第9回 : 反射検査、姿勢反射検査</p> <p>第10回 : 脳神経検査</p> <p>第11回 : 筋力検査</p> <p>第12回 : 筋力検査</p> <p>第13回 : 筋力検査</p> <p>第14回 : 筋力検査</p> <p>第15回 : 筋力検査</p> <p>第16回 : 筋力検査</p> <p>第17回 : 筋力検査</p> <p>第18回 : 筋緊張検査、随意性検査 (BRS)</p> <p>第19回 : 感覚知覚検査</p> <p>第20回 : 上肢機能検査</p> <p>第21回 : ライブケース</p> <p>第22回 : ライブケース</p> <p>第23回 : ライブケース</p> <p>第24回 : 上肢機能検査</p> <p>第25回 : 協調性検査</p> <p>第26回 : 地域障がい者総合リハビリテーションセンター実習</p> <p>第27回 : 地域障がい者総合リハビリテーションセンター実習</p> <p>第28回 : 地域障がい者総合リハビリテーションセンター実習</p> <p>第29回 : 評価のまとめ</p> <p>第30回 : 評価のまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>小野安咲子 (ゲストスピーカー)</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>科目担当教員全員</p> <p>科目担当教員全員</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。				
授業内の ICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。				
評価方法	定期試験 40%、知識習得テスト 20%、実技試験 40%、計 100% 実技の達成度の評価にはルーブリックを用います。				
課題に対する フィード バック	知識習得テスト・演習レポートへのコメント・返却				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第3版】 標準作業療 法学 専門 分野 作業 療法評価学 OT	矢谷令子／シリ ーズ監修 能登 真一／編集 山 口昇／編集 玉 垣努／編集 新 宮尚人／編集 加藤寿	医学書院	5800	9784260030038	
新・徒手筋 力検査法 原著第10 版	Dale Avers 著	協同医書出版社	7800	9784763900418	
神経診察ク ローズアッ プ 第3版	鈴木 則宏	メジカルビュー 社	7000	9784758318129	
参考図書	授業中に随時提示する。				
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1～30回目）。 ・授業後はポートフォリオを作成し、実技の復習を実施してください（各20分1～28回目）。 ・4回目、10回目、16回目、24回目、28回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各10分）。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に 関 する 記 述	なし				

科目名	高齢期作業療法評価学
科目責任者	栗田 洋平
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	高齢期に特徴的な身体、精神、認知面に関する生理的変化や環境についての評価法を学び、PBL による事例検討を通して評価結果に基づいた個別および集団の作業療法プログラムの立案を行います。加えて、標準化された評価法だけではなく、観察や面接から得られる情報から対象者自身を知り、作業療法プログラムを展開できることを学びます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の心身機能の特徴について説明することができる 2. 評価法の名前とその目的を理解し使用できる 3. 評価法の種類と目的を理解し使用できる 4. 評価結果に基づき作業療法プログラムを立案することができる
授業計画	<p><担当教員名>栗田洋平, 鈴木達也 <授業内容・テーマ等> 回数 内容 担当教員 第1回 オリエンテーション、高齢期評価の態度、傾聴の姿勢 栗田・鈴木 第2回 作業療法と面接評価法 栗田・鈴木 第3回 作業療法と観察評価法 栗田・鈴木 第4回 高齢者施設見学1 栗田・鈴木 第5回 高齢者施設見学2 栗田・鈴木 第6回 高齢者の日常生活、行動の評価法 栗田・鈴木 第7回 高齢者の精神機能の評価 栗田・鈴木 第8回 PBL1(事例検討) 栗田・鈴木 第9回 環境・介護負担感の評価法 栗田・鈴木 第10回 PBL2(事例検討) 栗田・鈴木 第11回 PBL3(事例検討) 栗田・鈴木 第12回 高齢者施設での集団活動 栗田・鈴木 第13回 高齢者施設での集団活動 栗田・鈴木 第14回 高齢者施設での集団活動・事例検討発表 栗田・鈴木 第15回 報告会のまとめ 栗田・鈴木</p>
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション、PBL、施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します
評価方法	<p>成績は筆記試験 50%、小テスト 20%、ポートフォリオ 20%、発表 10%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ・発表はルーブリックを用いて評価します ・ルーブリックの内容は授業中に提示します
課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパー、プレゼンテーションへのコメント
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
高齢期作業療法学 [第3版]	・	医学書院	4000	9784260024402	
参考図書	田平隆行, 田中寛之編(2019) 『Evidence Based で考える認知症リハビリテーション』 医学書院 以下下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第3版】 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 OT	矢谷令子／シリーズ監修 能登真一／編集 山口昇／編集 玉垣努／編集 新宮尚人／編集 加藤寿	医学書院	5800	9784260030038	
事例でわかる 人間作業モデル	山田 孝 編著	協同医書出版社	3700	9784763921406	
高齢者のその人らしさを捉える作業療法	藪脇 健司	文光堂	6500	9784830645198	
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・ これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・ グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yohei-k@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
対面授業の実施について	なし				

科目名	基礎作業学																																																														
科目責任者	飯田 妙子																																																														
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 2セメスター																																																														
DP番号と科目領域	DP3 専門																																																														
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。																																																														
科目概要	1. 作業療法で利用される活動のうち、陶芸、織物、革細工、木工などの基本的技法を学ぶ。 2. 各作業が人に与える身体的・心理的影響を、自己を通して洞察出来る。 3. 作業分析の基礎を学ぶ。																																																														
到達目標	1. 陶芸、織物、革細工、木工が人にどのような身体的・心理的影響を与えているか自分自身で感じ、述べる事ができる。 2. 共同作品を作成し作業が人とのつながり、広がりをもたらす効果を感じ、述べる事ができる。																																																														
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回 オリエンテーション</td><td>飯田妙子</td></tr> <tr><td>第2回 身体表現(演習)</td><td>河本のぞみ・飯田</td></tr> <tr><td>第3回 身体表現(演習)</td><td>河本のぞみ・飯田</td></tr> <tr><td>第4回 身体表現(演習)</td><td>河本のぞみ・飯田</td></tr> <tr><td>第5回 身体表現(演習)</td><td>河本のぞみ・飯田</td></tr> <tr><td>第6回 陶芸(実習)</td><td>綿貫克彦・藤田さより・飯田</td></tr> <tr><td>第7回 陶芸(実習)</td><td>綿貫克彦・藤田さより・飯田</td></tr> <tr><td>第8回 陶芸(実習)</td><td>綿貫克彦・藤田さより・飯田</td></tr> <tr><td>第9回 陶芸(実習)</td><td>綿貫克彦・藤田さより・飯田</td></tr> <tr><td>第10回 陶芸(実習)</td><td>綿貫克彦・藤田さより・飯田</td></tr> <tr><td>第11回 陶芸(実習)</td><td>綿貫克彦・藤田さより・飯田</td></tr> <tr><td>第12回 革細工(実習)</td><td>永田征司・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第13回 革細工(実習)</td><td>永田征司・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第14回 革細工(実習)</td><td>永田征司・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第15回 革細工(実習)</td><td>永田征司・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第16回 革細工(実習)</td><td>永田征司・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第17回 革細工(実習)</td><td>永田征司・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第18回 さをり織り(実習、グループワーク)</td><td>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第19回 さをり織り(実習、グループワーク)</td><td>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第20回 さをり織り(実習、グループワーク)</td><td>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第21回 さをり織り(実習、グループワーク)</td><td>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第22回 さをり織り(実習、グループワーク)</td><td>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第23回 さをり織り(実習、グループワーク)</td><td>須藤弘子・石原順子・藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第24回 木工(実習、グループワーク)</td><td>藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第25回 木工(実習、グループワーク)</td><td>藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第26回 木工(実習、グループワーク)</td><td>藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第27回 木工(実習、グループワーク)</td><td>藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第28回 木工(実習、グループワーク)</td><td>藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第29回 木工(実習、グループワーク)</td><td>藤田・飯田</td></tr> <tr><td>第30回 まとめ</td><td>飯田妙子</td></tr> </tbody> </table> <p>・外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります。 ・授業スケジュールは初回授業時に配布します。</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 オリエンテーション	飯田妙子	第2回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田	第3回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田	第4回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田	第5回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田	第6回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田	第7回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田	第8回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田	第9回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田	第10回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田	第11回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田	第12回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田	第13回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田	第14回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田	第15回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田	第16回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田	第17回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田	第18回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田	第19回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田	第20回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田	第21回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田	第22回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田	第23回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田	第24回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田	第25回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田	第26回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田	第27回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田	第28回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田	第29回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田	第30回 まとめ	飯田妙子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																																														
第1回 オリエンテーション	飯田妙子																																																														
第2回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田																																																														
第3回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田																																																														
第4回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田																																																														
第5回 身体表現(演習)	河本のぞみ・飯田																																																														
第6回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田																																																														
第7回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田																																																														
第8回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田																																																														
第9回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田																																																														
第10回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田																																																														
第11回 陶芸(実習)	綿貫克彦・藤田さより・飯田																																																														
第12回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田																																																														
第13回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田																																																														
第14回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田																																																														
第15回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田																																																														
第16回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田																																																														
第17回 革細工(実習)	永田征司・藤田・飯田																																																														
第18回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田																																																														
第19回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田																																																														
第20回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田																																																														
第21回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田																																																														
第22回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田																																																														
第23回 さをり織り(実習、グループワーク)	須藤弘子・石原順子・藤田・飯田																																																														
第24回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田																																																														
第25回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田																																																														
第26回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田																																																														
第27回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田																																																														
第28回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田																																																														
第29回 木工(実習、グループワーク)	藤田・飯田																																																														
第30回 まとめ	飯田妙子																																																														
アクティブラーニング	演習科目です。 一部の授業内容においては、グループワークを取り入れて演習を行います。																																																														

授業内のICT活用	なし				
評価方法	各作品の完成および各作業における作業分析レポート 100% レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
課題に対するフィードバック	演習時には、適宜アドバイスをを行います。 作業分析レポートについては、返却時にコメントを記入します。				
指定図書	クラフト学園：革の技法（増補改訂版）思い通りに作れるアイデア満載 レザークラフトロングセラー、日本ヴォーグ社、2021				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ひとと作業・作業活動 新版 作業の知をとき技を育む	山根 寛	三輪書店	3500		
参考図書	城みさを：新・私の手織り SAORI、ぶどう社、2000 綿貫克彦・綿貫静香：陶芸療法とリハビリテーション、エルゴ、2012				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第2版】 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル	古川宏/監修	医歯薬出版	4200	9784263265802	
事前・事後学修	事前学修：各作業種目が人に与える影響について、教科書の作業分析例をみながら考えておくこと（各20分×5種目） 作業分析に必要な解剖学、運動学の知識の復習（各10分×5種目） 事後学修：作業分析を各作業種目で実施し、レポートにまとめる（A4・1枚、各30分×5種目）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（taeko-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	作業技術学				
科目責任者	藤田 さより				
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 3 メモター				
DP 番号と科目領域	DP3 専門				
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。				
科目概要	作業療法として多く利用される活動（紙細工、園芸、籐細工、染物など）の実践を交えながら、各活動の基本的技法を学び、作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を考え、作業分析の基礎を学ぶ。さらに各作業の対象者への導入法を学ぶ。				
到達目標	①作業療法として多く利用される活動を実践し、基本的技法を理解し、作品を完成できる。 ②作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を述べることができる。 ③各作業の対象者への導入方法（段階付け）を考え、作業分析シートに記入することができる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>		
	第 1 回：オリエンテーション、作業分析について、折り紙		藤田さより		
	第 2 回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析（絵画）		藤田さより		
	第 3 回：実技演習：投影的作業の実践と作業分析		藤田さより		
	第 4 回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析		藤田さより		
	第 5 回：実技演習：構成的作業の実践と作業分析		藤田さより		
	第 6 回：実技演習：園芸療法と作業療法		藤田さより		
	第 7 回：実技演習：室内園芸と作業分析		藤田さより		
	第 8 回：実技演習：編む作業と作業分析（編み物）		藤田さより		
	第 9 回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）		藤田さより		
	第 10 回：実技演習：編む作業と作業分析（マクラメ）		藤田さより		
	第 11 回：実技演習：作業療法と音楽活動		藤田さより		
	第 12 回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）		藤田さより		
	第 13 回：実技演習：対象者への導入方法とその効果を考える（籐細工）		藤田さより		
	第 14 回：実技演習：障害者スポーツと作業療法		藤田さより		
	第 15 回：実技演習： 集団の運営と作業療法		藤田さより		
アクティブラーニング	実技・実践・演習・実習科目です。				
授業内の ICT 活用	Webclass での事前事後学習				
評価方法	レポート（作業分析表）80% 活動への取り組み・作品の完成 20% レポートに関してはルーブリック評価を用いる。				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートコメントおよび評価を記入し返却致します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業学 第 3 版	長崎 重信：山口 芳文：野本 義則	メジカルビュー社	4800	9784758320429	

参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ひとと作業・作業活動 新版 作業の知をとき技を育む	山根 寛	三輪書店	3500	9784895905046	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・作業分析を各作業すべてで実施します。作業分析に必要な解剖学・運動学について事前に復習してください。(毎回 40 分程度) ・事後学修では作業分析シートを記入し、作業が人に与える影響等について分析してください。 ・障害者の方への作業の提供方法を考えます。各障害の基礎について復習してください。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	初回講義・個別で行う作業に関しては ZOOM によるオンラインでの講義となる場合もあります。				

科目名	神経系作業療法学																																																																																										
科目責任者	泉 良太																																																																																										
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 4セミナー																																																																																										
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																																																																										
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																																																																										
科目概要	身体障害領域で主に作業療法の対象となる疾患の病態像および、疾患の特性を学修し、対象者に対する作業療法実践課程の事例を通して基礎的な理論と知識・技術を学修する。疾患特性の復習を行い、疾患の特性と社会生活上の問題点を掘り下げて学習していく。																																																																																										
到達目標	1. 疾患の特徴を理解し、説明ができる。 2. 作業療法の対象となる方（疾患特性や社会背景など）に応じた介入を立案できる。 3. 作業療法の理論的枠組みを持った上で障害を説明することができる。																																																																																										
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員> 泉 良太、佐野哲也</p> <p>*事例検討はPBLで実施する。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>身体機能作業療法学の基礎</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>脳血管障害 説明</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>脳血管障害フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>発表準備</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>発表</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>発表 フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>糖尿病・透析の基礎</td> <td>西川達也 (ゲストスピーカー)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>糖尿病・透析の作業療法</td> <td>西川達也 (ゲストスピーカー)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>神経変性疾患 説明</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>神経変性疾患フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>事例検討</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>発表準備</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>発表</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>発表 フィードバック</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>中間確認テスト</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>振り返り</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>循環器障害の基礎</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>循環器障害の作業療法</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>悪性腫瘍 (がん)</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>事例検討 フィードバック</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第29回</td> <td>神経筋疾患</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>事例検討 フィードバック</td> <td>佐野哲也、泉 良太</td> </tr> </table>	第1回	身体機能作業療法学の基礎	泉 良太、佐野哲也	第2回	脳血管障害 説明	泉 良太、佐野哲也	第3回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第4回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第5回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第6回	脳血管障害フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第7回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第8回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第9回	発表準備	泉 良太、佐野哲也	第10回	発表	泉 良太、佐野哲也	第11回	発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第12回	糖尿病・透析の基礎	西川達也 (ゲストスピーカー)	第13回	糖尿病・透析の作業療法	西川達也 (ゲストスピーカー)	第14回	神経変性疾患 説明	泉 良太、佐野哲也	第15回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第16回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第17回	神経変性疾患フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第18回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第19回	事例検討	泉 良太、佐野哲也	第20回	発表準備	泉 良太、佐野哲也	第21回	発表	泉 良太、佐野哲也	第22回	発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也	第23回	中間確認テスト	泉 良太、佐野哲也	第24回	振り返り	泉 良太、佐野哲也	第25回	循環器障害の基礎	佐野哲也、泉 良太	第26回	循環器障害の作業療法	佐野哲也、泉 良太	第27回	悪性腫瘍 (がん)	佐野哲也、泉 良太	第28回	事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太	第29回	神経筋疾患	佐野哲也、泉 良太	第30回	事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太
第1回	身体機能作業療法学の基礎	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第2回	脳血管障害 説明	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第3回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第4回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第5回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第6回	脳血管障害フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第7回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第8回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第9回	発表準備	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第10回	発表	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第11回	発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第12回	糖尿病・透析の基礎	西川達也 (ゲストスピーカー)																																																																																									
第13回	糖尿病・透析の作業療法	西川達也 (ゲストスピーカー)																																																																																									
第14回	神経変性疾患 説明	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第15回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第16回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第17回	神経変性疾患フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第18回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第19回	事例検討	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第20回	発表準備	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第21回	発表	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第22回	発表 フィードバック	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第23回	中間確認テスト	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第24回	振り返り	泉 良太、佐野哲也																																																																																									
第25回	循環器障害の基礎	佐野哲也、泉 良太																																																																																									
第26回	循環器障害の作業療法	佐野哲也、泉 良太																																																																																									
第27回	悪性腫瘍 (がん)	佐野哲也、泉 良太																																																																																									
第28回	事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太																																																																																									
第29回	神経筋疾患	佐野哲也、泉 良太																																																																																									
第30回	事例検討 フィードバック	佐野哲也、泉 良太																																																																																									
アクティブラーニング	本授業は、PBL、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。																																																																																										
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。																																																																																										

評価方法	知識習得テスト70%及びポートフォリオ30%（まとめ、自己学修を含む）で判断します。ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。なお、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの内容は授業中に提示します。				
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックを実施します。ポートフォリオ及び知識習得テスト返却時にフィードバックを実施します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
身体機能作業療法学第4版	矢谷 令子	医学書院	5000	9784260046824	
参考図書	授業中に随時紹介します。				
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1、2回目、12～14回目、26、28回目）。 ・授業前にグループワーク課題を整理してください（各20分3～9回目、15～21回目、27、29回目）。 ・9回目、21回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各20分）。 ・ポートフォリオを作成してください（各20分1～30回目）。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	運動器系作業療法学		
科目責任者	佐野 哲也		
単位数他	2 単位(60 時間) 作業必修 4セメスター		
DP 番号と科目領域	DP4 専門		
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。		
科目概要	運動器疾患領域で主に作業療法の対象となる骨折、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷、腱損傷、熱傷について疾患の病態像および、疾患の特性を学修する。作業療法実践の事例と演習を通して基礎的な理論と知識・技術を学修する。疾患の特性と社会生活上の問題点を掘り下げて作業療法の介入計画を立案できる。		
到達目標	1. 疾患の特徴を理解し、説明ができる。 2. 作業療法の対象となる方（疾患特性や社会背景など）に応じた介入を立案できる。 3. 演習を通して装具療法の目的が説明できる。 4. 作業療法の理論的枠組みを持った上で障害を説明することができる。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>*事例検討はPBLで実施します。</p> <p>第1回：運動器系作業療法の基礎</p> <p>第2回：骨折（肩～肘）の基礎</p> <p>第3回：事例検討</p> <p>第4回：発表、フィードバック</p> <p>第5回：骨折（前腕～手）の基礎</p> <p>第6回：事例検討</p> <p>第7回：骨折（脊柱～下肢）の基礎</p> <p>第8回：事例検討</p> <p>第9回：事例検討</p> <p>第10回：発表、フィードバック</p> <p>第11回：実技演習</p> <p>第12回：実技演習</p> <p>第13回：加齢性関節疾患、関節リウマチの基礎</p> <p>第14回：事例検討</p> <p>第15回：事例検討</p> <p>第16回：末梢神経損傷の基礎</p> <p>第17回：事例検討</p> <p>第18回：脊髄損傷の基礎</p> <p>第19回：事例検討</p> <p>第20回：発表、フィードバック</p> <p>第21回：手外科領域の基礎と作業療法</p> <p>第22回：装具療法；スプリント療法の基礎</p> <p>第23回：スプリントの作成</p> <p>第24回：スプリントの作成</p> <p>第25回：スプリントの作成</p> <p>第26回：腱損傷（手指損傷、腱板損傷）の基礎</p> <p>第27回：熱傷の基礎と作業療法</p> <p>第28回：切断と義肢の基礎</p> <p>第29回：切断と義肢の作業療法</p> <p>第30回：全体のまとめ</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p><担当教員名></p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太、ゲストスピーカー</p> <p>佐野哲也、泉 良太、ゲストスピーカー</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>田中洋輔、佐野哲也</p> <p>田中洋輔、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> </td> </tr> </table>	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>*事例検討はPBLで実施します。</p> <p>第1回：運動器系作業療法の基礎</p> <p>第2回：骨折（肩～肘）の基礎</p> <p>第3回：事例検討</p> <p>第4回：発表、フィードバック</p> <p>第5回：骨折（前腕～手）の基礎</p> <p>第6回：事例検討</p> <p>第7回：骨折（脊柱～下肢）の基礎</p> <p>第8回：事例検討</p> <p>第9回：事例検討</p> <p>第10回：発表、フィードバック</p> <p>第11回：実技演習</p> <p>第12回：実技演習</p> <p>第13回：加齢性関節疾患、関節リウマチの基礎</p> <p>第14回：事例検討</p> <p>第15回：事例検討</p> <p>第16回：末梢神経損傷の基礎</p> <p>第17回：事例検討</p> <p>第18回：脊髄損傷の基礎</p> <p>第19回：事例検討</p> <p>第20回：発表、フィードバック</p> <p>第21回：手外科領域の基礎と作業療法</p> <p>第22回：装具療法；スプリント療法の基礎</p> <p>第23回：スプリントの作成</p> <p>第24回：スプリントの作成</p> <p>第25回：スプリントの作成</p> <p>第26回：腱損傷（手指損傷、腱板損傷）の基礎</p> <p>第27回：熱傷の基礎と作業療法</p> <p>第28回：切断と義肢の基礎</p> <p>第29回：切断と義肢の作業療法</p> <p>第30回：全体のまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太、ゲストスピーカー</p> <p>佐野哲也、泉 良太、ゲストスピーカー</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>田中洋輔、佐野哲也</p> <p>田中洋輔、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p>
<p><授業内容・テーマ等></p> <p>*事例検討はPBLで実施します。</p> <p>第1回：運動器系作業療法の基礎</p> <p>第2回：骨折（肩～肘）の基礎</p> <p>第3回：事例検討</p> <p>第4回：発表、フィードバック</p> <p>第5回：骨折（前腕～手）の基礎</p> <p>第6回：事例検討</p> <p>第7回：骨折（脊柱～下肢）の基礎</p> <p>第8回：事例検討</p> <p>第9回：事例検討</p> <p>第10回：発表、フィードバック</p> <p>第11回：実技演習</p> <p>第12回：実技演習</p> <p>第13回：加齢性関節疾患、関節リウマチの基礎</p> <p>第14回：事例検討</p> <p>第15回：事例検討</p> <p>第16回：末梢神経損傷の基礎</p> <p>第17回：事例検討</p> <p>第18回：脊髄損傷の基礎</p> <p>第19回：事例検討</p> <p>第20回：発表、フィードバック</p> <p>第21回：手外科領域の基礎と作業療法</p> <p>第22回：装具療法；スプリント療法の基礎</p> <p>第23回：スプリントの作成</p> <p>第24回：スプリントの作成</p> <p>第25回：スプリントの作成</p> <p>第26回：腱損傷（手指損傷、腱板損傷）の基礎</p> <p>第27回：熱傷の基礎と作業療法</p> <p>第28回：切断と義肢の基礎</p> <p>第29回：切断と義肢の作業療法</p> <p>第30回：全体のまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太、ゲストスピーカー</p> <p>佐野哲也、泉 良太、ゲストスピーカー</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>泉 良太、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p> <p>田中洋輔、佐野哲也</p> <p>田中洋輔、佐野哲也</p> <p>佐野哲也、泉 良太</p>		
アクティブラーニング	・本授業は、PBL、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、演習（スプリント作成、治療実技）を取り入れて実施します。		
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。		

評価方法	知識習得テスト70%、実技演習10%、ポートフォリオ20%（まとめ、自己学修、PBLの取り組み状況を含む）で判断します。 ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。 なお、ポートフォリオと演習は、ルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの内容は授業中に提示します。				
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックを実施します。 ポートフォリオ及び知識習得テスト返却時にフィードバックを実施します。				
指定図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第3版】 標準作業療 法学 専門 分野 作業 療法評価学 OT	矢谷令子／シリ ーズ監修 能登 真一／編集 山 口昇／編集 玉 垣努／編集 新 宮尚人／編集 加藤寿	医学書院	5800	9784260030038	
身体機能作 業療法学 第4版	矢谷 令子	医学書院	5000	9784260046824	
義肢装具の チェックポ イント 第 9版	日本整形外科学 会	医学書院	7800	9784260045896	
参考図書	齋藤慶一郎：リハ実践テクニック ハンドセラピー 改訂第2版、メジカルビュー、2022				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
標準整形外 科学 第15 版	井樋 栄二	医学書院	9500	9784260049368	
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1、2回目、5回目、7回目、11回目、13回目、15回目、18回目、25回目、27、28回目、30回目）。 ・授業前にグループワーク課題を整理してください（各20分3、4回目、6回目、8～10回目、12回目、14回目、16、17回目、26回目、29回目）。 ・10回目、19回目、30回目の授業後にWebClass内の確認テスト及び知識習得テストに回答してください（各20分）。 ・ポートフォリオを作成してください（各20分1～30回目）。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tetsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	日常生活活動技術学																																																				
科目責任者	泉 良太																																																				
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 5 セミナー																																																				
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																																				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																																				
科目概要	基本的日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の心身機能・身体構造、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。 疾患別の福祉用具・住宅改修など環境調整の手段を学ぶ。																																																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADL・IADL について説明ができる。 2. ADL・IADL 評価方法を述べる事ができる。 3. ADL・IADL の作業療法（直接的アプローチ・間接的アプローチ）を述べる事ができる。 4. 福祉用具・自助具・車いすについて説明ができる。 																																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td> <td><担当教員名></td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> </tr> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、ADL・IADL について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回：起居動作（臥位、寝返り、起き上がり）の評価</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回：起居動作（臥位、寝返り、起き上がり）の動作分析</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回：座位、立ち上がり、立位の評価</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回：座位、立ち上がり、立位の動作分析</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回：ADL 評価尺度について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回：ADL 評価尺度について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回：ADL 評価尺度について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回：ADL 評価尺度について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回：IADL・健康関連 QOL 尺度について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回：福祉用具・自助具について</td> <td>林 正春（ゲストスピーカー）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回：福祉用具・自助具について</td> <td>林 正春（ゲストスピーカー）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回：車いすの調整について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回：車いすの調整について</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>泉 良太、佐野哲也</td> <td></td> </tr> </table>					<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	泉 良太、佐野哲也	第1回：オリエンテーション、ADL・IADL について	泉 良太、佐野哲也		第2回：起居動作（臥位、寝返り、起き上がり）の評価	泉 良太、佐野哲也		第3回：起居動作（臥位、寝返り、起き上がり）の動作分析	泉 良太、佐野哲也		第4回：座位、立ち上がり、立位の評価	泉 良太、佐野哲也		第5回：座位、立ち上がり、立位の動作分析	泉 良太、佐野哲也		第6回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也		第7回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也		第8回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也		第9回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也		第10回：IADL・健康関連 QOL 尺度について	泉 良太、佐野哲也		第11回：福祉用具・自助具について	林 正春（ゲストスピーカー）		第12回：福祉用具・自助具について	林 正春（ゲストスピーカー）		第13回：車いすの調整について	泉 良太、佐野哲也		第14回：車いすの調整について	泉 良太、佐野哲也		第15回：まとめ	泉 良太、佐野哲也	
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	泉 良太、佐野哲也																																																			
第1回：オリエンテーション、ADL・IADL について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第2回：起居動作（臥位、寝返り、起き上がり）の評価	泉 良太、佐野哲也																																																				
第3回：起居動作（臥位、寝返り、起き上がり）の動作分析	泉 良太、佐野哲也																																																				
第4回：座位、立ち上がり、立位の評価	泉 良太、佐野哲也																																																				
第5回：座位、立ち上がり、立位の動作分析	泉 良太、佐野哲也																																																				
第6回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第7回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第8回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第9回：ADL 評価尺度について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第10回：IADL・健康関連 QOL 尺度について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第11回：福祉用具・自助具について	林 正春（ゲストスピーカー）																																																				
第12回：福祉用具・自助具について	林 正春（ゲストスピーカー）																																																				
第13回：車いすの調整について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第14回：車いすの調整について	泉 良太、佐野哲也																																																				
第15回：まとめ	泉 良太、佐野哲也																																																				
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。																																																				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。																																																				
評価方法	定期試験 70%、知識習得テスト 30%、計 100% 体験学習の達成度の評価にはルーブリックを用いて評価します。																																																				
課題に対するフィードバック	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。																																																				
指定図書	下記参照																																																				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																																

ADL 第2版	柴 喜崇	羊土社	5200	9784758102568	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【新版 第2版】日常生活活動〈ADL〉評価と支援の実際	伊藤利之／編集 江藤文夫／編集 上田敏／〔ほか〕 執筆	医歯薬出版	6800	9784263266069	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください（各20分1～15回目）。 ・授業後はポートフォリオを作成し、復習を実施してください（各20分1～15回目）。 ・5回目、9回目、14回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください（各10分）。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	日常生活活動技術学実習	
科目責任者	佐野 哲也	
単位数他	1 単位(45 時間) 作業必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	日常生活における作業の遂行方法を、疾患別の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。疾患別に福祉用具・住宅改修など環境調整の手段を学ぶ。	
到達目標	①ADL・IADL 動作を疾患別に特徴を述べる事ができる。 ②ADL・IADL 動作を疾患別に介助と指導方法を述べる事ができる。 ③ADL・IADL 動作を疾患の特徴を踏まえて、実践することができる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：脳卒中片麻痺のADL・IADL 動作の特徴 第2回：脳卒中片麻痺のADL 動作の介助と指導方法 第3回：脳卒中片麻痺のADL 動作の介助と指導方法 第4回：脳卒中片麻痺のIADL 動作の介助と指導方法 第5回：人工関節全置換術のADL・IADL 動作の特徴 第6回：人工関節全置換術のADL 動作の介助と指導方法 第7回：人工関節全置換術のADL 動作の介助と指導方法 第8回：人工関節全置換術のIADL 動作の介助と指導方法 第9回：脊髄損傷のADL・IADL 動作の特徴 第10回：脊髄損傷のADL 動作の介助と指導方法 第11回：脊髄損傷のADL 動作の介助と指導方法 第12回：脊髄損傷のIADL 動作の介助と指導方法 第13回：脊髄損傷のADL・IADL 動作の実際 野哲也、</p> <p>第14回：呼吸器疾患のADL・IADL 動作の特徴 第15回：呼吸器疾患のADL・IADL 動作の介助と指導方法 第16回：関節リウマチのADL・IADL 動作の特徴 第17回：関節リウマチのADL・IADL 動作の介助と指導方法 第18回：神経難病のADL・IADL 動作の特徴 第19回：神経難病のADL・IADL 動作の介助と指導方法 第20回：脳性麻痺のADL・IADL 動作の特徴と介助方法 第21回：筋ジストロフィーのADL・IADL 動作の特徴と介助方法 第22回：演習 第23回：演習</p>	<p><担当教員></p> <p>佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 泉 良太、佐野哲也 泉 良太、佐野哲也 泉 良太、佐野哲也 泉 良太、佐野哲也 北澤和寿、泉 良太、佐野哲也、 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太 小出弘寿、佐野哲也 小出弘寿、佐野哲也 伊藤信寿、佐野哲也 伊藤信寿、佐野哲也 佐野哲也、泉 良太 佐野哲也、泉 良太</p>
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、その他「体験学習」を取り入れて実施します。	
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。	
評価方法	知識習得テスト50%、実技試験50%、計100% 実技の達成度の評価にはルーブリックを用いて評価します。	

課題に対するフィードバック	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。				
指定図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ADL 第2版	柴 喜崇	羊土社	5200	9784758102568	
参考図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【新版 第2版】日常生活活動〈ADL〉評価と支援の実際	伊藤利之／編集 江藤文夫／編集 上田敏／〔ほか〕 執筆	医歯薬出版	6800	9784263266069	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にWebClass内に提示された資料を確認してください(各20分1～23回目)。 ・授業後はポートフォリオを作成し、実技の復習を実施してください(各20分1～23回目)。 ・4回目、8回目、12回目、17回目、22回目の授業後にWebClass内の小テストに回答してください(各10分)。 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tetsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	高次脳機能障害学 (OT)																																																																																														
科目責任者	佐野 哲也																																																																																														
単位数他	2 単位(60 時間) 作業必修 3 メモ																																																																																														
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																																																																														
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																																																																														
科目概要	社会的問題としてとりあげられることが多くなった高次脳機能障害について学修を進めていきます。外見ではわかりづらい高次脳機能障害を、視聴覚教材や演習を用いて授業を進めていきます。また、中枢神経機能に関連する構造および高次脳機能の検査測定法について基礎的な理論と知識技術を学修する。さらに、高次脳機能障害者の取り巻く社会資源や環境についても学修する。																																																																																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の症状について一般の人に対して説明することができる。 2. 高次脳機能障害の評価を実施できる。 3. 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について家族に説明することができる。 4. 高次脳機能障害を有する人への作業療法を計画することができる 																																																																																														
授業計画	<p><担当教員名>佐野哲也、鈴木達也</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション・脳の構造を理解する</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>高次脳機能障害者とは何か?</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>高次脳機能障害の名称と症状</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>脳の構造と脳画像の見方</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>注意障害と作業療法1</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>注意障害と作業療法2</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>記憶障害と作業療法1</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>記憶障害と作業療法2</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>遂行機能と作業療法1</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>遂行機能と作業療法2</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>社会行動障害と作業療法1</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>社会行動障害と作業療法2</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>失認・失行症と作業療法1</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>失認・失行症と作業療法2</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>失語症と作業療法1</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第16回</td><td>失語症と作業療法2</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第17回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入1)</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第18回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入2)</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第19回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入3)</td><td>佐野, ゲストスピーカー</td></tr> <tr><td>第20回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入4)</td><td>佐野, ゲストスピーカー</td></tr> <tr><td>第21回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入5)</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第22回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入6)</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第23回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入7)</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第24回</td><td>高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入8)</td><td>佐野, 鈴木</td></tr> <tr><td>第25回</td><td>認知機能と自動車運転1</td><td>建木</td></tr> <tr><td>第26回</td><td>認知機能と自動車運転2</td><td>建木</td></tr> <tr><td>第27回</td><td>高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する1</td><td>鈴木</td></tr> <tr><td>第28回</td><td>高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する2</td><td>鈴木</td></tr> <tr><td>第29回</td><td>高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション1</td><td>佐野</td></tr> <tr><td>第30回</td><td>高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション2</td><td>佐野</td></tr> </tbody> </table> <p>ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族</p>	回数	内容	担当教員	第1回	オリエンテーション・脳の構造を理解する	佐野, 鈴木	第2回	高次脳機能障害者とは何か?	佐野, 鈴木	第3回	高次脳機能障害の名称と症状	佐野, 鈴木	第4回	脳の構造と脳画像の見方	佐野, 鈴木	第5回	注意障害と作業療法1	佐野, 鈴木	第6回	注意障害と作業療法2	佐野, 鈴木	第7回	記憶障害と作業療法1	佐野, 鈴木	第8回	記憶障害と作業療法2	佐野, 鈴木	第9回	遂行機能と作業療法1	佐野, 鈴木	第10回	遂行機能と作業療法2	佐野, 鈴木	第11回	社会行動障害と作業療法1	佐野, 鈴木	第12回	社会行動障害と作業療法2	佐野, 鈴木	第13回	失認・失行症と作業療法1	佐野, 鈴木	第14回	失認・失行症と作業療法2	佐野, 鈴木	第15回	失語症と作業療法1	佐野, 鈴木	第16回	失語症と作業療法2	佐野, 鈴木	第17回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入1)	佐野, 鈴木	第18回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入2)	佐野, 鈴木	第19回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入3)	佐野, ゲストスピーカー	第20回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入4)	佐野, ゲストスピーカー	第21回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入5)	佐野, 鈴木	第22回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入6)	佐野, 鈴木	第23回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入7)	佐野, 鈴木	第24回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入8)	佐野, 鈴木	第25回	認知機能と自動車運転1	建木	第26回	認知機能と自動車運転2	建木	第27回	高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する1	鈴木	第28回	高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する2	鈴木	第29回	高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション1	佐野	第30回	高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション2	佐野	
回数	内容	担当教員																																																																																													
第1回	オリエンテーション・脳の構造を理解する	佐野, 鈴木																																																																																													
第2回	高次脳機能障害者とは何か?	佐野, 鈴木																																																																																													
第3回	高次脳機能障害の名称と症状	佐野, 鈴木																																																																																													
第4回	脳の構造と脳画像の見方	佐野, 鈴木																																																																																													
第5回	注意障害と作業療法1	佐野, 鈴木																																																																																													
第6回	注意障害と作業療法2	佐野, 鈴木																																																																																													
第7回	記憶障害と作業療法1	佐野, 鈴木																																																																																													
第8回	記憶障害と作業療法2	佐野, 鈴木																																																																																													
第9回	遂行機能と作業療法1	佐野, 鈴木																																																																																													
第10回	遂行機能と作業療法2	佐野, 鈴木																																																																																													
第11回	社会行動障害と作業療法1	佐野, 鈴木																																																																																													
第12回	社会行動障害と作業療法2	佐野, 鈴木																																																																																													
第13回	失認・失行症と作業療法1	佐野, 鈴木																																																																																													
第14回	失認・失行症と作業療法2	佐野, 鈴木																																																																																													
第15回	失語症と作業療法1	佐野, 鈴木																																																																																													
第16回	失語症と作業療法2	佐野, 鈴木																																																																																													
第17回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入1)	佐野, 鈴木																																																																																													
第18回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入2)	佐野, 鈴木																																																																																													
第19回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入3)	佐野, ゲストスピーカー																																																																																													
第20回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入4)	佐野, ゲストスピーカー																																																																																													
第21回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入5)	佐野, 鈴木																																																																																													
第22回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入6)	佐野, 鈴木																																																																																													
第23回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入7)	佐野, 鈴木																																																																																													
第24回	高次脳機能障害への作業療法 (評価と介入8)	佐野, 鈴木																																																																																													
第25回	認知機能と自動車運転1	建木																																																																																													
第26回	認知機能と自動車運転2	建木																																																																																													
第27回	高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する1	鈴木																																																																																													
第28回	高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する2	鈴木																																																																																													
第29回	高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション1	佐野																																																																																													
第30回	高次脳機能障害への作業療法・プレゼンテーション2	佐野																																																																																													

アクティブ ラーニング	PBL、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション				
授業内の ICT活用	発表や情報報集にPCを使用します。				
評価方法	成績はポートフォリオ 20%、グループ課題 20%、知識習得テスト 30%、定期試験 30%で判断 します。				
課題に対す るフィード バック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをしていきます。 振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行います。				
指定図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第2版】 標準作業療 法学 専門 分野 高次 脳機能作業 療法学 O T	矢谷令子／シリ ーズ監修 能登 真一／編集 能 登真一／〔ほか〕 執筆	医学書院	4000	9784260038188	
病気がみえ る vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研 究所 編集	メディックメデ ィア	3900	9784896326864	
参考図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
第8巻 作 業治療学 5 高次脳機能 障害	日本作業療法士 協会 監修	協同医書出版社	3200	9784763921253	
【第2版】 高次脳機能 障害学	石合純夫／著	医歯薬出版	4400	9784263213964	
リハビリテ ーション介 入		医歯薬出版	2600	9784263215647	
リハビリテ ーション評 価	鈴木 孝治 編集	医歯薬出版	2600	9784263215630	
画像の見か た・使いか た	三村将／執筆 早川裕子／執筆 石原健司／執筆 浦野雅世／執筆	医歯薬出版	2800	9784263215623	

事前・事後学修	講義ごとに予習してから参加して下さい。学修のテーマについて書籍及び文献等で調べてください。上記の教科書・参考図書が活用できます。事前・事後学修各回最低 40 分とします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎日 12 時～13 時 上記以外でもメール (tetsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	なし

科目名	精神領域作業療法学の基礎	
科目責任者	新宮 尚人	
単位数他	2 単位(60 時間) 作業必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	精神障害作業療法を学ぶにあたって前提となる基本的事項を学習する。特に次の 3 点にポイントを置く。①精神医療の歴史と作業療法の歩みについてその関係性を検討する。②精神障害の特性について実際の事例を検討しながら学ぶ。③精神障害作業療法の目的と役割、治療構造について理解する。これらは精神障害作業療法の具体的プロセスと内容を学ぶ際の基礎となる。	
到達目標	1. 精神医療の歴史と作業療法の歩みについて説明できる 2. 精神障害の特性について説明できる 3. 精神障害作業療法の目的と役割、治療構造について説明できる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：精神障害の特性について 第 3 回：精神保健医療福祉の動向と精神機能作業療法の歴史 第 4 回：精神保健医療福祉の動向と精神機能作業療法の歴史 第 5 回：統合失調症の基本的障害像 第 6 回：統合失調症の認知機能障害と評価尺度について 第 7 回：統合失調症の回復過程について 第 8 回：精神障害の特性とリカバリー 第 9 回：PBL 統合失調症の作業療法 1-① 第 10 回：PBL 統合失調症の作業療法 1-② 第 11 回：PBL 統合失調症の作業療法 2-① 第 12 回：PBL 統合失調症の作業療法 2-② 第 13 回：PBL 発表 第 14 回：統合失調症の回復過程と作業療法について 第 15 回：精神保健福祉法/作業療法の実施規定 第 16 回：医療観察法における作業療法 第 17 回：認知行動療法 第 18 回：認知機能障害に対するリハビリテーションと作業療法 第 19 回：気分障害の基本的障害像と作業療法について 第 20 回：気分障害の基本的障害像と作業療法について 第 21 回：神経症性障害の基本的障害像と作業療法について 第 22 回：神経症性障害の基本的障害像と作業療法について 第 23 回：精神科における観察評価について 第 24 回：精神科における観察評価について 第 25 回：精神科における面接評価について 第 26 回：精神科における面接評価について 第 27 回：集団の治療効果・実践・評価 第 28 回：集団の治療効果・実践・評価 第 29 回：学習した精神疾患の作業療法についてレビュー 第 30 回：授業のまとめ	<担当教員名> 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 新宮尚人 飯田妙子 新宮尚人 新宮尚人 飯田妙子 飯田妙子 新宮尚人 新宮尚人 藤田さより 藤田さより 藤田さより 藤田さより 藤田さより 藤田さより 新宮尚人 新宮尚人
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、グループ学修や問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL)を行います。	
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。	

評価方法	知識習得確認テスト60%、レポート40% レポート評価に、ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	知識習得テストについては、翌週の授業で解説を行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第3版】標準作業療法学専門分野精神機能作業療法学 OT	矢谷令子/シリーズ監修 新宮尚人/編集 荻山和生/[ほか]執筆	医学書院	4000	9784260039444	
【第4版 増補版】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 PT OT	奈良勲/シリーズ監修 鎌倉矩子/シリーズ監修 上野武治/編集 上野武治/[ほか]執筆	医学書院	4400	9784260044769	
精神障害と作業療法 新版	山根 寛	三輪書店	4000	9784895905831	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	堀田 英樹 編著	中央法規出版	3800	9784805859803	
第5巻 作業治療学2 精神障害	日本作業療法士協会監修	協同医書出版社	3800	9784763921222	
ひとと作業・作業活動 新版 作業の知をととき技を育む	山根 寛	三輪書店	3500	9784895905046	
ひとと集団・場 新版 治療や援助、支援における場と集団のもちい方	山根 寛	三輪書店	3500	9784895906159	
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通して置いて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。				
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介します。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	対面で実施するため該当なし				

科目名	精神領域作業療法学の応用	
科目責任者	飯田 妙子	
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 5 ヶメジャー	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	精神領域作業療法の対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と作業療法アプローチについて実際の事例を検討しながら学ぶ。精神領域に関連する理論や評価の知識・実施方法について PBL・演習を通して学修し、修得した知識と作業療法の視点をどのように作業療法の実践に活かすのか、事例検討を通じて理解を深める。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の基礎知識と疾患に起因する生活への影響について説明できる ・精神領域作業療法の基本プロセスについて説明できる ・精神領域における評価（症状尺度、社会生活評価尺度等）の内容やに作業療法との関連について説明できる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：物質関連症および嗜癖症群と作業療法</p> <p>第 3 回：パーソナリティ症群と作業療法 1</p> <p>第 4 回：パーソナリティ症群と作業療法 2</p> <p>第 5 回：食行動症および摂食症群と作業療法 1</p> <p>第 6 回：食行動症および摂食症群と作業療法 2</p> <p>第 7 回：精神領域における評価・介入について 1（グループワーク）</p> <p>第 8 回：精神領域における評価・介入について 2（グループワーク）</p> <p>第 9 回：精神領域における評価について 1（演習）</p> <p>第 10 回：精神領域における評価について 2（演習）</p> <p>第 11 回：作業面接（箱作立法）について（講義）</p> <p>第 12 回：作業面接（箱作立法）について（演習）</p> <p>第 13 回：精神科作業療法の流れ、観察評価について（演習）</p> <p>第 14 回：情報収集～評価計画の検討、課題の焦点化（演習）</p> <p>第 15 回：発表、授業のまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>飯田妙子</p> <p>飯田妙子</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>飯田妙子</p> <p>飯田妙子</p> <p>飯田妙子</p> <p>飯田妙子</p> <p>飯田妙子・藤田さより</p> <p>飯田妙子・藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>飯田妙子・藤田さより</p> <p>飯田妙子・藤田さより</p> <p>飯田妙子・藤田さより</p>
アクティブラーニング	PBL、TBL、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション	
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題の提示およびフィードバックを実施します。また、グループ学修およびプレゼンテーションにて PC を使用します。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 30%、ポートフォリオ 30%、プレゼンテーション 10%、定期試験（筆記試験） 30% ・小テストは、事前に提示する問題集から各テーマに該当する部分を出題します。 ・ポートフォリオ、プレゼンテーションはルーブリックを用いて評価します。 	
課題に対するフィードバック	小テストは、WebClass にて実施します。小テスト、ポートフォリオ、プレゼンテーションへのフィードバックについては、授業時もしくは返却時に解説します。希望者には時間を調整して、フィードバックを行います。	
指定図書	下記参照	

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第3版】 標準作業療 法学 専門 分野 精神 機能作業療 法学 OT	矢谷令子／シリ ーズ監修 新宮 尚人／編集 荻 山和生／〔ほか〕 執筆	医学書院	4000	9784260039444	
精神疾患の 理解と精神 科作業療法 第3版	堀田 英樹 編著	中央法規出版	3800	9784805859803	
参考図書	早坂友成・岩根達郎・森元隆文編著：精神科リハビリテーション評価法ハンドブック、中外医学社、2023				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
精神科作業 療法の理論 と技術	早坂 友成	メジカルビュー 社	4200		
事前・ 事後学修	事前：各テーマに該当する教科書の箇所やWebClassに掲載される資料に目を通しておくこと 事後：授業の内容をポートフォリオに整理しておくこと				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・自主学修として、以下のURLを紹介します。 こころの情報サイト https://kokoro.ncnp.go.jp/ 精神障害当事者の地域生活にかかわる研究成果紹介サイト「こころとくらし」 https://cocokura.ncnp.go.jp/				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (taeko-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	発達領域作業療法学の基礎
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達領域における作業療法について、基本的概念を学習する。 具体的には、①定型的発達過程を復習する。②発達領域における対象疾患を理解する上で必要な専門基礎科目について学習する。③発達領域における対象疾患について学習する。
到達目標	(1) 新生児から 1 歳頃までの定型的発達過程と原始反射について説明できる。 (2) 運動の調整について説明できる。 (3) 発達領域における対象疾患について簡単に説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、発達領域における作業療法 伊藤</p> <p>第 2 回：定型発達について 伊藤</p> <p>1 年生の人間発達学の復習</p> <p>第 3 回：脳性まひについて（基礎①） 伊藤</p> <p>第 4 回：脳性まひについて（基礎②） 伊藤</p> <p>第 5 回：脳性まひについて（特性①） 伊藤</p> <p>第 6 回：脳性まひについて（特性②） 伊藤</p> <p>第 7 回：脳性まひ以外の肢体不自由について 伊藤</p> <p>筋ジストロフィー、二分脊椎等</p> <p>第 8 回：自閉症スペクトラム症について 伊藤</p> <p>第 9 回：注意欠如／多動症について 伊藤</p> <p>第 10 回：限局性学習症について 伊藤</p> <p>第 11 回：発達性協調運動障害について 伊藤</p> <p>第 12 回：知的発達障害について 伊藤</p> <p>第 13 回：青年期、成人期における発達障がいについて 飯田</p> <p>第 14 回：思春期の精神医学的な諸問題について 飯田</p> <p>第 15 回：まとめ 伊藤</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	反転授業、グループワーク
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います。
評価方法	小テスト（60%以上）、ポートフォリオ（60%以上）、課題遂行（事前学習と説明も含む）（60%以上） それぞれで 60%以上が合格。 事前学習とポートフォリオはルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについて回答する。 授業中で質問時間を設ける。
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
イラストでわかる発達障害の作業療法	上杉雅之／監修 辛島千恵子／編集	医歯薬出版	4000	9784263217177	
参考図書	授業中に随時連絡				
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題を遂行する（30分程度） 事後学修：小テストに向け復習する（10分程度）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
ハイ授業の実施について	なし				

科目名	発達領域作業療法学の応用				
科目責任者	伊藤 信寿				
単位数他	2 単位(60 時間) 作業必修 5 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP4 専門				
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。				
科目概要	<p>発達領域における作業療法実践について学習する。</p> <p>具体的には、①疾患や障害に特有の適切な評価に必要とされる知識と検査の実施方法について学修する。</p> <p>さらに、評価結果を解釈し、総合的な視点から問題点を抽出し、適切な目標設定、作業療法プログラム立案までの過程を学修する。</p>				
到達目標	<p>(1) 発達領域における評価の目的、種類、およびその手順を説明できる。</p> <p>(2) 発達領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。</p> <p>(3) 評価結果から解釈、問題点抽出、目標設定、作業療法プログラムを立案することができる。</p>				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第1,2回 発達領域における作業療法の実践 伊藤</p> <p>第3,4回 脳性まひ児に対する評価と解釈 伊藤</p> <p>第5,6回 脳性まひ児に対する評価と解釈 伊藤</p> <p>第7,8回 脳性まひ児に対するOTプログラム立案(グループワーク) 伊藤</p> <p>第9,10回 脳性まひ児に対する作業療法(発表) 伊藤</p> <p>第11,12回 発達障がい児に対する評価と解釈 伊藤</p> <p>第13,14回 発達障がい児に対するOTプログラム立案(グループワーク) 伊藤</p> <p>第15,16回 発達障がい児に対する作業療法(発表) 伊藤</p> <p>第17,18回 知的発達障がい児に対する評価と解釈 伊藤</p> <p>第19,20回 知的発達障がい児に対するOTプログラム立案(グループワーク) 伊藤</p> <p>第21,22回 知的発達障がい児に対する作業療法(発表) 伊藤</p> <p>第23,24回 学校におけるコンサルテーション 伊藤</p> <p>第25,26回 青年期・成人における発達障がい者に対する作業療法 飯田</p> <p>第27,28回 青年期・成人期における精神的な課題に対する作業療法 飯田</p> <p>第29,30回 発達領域における作業療法のまとめ 伊藤</p>				
アクティブラーニング	グループワークで支援等を考え、プレゼンテーションを行う				
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。				
評価方法	<p>小テスト(60%以上)、レポート(60%以上)、課題遂行(プレゼンテーションも含む)(60%以上)</p> <p>それぞれで60%以上が合格。</p> <p>事前学習とレポートはループリックを用いる。ループリックの内容は授業中に提示する。</p>				
課題に対するフィードバック	<p>リアクションペーパーを使用し、質問等に対して授業の中で回答する。</p> <p>授業中で質問時間を設ける。</p> <p>レポートに対しフィードバックを行う。</p>				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

イラストでわかる発達障害の作業療法	上杉雅之／監修 辛島千恵子／編集	医歯薬出版	4000	9784263217177	
参考図書	授業中に随時連絡				
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題をまとめる（30分程度） 事後学修：授業の内容をポートフォリオに整理する（10分程度）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	高齢期作業療法学
科目責任者	栗田 洋平
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	高齢期に特徴的な身体、心理、認知面の変化や高齢者を取り巻く環境、認知症をはじめとする高齢領域特有の疾患について学び、高齢期作業療法の基盤となる知識を習得します。加えて、演習・PBLを通して、修得した知識と作業療法実践との結びつきを検討し理解を深めます、本国における高齢社会の課題や社会保障制度について学びます。
到達目標	1. 高齢者を取り巻く環境や制度について理解し説明することができる 2. 高齢者の身体的特徴を理解し説明することができる 3. 高齢者の精神・心理的特徴を理解し説明することができる 4. 高齢者に対する作業療法介入の意義を理解し説明することができる
授業計画	<p><担当教員> 栗田洋平、鈴木達也、藤田さより、佐野哲也</p> <p>回数 内容 担当教員</p> <p>第1回 オリエンテーション 栗田・鈴木</p> <p>第2回 日本における高齢社会の課題 栗田・鈴木</p> <p>第3回 高齢期とライフサイクル1 栗田・鈴木</p> <p>第4回 高齢期とライフサイクル2 栗田・鈴木</p> <p>第5回 認知症の特徴1 栗田・鈴木</p> <p>第6回 認知症の特徴2 栗田・鈴木</p> <p>第7回 高齢期の身体的特徴と疾患1 栗田・鈴木</p> <p>第8回 高齢期の身体的特徴と疾患2 栗田・鈴木</p> <p>第9回 高齢期の心理的特徴, 精神疾患1 藤田</p> <p>第10回 高齢期の心理的特徴, 精神疾患2 藤田</p> <p>第11回 高齢期の社会制度・介護保険制度、時期・場所別の作業療法1 栗田・鈴木</p> <p>第12回 高齢期の社会制度・介護保険制度、時期・場所別の作業療法2 栗田・鈴木</p> <p>第13回 パーソンセンタードケア 阿部邦彦 (ゲストスピーカー)</p> <p>第14回 認知症を有する方への支援方法 栗田・鈴木</p> <p>第15回 高齢者の転倒・骨折と作業療法1 栗田・鈴木</p> <p>第16回 高齢者の転倒・骨折と作業療法2 栗田・鈴木</p> <p>第17回 終末期の作業療法1 栗田・鈴木</p> <p>第18回 終末期の作業療法2 栗田・鈴木</p> <p>第19回 高齢期と排泄ケア1 佐野</p> <p>第20回 高齢期と排泄ケア2 佐野</p> <p>第21回 認知症に関する研究1 田中寛之 (ゲストスピーカー)</p> <p>第22回 認知症に関する研究2 田中寛之 (ゲストスピーカー)</p> <p>第23回 MTDLP を用いた高齢期の作業療法実践1 栗田・鈴木</p> <p>第24回 MTDLP を用いた高齢期の作業療法実践2 栗田・鈴木</p> <p>第25回 MTDLP を用いた高齢期の作業療法実践3 栗田・鈴木</p> <p>第26回 MTDLP を用いた高齢期の作業療法実践4 栗田・鈴木</p> <p>第27回 MTDLP を用いた高齢期の作業療法実践5 栗田・鈴木</p> <p>第28回 MTDLP を用いた高齢期の作業療法実践6 栗田・鈴木</p> <p>第29回 MTDLP に基づく事例検討1 栗田・鈴木</p> <p>第30回 MTDLP に基づく事例検討2 栗田・鈴木</p>
アクティブラーニング	PBL、TBL、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績はポートフォリオ 20%, グループ課題 10%, 小テスト 30%, 期末試験 40%で判断します ・小テストは事前動画を基に出題しますので、必ず視聴してから授業に参加して下さい 				
課題に対するフィードバック	適宜、小テスト、ポートフォリオの確認を行い、学修の理解度、習得度を確認します 必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスをを行います				
指定図書	田平隆行, 田中寛之編(2019)『Evidence Based で考える認知症リハビリテーション』医学書院 以下下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
高齢期作業療法学 [第3版]	・	医学書院	4000	9784260024402	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
高齢者のその人らしさを捉える作業療法	藪脇 健司	文光堂	6500	9784830645198	
事例でわかる人間作業モデル	山田 孝 編著	協同医書出版社	3700	9784763921406	
事前・事後学修	事前学習 20 分以上、事後学習 20 分以上 各講義ごとに資料を配布し、教科書の該当箇所を示しますので確認をしてください。 事前学習の資料として予習動画を配信します。小テストは主に予習動画から出題しますので、必ず視聴してください。 毎回グループワークを実施します。主体的な事前事後学習を期待します。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yohei-k@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
オンライン授業の実施について	なし				

科目名	高齢期作業療法学演習																																																				
科目責任者	鈴木 達也																																																				
単位数他	1 単位(30 時間) 作業選択 5 メモ																																																				
DP 番号と科目領域	DP5 専門																																																				
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																																				
科目概要	高齢期領域の作業療法の実践に必要な技能を学び、高齢期領域に特徴的な疾病と病態、障害特性の関係を推論し、高齢者へ作業療法を実践する技能を経験し学びます、																																																				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に作業暦を含めた面接が行えるようになる ・ 高齢者と信頼関係と治療的な共同関係を気づくことができる ・ 高齢期領域で用いられる技法を知り、対象者の特性に合わせて実践する ・ 高齢者に適したプログラムを立案実践できる。 																																																				
授業計画	<p><担当：鈴木達也、栗田洋平></p> <table border="0"> <tr> <td>回数</td> <td>内容</td> <td>担当教員</td> </tr> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>傾聴の技法、自己の治療的利用</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>作業療法と回想法・リアリティーオリエンテーション</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>作業療法とナラティブストーリー</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ストーリーテリングとストーリーメイキング1</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>自分史作りプロジェクト：ストーリーテリングとストーリーメイキング2</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>高齢者施設の管理運営1</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>高齢者施設の管理運営2</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>自分史作りプロジェクト・コミュニケーションの実践 1</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>自分史作りプロジェクト・コミュニケーションの実践 2</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>自分史作りプロジェクト3</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>自分史作りプロジェクト4</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>高齢者と住環境整備</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>高齢者と住環境整備</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>プロジェクト報告とまとめ</td> <td>鈴木・栗田</td> </tr> </table>					回数	内容	担当教員	第1回	オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	鈴木・栗田	第2回	傾聴の技法、自己の治療的利用	鈴木・栗田	第3回	作業療法と回想法・リアリティーオリエンテーション	鈴木・栗田	第4回	作業療法とナラティブストーリー	鈴木・栗田	第5回	ストーリーテリングとストーリーメイキング1	鈴木・栗田	第6回	自分史作りプロジェクト：ストーリーテリングとストーリーメイキング2	鈴木・栗田	第7回	高齢者施設の管理運営1	鈴木・栗田	第8回	高齢者施設の管理運営2	鈴木・栗田	第9回	自分史作りプロジェクト・コミュニケーションの実践 1	鈴木・栗田	第10回	自分史作りプロジェクト・コミュニケーションの実践 2	鈴木・栗田	第11回	自分史作りプロジェクト3	鈴木・栗田	第12回	自分史作りプロジェクト4	鈴木・栗田	第13回	高齢者と住環境整備	鈴木・栗田	第14回	高齢者と住環境整備	鈴木・栗田	第15回	プロジェクト報告とまとめ	鈴木・栗田
回数	内容	担当教員																																																			
第1回	オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	鈴木・栗田																																																			
第2回	傾聴の技法、自己の治療的利用	鈴木・栗田																																																			
第3回	作業療法と回想法・リアリティーオリエンテーション	鈴木・栗田																																																			
第4回	作業療法とナラティブストーリー	鈴木・栗田																																																			
第5回	ストーリーテリングとストーリーメイキング1	鈴木・栗田																																																			
第6回	自分史作りプロジェクト：ストーリーテリングとストーリーメイキング2	鈴木・栗田																																																			
第7回	高齢者施設の管理運営1	鈴木・栗田																																																			
第8回	高齢者施設の管理運営2	鈴木・栗田																																																			
第9回	自分史作りプロジェクト・コミュニケーションの実践 1	鈴木・栗田																																																			
第10回	自分史作りプロジェクト・コミュニケーションの実践 2	鈴木・栗田																																																			
第11回	自分史作りプロジェクト3	鈴木・栗田																																																			
第12回	自分史作りプロジェクト4	鈴木・栗田																																																			
第13回	高齢者と住環境整備	鈴木・栗田																																																			
第14回	高齢者と住環境整備	鈴木・栗田																																																			
第15回	プロジェクト報告とまとめ	鈴木・栗田																																																			
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、グループワーク、PBL（課題解決型学習）、施設見学、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します ・ 施設訪問するフィールドワークと施設利用者へのインタビューを実施します。 																																																				
授業内のICT活用	プレゼンテーション、資料作成にPCを使用します																																																				
評価方法	レポート50%、ポートフォリオ50%(はルーブリックを用いて評価する) <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。 ・ ルーブリックの内容は授業中に提示する 																																																				
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーの返却、コメント																																																				
指定図書	田平隆行、田中寛之：Evidence Based で考える認知症リハビリテーション、医学書院																																																				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																																

高齢期作業療法学 [第3版]	・	医学書院	4000	9784260024402	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第2版】 「作業」って何だろう 作業科学入門	吉川ひろみ/著	医歯薬出版	2800	9784263216675	
事前・ 事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・これまでに学んだ評価法を復習して下さい ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行ってください				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	精神領域作業療法学演習																																				
科目責任者	藤田 さより																																				
単位数他	1 単位(30 時間) 作業選択 6 メモ																																				
DP 番号と科目領域	DP5 専門																																				
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																				
科目概要	精神科作業療法に関連する臨床事例をベースとしたシナリオに基づき実践的に学習する。評価に基づいて具体的に作業療法プログラムを立案し、最終的に臨床実習で応用できる技術の習得を目指す。精神科領域で実践されている治療技法について学ぶ。																																				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業活動の特性を、作業療法の治療・援助に応用する視点について説明できる ・精神系作業療法におけるプログラム立案のポイントについて説明できる。 ・模擬的に作業療法プログラムを実践できる ・精神科における治療技法について概要、ポイントを述べられる。 																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：プログラム計画立案</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：プログラムの計画発表・準備</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：プログラム計画準備</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回： 集団の利用・評価</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：PBL プログラム立案演習①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第7回：PBL プログラム立案演習②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第8回：PBL プログラム立案演習③</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第9回：PBL プログラム立案演習④</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第10回：PBL プログラム立案演習⑤</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第11回：PBL 演習の振り返り</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：精神科領域における評価・レポートについて</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：精神科領域における評価・レポートについて</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：臨床実習に関する講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：精神障害作業療法の実際/ 授業のまとめ 小テスト</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </table>					<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際	藤田さより	第2回：プログラム計画立案	藤田さより	第3回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより	第4回：プログラム計画準備	藤田さより	第5回： 集団の利用・評価	藤田さより	第6回：PBL プログラム立案演習①	藤田さより・飯田妙子	第7回：PBL プログラム立案演習②	藤田さより・飯田妙子	第8回：PBL プログラム立案演習③	藤田さより・飯田妙子	第9回：PBL プログラム立案演習④	藤田さより・飯田妙子	第10回：PBL プログラム立案演習⑤	藤田さより・飯田妙子	第11回：PBL 演習の振り返り	藤田さより	第12回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより	第13回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより	第14回：臨床実習に関する講義	藤田さより	第15回：精神障害作業療法の実際/ 授業のまとめ 小テスト	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																				
第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際	藤田さより																																				
第2回：プログラム計画立案	藤田さより																																				
第3回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより																																				
第4回：プログラム計画準備	藤田さより																																				
第5回： 集団の利用・評価	藤田さより																																				
第6回：PBL プログラム立案演習①	藤田さより・飯田妙子																																				
第7回：PBL プログラム立案演習②	藤田さより・飯田妙子																																				
第8回：PBL プログラム立案演習③	藤田さより・飯田妙子																																				
第9回：PBL プログラム立案演習④	藤田さより・飯田妙子																																				
第10回：PBL プログラム立案演習⑤	藤田さより・飯田妙子																																				
第11回：PBL 演習の振り返り	藤田さより																																				
第12回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより																																				
第13回：精神科領域における評価・レポートについて	藤田さより																																				
第14回：臨床実習に関する講義	藤田さより																																				
第15回：精神障害作業療法の実際/ 授業のまとめ 小テスト	藤田さより																																				
アクティブラーニング	この科目はPBLと演習・実践を行います。																																				
授業内のICT活用	パソコン（ワード、パワーポイント）を用いたグループ演習、講義、webclass を用いた事前事後学習																																				
評価方法	レポート50% 小テスト50% レポートはルーブリック評価を用いる																																				
課題に対するフィードバック	毎回のフィードバックペーパーに書かれた内容について次回の講義で回答致します。レポートの内容には評価・コメントをつけて返却致します。																																				
指定図書	下記参照																																				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																

ひとと集団・場新版 治療や援助、支援における場と集団のもちい方	山根 寛	三輪書店	3500	9784895906159	
精神障害と作業療法新版	山根 寛	三輪書店	4000	9784895905831	
精神疾患の理解と精神科作業療法第3版	堀田 英樹 編著	中央法規出版	3800	9784805859803	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第4版増補版】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 PT OT	奈良勲/シリーズ監修 鎌倉矩子/シリーズ監修 上野武治/編集 上野武治 / [ほか] 執筆	医学書院	4400	9784260044769	
【第3版】標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 OT	矢谷令子/シリーズ監修 新宮尚人/編集 荻山和生 / [ほか] 執筆	医学書院	4000	9784260039444	
事前・事後学修	精神障害領域の作業療法では集団作業療法が多く実践されます。そのためこの授業では主に集団作業療法を企画、実践したいと思いますので、集団についての要点および集団作業療法に関する実践例等の文献を事前・事後に読むようにしてください【事前事後学修 40分】				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間 12:00~13:00 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	講義、グループワークに関して ZOOM によるオンラインの授業になる場合があります。				

科目名	発達領域作業療法学演習																						
科目責任者	伊藤 信寿																						
単位数他	1 単位(30 時間) 作業選択 5 セミナー																						
DP 番号と科目領域	DP5 専門																						
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。																						
科目概要	近隣にある児童通所施設を利用している対象児に対して、評価、観察、解釈、作業療法プログラムを立案し、治療法の一部を実施する。施設等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。																						
到達目標	(1)対象児に対して評価を実施することができる。 (2)評価結果を解釈し問題点を抽出することができる。 (3)プログラムを立案し実施することができる。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第1回 オリエンテーション、障害児通所施設について</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第2、3回 発達障がい児に対する感覚統合</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第4、5回 発達障がい児と遊びの体験</td> <td>伊藤信寿、飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第6、7回 発達障がい児に対する遊びの企画</td> <td>伊藤信寿、飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第8、9回 発達障がい児に対するOT 実践</td> <td>伊藤信寿、飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第10、11回 発達障がい児に対する遊びの企画</td> <td>伊藤信寿、飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第12、13回 発達障がい児に対するOT 実践</td> <td>伊藤信寿、飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第14、15回 実践のフィードバック、まとめ</td> <td>伊藤信寿、飯田妙子</td> </tr> </table>					<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 オリエンテーション、障害児通所施設について	伊藤信寿	第2、3回 発達障がい児に対する感覚統合	伊藤信寿	第4、5回 発達障がい児と遊びの体験	伊藤信寿、飯田妙子	第6、7回 発達障がい児に対する遊びの企画	伊藤信寿、飯田妙子	第8、9回 発達障がい児に対するOT 実践	伊藤信寿、飯田妙子	第10、11回 発達障がい児に対する遊びの企画	伊藤信寿、飯田妙子	第12、13回 発達障がい児に対するOT 実践	伊藤信寿、飯田妙子	第14、15回 実践のフィードバック、まとめ	伊藤信寿、飯田妙子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																						
第1回 オリエンテーション、障害児通所施設について	伊藤信寿																						
第2、3回 発達障がい児に対する感覚統合	伊藤信寿																						
第4、5回 発達障がい児と遊びの体験	伊藤信寿、飯田妙子																						
第6、7回 発達障がい児に対する遊びの企画	伊藤信寿、飯田妙子																						
第8、9回 発達障がい児に対するOT 実践	伊藤信寿、飯田妙子																						
第10、11回 発達障がい児に対する遊びの企画	伊藤信寿、飯田妙子																						
第12、13回 発達障がい児に対するOT 実践	伊藤信寿、飯田妙子																						
第14、15回 実践のフィードバック、まとめ	伊藤信寿、飯田妙子																						
アクティブラーニング	グループワークを行い、各対象の作業療法プログラムを企画し、プレゼンテーションを行う。障害児通所施設に通園している子どもに対して、実際に遊びを通して、観察評価、記録、遊びの企画、遊びの実践を行う。																						
授業内のICT活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います。																						
評価方法	レポート (50%)、演習 (遊びの企画・実践) (50%) レポートや演習はルーブリックを用いて評価する。 ルーブリックの内容は授業中に提示する。																						
課題に対するフィードバック	作業療法プログラムのレポート、遊びの企画書のレポートに対し、フィードバックを行う。																						
指定図書	下記参照																						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																		
イラストでわかる発達障害の作業療法	上杉雅之/監修 辛島千恵子/編集	医歯薬出版	4000	9784263217177																			
参考図書	授業中に随時連絡																						

事前・ 事後学修	事前学修：実践の事前準備（30分程度） 事後学修：企画や実践において指摘されたことに関する振り返り（10分程度）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	地域作業療法学
科目責任者	栗田 洋平
単位数他	2 単位(30 時間) 作業必修 5 メモ
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域における作業療法の基本的な考え方を学び、地域作業療法の基盤となる知識を習得します。加えて、ライフステージごとの作業療法実践、対象者を支える法制度を学ぶことで、対象者の全体像を捉え、作業療法プログラムを展開できる方法・考え方を身に付けます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活するクライアントのQOLを支援するために必要な基本的考え方を知る。 ・ライフステージに沿った法制度や作業療法実践を理解する。 ・作業療法士として地域に貢献するために必要な基礎的知識を身に付ける。
授業計画	<p><担当教員名>栗田洋平、伊藤信寿、藤田さより、飯田妙子 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション、地域における作業療法士の役割、地域包括ケアシステム(栗田) 第2回 高齢者福祉における地域作業療法(栗田) 第3回 高齢者福祉における多職種連携(特別講師) 第4回 介護予防における地域作業療法①(栗田) 第5回 介護予防における地域作業療法②(栗田) 第6回 子どもの生活を支える地域作業療法①(伊藤信寿先生) 第7回 子どもの生活を支える地域作業療法②(伊藤信寿先生) 第8回 精神障害領域における地域作業療法①(飯田妙子先生) 第9回 精神障害領域における地域作業療法②(飯田妙子先生) 第10回 自動車運転支援・社会生活・地域共生社会を支える作業療法の役割①(建木健先生) 第11回 自動車運転支援・社会生活・地域共生社会を支える作業療法の役割②(建木健先生) 第12回 地域を創る支援と作業療法士の役割①(宮崎宏興先生) 第13回 地域を創る支援と作業療法士の役割②(宮崎宏興先生) 第14回 PBL①(事例検討)(栗田) 第15回 PBL②(事例検討)、まとめ(栗田) ※講義内容・順番は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	本授業は、PBLによるグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。
評価方法	知識確認テスト 50% ポートフォリオ 30% レポート 20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いて学修への関心や進行状況を確認していく。必要に応じて課題遂行のためのアドバイスを行う。
指定図書	小林法一, 小林隆司編(2024)『最新作業療法学講座 地域作業療法学』医歯薬出版

参考図書	大熊明, 根本悟子編(2023)『地域作業療法学第4版』医学書院 以下, 下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
地域作業療 法学	長崎 重信	メジカルビュー 社	4200	9784758320498	
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後はポートフォリオを作成し、授業内容の復習をしてください (第1～15回:各20分) ・第3回、5回、7回、9回、15回の授業終了後、Webclass内の小テストに回答してください (各10分) ・ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちま しょう。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/index.html WAM・NET ホームページ https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (yohei-k@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て	なし				

科目名	職業リハビリテーション学
科目責任者	藤田 さより
単位数他	2 単位(30 時間) 作業必修 5 ヶメジャー
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の中で、近年、その活躍の場が広がりつつある職業関連活動を中心に、講義、演習を行います。また近隣地域での障害者に対する制度や取りくみや作業療法活動を調査し、作業療法士が地域で果たすべき役割、視点について理解します。
到達目標	1. 職業リハビリテーションに関する制度、支援を理解する。 2. 職業関連活動で用いる各種評価法について理解し、実践できる。 3. 障害者に対する就労支援において重要なポイントを理解できる。 4. 障害者に対する就労支援において作業療法士の果たすべき役割を理解できる。 5. 地域で生活する障害者に対する施策について理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>担当教員：藤田さより</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 地域における課題（講義） 藤田さより</p> <p>第 2 回：PBL：障害者の就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 3 回：PBL：障害者の就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 4 回：PBL：障害者の就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 5 回：PBL：障害者の就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 6 回：実習：就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 7 回：障害者特性に応じた就労支援の実際 ゲストスピーカー 建木 健</p> <p>第 8 回：障害者特性に応じた就労支援の実際 ゲストスピーカー 建木 健</p> <p>第 9 回：障害者特性に応じた就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 10 回：障害者特性に応じた就労支援の実際 藤田さより</p> <p>第 11 回：地域のニーズに応える作業療法の可能性 藤田さより</p> <p>第 12 回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践） 藤田さより</p> <p>第 13 回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践） 藤田さより</p> <p>第 14 回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義） 藤田さより</p> <p>第 15 回：まとめ（講義） 藤田さより</p>
アクティブラーニング	PBL・実習・グループワーク、プレゼンテーションを行います。 障害者就労支援関連施設への見学を予定しています。
授業内の ICT 活用	Webclass を用いた事前事後学習 パワーポイントでのプレゼンテーション
評価方法	レポート 30%（ルーブリック評価を用いる）、小テスト 20% 定期試験 50%
課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに記載いただいた内容について、次回の授業時に回答、解説等を致します。レポートには、評価、コメントを記載し、返却致します。
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
就労支援の作業療法基礎から臨床実践まで	中村 俊彦	医歯薬出版	3000	9784263266632	
参考図書	障害者雇用・就労支援のキーワード 職業リハビリテーション用語集 監修：日本職業リハビリテーション学会 編集：職リハ用語集編集委員会				
事前・事後学修	各種障害に応じた就労支援のあり方について学びますので、精神障害、知的障害、高次脳障害、発達障害についての障害特性について事前事後に学修してください。また就労支援に関する法律制度に関しては、関連するホームページを閲覧するようにしてください。(毎回事前事後 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
ライブ授業の実施について	講義・PBL によるグループ学習に関して、ZOOM によるオンラインの授業になる場合があります。				

科目名	臨床作業療法基礎実習
科目責任者	佐野 哲也
単位数他	1 単位(45 時間) 作業必修 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場（病院や施設）にて 5 日間の見学を中心とした実習を行います。実践現場で作業療法士の行っていることを見学し、対象者とのコミュニケーションを通じて、作業療法のイメージを具体化する機会となります。また各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気づき、課題の克服に取り組むための 4 年間の学習の動機づけとします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2. 作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3. 作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4. 実習初日に指導を受けたことについて、最終日まで改善に取り組む。
授業計画	<p><担当教員名> 佐野哲也、栗田洋平、飯田妙子</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内オリエンテーション（実習前） 佐野・栗田・飯田 実習に向けた準備を行う（5～7月に3コマ実施予定） 第1回：オリエンテーション（目的、意義など）、標準予防策について 第2回：支援技術演習（車椅子）、コミュニケーション演習など 第3回：身だしなみチェック、電話のかけ方、お礼状の書き方など 2. 実習施設における臨床実習 佐野・栗田・飯田 体験実習時期は一人5日間（8～9月に予定） 体験実習施設は未定 3. 学内セミナー（実習後） 佐野・栗田・飯田 実習で学んだ知識や経験、今後の課題等を整理する 実習終了後に開催を予定（2コマ） *オリエンテーション、実習時期・実習施設、学内セミナーの詳細は追って連絡する *学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須 *この科目は実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションで実習が行われる場合がある。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱのいずれかの実習の内、1単位分実施される。
アクティブラーニング	実習科目です。 学内セミナーではグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施します。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題の提出およびフィードバックを実施します。また、学内セミナーでのグループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前課題 20%、実習先の評価 30%、レポート 50% 提出物の未提出や遅延により減点する。 実習の評価、レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバックを行う。 臨床実習中は、実習指導者より実習への取り組み、レポートに対するフィードバックを受ける。

指定図書	なし
参考図書	能登真一：作業療法学概論 第4版, 医学書院, 2021
事前・事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べる（40分、課題提出あり） 感染対策、標準予防策について動画を視聴し、視聴後に感染対策に関する小テストに回答する（20分程度） 事後学修：実習期間中においては自宅にてその日の振り返りを行い、レポートにまとめること（5日分） 実習報告書、学内セミナーの内容等をまとめたレポートを学内セミナー後にWebclassにて提出
オープンエデュケーションの活用	実習前の事前学修として、下記URLのオンライン教材を指定します。（事前・事後学修欄を参照）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（tetsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	臨床作業療法応用実習
科目責任者	飯田 妙子
単位数他	2 単位(90 時間) 作業必修 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場(病院や施設)にて10日間の見学を中心とした実習を行います。臨床作業療法基礎実習の経験を踏まえ、各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気づき、課題の克服に取り組むための学習の動機づけとします。実習期間中には対象者との信頼関係を築き、面接・情報収集を行い評価計画の立案を目標とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2. 作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3. 作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4. 実習初日に指導を受けたことについて、最終日まで改善に取り組む。 5. 対象者との信頼関係を築く。 6. 対象者との面接を通してニーズを理解する。 7. 対象者のニーズを実現するための評価計画を立てることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 学内オリエンテーション 実習前学内オリエンテーションは11月、12月、1月の3回を予定 実習の目的・課題を確認し事前課題に取り組む</p> <p>2. 実習施設における臨床実習 実習時期は一人10日間 実習地でオリエンテーションを行い施設概要・ルールを把握し実行する 対象者との信頼関係を築く 対象者1名以上と面接を行い情報収集を行う 対象者1名以上に対しての評価計画を立案する 実習施設は未定、学内オリエンテーションで報告する</p> <p>3. 学内セミナー 学内セミナーは実習終了から2月下旬までに開催を予定している オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する 学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須。 *この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱいずれかの実習の内1単位分実施されます。</p> <p><担当教員名> 飯田、佐野、栗田</p> <p><担当教員名> 飯田、佐野、栗田</p> <p><担当教員名> 飯田、佐野、栗田</p>
アクティブラーニング	<p>実習科目</p> <p>学内セミナーではグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを行う</p>
授業内のICT活用	オリエンテーション、学内セミナーでPCを使用します

評価方法	事前課題 20%、実習評価 30%、レポート 50% 提出物の未提出や遅延により減点する。 レポートはルーブリックを用いて評価する。				
課題に対するフィードバック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバック 臨床実習中は実習指導者よりフィードバックを受ける				
指定図書	なし				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業療法学概論 第4版	矢谷 令子	医学書院	4000	9784260047852	
【第3版】標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 OT	矢谷令子／シリーズ監修 能登真一／編集 山口昇／編集 玉垣努／編集 新宮尚人／編集 加藤寿	医学書院	5800	9784260030038	
事前・事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べておくこと。(40分) 事後学修：実習期間中においては、自宅にてその日の振り返りを行いレポートしてまとめること。(40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (taeko-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
オンライン授業の実施について	なし				

科目名	臨床作業療法評価実習
科目責任者	泉 良太
単位数他	8 単位(360 時間) 作業必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>学内外で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習へ向けて準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督のもと、8 週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、作業療法士として臨床現場で活用できる基盤をつくることの3 本柱で構成される。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる ・ 対象者を理解する為の評価を実施できる ・ 対象者の全体像を把握できる ・ 対象者の作業療法計画を立案できる ・ 記録、報告をすることができる ・ 管理、運営について理解することができる ・ 内省を通して、行動の改善を行う事ができる
授業計画	<p><担当教員名> 泉 良太、伊藤 信寿、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する 2 実習施設における臨床実習 1～2 週 オリエンテーション OTR の作業療法見学・理解 OTR の作業療法技術の見学・模倣・実施 3～5 週 情報収集、評価計画立案、評価 6 週 利点・問題点の抽出 7 週 目標設定、治療計画立案 8 週 治療実施（可能であれば。合格基準には含めない。） 実施内容の記録と振り返り 実習総括 3 学内セミナー 1) 学んだことの整理 2) 担当事例（症例）および施設の報告 3) その他 <p>学内オリエンテーションは、第1回 7月に実施予定 第2回 8月に実施予定 第3回 9月に実施予定 第4回 10月に実施予定 第5回 12月（実習後）に実施予定</p> <p>臨床実習時期は、10月下旬から12月中旬 学内セミナーは、1月中に実施予定</p> <p>臨床実習施設は決定次第、連絡する。 臨床実習指導者会議は9月に実施予定</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション</p>

	ンでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ、Ⅱいずれかの実習の内1単位分実施されます。
アクティブ ラーニング	学内セミナーでは、グループワークを含む。
授業内の ICT活用	WebClassにて資料配布を行う
評価方法	臨床実習指導者による最終評価をもとに、学内セミナーにおける報告内容と報告書およびポートフォリオの内容を考慮して、総合的に判断する。なお実習の成績評価は、実習中の教員訪問や電話などによる確認の中で、指導者・学生・教員の3者の協議も含めて判断する。 詳細な点数配分は下記とする。 実習前オリエンテーション・実習強化月間・実習地事前学習の取り組み (15%) 中間評価 (10%) 実習地評価 (45%) 実習後オリエンテーション (5%) 振り返りシート (5%) 事例発表会 (10%) 事例報告書 (10%) なお、すべ
課題に対す るフィード バック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点について内省を促し、確認する。
指定図書	臨床実習ガイドブック (最新版) *オリエンテーション時に配布
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する。
事前・ 事後学修	・学内で学習したすべての科目 (基礎医学、臨床医学、作業療法専門科目) および面接・観察・検査・測定の実習を実施する (2週間程度) ・事例報告による作業療法の流れの確認、文献による作業療法のエビデンスを確認する (2週間程度)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外 授 業 の 実 施 に つ い て	なし

科目名	臨床作業療法総合実習 I
科目責任者	藤田 さより
単位数他	7 単位 (315 時間) 作業必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習への準備をすること 2. それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下、7 週間の作業療法を実施すること 3. 実習終了後の学内セミナー <p>上記を通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 2. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 <p>※臨床作業療法評価実習を踏まえ、さらに実践的な臨床能力を養うために 1 点目を最低限の目標とするが、2 点目についてもさらなる発展的な学習機会として経験を積むことが望ましい。</p>
授業計画	<p><科目担当教員> 藤田さより、伊藤信寿、泉良太、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする。 2. 実習施設における臨床実習 <p>第1 週目 オリエンテーション、OTR の作業療法見学・模倣・実施 第2 週目 担当対象者紹介、情報収集、評価計画立案、評価 第3 週目 評価、問題点・利点の抽出 第4 週目 目標設定、治療計画立案 第5 週目 治療実施、実施内容の記録と振り返り 第6 週目 治療実施 第7 週目 治療実施、実習総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床作業療法評価実習の経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。 <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用います。 *この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。 通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習 I, II いずれかの実習の内 1 単位分実施されます。</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	実習科目です。

評価方法	実習前オリエンテーション・実習強化月間・実習地事前学習の取り組み (15%) 中間評価 (10%) 実習地評価 (45%) 実習後オリ (5%) 振り返りシート (5%) 事例報告書 (20%) ※すべてルーブリック評価を用いる				
課題に対するフィードバック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導 (事例報告指導含む)				
指定図書	聖隷クリストファー大学実習ガイドブック (本学発行) 授業開始時に配布				
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業療法臨床実習のチェックポイント	丹羽 敦:松田 隆治	メジカルビュー社	3600	9784758320245	
事前・事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 ・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 ・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対外授業の実施について	なし				

科目名	臨床作業療法総合実習Ⅱ
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	7 単位 (315 時間) 作業必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①臨床実習への準備すること、 ②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下7週間作業療法を実施すること、 ③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。 <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床作業療法評価実習、臨床作業療法実習Ⅰにおける内省を通して、指導者の指導のもと、以下の7点について模倣実施することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる (2) 対象者を理解する為の評価を実施できる (3) 対象者の全体像を把握できる (4) 対象者の作業療法計画を立案できる (5) 記録、報告をすることができる (6) 管理、運営について理解することができる (7) 内省を通して、行動の改善を行う事ができる
授業計画	<p><担当教員> 鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、藤田さより、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p>実習前オリエンテーション (1 日) 初日：実習地オリエンテーション</p> <p>1 週目：作業療法の見学、対象者とのコミュニケーション、 担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>2 週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>3 週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>4 週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>5 週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>6 週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>7 週目：担当する対象者に対する作業療法評価、実施、担当外対象者の作業療法の補助、見学</p> <p>実習後：学内セミナー 2 日間</p> <p>1) 学んだことの整理 2) 担当事例 (症例) および施設の報告 3) その他 この実習の報告はポスター発表形式で行います。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p> <p>*この科目では、実習施設の配置によって、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習が行われる場合があります。通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションでの実習は、臨床作業療法基礎実習、臨床作業療法応用実習、臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ、Ⅱいずれかの実習の内1単位分実施されます。</p>
アクティブラーニング	<p>実習科目です。</p> <p>Ⅰ期終了後、Ⅱ期実習までに2週間の期間があるので、その間にⅡ期の振り返りを踏まえ、課題となった点を整理し、Ⅱ期実習に向けた知識・技術確認などの準備を行うことが求められる。</p>
授業内のICT活用	実習科目です。

評価方法	<p>実習前オリエンテーション・実習強化週間・実習地事前学習の取り組み (15%) 中間評価 (10%) 実習地評価 (45%) 実習後オリ (5%) 振り返りシート (5%) 事例報告書 (20%) すべてルーブリック評価を用いる</p>
課題に対するフィードバック	<p>実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導 (事例報告指導を含む)</p>
指定図書	<p>臨床実習ガイドブック (最新版) 評価実習オリの時に配布する</p>
参考図書	<p>なし</p>
事前・事後学修	<p>・評価実習、総合実習 I での課題を踏まえ、総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>なし</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 月曜日～金曜日 12:00～13:00 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対面授業の実施について	<p>実習地訪問指導、事前・事後指導は ZOOM によるオンラインになる可能性があります。また施設での実習が困難となった場合はオンラインでの学内実習に変更となる可能性があります。</p>

科目名	作業療法学内総合実習 I																																																																								
科目責任者	鈴木 達也																																																																								
単位数他	1 単位(45 時間) 作業必修 6 セミナー																																																																								
DP 番号と科目領域	DP5 専門																																																																								
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																																																								
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。																																																																								
到達目標	1. 作業療法介入のリーズニングについて説明できる 2. 作業療法の介入理論について選択できる 3. 対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる 4. 評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる																																																																								
授業計画	<p>担当教員：鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、藤田さより、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平 <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）</td> <td>作業療法の面接法 鈴木</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>学内実習1（面接）</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>学内実習1（面接）</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>学内実習1（面接）</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>作業遂行分析の視点と AMPS</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>作業遂行分析の視点と AMPS</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>クライアント中心の目標設定</td> <td>友利幸之介</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>クライアント中心の作業療法実践</td> <td>澤田辰徳</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>クリニカルリーズニングと理論選択</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>クリニカルリーズニングと理論選択</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>学内実習2（作業遂行観察と評価）</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>学内実習2（作業遂行観察と評価）</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>学内実習2（作業遂行観察と評価）</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>介入方法の選択とエビデンス</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>作業療法介入の関連知識</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>EBP と作業療法介入計画</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>作業療法介入の関連知識</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>SDM と作業療法</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>事例報告の書き方1</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>事例報告の書き方2</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>事例検討</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>事例検討</td> <td>全教員</td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	担当教員	第1回	オリエンテーション	鈴木	第2回	OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）	作業療法の面接法 鈴木	第3回	学内実習1（面接）	全教員	第4回	学内実習1（面接）	全教員	第5回	学内実習1（面接）	全教員	第6回	作業遂行分析の視点と AMPS	鈴木	第7回	作業遂行分析の視点と AMPS	鈴木	第8回	クライアント中心の目標設定	友利幸之介	第9回	クライアント中心の作業療法実践	澤田辰徳	第10回	クリニカルリーズニングと理論選択	鈴木	第11回	クリニカルリーズニングと理論選択	鈴木	第12回	学内実習2（作業遂行観察と評価）	全教員	第13回	学内実習2（作業遂行観察と評価）	全教員	第14回	学内実習2（作業遂行観察と評価）	全教員	第15回	介入方法の選択とエビデンス	鈴木	第16回	作業療法介入の関連知識	鈴木	第17回	EBP と作業療法介入計画	鈴木	第18回	作業療法介入の関連知識	鈴木	第19回	SDM と作業療法	鈴木	第20回	事例報告の書き方1	鈴木	第21回	事例報告の書き方2	鈴木	第22回	事例検討	全教員	第23回	事例検討	全教員
回数	内容	担当教員																																																																							
第1回	オリエンテーション	鈴木																																																																							
第2回	OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）	作業療法の面接法 鈴木																																																																							
第3回	学内実習1（面接）	全教員																																																																							
第4回	学内実習1（面接）	全教員																																																																							
第5回	学内実習1（面接）	全教員																																																																							
第6回	作業遂行分析の視点と AMPS	鈴木																																																																							
第7回	作業遂行分析の視点と AMPS	鈴木																																																																							
第8回	クライアント中心の目標設定	友利幸之介																																																																							
第9回	クライアント中心の作業療法実践	澤田辰徳																																																																							
第10回	クリニカルリーズニングと理論選択	鈴木																																																																							
第11回	クリニカルリーズニングと理論選択	鈴木																																																																							
第12回	学内実習2（作業遂行観察と評価）	全教員																																																																							
第13回	学内実習2（作業遂行観察と評価）	全教員																																																																							
第14回	学内実習2（作業遂行観察と評価）	全教員																																																																							
第15回	介入方法の選択とエビデンス	鈴木																																																																							
第16回	作業療法介入の関連知識	鈴木																																																																							
第17回	EBP と作業療法介入計画	鈴木																																																																							
第18回	作業療法介入の関連知識	鈴木																																																																							
第19回	SDM と作業療法	鈴木																																																																							
第20回	事例報告の書き方1	鈴木																																																																							
第21回	事例報告の書き方2	鈴木																																																																							
第22回	事例検討	全教員																																																																							
第23回	事例検討	全教員																																																																							
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業はグループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション・ライブケースによる学内実習を行います ・施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。 																																																																								
授業内のICT活用	PC を用いて文献収集やプレゼンテーションソフトを用いた事例報告会を行います																																																																								

評価方法	レポート40%、口頭試問40%、ポートフォリオ20% ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する ・ルーブリックの内容は授業中に提示する				
課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント・返却				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業療法がわかるCO PM・AM PSスター ティングガ イド FOR OCC UPATI ONAL THERA PISTS	吉川ひろみ/著	医学書院	3800	9784260007481	
作業で語る 事例報告 第2版	齋藤 佑樹	医学書院	3800	9784260050258	
参考図書	なし				
事前・ 事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行うこと(120分=3回分を要する) ・事例報告書のレポートを作成する(120分=3回分を要する)				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(tatsuya-s@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面 授 業 の 実 施 に つ い て	なし				

科目名	作業療法学内総合実習Ⅱ
科目責任者	泉 良太
単位数他	1 単位(45 時間) 作業必修 7-8 セミナー
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでの臨床実習Ⅰ、Ⅱを踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。それにより、作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士としての自立するための能力を養う総合的な実習である。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。
到達目標	臨床実習Ⅰ、Ⅱでの学びを踏まえた上で、以下の5点について模倣実施することを目標とする <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来作業療法士となる者として、良きマナーを身につけ、適切な状況判断ができる ・ 演習協力者の評価を適切に行うことができる ・ 演習協力者の全体像を把握できる ・ 演習協力者の作業療法計画を立案できる ・ 内省を通して、実践の改善を行うことができる
授業計画	<担当教員名> 泉 良太、伊藤 信寿、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平 <授業内容・テーマ等> 第1～8回 知識確認・担当事例の統合と解釈のまとめⅠ（臨床作業療法総合実習Ⅰ終了後 セミナー発表含む） 第9～12回 知識確認・担当事例の統合と解釈のまとめⅡ（臨床作業療法総合実習Ⅱ終了後 セミナー発表含む） 第13～16回 実技総合演習（面接、作業観察、評価実技、口頭試問：約20～30分/人） 第17～18回 各分野ごとの知識習得テストとその解説 第19～22回 生活行為向上マネジメントによる事例のまとめ 第23回 まとめ
アクティブラーニング	グループワーク学習・学内実習・Web教材の活用
授業内のICT活用	Web教材を活用しながら授業を展開します。
評価方法	セミナー発表 20% 実技試験 30% 知識習得テスト 50% ※セミナー発表、実技試験はルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	実技試験後のフィードバック
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時紹介します。

事前・ 事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・これまでに学んだ作業療法の一連の流れを復習しましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	作業療法教育マネジメント論	
科目責任者	藤田 さより	
単位数他	2 単位(30 時間) 作業必修 8 ヲマスタ	
DP 番号と科目領域	DP6 専門	
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。	
科目概要	作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、管理運営、教育等について学び、臨床実践に備える。 自分自身のこれからのキャリアについて考える。	
到達目標	(1) 作業療法の実践に必要な制度、組織、管理・運営、教育、後輩指導等を理解することができる。 (2) ワークライフバランス、自らのキャリアについて考える機会にする	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション マネジメントについて</p> <p>第2回 職業倫理・生涯教育について</p> <p>第3回 リーダーシップについて</p> <p>第4回 聖隷卒業生としてのキャリアプラン</p> <p>第5回 聖隷卒業生としてのキャリアプラン</p> <p>第6回 産業作業療法</p> <p>第7回 産業作業療法</p> <p>第8回 災害支援と作業療法</p> <p>第9回 生涯学習について</p> <p>第10回 日本作業療法士協会・静岡県作業療法士会について</p> <p>第11回 作業療法教育について</p> <p>第12回 作業療法教育と臨床実習指導について</p> <p>第13回 社会人としてのマナー講座</p> <p>第14回 ワークライフバランスとメンタルヘルス</p> <p>第15回 グループワーク～私のキャリアプランを作ろう～</p> <p>※授業の内容、講義の順番は変更する可能性があります。</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>栗田洋平</p> <p>栗田洋平</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>鈴木達也</p> <p>岡庭隆門 (ゲストスピーカー)</p> <p>岡庭隆門 (ゲストスピーカー)</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p>
アクティブラーニング	グループワーク、演習を行います。	
授業内のICT活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。	
評価方法	各授業後におけるレポート (80%) すべてルーブリック評価を用いる 小テスト (20%)	
課題に対するフィードバック	質問時もしくは次回授業時にフィードバック致します。	
指定図書	なし	
参考図書	下記参照	

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業で結ぶ マネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり	澤田辰徳／編集	医学書院	3500	9784260027816	
事前・ 事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する (20分) 事後学修：授業で学んだことをまとめる (20分)				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください				
実務経験に 関する記述	本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
IT授業 の実施に ついて	講義科目については ZOOM を用いたオンラインで実施する可能性があります。				

科目名	卒業研究 (OT)				
科目責任者	佐野 哲也				
単位数他	2 単位 (60 時間) 作業必修 8 ヲマカ				
DP 番号と科目領域	DP4 専門				
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。				
科目概要	4 年間の専門的な授業や臨床実習を通して、疑問に思ったことや調べたいことを研究テーマとして、その疑問を解決する研究方法を学習し実施する。各担当教員のもと、研究課題の立案、研究課題の立案、研究方法の確立・実施、研究課題の考察を深め、発表及び論文作成を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問を明確にすることが出来る 2. 研究疑問に対して解決する方法を期日までに実施することが出来る。 3. 研究結果をまとめることが出来る 4. 研究結果を発表することが出来る 				
授業計画	<担当教員名> 佐野哲也、伊藤信寿、泉良太、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、栗田洋平 <授業内容・テーマ等> 研究疑問の設定 文献レビュー 研究目的と研究テーマの明確化 研究方法の決定 研究計画の作成 研究実施 研究分析 考察 論文執筆 発表用プレゼンテーションの作成 口頭発表 (発表 7 分・質疑 3 分) 卒業論文提出 : 9 月末 (予定) 卒業論文発表 : 10 月上旬 (予定) 1~3 年生参加				
アクティブラーニング	グループ学修、ピアインストラクション、フィールドワーク等のいずれかをゼミ単位で実践します。 また、ゼミ単位でのディスカッション、プレゼンテーションも実施します。				
授業内の ICT 活用	調査・分析・論文執筆に PC を使用します。 論文発表時は、プロジェクターを用いた報告会を行います。				
評価方法	研究への取り組み 15%、研究論文 70%、口頭発表 15%、計 100% 上記の評価は、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容については、事前に提示します。				
課題に対するフィードバック	研究への取り組み、発表内容に関するフィードバックを各指導教員から行います。				
指定図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

作業療法研究法 [第2版]	山田 孝 編集	医学書院	3800	9784260014830	
参考図書	以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	友利幸之介／執筆 京極真／執筆 竹林崇／執筆	医学書院	4000	9784260036627	
事前・事後学修	自らの関心領域に関する文献を収集、熟読し、文献リストを作成すること				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (tetsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	必要に応じて、研究内容指導等を ZOOM によるオンライン指導にて行う場合があります。				

科目名	言語聴覚障害学概論																																				
科目責任者	柴本 勇																																				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 1 セミナー																																				
DP 番号と科目領域	DP3 専門																																				
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。																																				
科目概要	コミュニケーションの意義、種類、過程を学修した上で、言語聴覚障害学の歴史、現状、展望および言語聴覚障害の概要を学ぶ。小グループによるグループワークやコミュニケーション演習を通じて、言語聴覚障害学の基礎を主体的に学ぶ。さらに職業倫理、他職種との協働活動や連携の重要性、職能団体の役割と活動参加の意義を学ぶ。また、言語聴覚障害や言語聴覚士の臨床像を理解した上で、言語聴覚障害基礎実習へと移行する。																																				
到達目標	1. コミュニケーションの意義、種類、過程が理解できる。 2. 言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚療法の対象、言語聴覚療法の概要が理解できる。 3. 言語聴覚士の臨床が理解できる。																																				
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%; text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="width: 40%; text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション(講義)</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：言語聴覚療法の歴史</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：言語聴覚療法の倫理</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い①)</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い②)</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い③)</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：グループワーク発表</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：コミュニケーションの基本</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：コミュニケーション演習</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：小児言語障害の臨床</td> <td style="text-align: right;">小坂美鶴</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：発声発語障害の臨床</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床</td> <td style="text-align: right;">谷 哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：聴覚障害の臨床</td> <td style="text-align: right;">大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：摂食嚥下障害の臨床</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> </table>					<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：オリエンテーション(講義)	柴本 勇	第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇	第 3 回：言語聴覚療法の歴史	柴本 勇	第 4 回：言語聴覚療法の倫理	柴本 勇	第 5 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い①)	柴本 勇	第 6 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い②)	柴本 勇	第 7 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い③)	柴本 勇	第 8 回：グループワーク発表	柴本 勇	第 9 回：コミュニケーションの基本	柴本 勇	第 10 回：コミュニケーション演習	柴本 勇	第 11 回：小児言語障害の臨床	小坂美鶴	第 12 回：発声発語障害の臨床	柴本 勇	第 13 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫	第 14 回：聴覚障害の臨床	大原重洋	第 15 回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																				
第 1 回：オリエンテーション(講義)	柴本 勇																																				
第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇																																				
第 3 回：言語聴覚療法の歴史	柴本 勇																																				
第 4 回：言語聴覚療法の倫理	柴本 勇																																				
第 5 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い①)	柴本 勇																																				
第 6 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い②)	柴本 勇																																				
第 7 回：グループワーク (コミュニケーション障がい者の思い③)	柴本 勇																																				
第 8 回：グループワーク発表	柴本 勇																																				
第 9 回：コミュニケーションの基本	柴本 勇																																				
第 10 回：コミュニケーション演習	柴本 勇																																				
第 11 回：小児言語障害の臨床	小坂美鶴																																				
第 12 回：発声発語障害の臨床	柴本 勇																																				
第 13 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫																																				
第 14 回：聴覚障害の臨床	大原重洋																																				
第 15 回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展																																				
アクティブラーニング	WebClass を用いて事前・事後学修を行う。 グループワークで様々な言語・コミュニケーション障害をもつ患者様の気持ちを理解するために主体的に学習する。																																				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。																																				
評価方法	定期テスト 60% リアクションペーパー10% グループ活動 10% グループ発表 10% コミュニケーション演習 (実技) 10%																																				
課題に対するフィードバック	毎回の講義のリアクションペーパーに対して、次回講義時又は講義前にフィードバックする。レポート・グループ学習では、評価視点を公開し自身でもフィードバックできるようにする。																																				
指定図書	笑顔のかたち1 食とコミュニケーション研究所出版会 2021 ISBN : 97849104693																																				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																																

【第2版】 言語聴覚障 害学概論	藤田郁代／編集 北義子／編集 阿部晶子／編集 藤田郁代／〔ほ か〕執筆	医学書院	5000	9784260038164	
参考図書	なし				
事前・ 事後学修	グループ学習では、指定された課題をグループで討議し、同時に自ら調べて答えを導き出す手法で行っていきます。言語聴覚障害については、講義前にあらかじめ指定図書を読み予習するように心がけてください。 WebClass を用いて、事前事後学修課題を提示します。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	研究室：3号館 4階 3408 研究室 オフィスアワー：初回講義時に提示します。 ※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp ※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	言語聴覚障害診断学
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	1セメスターから5セメスターまでに学修した評価学の総まとめの科目である。獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、評価実習に備える。言語聴覚障害者にご協力いただき、成人の言語聴覚障害を総合的に評価し鑑別診断する。言語聴覚障害者を評価するための計画を立案する。面接や観察から言語聴覚障害の有無、種類、重症度をおおよそ把握し、適切な評価方法を選択・実施する。得られた情報や結果を統合し、全体像の把握、問題点の抽出、訓練プログラムの立案を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害の評価診断の基本的な手続きを説明し、模擬的に実施できる。 2. リハビリテーション専門職を目指す学生としての確かな行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につけることができる。 3. 収集する情報の種類と収集方法を計画・立案し、説明できる。 4. 言語聴覚障害者に対して、自由会話・情報収集からその障害像を把握し、適切な評価法を選択・説明できる。 5. 結果を分析後、得られた情報や結果を統合し、それらを説明できる。 6. 全体像を把握し、問題点の抽出方法を説明できる。 7. 症例報告書
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、評価診断について 目的、評価の技法、臨床データの解釈（妥当性・信頼性、正常値・標準値）、プロセスなど 佐藤豊</p> <p>第2-3回： インテーク面接、会話・行動評価 ビデオ演習 佐藤豊</p> <p>第4-5回：トランスファー・バイタルチェック 高山真希</p> <p>第6回：症例演習の発表、計画検討 ★評価計画書 佐藤豊、谷、黒崎</p> <p>第7回：準備 佐藤豊、谷、黒崎</p> <p>第8-9回：症例演習①（初回面接） ★日誌 佐藤豊、谷、黒崎</p> <p>第10-11回：症例演習②（総合検査） ★日誌 佐藤豊、谷、黒崎</p> <p>第12-13回：症例演習③（総合検査・掘り下げ検査） ★日誌、症例報告書 佐藤豊、谷、黒崎</p> <p>第14-15回：OSCE（客観的臨床能力試験） ★日誌 佐藤豊、谷、柴本、小坂、大原、黒崎、佐藤綾</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。

評価方法	<p>演習の準備・実技 30%</p> <p>レポート等提出物 30%</p> <p>OSCE (客観的臨床能力試験) 40%</p> <p>OSCE の達成度はルーブリックを用いて評価をします。 レポートはルーブリックを用いない。</p>
課題に対するフィードバック	各自フィードバックし、授業内に解説します。
指定図書	<p>深浦順一、植田 恵編集「標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法評価・診断学」医学書院</p> <p>深浦順一、爲数哲司、内山量史編著「言語聴覚士のための臨床実習テキスト」建帛社</p>
参考図書	<p>藤田郁代、立石雅子編集「失語症学」医学書院</p> <p>小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版</p> <p>西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版</p>
事前・事後学修	<p>[事前学修] 次回の演習までの準備を行うこと</p> <p>[事後学修] 演習で実施した内容を分析し、まとめること</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3411 研究室</p> <p>時間等：毎週月曜日 11：15～13：15</p> <p>上記以外でも在室時随時対応します。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	失語症学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	失語症学では、失語症について全般的に理解する。古典的分類と失語症タイプ別の特徴、および言語情報処理モデルによる言語症状の分析、症候群などについて学ぶとともに、評価・鑑別について理解する。
到達目標	1. 様々な言語障害の症状を理解し、症候群としての失語症を捉える事ができる。 2. 言語障害の症状を言語情報処理モデルに当てはめることが出来る。 3. 言語障害の症状を古典的分類や認知神経心理学的な階層性に基づいて理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <授業内容・テーマ等> 谷 哲夫 黒崎 芳子</p> <p>第 1 回：失語症の定義，歴史，原因疾患，病巣，言語症状 谷・黒崎</p> <p>第 2 回：言語の神経学的基盤① 谷・黒崎</p> <p>第 3 回：言語の神経学的基盤② 谷・黒崎</p> <p>第 4 回：失語症の原因疾患・病巣 谷・黒崎</p> <p>第 5 回：失語症の古典的分類（概要） 谷・黒崎</p> <p>第 6 回：失語症の古典的分類（流暢性失語症と言語症状） 谷・黒崎</p> <p>第 7 回：失語症の古典的分類（非流暢性失語と言語症状） 谷・黒崎</p> <p>第 8 回：皮質下性失語症・語義失語・交叉性失語 谷・黒崎</p> <p>第 9 回：その他の失語症・純粹型（純粹失読・純粹失書・失読失書、等） 谷・黒崎</p> <p>第 10 回：認知神経心理学的情報モデルの構造と意味 谷・黒崎</p> <p>第 11 回：認知神経心理学モデルの解釈 ログジェン・モデルのモジュールの理解 谷・黒崎</p> <p>第 12 回：認知神経心理学的モデルの解釈 ログジェン・モデルの階層性の理解 谷・黒崎</p> <p>第 13 回：認知神経心理学モデルの解釈 二重経路モデル 相互活性化モデル、等 谷・黒崎</p> <p>第 14 回：認知神経心理学モデルの解釈 失読・失書の当てはめ 谷・黒崎</p> <p>第 15 回：まとめ・振り返り 谷・黒崎</p>
アクティブラーニング	毎回予習箇所を WebClass で提示し、教科書を中心とした準備を促します。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	定期試験 70% 毎回の小テスト（復習テスト） 20% レポート 10%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）の解説は授業の中で行います。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第3版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	

科目名	失語・高次脳機能障害評価演習																																
科目責任者	黒崎 芳子																																
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 4セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP5 専門																																
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。																																
科目概要	失語・高次脳機能障害の 評価について、標準化されている検査法について、グループ演習により検査の手順、結果の集約と解釈、問題点の抽出などについて学ぶ。演習(グループ演習)は失語症の評価に関係する検査を実施する。その結果を集約・解釈し、掘り下げ検査を選択、実施する。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語・高次脳機能障害の症状を捉えことができる。 2. グループ演習によって各種検査の手続きを習得することができる。 3. 問題点を抽出し掘り下げ検査を選択することができる。 4. 失語・高次脳機能障害の検査の結果をまとめることができる。 																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</td> <td style="text-align: center;">＜担当教員名＞</td> </tr> <tr> <td>第 1 回：失語症検査の紹介・SLTA の概要・症例報告の課題提示</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：SLTA の実施方法①</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：SLTA の実施方法②</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：SLTA の実施方法③</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：SLTA の実施方法④</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：SLTA の実施方法⑤</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：SLTA のまとめ方</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：SLTA 分析と解釈</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：WAB 失語症検査</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：WAB 失語症検査</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：SLTA-ST・失語症語彙検査・トークンテストの発表(実演)</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：失語症構文検査・重度失語症検査・CADL の発表(実演)</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：症例報告書の作成</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：症例報告書の作成</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：症例報告書の発表</td> <td>黒崎芳子 谷哲夫</td> </tr> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：失語症検査の紹介・SLTA の概要・症例報告の課題提示	黒崎芳子 谷哲夫	第 2 回：SLTA の実施方法①	黒崎芳子 谷哲夫	第 3 回：SLTA の実施方法②	黒崎芳子 谷哲夫	第 4 回：SLTA の実施方法③	黒崎芳子 谷哲夫	第 5 回：SLTA の実施方法④	黒崎芳子 谷哲夫	第 6 回：SLTA の実施方法⑤	黒崎芳子 谷哲夫	第 7 回：SLTA のまとめ方	黒崎芳子 谷哲夫	第 8 回：SLTA 分析と解釈	黒崎芳子 谷哲夫	第 9 回：WAB 失語症検査	黒崎芳子 谷哲夫	第 10 回：WAB 失語症検査	黒崎芳子 谷哲夫	第 11 回：SLTA-ST・失語症語彙検査・トークンテストの発表(実演)	黒崎芳子 谷哲夫	第 12 回：失語症構文検査・重度失語症検査・CADL の発表(実演)	黒崎芳子 谷哲夫	第 13 回：症例報告書の作成	黒崎芳子 谷哲夫	第 14 回：症例報告書の作成	黒崎芳子 谷哲夫	第 15 回：症例報告書の発表	黒崎芳子 谷哲夫
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：失語症検査の紹介・SLTA の概要・症例報告の課題提示	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 2 回：SLTA の実施方法①	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 3 回：SLTA の実施方法②	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 4 回：SLTA の実施方法③	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 5 回：SLTA の実施方法④	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 6 回：SLTA の実施方法⑤	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 7 回：SLTA のまとめ方	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 8 回：SLTA 分析と解釈	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 9 回：WAB 失語症検査	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 10 回：WAB 失語症検査	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 11 回：SLTA-ST・失語症語彙検査・トークンテストの発表(実演)	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 12 回：失語症構文検査・重度失語症検査・CADL の発表(実演)	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 13 回：症例報告書の作成	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 14 回：症例報告書の作成	黒崎芳子 谷哲夫																																
第 15 回：症例報告書の発表	黒崎芳子 谷哲夫																																
アクティブラーニング	演習科目です(各グループで演習をし、授業中に検査を行い、報告書をまとめます)																																
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。																																
評価方法	<p>定期試験 50%</p> <p>提出物・報告書 50%</p> <p>上記による評価なのでルーブリックは用いません。</p>																																
課題に対するフィードバック	演習中に各グループを巡回し解説をします。最後に質疑応答を行います。各検査のまとめのフィードバックをします。																																
指定図書	<p>『標準失語症検査マニュアル』日本高次脳機能障害学会編集 新興医学出版</p> <p>『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社</p>																																

参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学修〕 毎回の授業前に検査マニュアルを確認し、各自でマニュアル・評価用紙を準備すること。 〔事後学修〕 授業で実施した検査を実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：毎週火曜 11：15～12：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	失語症治療学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	失語症治療学では、臨床における一連の流れについて学習する。病期別に具体的なアプローチ方法を提示し、実際の症例を通して症状の分析、採用すべき治療法、および予後予測の方法を学ぶ。
到達目標	1. 病期別に失語症治療に対する言語聴覚士の心構えや姿勢を理解できる。 2. 検査結果をまとめ訓練プログラムの立案の考え方を理解できる。 3. 患者の生活場面を想定した準備の必要性が理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>谷 哲夫 黒崎 芳子</p> <p>第 1 回：病期別訓練の方針と基本的訓練法 谷・黒崎</p> <p>第 2 回：行動変容法・語用論・その他訓練法 谷・黒崎</p> <p>第 3 回：認知神経心理学的モデルに基づく訓練立案 谷・黒崎</p> <p>第 4 回：事例：基本情報から SLTA の結果まで 谷・黒崎</p> <p>第 5 回：急性期と回復期の訓練 谷・黒崎</p> <p>第 6 回：機能回復訓練 谷・黒崎</p> <p>第 7 回：維持期（生活期）の訓練 谷・黒崎</p> <p>第 8 回：症例報告書の作成 谷・黒崎</p>
アクティブラーニング	毎回 WebClass に予習箇所を提示し、教書での準備を促す。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験 60% 毎回の小テスト（復習テスト） 20% レポート 20%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）を授業の中で実施します。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第 3 版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし

事前・事後学修	WebClass による予習・復習（毎回、各 40 分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	高次脳機能障害学 (ST)
科目責任者	黒崎 芳子
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 5 セミナー
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	高次脳機能障害学では脳および神経系の解剖生理をはじめ、脳損傷により多彩な障害を生じる高次脳機能障害について一般的に理解する。また代表的な高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムなどについて症例を通じて実践的に理解を深める。授業の進め方としては、小グループによる PBL チュートリアル(症例を提示し、グループでディスカッションし報告書にまとめる)、講義、演習を通じ、高次脳機能障害の各症状の特徴を理解し、評価診断および治療に関する知識・技能・態度を習得する。
到達目標	1. 高次脳機能障害の原因疾患・背景情報を説明できる。 2. 高次脳機能障害の種類、症状、脳病変との関連性を説明できる。 3. 理論に基づいた評価・訓練計画をグループで立案し、学生同士で実施できる。 4. 高次脳機能障害の評価、診断、治療プログラムを立案し、報告書を作成する。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 1 回：高次脳機能障害とは 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 2 回：視覚認知障害 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 3 回：視空間障害 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 4 回：聴覚認知の障害 身体意識・病態認知の障害 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 5 回：行為・動作の障害 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 6 回：記憶障害 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 7 回：前頭葉と高次脳機能障害 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 8 回：脳梁離断症状 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 9 回：認知症 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 10 回：高次脳機能障害の責任病巣 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 11 回：検査演習 (MMSE・HDS-R、VPTA、BIT) 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 12 回：検査演習 (SPTA、WMS-R、その他記憶検査) 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 13 回：検査演習 (RBMT、CAT、その他注意検査) 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 14 回：視覚認知障害・視空間障害・行為動作障害の症例発表 黒崎芳子 谷哲夫</p> <p>第 15 回：記憶障害・前頭葉障害・認知症の症例発表 黒崎芳子 谷哲夫</p>
アクティブ ラーニング	
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験(50%) 報告書・レポート(50%)
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーで質問を受け付けフィードバックします。 グループで報告書を提出。各障害の発表後に解説を行います

指定図書	『高次脳機能障害学 第3版』藤田郁代、関啓子編著 医学書院 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第3版』小寺富子監修 協同医書出版社 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学修〕 Webclass を使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 〔事後学修〕 講義内容のポイントを整理し説明できるようにする。各症例の報告書を作成し、発表できるように準備をする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：毎週火曜 11：15～12：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	

科目名	失語・高次脳機能障害治療演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 6 セミナー
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	失語症と高次脳機能合併例への評価・鑑別及びその言語聴覚療法の演習を通して学ぶ。失語症および高次脳機能障害のこれまでの学修を生かして演習形式で治療を学生同士で模擬的に実践する、失語症と高次脳機能障害合併例の全体像の把握、問題点の整理、治療プランの立案、実施が含まれる。
到達目標	1 失語症・高次脳機能障害合併例に対する治療に至る理論を説明できる。 2. 失語症・高次脳機能障害合併例に対する治療技能を説明できる。 3. 理論に基づいた訓練計画をグループで立案し、学生同士で模擬的に実施できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>谷 哲夫 黒崎 芳子</p> <p>【高次脳検査演習】</p> <p>第1回：オリエンテーション 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第2回：症例A・B・Cの紹介 治療計画の検討 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第3回：中間発表 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第4回：中間発表と模擬的治療練習 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第5回：模擬的治療練習（教員巡回） 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第6回：模擬的治療練習（教員巡回） 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第7回：重複障害3事例のテーマの提示 事例作成の方法説明 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第8回：事例作成① 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第9回：事例作成② 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第10回：事例作成③ 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第11回：事例の発表① 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第12回：事例の発表② 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第13回：事例の模擬的治療練習① 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第14回：事例の模擬的治療練習② 谷哲夫・黒崎芳子</p> <p>第15回：最終レポートに関するコメント・まとめ 谷哲夫・黒崎芳子</p>
アクティブラーニング	演習科目 グループ形式で演習を実施し、治療プログラムについて意見を出し合う。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。

評価方法	<p>【失語】</p> <p>課題のレポート 50%</p> <p>演習の技能 30%</p> <p>症例発表の内容 20%</p>
課題に対するフィードバック	<p>リアクションペーパーへのコメント</p> <p>演習中に巡回し、質疑応答を行います。</p> <p>報告書を提出してもらい、適宜コメントを行います。</p>
指定図書	<p>藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第3版」医学書院</p> <p>藤田郁代、関啓子編著『高次脳機能障害学』医学書院</p> <p>深浦順一、為数哲司、内山量史編著『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』 建帛社</p>
参考図書	なし
事前・事後学修	<p>[事前学習] : Webclass を利用</p> <p>演習では事前に自分の課題を明確にしてレポート作成</p> <p>[事後学習] : 症例報告書の再作成 ルーブリックによる到達度確認</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3406 研究室</p> <p>時間等：毎週月曜 11：15～13：15</p> <p>上記以外でも在室時随時対応します</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対面授業の実施について	

科目名	言語発達障害学基礎実習(保育園)
科目責任者	佐藤 綾華
単位数他	1 単位(45 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	9 月前半に保育園にて 5 日間実習を行う。指定されたクラスに入り、朝から夕方まで子どもたちと一緒に過ごす。乳幼児の全体的な発達や言語発達の実際に触れ、1 年次と 2 年次春セメスターに学んだ知識を現場で再確認し、再統合することを目的とする。同時に、保育士の業務内容や幼児との接し方、保育園の社会的役割を学ぶ。
到達目標	1. 健全発達を理解し、実習を通して知識を再確認することができる。 2. 保育士の業務内容を説明できる。 3. 社会人としての基本的態度を養うことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 佐藤綾華、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、黒崎芳子、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 社会人としての基本的態度を学ぶ 1) 保育園職員に対する適切な態度、ことば遣い 2) 園児や保護者に対する適切な態度、ことば遣い 3) 実習生としての適切な身なり、服装、態度 言語聴覚学科の学生として学ぶ 1) 食事、着替え、排泄など、日常生活上の行為の発達 2) コミュニケーションや言語の発達 3) 遊びの内容の発達 4) 運動能力の発達 5) 幼児の個性、個人差について 6) 保育士の業務全般 7) 保育士の幼児との係わり方 8) 保育園の社会的役割 ※実習前にオリエンテーションを実施する</p>
アクティブラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学修レポート 30%、実習態度・日誌 50%、実習後レポート 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	実習レポート、事前事後学修、実習日誌については実習担当者からフィードバックを行う
指定図書	なし

参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：発達に関する復習課題、社会人としてのマナー等を実施する 事後学修：実習の振り返りを行う。 ※事前・事後学修は各担当教員と行う
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3407 研究室、水曜 14 : 00～15 : 00
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	言語発達障害学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	小児の認知言語心理的な発達段階を理解した上で、各種障害の病態と障害像、原因と発現メカニズムを学び言語発達支援に必要な考え方を学ぶ。さらに、子どもの発達段階や障害特性に即した指導・支援法を学修する。
到達目標	1. 小児の発達段階別の特徴を捉えることができる。 2. 言語発達を阻害する各種障害の病態を DSM-5 (&ICD-11) の診断基準と合わせて障害像を説明することができる。 3. 脳性麻痺、重複障害の基本的な知識、言語を習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴</p> <p>第 1 回：言語発達障害とは 第 2 回：前言語期・語彙獲得期の言語発達と障害 第 3 回：幼児期の言語発達と障害 第 4 回：学童期の読み・書き・算数障害 第 5 回：評価・診断 第 6 回：知的能力障害の病態 第 7 回：自閉症スペクトラム障害の病態 第 8 回：注意欠如/多動性障害の病態 第 9 回：コミュニケーション障害（特異的言語障害を中心に） 第 10 回：コミュニケーション障害（社会的語用論的コミュニケーション障害） 第 11 回：後天性小児失語症 第 12 回：運動要害（チック症、発達性強調運動障害など） 第 13 回：学習障害の病態 第 14 回：脳性麻痺の基本的知識 第 15 回：重複障害の基本的知識</p>
アクティブラーニング	事前に学習箇所のノートをまとめる。
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期テスト 80%、小テスト 20%
課題に対するフィードバック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第 3 版 医学書院
参考図書	言語聴覚士のための言語発達障害学第 2 版 医歯薬出版株式会社 言語聴覚学講座 言語発達障害学 石坂郁代 水戸陽子編集 医歯薬出版株式会社

事前・ 事後学修	教科書の当該箇所をまとめ、必要に応じて他資料を用い、資料を作成し、発表の準備を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	特になし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週火曜 15：00～17：00 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	特になし

科目名	言語発達障害評価演習
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	言語発達障害学評価演習では、小児領域で良く用いられる検査の理論と手技を学ぶことを目的としている。授業は検査演習を取り入れ、実際に検査や検査結果を出すことができるようになってもらいたい。
到達目標	1. 各検査の概要・解説を説明できる 2. 各検査を正しく実施できる 3. 各検査の結果のまとめができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴、佐藤 綾華</p> <p>第 1 回：ガイダンス・観察・行動記録</p> <p>第 2 回：発達検査、知能検査、言語検査の種類</p> <p>第 3 回：発達検査 (KIDS、DENVER II、遠城寺式乳幼児分分析的発達診断検査法ほか)</p> <p>第 4 回：言語検査「LC スケール」</p> <p>第 5 回：言語検査「LCSA」</p> <p>第 6 回：言語検査 (語彙検査、統語検査)</p> <p>第 7 回：言語検査「国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査」検査方法</p> <p>第 8 回：言語検査「国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査」結果のまとめ方</p> <p>第 9 回：発達・知能検査「新版-K 式発達検査 2020」検査内容</p> <p>第 10 回：発達・知能検査「新版-K 式発達検査 2020」結果のまとめ方</p> <p>第 11 回：発達・知能検査「WISC-V」</p> <p>第 12 回：発達・知能検査「WPPSI - III」</p> <p>第 13 回：発達・知能検査「田中ビネーV」</p> <p>第 14 回：認知神経心理学的検査「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p> <p>第 15 回：認知神経心理学的検査「DN-CAS」</p> <p>*時間割によって演習する科目では実施する検査が前後する場合がある。</p>
アクティブラーニング	演習科目です。実際の検査バッテリーは必ず手に取って確認しておくこと 演習室にある検査道具を見て、できたらマニュアルを見ながら仲間同士で実際にやってみること
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期テスト 80%、受講態度・リアクションペーパー 20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーには解答例を示し、フィードバックを行います
指定図書	言語聴覚士のための言語発達障害学第 2 版 医歯薬出版株式会社
参考図書	標準言語障害学 言語発達障害学 第 3 版 医学書院

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：該当する検査のマニュアルを事前によく読みこんでおくこと ・事後学修：授業で行った検査はマニュアルを見なくても出来るように何度も繰り返し練習しておくこと
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週火曜 15：00～17：00 上記以外でも在室時随時対応します</p>
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
教材授業の実施について	

科目名	言語発達障害治療学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 5 セミナー
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	言語発達障害学 I、II を踏まえて、言語発達障害児への具体的な指導方法について、グループで討議するなどして多様な方法を共有することができる。
到達目標	1. 様々な発達障害に対する指導法を説明できる。 2. 様々な場面における支援方法について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴</p> <p>第 1 回：言語発達障害児者のコミュニケーション支援の基本的視点 第 2 回：発達段階に応じた指導・支援（前言語期～幼児期） 第 3 回：発達段階に応じた指導・支援（学童期） 第 4 回：障害特性に応じた指導・支援（知的能力障害） 第 5 回：障害特性に応じた指導・支援（自閉症スペクトラム障害） 第 6 回：障害特性に応じた指導・支援（注意欠如・多動性障害） 第 7 回：障害特性に応じた指導・支援（特異的言語発達障害） 第 8 回：環境調整（カウンセリングマインドを含む） 第 9 回：訓練法（認知発達治療からのアプローチ） 第 10 回：訓練法（語用論的アプローチ） 第 11 回：訓練法（TEACCH プログラム） 第 12 回：訓練法（インリアルアプローチ） 第 13 回：訓練法（応用行動療法） 第 14 回：ICT 支援 第 15 回：他職種連携</p>
アクティブラーニング	事前に学習個所のノートをまとめる。
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 80%、授業態度・リアクションペーパー 20%
課題に対するフィードバック	毎回の授業に関する質問へのアドバイス、発表時のフィードバックを適宜行う。
指定図書	1 年次・2 年次で指定図書として購入した図書を使用します。 (1) 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第 3 版 医学書院 (2) 言語聴覚士のための言語発達障害学第 2 版 医歯薬出版株式会社
参考図書	言語聴覚学講座 言語発達障害学 石坂郁代 水戸陽子編集 医歯薬出版株式会社

事前・ 事後学修	毎回の事前学習（40分）：教科書を読む。 毎回の事後学修（40分）：資料を読んで内容を確認する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	特に無し。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週火曜 15：00～17：00 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	

科目名	言語発達障害治療演習
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 6 メスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	言語発達障害児の言語・コミュニケーションの評価・指導プログラムを立案する。さらに、協力者の協力を得て実践した実際の臨床観察から、経過と結果、所見、方針を設定する。
到達目標	1. 様々なアプローチ技術を理解し、事例を通して応用することができる。 2. 発達段階や障害を考慮しつつ指導・訓練計画をグループで立案し実施し、それを言語化し、報告書としてまとめることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>小坂 美鶴、佐藤 綾華</p> <p>第 1 回：言語発達障害児の臨床における関連情報の収集 第 2 回：検査の種類と実際①（演習） 第 3 回：検査の種類と実際②（演習） 第 4 回：言語訓練の流れ（症例の紹介） 第 5 回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方（検査結果からの分析） 第 6 回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方（行動観察からの分析） 第 7 回：訓練経過の紹介 第 8 回：提示した症例の分析（ビデオ観察からの分析方法を学ぶ） 第 9 回：提示した症例の分析（ICF でのまとめ方を学ぶ） 第 10 回：提示した症例の分析（就学前の検査結果からのまとめ方を学ぶ） 第 11 回：提示した症例の分析（就学後の検査結果からのまとめ方を学ぶ） 第 12 回：長期・短期目標の設定と指導プログラムを作成する 第 13 回：実際の症例の評価および訓練計画を立てる（グループでの検討） 第 14 回：症例の評価とサマリー、長期・短期目標、治療方針の設定を行う（グループでの検討） 第 15 回：報告会</p> <p>※学外協力者の有無や日時などにより後半の授業内容が変更になる可能性があります。</p>
アクティブラーニング	WebClass 上の課題を踏まえて、協力者の協力を得て実践した実際の臨床観察から、経過と結果所見、方針を設定する際にはグループでの学習を行い、様々な意見をまとめることが中心となる。
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 80%、レポート・リアクションペーパー10%、グループ活動 10%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	1・2 年次で購入した図書を使用（本授業での購入図書はなし） (1) 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学3 医学書院 (2) 言語聴覚士のための言語発達障害学第2版 医歯薬出版株式会社

参考図書	言語聴覚士のための臨床実習テキスト小児編 深浦順一・内山千鶴子編集 建帛社
事前・事後学修	参考図書の当該箇所を纏め、必要に応じて他資料を用い、グループ毎に資料を作成し、発表の準備を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402 研究室 時間等：毎週木曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	発声発語障害学総論				
科目責任者	柴本 勇				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	発声発語障害は、発声発語器官の構造・機能の問題によって、発話が音響学的に変化した状態である。本科目では、発声発語障害を構造・機能の側面から学び、それぞれがどのような症状と関連するかについて概要を学ぶ。疾患と発声発語障害についても学ぶ。反転授業にてあらかじめ事前学習した内容を、講義内で教員による臨床紹介やグループ学習にて理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発声発語障害の種類と特徴を説明することができる。 2. 発声発語障害を構造・機能的側面から分析できる。 3. 疾患と発声発語障害の関係を説明できる。 				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>柴本 勇 第1回：発声発語障害の基礎 第2回：発声発語障害概論 第3・4回：機能的要因による発声発語障害（機能的構音障害） 第5・6回：構造的要因による発声発語障害（器質性構音障害） 第7・8回：運動的要因による発声発語障害（運動障害性構音障害）				
アクティブラーニング	反転授業およびグループ討議を実施します				
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。				
評価方法	レポート50%、グループ発表50%、計100% レポート評価についてはルーブリックは用いない				
課題に対するフィードバック	グループ発表やレポートについてフィードバック・解説を行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価	山下 夕香里 他編著	学苑社	3600	9784761408183	
参考図書	なし				
事前・事後学修	指定図書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう				

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>研究室：3号館 4階 3408 研究室</p> <p>オフィスアワー：初回講義時に提示します。</p> <p>※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp</p> <p>※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
対 外授業 の実施に ついて	なし

科目名	音声障害学
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発声にかかわる喉頭の解剖と生理を理解し、音声障害を来す病理的メカニズムを学ぶ。異常な音声の評価方法(聴覚的評価・内視鏡検査・空気力学的検査・音響学的検査など)を知り、評価・診断に基づく治療方針の立案方法を理解する。また、音声訓練の考え方と様々な手法を理解し、基礎的な技術を習得する。喉頭摘出後の代替音声についても理解する。
到達目標	1. 正常発声のメカニズム・病的発声のメカニズムを説明できる。 2. 音声障害の問題を適正に捉え、評価・分析できる。 3. 音声障害患者の問題を解決する適切な治療方法を具体的に提示できる。 4. 音声障害患者に対する医師や他専門職と連携した治療について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>◆第 1 回：オリエンテーション・音声の産生と知覚 柴本 勇 (教科書：P2～9、P39～42) 【学習内容】喉頭の構造、喉頭の働き、喉頭の枠組み、喉頭筋、神経支配、声帯の構造、呼吸器の構造、呼吸の仕組み、発声と呼吸、発声のメカニズム</p> <p>◆第 2 回：音声障害の症状とその原因 柴本 勇 (教科書：P58～59) 【学習内容】声の高さ・強さ・質・持続の異常、声の特殊な異常、声帯組織の器質的病変、声帯運動の異常、気管切開、無喉頭音声</p> <p>◆第 3 回：音声障害の原因疾患と症状、関連障害 柴本 勇 (教科書：P61～75) 【学習内容】声帯組織の器質的病変、声帯運動の異常、声帯組織に著変な病変がない音声障害、発話障害、聴覚障害、内分泌障害、精神疾患</p> <p>◆第 4 回：音声障害の評価法① 柴本 勇 (教科書：P76～81) 【学習内容】評価診断の原則、医師が行う検査(喉頭の観察法)、聴覚心理的評価</p> <p>◆第 5 回：音声障害の評価法② 柴本 勇 (教科書：P82～91) 【学習内容】言語聴覚士が行う評価(声の高さ・強さ・持続)、機器を用いた検査、自覚的評価、評価の解釈、訓練適応</p> <p>◆第 6 回：音声障害の治療(薬物療法、外科的治療を含む) 柴本 勇 (教科書：P94～117：P95～P102を除く) 【学習内容】医学的治療、行動学的治療、薬物療法、外科的治療、無喉頭音声、気管切開のコミュニケーション</p> <p>◆第 7 回：音声障害の訓練法(演習) 柴本 勇 (教科書：P95～102) 【学習内容】声の衛生指導、生活環境設定、訓練手技の選択、各訓練手技：演習も含む</p> <p>◆第 8 回：音声治療とチームアプローチ ゲストスピーカー (別資料) 【学習内容】ボイストレーナーとの連携</p>
アクティブラーニング	WebClass の活用・反転授業
授業内の ICT 活用	WebClass、ZOOM 等を活用します。

評価方法	定期試験：50%、事前課題：30%、事前テスト10%、事後テスト10%				
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、事前課題・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、事前テストの解説を行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
発声発語障害学 第3版	城本 修 編集	医学書院	5000	9784260042895	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
声をみるいちばんやさしい音声治療実践ハンドブック	宮田 恵里	医歯薬出版	3600	9784263266434	
事前・事後学修	WebClass を用いて、事前課題・事前テスト・事後テストを行います。 WebClass の機能を活用して質問を受けます。				
オープンエデュケーションの活用	なし。ただし、講義の中で適宜参考になる Website を用いたり、紹介したりしながら展開していきます。				
オフィスアワー	研究室：3号館 4階 3408 研究室 オフィスアワー：初回講義時に提示します。 ※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp ※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
オンライン授業の実施について					

科目名	小児構音障害学
科目責任者	小坂 美鶴
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	小児の構音障害について学ぶ。まず正常な構音の発達を理解し、構音障害をきたす器質的問題や運動障害がない機能性構音障害についての概要を学ぶ。また、異常構音の構音メカニズムについて理解し、実際の異常構音について聴き取りができるようにする。
到達目標	1. 小児の構音障害について鑑別診断ができる。 2. 小児における構音障害の概説を理解することが出来る。 3. 異常構音の構音メカニズムを理解し、聴き取ることが出来る。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 小坂美鶴、ゲストスピーカー</p> <p>第 1 回：ガイダンス・小児構音障害の鑑別診断と臨床の流れ</p> <p>第 2 回：構音の発達</p> <p>第 3 回：小児構音障害にみられる音の誤り 置換・省略・音節の脱落・同化・音韻転換等</p> <p>第 4 回：小児の構音障害にみられる音の誤り 子音の弱音化・鼻音化・側音化構音・口蓋化構音</p> <p>第 5 回：小児の構音障害にみられる音の誤り 鼻咽腔構音・声門破裂音・咽頭破裂音・咽頭摩擦音</p> <p>第 6 回：器質性構音障害の定義と疫学</p> <p>第 7 回：口蓋裂言語の特徴</p> <p>第 8 回：演習：異常構音の聞き取り</p>
アクティブラーニング	定型発達児の構音障害と異常構音を聞き取り、国際音声記号で表すことができ、実際に発音できるようにする。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 80%、小テスト・リアクションペーパー・受講態度等 20%
課題に対するフィードバック	小テストについては各学生にフィードバックする。
指定図書	言語聴覚療法シリーズ 改定機能性構音障害 本間慎治編著 建帛社
参考図書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第 3 版 医学書院 構音障害の臨床-基礎知識と実践マニュアル 改訂第 2 版 阿部雅子著 金原出版
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・Webclass に前もって次の授業のレジメを掲載しますので教科書の該当箇所を読んでおき、空白部分の穴埋めをしておくとういでしょう。 ・異常構音は自分で発音できるように、声に出して練習しましょう。 ・指定図書と参考図書を読んで理解を深めて下さい。

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3402 研究室、水曜日 15 : 00～17 : 00
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 外授業 の実施に ついて	なし

科目名	成人構音障害学	
科目責任者	佐藤 豊展	
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。	
科目概要	運動障害性構音障害と口腔癌治療後など後天性の器質性構音障害について、発声メカニズムや症状を原因と関連づけて理解する。タイプ分類と特徴を理解し、症例の評価分析からタイプ分類ができるようになる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発話運動および発声発語の神経学的基盤を説明できる。 2. 成人系発話障害の原因と発症メカニズムを説明できる。 3. 運動障害性構音障害の定義、および障害構造を説明できる。 4. 運動障害性構音障害のタイプと病態生理、および症状を説明できる。 5. 器質性構音障害について説明できる。 	
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： オリエンテーション、発話運動の基礎（加齢変化含む） 第2回： 成人系発話障害の原因と発症メカニズム（運動性・器質性） 運動障害性構音障害の基礎理論</p> <p>第3回： 痙性構音障害の病態・症状 第4回： UMN の病態・症状 第5回： 弛緩性構音障害の病態・症状 ★小テスト 第6回： 失調性構音障害の病態・症状 第7回： 運動低下・運動過多性構音障害の病態・症状 第8回： 器質性構音障害（口腔・中咽頭がん） ★小テスト</p>	
アクティブラーニング	Webclass を活用して、レポート課題を行います。	
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。	
評価方法	小テスト 80%、事後課題の確認テスト 20%	
課題に対するフィードバック	小テストの解説を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。	
指定図書	<p>標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3 版 医学書院 西尾正輝編「ディサースリア臨床標準テキスト 第2 版」医歯薬出版 溝尻源太郎・熊倉勇美編著「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション—構音障害、摂食・嚥下障害」医歯薬出版</p>	
参考図書	西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版	

事前・事後学修	<p>1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclassで提示します。 小テストは下記の通り行います。 ①第5回：第1～4回の講義内容 ②発声発語障害評価演習第1回：第7～8回の講義内容</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>リハビリテーション学部、3411研究室、月曜9：00～12：00 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
代替授業の実施について	

科目名	発声発語障害評価演習																																	
科目責任者	佐藤 豊展																																	
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 5 セミナー																																	
DP 番号と科目領域	DP5 専門																																	
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力につなげることができる。																																	
科目概要	<p>小児構音障害学、成人構音障害学を踏まえて、発声発語障害の評価から訓練プログラムの立案、訓練の実際までを行う。</p> <p>成人構音障害では、評価診断の原則やプロセスについて理論を学ぶ。運動障害性構音障害の発語評価、発声発語器官検査、神経学的検査について演習を通して学ぶ。検査後は、発生メカニズムや症状を原因と関連づけて分析し、タイプ分類や問題点の抽出を行う。グループ演習を用いた学習を通じて主体的に行う。</p> <p>小児構音障害では、機能性構音障害の評価・訓練について学ぶ。</p>																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の構音障害の発話を聞き取り IPA で表記できる 2. 新版一構音検査を実施し、結果をまとめることができる 3. 運動障害性構音障害の評価法を理解し、模擬的に実施することができる。 4. 各種評価結果を分析し、情報の統合方法を説明できる。 5. 問題点の抽出方法を理解することができる。 6. 症例報告書の書き方を説明できる。 																																	
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、ゲストスピーカー <授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 評価理論・概要（評価診断の原則・枠組み・プロセス、病期など）</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 評価方法1：会話評価①</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 評価方法1：会話評価②</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査①</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査②</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 評価方法3：神経学的検査</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回： 症例模擬演習（ビデオ演習）</td> <td>佐藤豊展、柴本勇</td> </tr> <tr> <td>第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方</td> <td>佐藤豊展、柴本勇</td> </tr> <tr> <td>確認テスト</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： 機能性構音障害の評価</td> <td>小坂美鶴</td> </tr> <tr> <td>第10回： 新版一構音検査</td> <td>小坂美鶴</td> </tr> <tr> <td>第11回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA 表記</td> <td>小坂美鶴</td> </tr> <tr> <td>第12回： 構音訓練の理論</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第13回： //</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第14回： 構音訓練の実際 カ行音の訓練、サ行音の訓練①</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第15回： 構音訓練の実際 カ行音の訓練、サ行音の訓練②</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> </table> <p>★レポート</p> <p>★レポート</p> <p>★</p> <p>* 第1～8回は成人構音障害、第8～15回は小児構音障害</p>		第1回： 評価理論・概要（評価診断の原則・枠組み・プロセス、病期など）	佐藤豊展	第2回： 評価方法1：会話評価①	佐藤豊展	第3回： 評価方法1：会話評価②	佐藤豊展	第4回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査①	佐藤豊展	第5回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査②	佐藤豊展	第6回： 評価方法3：神経学的検査	佐藤豊展	第7回： 症例模擬演習（ビデオ演習）	佐藤豊展、柴本勇	第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方	佐藤豊展、柴本勇	確認テスト	佐藤豊展	第9回： 機能性構音障害の評価	小坂美鶴	第10回： 新版一構音検査	小坂美鶴	第11回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA 表記	小坂美鶴	第12回： 構音訓練の理論	ゲストスピーカー	第13回： //	ゲストスピーカー	第14回： 構音訓練の実際 カ行音の訓練、サ行音の訓練①	ゲストスピーカー	第15回： 構音訓練の実際 カ行音の訓練、サ行音の訓練②	ゲストスピーカー
第1回： 評価理論・概要（評価診断の原則・枠組み・プロセス、病期など）	佐藤豊展																																	
第2回： 評価方法1：会話評価①	佐藤豊展																																	
第3回： 評価方法1：会話評価②	佐藤豊展																																	
第4回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査①	佐藤豊展																																	
第5回： 評価方法2：発声発語器官の形態と機能の検査②	佐藤豊展																																	
第6回： 評価方法3：神経学的検査	佐藤豊展																																	
第7回： 症例模擬演習（ビデオ演習）	佐藤豊展、柴本勇																																	
第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方	佐藤豊展、柴本勇																																	
確認テスト	佐藤豊展																																	
第9回： 機能性構音障害の評価	小坂美鶴																																	
第10回： 新版一構音検査	小坂美鶴																																	
第11回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA 表記	小坂美鶴																																	
第12回： 構音訓練の理論	ゲストスピーカー																																	
第13回： //	ゲストスピーカー																																	
第14回： 構音訓練の実際 カ行音の訓練、サ行音の訓練①	ゲストスピーカー																																	
第15回： 構音訓練の実際 カ行音の訓練、サ行音の訓練②	ゲストスピーカー																																	
アクティブラーニング	演習はグループ形式で行います。 Webclass を活用して、レポート課題を行います。																																	
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。																																	

評価方法	定期試験 70%、レポート 30% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	症例計画書・報告書、レポートの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	城本 修・原 由紀編著「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」 医学書院 西尾正輝編「ディサースリア臨床標準テキスト 第2版」 医歯薬出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」 インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル－ 改定第2版」 金原出版
参考図書	道健一・今井智子・高橋浩二・山下夕香里編著「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 器質性構音障害 第2版」 医歯薬出版
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclass で提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、月曜 15:00～17:30
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	発声発語障害治療演習
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 メモター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学、発声発語障害評価演習を踏まえて、発声発語障害の治療を学んでいく。講義では模擬的に治療を実施することで具体的な治療手技を習得する。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の構音障害児の発話から、評価、治療プログラム立案、治療までの一連の臨床の流れを理解し、模擬的に実施することができる 2. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。 3. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や方針・目標・訓練プログラムの立案方法を理解できる。 4. 症例報告書の書き方を理解し、作成することができる。
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、ゲストスピーカー <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回： 訓練理論/ 症例報告書の書き方 ★レポート 佐藤豊展 第2回： 機能改善訓練①（呼吸機能・発声機能） 佐藤豊展 第3回： 機能改善訓練②（呼吸機能・発声機能） 佐藤豊展 第4回： 機能改善訓練③（鼻咽腔機能・口腔構音機能） 佐藤豊展 第5回： 機能改善訓練④（口腔構音機能） 佐藤豊展 第6回： 機能改善訓練⑤（口腔構音機能） 佐藤豊展 第7回： 代償的訓練① ★確認テスト（第1-6回） 佐藤豊展 第8回： 代償的訓練② 佐藤豊展 第9回： 代償的訓練③/ 佐藤豊展 第10回：代償的訓練④/ AAC 佐藤豊展 第11回： 症例演習 佐藤豊展 第12回：口蓋裂言語検査実習 ゲストスピーカー 第13回：鼻咽腔閉鎖機能不全の補綴的治療 ゲストスピーカー 第14回：口腔癌概論 上顎中咽頭切除 ゲストスピーカー 第15回：舌・口腔底切除 訓練 P A P ゲストスピーカー * 第1～11回は成人構音障害、第12～15回は小児構音障害</p>
アクティブラーニング	演習はグループ形式で行います。 Webclass を活用して、レポート課題を行います。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	定期試験 70%、レポート 15%、確認テスト 15% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	症例報告書、確認テストの解説を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。

指定図書	城本 修ら編著「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」 医学書院 西尾正輝編「ディサースリア臨床標準テキスト 第2版」 医歯薬出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」 インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床ー基礎知識と実践マニュアルー 改定第2版」 金原出版
参考図書	道健一・今井智子・高橋浩二・山下夕香里編著「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 器質性構音障害 第2版」 医歯薬出版
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前課題・事後課題：Webclass で提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、月曜 15:00～17:30
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	流暢性障害学	
科目責任者	谷 哲夫	
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。	
科目概要	吃音は様々な要因によって引き起こされる。吃音症状は個別的であり、訓練方法も個別的でなければならない。吃音の改善に取り組む言語聴覚士は、言語症状だけでなく対象者の生育環境や人間関係などにも目を向ける必要がある。	
到達目標	1. 吃音の疫学研究, 原因論, 分類法を学ぶ。 2. 吃音臨床の基本を習得する。 3. 吃音児(者)の抱えている問題や悩みを理解できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回: 発話の流暢性の障害 原因論と進展 谷 第 2 回: 幼児期の言語発達と発話の非流暢性 発達障害との合併 谷 第 3 回: 吃音の評価方法① 概説 谷 第 4 回: 吃音の評価方法② 実際 谷 第 5 回: 幼児・学齢期の吃音に対する訓練法① 環境調整 谷 第 6 回: 幼児・学齢期の吃音に対する訓練法② 直接法 谷 第 7 回: 成人の吃音に対する訓練法 谷 第 8 回: 吃音児者を取り巻く環境 セルフヘルプグループ 谷	
アクティブラーニング	反転授業の実施のために WebClass を用い、毎回予習範囲を提示し準備を促す。	
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。	
評価方法	定期試験 70% 毎回の小テスト(復習テスト) 30%	
課題に対するフィードバック	小テスト(復習テスト)を授業の中で行います	
指定図書	小林宏明・川合紀宗編著「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」学苑社	
参考図書	なし	
事前・事後学修	WebClass による予習・復習(毎回、各 40 分) 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。	

オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業 の実施に ついて	

科目名	摂食嚥下障害総合演習																																													
科目責任者	佐藤 豊展																																													
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 6 セメスター																																													
DP 番号と 科目領域	DP5 専門																																													
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。																																													
科目概要	摂食嚥下障害の訓練手技について学ぶ。摂食嚥下障害への直接訓練や間接訓練について学んでいく。																																													
到達目標	1. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に理解し、模擬的に実施することができる。 2. 症例報告書の書き方を説明できる。																																													
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、俵 祐一、ゲストスピーカー（金沢英哲） <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定</td> <td>講義・演習</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： " ②</td> <td>"</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： " ③</td> <td>"</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： " ④</td> <td>"</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法</td> <td>講義・演習 ★小テスト</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第6回： " ②嚥下手技</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第7回： " ③食事介助</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第8回： " ④食事介助</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第9回： 呼吸リハビリテーション</td> <td>講義</td> <td>俵 祐一・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： 呼吸リハビリテーション</td> <td>演習</td> <td>俵 祐一・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： 嚥下訓練のリスク管理（気管切開含む）</td> <td>★小テスト</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回： 補綴的治療、報告書の書き方</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回： 嚥下訓練のリスク管理（気管切開含む）</td> <td></td> <td>金沢英哲</td> </tr> <tr> <td>第14回： 嚥下障害の手術的治療</td> <td></td> <td>金沢英哲</td> </tr> <tr> <td>第15回： 摂食嚥下障害の臨床</td> <td>★レポート</td> <td>金沢英哲</td> </tr> </table>	第1回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	講義・演習	佐藤 豊展	第2回： " ②	"	佐藤 豊展	第3回： " ③	"	佐藤 豊展	第4回： " ④	"	佐藤 豊展	第5回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	講義・演習 ★小テスト	柴本 勇	第6回： " ②嚥下手技		柴本 勇	第7回： " ③食事介助		柴本 勇	第8回： " ④食事介助		柴本 勇	第9回： 呼吸リハビリテーション	講義	俵 祐一・佐藤豊展	第10回： 呼吸リハビリテーション	演習	俵 祐一・佐藤豊展	第11回： 嚥下訓練のリスク管理（気管切開含む）	★小テスト	佐藤 豊展	第12回： 補綴的治療、報告書の書き方		佐藤 豊展	第13回： 嚥下訓練のリスク管理（気管切開含む）		金沢英哲	第14回： 嚥下障害の手術的治療		金沢英哲	第15回： 摂食嚥下障害の臨床	★レポート	金沢英哲
第1回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	講義・演習	佐藤 豊展																																												
第2回： " ②	"	佐藤 豊展																																												
第3回： " ③	"	佐藤 豊展																																												
第4回： " ④	"	佐藤 豊展																																												
第5回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	講義・演習 ★小テスト	柴本 勇																																												
第6回： " ②嚥下手技		柴本 勇																																												
第7回： " ③食事介助		柴本 勇																																												
第8回： " ④食事介助		柴本 勇																																												
第9回： 呼吸リハビリテーション	講義	俵 祐一・佐藤豊展																																												
第10回： 呼吸リハビリテーション	演習	俵 祐一・佐藤豊展																																												
第11回： 嚥下訓練のリスク管理（気管切開含む）	★小テスト	佐藤 豊展																																												
第12回： 補綴的治療、報告書の書き方		佐藤 豊展																																												
第13回： 嚥下訓練のリスク管理（気管切開含む）		金沢英哲																																												
第14回： 嚥下障害の手術的治療		金沢英哲																																												
第15回： 摂食嚥下障害の臨床	★レポート	金沢英哲																																												
アクティブ ラーニング	演習は二人一組で行います。																																													
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。																																													
評価方法	定期試験 50%、小テスト 30%、レポート 20% レポートは、ルーブリックを用いない。																																													
課題に対す るフィード バック	レポートの解説を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																																													
指定図書	標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学第2版 (医学書院) 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 (医歯薬出版)																																													

参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版（医歯薬出版） 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害 第3版（医歯薬出版） 若林秀隆・藤本篤土編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害（医歯薬出版）
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 事前・事後学修は、適宜Webclassで提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411研究室、月曜15:00～17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「医師、言語聴覚士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	聴覚障害学				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	1 年次に学んだ聴覚メカニズムと聴覚疾患に関する知識をもとに、この科目では聴覚機能の診断に必要とされる基本的な聴覚検査の理解をめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査を中心に、その他の各種聴覚検査を学習します。加えて、難聴者の聴こえと聴覚補償の概要を学ぶとともに、聴覚特別支援学校を見学し、教育現場における指導の実際を理解します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種聴覚検査を体験し、検査意義や適応、検査方法を説明できる。 2. 各種聴覚検査の検査結果から分かることが説明できる。 3. 聴覚補償の方法とコミュニケーション手段について説明できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋 佐藤綾香</p> <p>第1回 オリエンテーション、聴覚障害学の基礎的理解</p> <p>第2回 聴力程度と障害特性</p> <p>第3回 聴覚障害の影響とライフステージ</p> <p>第4回 聴覚障害の(リ)ハビリテーションの歴史</p> <p>第5回 聴覚活用とバイリンガル教育：20～21世紀</p> <p>第6回 聴覚障害の(リ)ハビリテーションの概要</p> <p>第7回 聴覚検査の種類：自覚的検査、他覚的検査</p> <p>第8回 標準純音聴力検査：気導聴力検査</p> <p>第9回 標準純音聴力検査：骨導聴力検査</p> <p>第10回 マスキングの理論と方法①</p> <p>第11回 マスキングの理論と方法②</p> <p>第12回 語音聴力検査：語音明瞭度検査①</p> <p>第13回 語音聴力検査：語音明瞭度検査②</p> <p>第14回 語音聴力検査：語音了解閾値検査③</p> <p>第15回 語音聴力検査：語音了解閾値検査④</p>				
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や検査練習を行う。				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	定期試験 90%、平常点（授業態度、リアクションペーパー） 10%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。				
指定図書	<p>城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院, 2021</p> <p>日本聴覚医学会編「聴覚検査の実際」南山堂, 2017</p> <p>廣田栄子編「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援（シリーズ きこえとことばの発達と支援）」学苑社, 2021</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

【第3版】 聴覚障害学	城間将江／編集 鈴木恵子／編集 小渕千絵／編集 城間将江／〔ほか〕執筆	医学書院	5200	9784260043502	
聴覚検査の 実際〔改訂4版〕		南山堂	3400	9784525370442	
特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援	廣田栄子／編著	学苑社	3800	9784761408251	
参考図書	なし				
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。授業後に検査手技の練習を行う。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	聴覚機能評価演習				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。				
科目概要	3 セメスターで学んだ聴覚機能の評価に関する理論をもとに、実際に各種検査法の具体的技法を取得することをめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能・内耳機能検査、聴性脳幹反応検査など、各種聴覚検査の原理を再確認し、具体的技法を学習します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種聴覚検査の検査意義や適応を理解した上で、具体的検査方法を説明できる。 2. 標準純音聴力検査・語音聴力検査を実施でき、結果を正しく記録できる。 3. 各種聴覚検査の検査結果を読みとることができる。 				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋 佐藤綾香 骨導聴力検査とマスキング：プラトー法 語音聴力検査の理論 語音聴力検査：語音明瞭度検査 語音聴力検査：語音了解閾値検査 自記オーディオメトリー インピーダンスオーディオメトリー（ティンパノメトリー） インピーダンスオーディオメトリー（音響性耳小骨筋反射検査） 閾値上聴力検査（SISI、ABLB、MUC/UCL） 聴性誘発反応①（ABR） 聴性誘発反応②（ABR） 聴性誘発反応③（ASSR） 耳音響放射検査（OAE） 平衡機能検査 耳鳴りの検査				
アクティブラーニング	演習科目です。				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	定期試験 90%、平常点(授業態度、リアクションペーパー、課題) 10%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。				
指定図書	日本聴覚医学会編「聴覚検査の実際」南山堂, 2017 城間将江、鈴木恵子、小渕千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院, 2021				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
聴覚検査の実際 [改訂4版]	・	南山堂	3400	9784525370442	

【第3版】 聴覚障害学	城間将江／編集 鈴木恵子／編集 小渕千絵／編集 城間将江／〔ほか〕執筆	医学書院	5200	9784260043502	
参考図書	なし				
事前・ 事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：9時30分～10時30分 上記以外でもメール (shigehiro-o@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対 面授業 の実施に ついて	なし				

科目名	小児聴覚障害学				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	2 単位(30 時間) 言語必修 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	乳幼児聴力検査の講義を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解し、実際の機器を用いて検査を実施する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児聴覚スクリーニングに用いる検査の原理と手技について説明することができる。 2. 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。 3. 聴覚障害児に固有の心理言語社会的能力の発達を理解できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋 佐藤綾香</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、小児聴覚障害学の最新のトピック 2 乳幼児の聴覚発達と検査法の選定と鑑別 3 個別の聴力検査①非条件付け検査 (BOA) 4 BOA 演習 5 個別の聴力検査②条件付け検査 (COR、VRA、PEEP SHOW) 6 実演 7 新生児聴覚スクリーニングの理論と実際 (AABR、ABR、OAE、ASSR) 8 聴覚ハビリテーション①早期発見と早期療育の意義 9 聴力検査③幼児期～学童期 (Play Audiometry) 10 聴力検査④幼児期後期～学童期 (各種語音聴力検査) 11 Play Audiometry 演習 12 リングの6音、コンピューターを用いた検査、高周波絵カード体験、機能的検査 13 語彙の発達と支援 14 構文・談話の発達と支援 15 聴覚ハビリテーション②個別支援ニーズのアセスメント法 				
アクティブラーニング	乳幼児検査法について、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	定期試験 90%、平常点 (授業態度、リアクションペーパー) 10%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。				
指定図書	城間将江、鈴木恵子、小淵千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院, 2021 廣田栄子編「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援 (シリーズ きこえとことばの発達と支援)」学苑社, 2021				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

【第3版】 聴覚障害学	城間将江／編集 鈴木恵子／編集 小渕千絵／編集 城間将江／〔ほか〕執筆	医学書院	5200	9784260043502	
特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援	廣田栄子／編著	学苑社	3800	9784761408251	
参考図書	なし				
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
対面授業の実施について	なし				

科目名	小児聴覚障害演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	乳幼児聴力検査の講義を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解し、実際の機器を用いて検査を実施する。
到達目標	1. 新生児聴覚スクリーニングに用いる検査の原理と手技について説明することができる。 2. 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。 3. 聴覚障害児に固有の心理言語社会的能力の発達を理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋 佐藤綾香</p> <p>1 演習準備 2 演習準備 3 演習準備 4 小児聴力検査演習 (実際の子ども) 5 小児聴力検査演習 (実際の子ども) 6 小児聴力検査演習 (実際の子ども) 7 演習準備 8 演習準備 9 演習準備 10 小児聴力検査演習 (実際の子ども) 11 小児聴力検査演習 (実際の子ども) 12 小児聴力検査演習 (実際の子ども) 13 報告会 14 報告会 15 報告会</p>
アクティブラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。
授業内のICT活用	なし
評価方法	準備・報告 (40%)、実際の子どもへの関わり (40%)、及び、リアクションペーパーの記述内容 (20%) を併せて総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・ 事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対 面授業 の実施に ついて	なし

科目名	成人聴覚障害学				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 6 セミナー				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。				
科目概要	この科目では聴覚障害学、聴覚機能評価演習、聴覚補償演習で学んだ評価・支援に関する知識を整理・統合することが目標です。成人期の聴覚障害者の聴覚障害の特徴を理解し、評価・診断、指導・支援について考えていきます。また視覚聴覚二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深め、支援方法および代替コミュニケーション手段について学習します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中途失聴者・難聴者の聴覚保障およびコミュニケーション支援について説明できる。 2. 視覚聴覚二重障害の方の特徴を挙げることができる。 3. 聴覚障害者のための各種支援機器、社会福祉制度、社会資源について説明できる。 				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋 佐藤綾香 <ol style="list-style-type: none"> 1 回 成人期の聴覚障害の特徴 2 回 成人期の指導と支援/成人の評価 3 回 視聴覚二重障害 (盲ろう) 4 回 視聴覚二重障害 (盲ろう) 演習 5 回 聴覚障害者の就労指導・支援の実際 6 回 聴覚情報処理障害 (APD) / LiD (聞き取り困難) 7 回 後迷路性難聴 (オーディトリニューロパチー) 8 回 聴覚障害と手話 				
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等を視聴し、その内容についてグループで協議し、報告を行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 90%、平常点 (授業態度、リアクションペーパー) 10%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。				
指定図書	城間将江、鈴木恵子、小渕千絵編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院, 2021				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第3版】聴覚障害学	城間将江／編集 鈴木恵子／編集 小渕千絵／編集 城間将江／〔ほか〕執筆	医学書院	5200	9784260043502	
参考図書	なし				

事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	聴覚補償演習				
科目責任者	大原 重洋				
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 6セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。				
科目概要	聴覚障害児・者の聴覚感覚を保証する補聴器や人工内耳の原理と特性を理解し、適合法を学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 補聴器の原理と機能を理解し、聴力レベルに応じて実際に調整することができる。 2. 人工内耳の原理・機能を理解し、プログラミング法を説明することができる。 3. 無線補聴システムの利用について説明することができる 				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋 佐藤綾香 第1回 補聴器の種類と適応 第2回 音響特性とその測定方法 第3回 カップリングシステムの意義と活用 第4回 補聴器の挿入利得、ファンクショナルゲイン 第5回 補聴器フィッティングプログラムの操作 第6回 補聴器フィッティングのあり方 (小児を中心に) 第7回 補聴器の JIS 第8回 補聴器の JIS 第9回 リニア増幅/ノンリニア増幅 第10回 リニア増幅/ノンリニア増幅 第11回 人工内耳の原義と特徴/適応と評価 第12回 人工内耳の適応と評価 第13回 無線補聴援助システム 第14回 小児の装用効果の評価 第15回 まとめ				
アクティブラーニング	演習科目です。				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	定期試験 90%、平常点 (授業態度、課題、リアクションペーパー) 10%				
課題に対するフィードバック	演習における手技について、その場でフィードバックする。				
指定図書	小寺一興「補聴器のフィッティングと適用の考え方」診断と治療社, 2017 廣田栄子「特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援 (シリーズ きこえとことばの発達と支援)」学苑社, 2021				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
補聴器のフィッティングと適用の考え方	小寺一興	診断と治療社	3200	9784787822741	

特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援	廣田栄子／編著	学苑社	3800	9784761408251	
参考図書	なし				
事前・事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 補聴器の測定練習を行う。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
ハイ授業の実施について	なし				

科目名	臨床言語聴覚療法基礎実習
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位(45 時間) 言語必修 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	本実習は、言語聴覚士の臨床活動の理解・言語聴覚障害者の理解を目的に、近隣の医療施設で言語聴覚療法の実際を見学する。臨床見学を通じて、言語聴覚士を志す動機を高め、医療職としての態度、社会でのマナーを身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見学施設の特徴を説明できる。 2. 言語聴覚士の臨床活動を説明できる。 3. 言語聴覚障害者・摂食嚥下障害者の症状や様子を説明できる。 4. 医療施設で自身の立場をわきまえて見学できる。 5. 見学を通じて自身で考えたことを発表できる。
授業計画	<p><担当教員名> 佐藤豊展、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、黒崎芳子、佐藤綾華</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下の日程及び内容を実施する。 6月～8月：実習オリエンテーション・事前学習 9月に5日間医療・介護施設で見学をする 9月に見学報告会及びレポート提出</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事前学習：実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー ②実習施設への電話連絡 ③実習施設での見学：言語聴覚士の活動、言語聴覚療法の実際、言語聴覚障害者の症状、守秘義務の理解、記録 ④臨床言語聴覚療法基礎実習報告会での発表 ⑤臨床言語聴覚療法基礎実習レポート
アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習 20%、見学施設での活動 40%、報告会 20%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	オリエンテーション及び事前学習内容は、科目責任者が提示します。その後、各課題を実習施設担当教員に提出し、適時担当教員からフィードバックをします。見学施設での活動は、実習施設での担当言語聴覚士から担当教員を通じてフィードバックをします。
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・事後学修	<p>〔事前学習〕 実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー、実習施設への連絡方法をで行います。</p> <p>〔事後学修〕 自身の基礎実習を振り返りながら、実習報告会の準備をし、自身の学びをレポートにまとめます。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3411 研究室、水曜 9 : 00 ~ 10 : 30
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業の実施について	なし

科目名	臨床言語聴覚療法評価実習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2 単位(90 時間) 言語必修 6 メモター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	言語聴覚障害の評価・診断・目標設定などについて学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例を通して学ぶ。これまで学内で学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認し、再統合する機会とする。また、臨床におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員および実習指導者に適切に報告・連絡・相談ができる。 2. 情報収集に始まり、適切な検査法を選択できる。 3. 検査・観察などを通して患児・者の全体像を把握し、文章化できる。 4. 社会人としての基本的態度を養う。
授業計画	<p><担当教員> 佐藤綾華、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、黒崎芳子、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について2週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし

事前・事後学修	<p>※言語聴覚障害診断学や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、評価実習の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclass の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分</p> <p>上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
代替授業の実施について	

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習 I
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	6 単位 (270 時間) 言語必修 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、これまで学んだ専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、実際の症例の言語聴覚障害を評価・診断し、目標設定を行う。さらに訓練プログラムの立案ならびにその実践を通し、専門技術について学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行、結果の解釈と鑑別診断、目標の設定などが行えるようになる。
授業計画	<p><担当教員> 大原重洋 谷哲夫 柴本勇 小坂美鶴 黒崎芳子 佐藤豊展 佐藤綾香</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について6週間の実習を行う。</p> <p>①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成</p> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ⅰの事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclassの当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分</p> <p>上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
ハイ授業の実施について	なし

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	6単位(270時間) 言語必修 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚療法の実践について学ぶ。総合実習では臨地施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例の言語聴覚障害の評価・診断から目標設定をし、訓練プログラムの立案ならびにその実践を通して専門技術を総合的に学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 最後の臨床実習としてこれまでに学修してきた専門知識や技術を再確認、再統合する。 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行を通して障害を正しく評価できる。 訓練プログラムを設定し、訓練を行うことができる。 報告書としてまとめ発表する。
授業計画	<p><担当教員> 大原重洋 谷哲夫 柴本勇 小坂美鶴 黒崎芳子 佐藤豊展 佐藤綾香</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について、6週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ⅰの事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclassの当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分</p> <p>上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
ハイ授業の実施について	なし

科目名	地域言語聴覚療法学
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 8 セミナー
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	これまでの日本の医療・福祉の推移を概説し、地域リハビリテーションおよび地域言語聴覚療法の社会的背景、基本的概念を学修する。地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度を理解した上で、どのようなサービス下で言語聴覚療法が展開されているか理解する。地域言語聴覚療法の実践例を通して具体的イメージを促すとともに、地域言語聴覚療法の現実的な問題点を整理する。
到達目標	1. 地域リハビリテーションの歴史的・社会的背景を概説できる。 2. 地域言語聴覚療法の概念と視点、言語聴覚士の役割を説明できる。 3. 医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度・システムを理解できる。 4. 地域言語聴覚療法の実践例を通して、支援のプロセスと展開を理解できる。
授業計画	<p><担当教員名>佐藤 豊展, ゲストスピーカー <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：日本の医療・福祉の推移 地域包括ケアシステムと支えるシステム・制度 佐藤 豊展</p> <p>第 2-3 回：地域言語聴覚療法を支える医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度とシステム ※グループワーク 佐藤 豊展</p> <p>第 4 回：地域言語聴覚療法を支える医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度とシステム ※グループワーク 佐藤 豊展</p> <p>第 5 回：発表 佐藤 豊展</p> <p>第 6-8 回：地域言語聴覚療法の実践 ★レポート ゲストスピーカー</p>
アクティブラーニング	グループワークを多く取り入れて授業を進めていきます。 グループワークで考えたことは、共有できるように発表の場を設けます。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	レポート 50%, 発表 50% レポートは、ループリックを用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	指定図書 半田理恵子, 藤田郁代編「地域言語聴覚療法学 (標準言語聴覚障害学)」医学書院
参考図書	森田秋子, 黒羽真美「在宅・施設リハビリテーションにおける言語聴覚士のための地域言語聴覚療法」三輪書店

事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部, 3411 研究室, 月曜 15:00~17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
オンライン授業の実施について	

科目名	拡大代替コミュニケーション演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 8 ヶメジャー
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	コミュニケーションを音声言語から拡大する方法、音声言語を代替する方法について演習を通じて学ぶ。本科目では、ローテクノロジー・ハイテクノロジー・スイッチの適応等のコミュニケーション方法の選択とその訓練法について模擬的に実施しながら理解を深めていく。小児から成人まで、中途障害のコミュニケーション支援と先天性障害に対する支援の両者を教授する。
到達目標	1. 拡大代替コミュニケーションの種類と適応を説明できる。 2. 適切な拡大代替コミュニケーション方法を選択できる。 3. 拡大代替コミュニケーションの訓練を模擬的にできる。
授業計画	<p><担当教員名> 大原重洋、谷哲夫、黒崎芳子、佐藤豊展、ゲストスピーカー</p> <p><授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション・人の音声言語コミュニケーション 大原重洋 第 2 回：拡大代替コミュニケーションとは 大原重洋 第 3 回：拡大代替コミュニケーションの種類と適応 大原重洋 第 4 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法① 佐藤豊展 第 5 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法② 佐藤豊展 第 6 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法③ 佐藤豊展 第 7 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法① 谷哲夫 第 8 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法② 谷哲夫 第 9 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法③ 谷哲夫 第 10 回：スイッチの選択と適応① 黒崎芳子 第 11 回：スイッチの選択と適応② 黒崎芳子 第 12 回：拡大代替コミュニケーション訓練① ゲストスピーカー 第 13 回：拡大代替コミュニケーション訓練② ゲストスピーカー 第 14 回：拡大代替コミュニケーション訓練③ ゲストスピーカー 第 15 回：まとめ 大原重洋 ※講義内容は変更の可能性があります。</p>
アクティブラーニング	演習科目です
授業内の ICT 活用	WebClass または Google Form などの ICT ツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	グループワークへの参加度（実技含む）：60% レポート：40%
課題に対するフィードバック	グループ・ディスカッション、実技演習、発表に対するアドバイス・コメントをします。

指定図書	資料を配布します。
参考図書	なし
事前・事後学修	演習主体の講義です。実技に必要な知識があらかじめ必要です。言語発達障害学、失語・高次脳機能障害学、発声発語障害学、聴覚障害学の事前学習が必要です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	言語聴覚学研究法
科目責任者	黒崎 芳子
単位数他	1 単位(15 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	研究論文の理解と研究計画書作成のために必要となる研究の基礎知識を学ぶ。論文を読み、内容を正確に理解し要約することや、自ら疑問を持つこと、自分の意見を他者に伝えることができることを目指す。また興味のある研究テーマを決めて、研究計画の立案と実験・調査の修正の過程について演習を通じて学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の読み方（論文の構成、事実と根拠、批判的に読む）の基本を学ぶ。 2. キーワードでテキスト等の書籍から解説文を探し、内容を理解するためにさらに他の文献を探すことができる。 3. 先行研究の論文を読み、教員や他の学生に概要を伝えることができる。 4. 研究の種類を学び、適切な研究方法を選択できる。 5. 簡単なテーマでの研究計画書を立案できる。 6. 論文の書き方の基本（論文の体裁と構成、事実と根拠、文章表現）を学ぶ。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞黒崎芳子、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、佐藤豊展、佐藤綾華</p> <p>第 1 回：研究の意義・研究の種類・研究倫理</p> <p>第 2 回：文献検索（ラーニングコモンズ）</p> <p>第 3 回：興味のある研究テーマの文献検索</p> <p>第 4 回：文献の読解・要約（レポート提出）</p> <p>第 5 回：研究テーマを考える</p> <p>第 6 回：研究テーマを考える</p> <p>第 7 回：研究テーマの要約（レポート提出）</p> <p>第 8 回：研究テーマ発表</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内の ICT 活用	映像で確認することがある。
評価方法	レポート（60%）発表（40%）
課題に対するフィードバック	授業内に解説をします。
指定図書	『よくわかる卒論の書き方』第2版 白井利明他、ミネルヴァ書房 『論文の教室ーレポート作成から卒論までー』最新版 戸田山和久 NHK ブックス
参考図書	言語聴覚学科卒業論文

事前・ 事後学修	<p>[事前学修] 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。</p> <p>[事後学修] 授業で課題として出されたレポートを作成する。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3518 研究室</p> <p>時間等：毎週火曜 11：15～12：15</p> <p>上記以外でも在室時随時対応します</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
が、授業 の実施に ついて	<p>なし</p>

科目名	言語聴覚学研究法演習
科目責任者	黒崎 芳子
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 6 セミナー
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	言語聴覚障害学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を読み、教員や他のメンバーに概要を伝えることができる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正できる。 5. 研究目的、関連する先行研究（5 編以上）、研究方法、今後のスケジュールを記載したレポートを作成できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 黒崎芳子、谷哲夫、柴本勇、小坂美鶴、大原重洋、佐藤豊展、佐藤綾華</p> <p><授業内容・テーマ等> 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。</p> <p>第 1 回：卒業研究の概要説明 第 2 回：研究法の多様性を知る 第 3 回：テーマの仮設定 第 4 回：関係資料の収集 第 5 回：関係資料の整理 第 6 回：抄読会 第 7 回：先行研究の収集と整理 第 8 回：ゼミ報告（先行研究と自分のテーマとの関連性について） 第 9 回：ゼミ報告（先行研究に学ぶ研究法の選択） 第 10 回：研究計画の立案 第 11 回：ゼミ発表・報告 第 12 回：研究計画の修正 第 13 回：テーマの再確認と年間計画立 第 14 回：レポートまとめ 第 15 回：レポートまとめ</p>
アクティブラーニング	演習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<p>課題の提出物 70%</p> <p>ゼミ中の参加態度 30%</p> <p>ゼミ論文はルーブリックで評価する</p>

課題に対するフィードバック	添削・返却して授業時間にフィードバックする
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研究計画に関する課題の遂行と修正（毎回、各 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：毎週火曜 11：15～12：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	言語聴覚障害学総合演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位(30 時間) 言語必修 6 セミナー
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	1 セミナーから 6 セミナーまでに学修した内容の総まとめとして、獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、総合実習に備える。実際の言語聴覚障害者に訓練を行うなかで、実習生としての基本的な姿勢(身だしなみや態度、ことば遣い、症例や家族、他のスタッフに対する配慮など)を身につけるとともに、訓練プログラムの立案、訓練の実施、症例報告やレポート作成など、言語聴覚療法の治療学を総合的に再学習し整理する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害の治療の基本的手続きを説明することができる。 2. リハビリテーション専門職を目指す実習生としての確かな行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につけることができる。 3. 訓練方針や目標の立案方法を説明することができる。 4. 実際の言語聴覚障害児・者に対して訓練方針を立て、模擬的に訓練を実施することができる。 5. 症例報告書の枠組みを説明し、模擬的に作成できる。
授業計画	<p><担当教員> 谷哲夫、柴本勇、大原重洋、小坂美鶴、黒崎芳子、佐藤豊展、佐藤綾華</p> <p><授業内容・テーマ等> *小児と成人の授業計画は入れ替わることがあります。</p> <p>第 1 回：訓練方針・目標の立案方法、報告書の書き方 谷</p> <p>第 2 回：演習オリエンテーション(小児)、訓練準備 *訓練計画書① 小坂・大原・佐藤綾</p> <p>第 3-4 回：症例演習①(小児) *日誌+訓練計画書② 小坂・大原・佐藤綾</p> <p>第 5-6 回：症例演習②(小児) *日誌+訓練計画書③ 小坂・大原・佐藤綾</p> <p>第 7-8 回：症例演習③(小児) *日誌+訓練報告書④ 小坂・大原・佐藤綾</p> <p>第 9 回：演習オリエンテーション(成人)、訓練準備 *訓練計画書⑤ 谷・柴本・黒崎・佐藤豊</p> <p>第 10-11 回：症例演習①(成人) *日誌+訓練計画書⑥ 谷・柴本・黒崎・佐藤豊</p> <p>第 12-13 回：症例演習②(成人) *日誌+訓練報告書⑦ 谷・柴本・黒崎・佐藤豊</p> <p>第 14-15 回：OSCE(客観的臨床能力試験) 全教員</p>
アクティブラーニング	授業内では、適時、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	演習の準備・実技 20% レポート等提出物 40% OSCE（客観的臨床能力試験） 40% OSCEの達成度はルーブリックを用いて評価をします。 レポートはルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	提出物・実技内容については、適時、フィードバックをします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	※指定図書以外に、これまでの授業で使用した教科書に戻って学修を深めることを勧めます。 ※毎回の講義終了時に、次回までの予習・復習内容を示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	高橋 大生
単位数他	2 単位(90 時間) 理学選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	海外の医療・教育機関において世界的な規模でリハビリテーションを学修する。リハビリテーション機関及び専門施設において、学内及び現地の指導者によるクリニカルクラークシップ (CCS) での実習を行い、海外での理学療法技術を体験し、修得することを目的とする。さらに、異なる文化について共有・理解を進め、生活習慣の異なる方々と専門領域を超えた幅広いコミュニケーションの実践を行う。
到達目標	1. 異なる文化圏の医療について概説することができる。 2. 3 分間、切れ目なく英語でコミュニケーションがとれる。 3. 現地の医療機関での実習を通して、技術を修得する。 4. 実習地と日本の理学療法との違いについて概説できる。
授業計画	<担当教員名>高橋大生 有蘭信一 金原一宏 すべての授業内容を 3 名の教員で分担・フォローする。 <授業内容・テーマ等> 1. 事前研修 (計 10 コマ) →学内での実習前学修を行う。 2. 現地での実習 (期間: 2 週間程度) →医療・教育機関での講義への参加。 →現地学生・スタッフとの意見交換 (プレゼンテーション含む)。 →病院・専門施設での実習 (クリニカルクラークシップ) 3. 事後研修 (課題) ・課題レポート (間接評価) →グループワーク課題: 研修で学んだことについてディスカッション内容をまとめる →海外体験実習報告書の作成。実習で学修した内容と内省について個人でまとめる →実習で学修した成果について報告会を実施する ・アセスメントテスト (直接評価: ペーパーテスト) →実習前後での行動特性を評価するため、コンピテンシーテストを用いる ・英語による OSCE (直接評価: 実技技能試験) 動画撮影し、研修前後比較をループリックを用いて評価する
アクティブラーニング	事前研修を通して、渡航先の生活・文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集する。また、事前学習で集めた情報を英語でアウトプットし情報交換する。英語を用いたプレゼンテーション、OSCE、ワークを行い、実習地での積極的なコミュニケーション能力の基盤を形成する。アクティブラーニングとグループワークを通して、柔軟性、積極性、行動力、リーダーシップなどグローバル人材に必要な人間力を養う。
授業内の ICT 活用	プレゼンテーションをプロジェクター使用により実施する。英語での OSCE など動画で撮影し、フィードバックを行う。
評価方法	・事前研修: 20% →英語でのプレゼンテーション →英語での質疑応答 →英語でのワーク →英語での OSCE ・現地実習中の態度、プレゼンテーション、CCS の取り組み: 50% ・事後研修 (課題レポート、報告会、テスト、OSCE): 30% 成績は上記の内容について総合的に判定を行う

課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日 30 分英会話学習を行うことを勧める。又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間等：事前研修の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対外授業の実施について	

科目名	国際作業療法実習
科目責任者	鈴木 達也
単位数他	2 単位(90 時間) 作業選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国内で学修した作業療法の基礎知識を土台に、海外のリハビリテーション関連施設での作業療法の実践に触れる実習である。作業療法士を目指す学生として、国際的な視野に立った視点の形成と、それに基づく新たな自己課題の発見および目標設定の機会とする。 国内での教員の指導に加え、現地での教員による指導、作業療法関連スタッフの指導により実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習国のリハビリテーションの現状、作業療法士の役割について理解できる ・国際的な視野に立ち、作業療法士を目指す自己の課題を発見できる
授業計画	<p><担当教員名>鈴木達也 ※現地での指導は、現地教員および、実習受入施設作業療法教員が行う。</p> <p><実習期間・人数> 実施期間：2025年2月上旬3月上旬までの間で2週間 対象人数：2名の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内オリエンテーション <p>実習前学内オリエンテーションは12月頃から週1回行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習 <p>1週目 現地オリエンテーション、臨床実習施設にて実習 2週目 臨床実習施設にて実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国後学内セミナー 実習の学びを報告する <p>オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する</p>
アクティブラーニング	本科目は実習科目です。事前研修は事前課題、ロールプレイ、プレゼンテーションを行います
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前研修 30%、研修時ダイアリーノート 40%、課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	臨床実習施設にてフィードバックを受ける。帰国後にその記録を担当教員に提出し、フィードバックを受ける。
指定図書	なし
参考図書	なし

事前・ 事後学修	事前学修（15 時間） ・渡航・現地生活に関する指導・英会話講習（担当教員・国際交流センター職員による） 事後学修（15 時間） ・帰国後はレポート（A4 サイズ2～3 ページ）と感想を提出し、教員の指導を受ける
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業 の実施に ついて	なし

科目名	レクリエーション演習																																		
科目責任者	泉 良太																																		
単位数他	1 単位(30 時間) 作業選択 4セメスター																																		
DP 番号と科目領域	DP3 専門																																		
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																		
科目概要	1. 様々な領域で用いられるレクリエーションを体験・企画し、その身体的・心理的効果を学修する。 2. パラリンピック競技を体験し、余暇活動でもあるスポーツ面からの障害体験をする。 3. 発達障害領域における治療法のひとつである感覚統合療法について理論、方法等について学修する。さらに、様々な対象グループに適応した感覚統合療法の企画から準備を行い、実際に対象児・者に対する指導を体験することにより、導入から感覚統合療法実施の実際を学修する。																																		
到達目標	1. レクリエーションを企画することができる。 2. レクリエーションによる身体的・心理的効果について説明ができる。 3. スポーツ面から障害児・者の理解ができる。 4. 感覚統合療法を実施する対象児・者の理解ができる。 5. 対象児・者に適した感覚統合療法の企画と準備ができる。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td><科目担当教員>泉 良太、伊藤信寿</td> <td><担当教員名></td> </tr> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第2回：レクリエーションについて</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第3回：レクリエーションの体験</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第4回：レクリエーションの企画</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第5回：レクリエーションの発表</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第6回：レクリエーションの発表</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第7回：パラリンピックについて</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第8回：パラリンピック競技の体験</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第9回：感覚統合療法について</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第10回：遊具で遊ぶ体験</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第13回：手づくり遊びの発表</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第14回：手づくり遊びの発表</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>泉 良太</td> </tr> </table>	<科目担当教員>泉 良太、伊藤信寿	<担当教員名>	<授業内容・テーマ等>		第1回：オリエンテーション	泉 良太	第2回：レクリエーションについて	泉 良太	第3回：レクリエーションの体験	泉 良太	第4回：レクリエーションの企画	泉 良太	第5回：レクリエーションの発表	泉 良太	第6回：レクリエーションの発表	泉 良太	第7回：パラリンピックについて	泉 良太	第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太	第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿	第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿	第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第15回：まとめ	泉 良太
<科目担当教員>泉 良太、伊藤信寿	<担当教員名>																																		
<授業内容・テーマ等>																																			
第1回：オリエンテーション	泉 良太																																		
第2回：レクリエーションについて	泉 良太																																		
第3回：レクリエーションの体験	泉 良太																																		
第4回：レクリエーションの企画	泉 良太																																		
第5回：レクリエーションの発表	泉 良太																																		
第6回：レクリエーションの発表	泉 良太																																		
第7回：パラリンピックについて	泉 良太																																		
第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太																																		
第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿																																		
第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿																																		
第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																		
第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																		
第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																		
第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																		
第15回：まとめ	泉 良太																																		
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、グループワーク、その他「体験学習」を取り入れて実施します。 ・演習科目です 																																		
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します																																		
評価方法	レポート 40%、課題に対する取り組み 30%、発表 30%、計 100%																																		
課題に対するフィードバック	レポート・発表・リアクションペーパーへのコメント・返却																																		

指定図書	なし
参考図書	授業中に随時紹介します。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、事前課題に回答すること（各回 40 分 2～14 回目） ・2 回目、7 回目、9 回目の授業後に WebClass 内の小テストに回答すること（各回 10 分）。 ・レポート「レクリエーション、感覚、発達障害について」を作成すること（120 分=3 回分を要する）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	絵画療法
科目責任者	中道 芳美
単位数他	1 単位(30 時間) 作業選択 1 セミナー
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	絵を描くことで、身体 の 諸機能への働きかけ、残存機能の維持と回復を促すことを知る。創造的な治療方法として、精神のリラックス効果、QOL の向上、心のケアを促すことを学ぶ。絵画による表現活動が人間に与える身体的、精神的、心理的、社会的な影響や効果について理解する。生涯学習の理解と応用を絵画から学ぶ。
到達目標	1. 絵画を通して、自己表現や他者との関わりを学ぶ。 2. 絵画制作の実技を通して、表現技術を学ぶ。(学生各自の実習体験) 3. 他者への共感的態度をもち、豊かな対人関係を築いて、チーム医療の実践ができる能力を身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>中道 芳美</p> <p>第1回：ガイダンス、知的障害児者、心身障害児者、高齢者(認知症含)作品紹介、世界の画家たち紹介(障害者含む)、色ぬり体験</p> <p>第2回：実技体験、クレヨン、水彩絵の具の使い方表現、方法を学ぶ、写生</p> <p>第3回：実技体験、模写、写生</p> <p>第4回：実技体験、自分の作品を描く、写生</p> <p>第5回：実技、自分の作品を仕上げる、継続する大切さを学ぶ</p> <p>第6回：共同制作に取り組む、グループに分かれて話し合う</p> <p>第7回：共同制作作品のテーマに合う画材を学ぶ。世界の画家作品を参考とする。</p> <p>第8回：春の花の共同制作</p> <p>第9回：夏の花の共同制作</p> <p>第10回：行事用の共同制作</p> <p>第11回：右ききの人は左手で描くということ…実技体験、模写</p> <p>第12回：残存機能の維持と回復を促す体験実技</p> <p>第13回：精神的影響、リラックス効果の体験実技</p> <p>第14回：作品完成</p> <p>第15回：作品完成、全体評価</p> <p>屋外での実技は天候により変動あり</p> <p>※絵の具、クレヨン、色鉛筆を各自用意してください</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	実技・課題提出物 30%、授業態度 50%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	なし

指定図書	なし
参考図書	世界の画家作品（画集等）、講師が用意する。
事前・事後学修	なし
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「絵画講師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	発展的作業療法学				
科目責任者	泉 良太				
単位数他	1 単位(15 時間) 作業選択 8 ヲメサ				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。				
科目概要	作業療法領域における最近の研究内容を調べ、臨床実習で学修した知識および理論との統合を行う。また、最新の作業療法についてその方法と根拠について理解を深め、実際の対象者に合わせた作業療法が提供できるようにする。				
到達目標	1. 各領域の最近の研究内容について説明できる。 2. 最新の作業療法の方法と根拠について列挙できる。				
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、伊藤信寿、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : 身体領域作業療法における最近の研究内容について 泉 良太 第2回 : 高齢期作業療法における最近の研究内容について 鈴木達也 第3回 : 精神領域作業療法における最近の研究内容について 飯田妙子 第4回 : 発達領域作業療法における最近の研究内容について 伊藤信寿 第5回 : 就労支援における最近の研究内容について 藤田さより 第6回 : 高齢期作業療法における最近の研究内容について (ロコモティブシンドローム) 栗田洋平 第7回 : 身体領域作業療法における最近の研究内容について (運動器系) 佐野哲也 第8回 : まとめ 泉 良太</p> <p>*全ての回において、事前の文献抄読を必須とします。</p>				
アクティブラーニング	・本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。				
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して資料提示を実施します。				
評価方法	レポート (文献抄読) 50%、知識習得テスト 50%、計 100%				
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
作業で創るエビデンス作業療法士のための研究法の学びかた	友利幸之介/執筆 京極真/執筆 竹林崇/執筆	医学書院	4000	9784260036627	

参考図書	授業中に随時紹介します。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に文献抄読を行ってください（各回 40 分 1～8 回目）。 ・レポート「興味を持った研究領域について」を作成してください（120 分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	なし

科目名	卒業研究 (ST)
科目責任者	黒崎 芳子
単位数他	1 単位(30 時間) 言語選択 8 メモ
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	言語聴覚療法学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員による個別指導、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を検索し、概要をまとめる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. ゼミごとにディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 5. 研究目的、関連する先行研究、研究方法を記載した研究計画書を作成する。 6. 研究計画書をもとにデータを収集する。 7. データを解析し、理論的な考察ができる。 8. 研究内容をまとめ、論文を作成し、プレゼンテーションを実施する。
授業計画	<p><担当教員名> 黒崎芳子 谷 哲夫、柴本 勇、小坂美鶴、大原重洋、佐藤豊展、佐藤綾華 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：卒業研究の概要の説明 第 2 回：テーマの選定 第 3 回：先行研究の収集と要約 第 4 回：研究計画の立案 第 5 回：研究計画の修正 第 6 回：試験的データの収集・分析 第 7 回：本実験の方法の再検討 第 8 回：研究計画に基づいた実験・調査の遂行 第 9 回：データの収集・整理 第 10 回：データの収集・整理 第 12 回：統計処理・分析 第 13 回：論文の作成・草稿の作成 第 14 回：論文の作成・草稿の提出・プレゼンテーション 第 15 回：卒業論文の最終修正・提出</p>
アクティブラーニング	演習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	卒業論文の完成度 (85%) ゼミの態度 (15%)

課題に対するフィードバック	授業内に解説をします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	ゼミの教員から出された課題を期日までに提出する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：毎週火曜 11：15～12：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業の実施について	

科目名	言語聴覚障害学特別講義	
科目責任者	佐藤 綾華	
単位数他	1 単位(15 時間) 言語選択 8 メモ	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	4 年間学んだ専門基礎科目、専門科目の学習内容を振り返りながら、各科目の理解度と習得状況を確認する。また、知識が不十分な科目について学生自ら自覚し、必要な知識の再学習を行なう。	
到達目標	1. 4 年間の学習を総合的に復習し、要点を抑えることが可能になる。 2. 調べたこと・覚えたことを人に教えることができる。 3. 復習テストの結果をもとに、各自で学習の計画を立てられるようになる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回 失語症 第 2 回 高次脳機能障害 第 3 回 言語 第 4 回 言語 第 5 回 音声障害 第 6 回 運動障害性構音障害 第 7 回 小児聴覚障害学 第 8 回 成人聴覚障害学	<担当教員名> 谷哲夫 黒崎芳子 佐藤綾華 小坂美鶴 佐藤豊展 佐藤豊展 大原重洋 大原重洋
アクティブラーニング	演習科目 (事前学修をして授業で質問、解説をします)	
授業内の ICT 活用	なし	
評価方法	復習テスト (100%)	
課題に対するフィードバック	各担当教員から各自にフィードバックします。	
指定図書	「言語聴覚士国家試験必修ポイント ST 専門科目 2025 オンラインテスト付」、医歯薬出版株式会社 「言語聴覚士国家試験必修ポイント ST 専門基礎科目 2025 オンラインテスト付」、医歯薬出版株式会社 「言語聴覚士テキスト第 3 版」廣瀬肇監、医歯薬出版、2018	
参考図書	「2023 年版 言語聴覚士国家試験 過去問題」大揚社	
事前・事後学修	[事前学修] 各教科について事前にしっかり予習をすること。 [事後学修] 各科目で出された課題を提出すること。	

オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3407 研究室、水曜 13 : 00～14 : 00
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
対面授業 の実施に ついて	なし

科目名	国際言語聴覚療法実習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位(90 時間) 言語選択 6 メモター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は国際的視点に立った言語聴覚療法の提供を目指し、国内外の連携施設において言語聴覚療法に関する実習を行う。本科目は単に言語聴覚療法の実習にとどまらず、地域社会や国際社会のニーズを的確にとらえ専門職としての貢献を考えることも含む。
到達目標	1. 地域社会・国際社会において言語聴覚療法のニーズを分析し説明できる。 2. 言語聴覚療法の必要性に応じ、専門職として対応ができる。 3. 国際社会で活動できるスキルを身につけることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 柴本 勇 事前学習(1W): 地域援助、文化、語学、言語聴覚学 実習(2W): 連携施設において、言語聴覚療法に関する実習 事後学修(1W): 自身の活動と地域社会・国際社会との関係性についてレフレクション
アクティブラーニング	実習科目です。 本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学修 20% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	実習中は毎日振り返りを行い、フィードバックをする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	連携施設に行く前に、援助方法・文化・語学等の事前学習を実施する。事後学修として、自身の活動が地域社会とどのような関係かを検討する。同時に自身の専門性の向上についても検討する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室: 3 号館 4 階 3408 研究室 オフィスアワー: 初回講義時に提示します。 ※随時メールでの質問を受けます。メール: isamu-s@seirei.ac.jp ※オフィスアワー以外の時間でも遠慮なくアポイントをとってください。

実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
が、授業の実施について	なし

科目名	発展的言語聴覚療法学
科目責任者	黒崎 芳子
単位数他	1 単位(15 時間) 言語選択 8 メモター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	4 年次まで学んできた言語聴覚学や言語聴覚療法に関する、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピック等更に発展的かつ最新情報を含めて学ぶ。学部から大学院への移行にふさわしい内容の学修を行う。高度専門職を目指す基盤を学ぶ。
到達目標	1. 言語聴覚療法の、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピックを説明できる。 2. 最新の知識等を用いて発展的な言語聴覚療法を提供できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：失語・高次脳機能障害の最新トピック</p> <p>第 2 回：聴覚障害の最新トピック</p> <p>第 3 回：言語発達障害の最新トピック</p> <p>第 4 回：流暢性障害の最新トピック</p> <p>第 5 回：摂食嚥下障害の最新トピック</p> <p>第 6 回：地域言語聴覚療法の最新トピック</p> <p>第 7 回：言語聴覚療法と倫理</p> <p>第 8 回：言語聴覚学研究と臨床</p> <p><担当教員名></p> <p>黒崎芳子</p> <p>佐藤綾華</p> <p>佐藤綾華</p> <p>谷 哲夫</p> <p>佐藤豊展</p> <p>谷 哲夫</p> <p>大原重洋</p> <p>黒崎芳子</p>
アクティブラーニング	ディスカッション・文献検討・症例検討等を行います。 小グループでの学修を行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート 100%
課題に対するフィードバック	口頭にてフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	ディスカッションの内容、文献の内容、症例に関する内容を事前・事後学修します。
オープンエデュケーションの活用	なし

オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：毎週火曜 11：15～12：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
ガイア授業 の実施に ついて	